

---

# 男女共同参画社会に関する住民意識調査

---

## 報 告 書

(令和2年8月実施)

豊 島 区

# 目次

<b>第1章 調査実施の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査目的.....	1
2 調査設計.....	1
3 調査内容.....	1
4 回収結果.....	1
5 報告書の見方.....	2
6 標本誤差.....	2
<b>第2章 調査回答者の属性</b> .....	<b>3</b>
<b>第3章 調査結果の概要</b> .....	<b>5</b>
<b>第4章 調査結果</b> .....	<b>7</b>
1 男女平等意識について.....	7
2 家庭生活について.....	20
3 子どもの教育について.....	25
4 職業について.....	31
5 あらゆる分野における女性の活躍推進について.....	47
6 人権について.....	55
7 メディア・リテラシーについて.....	73
8 地域活動について.....	77
9 女性の政策決定への参画などシステム変革について.....	82
10 性的少数者について.....	84
11 国・区の政策や施策について.....	92
<b>第5章 自由回答・「その他」の回答</b> .....	<b>104</b>
1 自由回答について.....	104
2 「その他」の回答について.....	108
<b>第6章 調査票</b> .....	<b>115</b>

# 第1章 調査実施の概要

## 1 調査目的

---

区民の意識啓発の観点も含め、男女平等・男女共同参画に関する意識調査を実施・分析し、社会変化に即応した施策推進のための基礎資料とする。

## 2 調査設計

---

- |          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| (1) 調査地域 | 豊島区全域                            |
| (2) 調査対象 | 豊島区内在住の18歳以上の区民より男女各1,000名を無作為抽出 |
| (3) 標本数  | 2,000人                           |
| (4) 標本抽出 | 住民基本台帳からの無作為抽出                   |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収）                   |
| (6) 調査期間 | 令和2年7月27日（月）～8月20日（木）            |

## 3 調査内容

---

- (1) 男女平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 子どもの教育について
- (4) 職業について
- (5) 女性の活躍推進について
- (6) 人権について
- (7) メディア・リテラシーについて
- (8) 地域活動について
- (9) 女性の政策決定への参画などシステム変革について
- (10) 性的少数者について
- (11) 国・区の政策や施策について

## 4 回収結果

---

- |           |        |
|-----------|--------|
| (1) 標本数   | 2,000人 |
| (2) 有効回収数 | 734人   |
| (3) 有効回収率 | 36.7%  |

## 5 報告書の見方

- (1) 図表中のnとは、回答者総数（または該当質問での該当者数）のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入している。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100.0%を超える場合がある。
- (4) 回答者数の「全体」には、属性（性別、年齢など）の無回答を含むため、男女別等の属性別の数を合計したものと「全体」の数値が一致しない場合がある。
- (5) 本報告書では、性別、年齢別など、比較分析を必要に応じて行っている。ただし、サンプル数が20未満と少ないものについては、集計結果を参考程度にとどめる必要があるため、本文中のグラフ・表に示しているが、基本的に分析の対象からは除いている。
- (6) 本報告書では、令和2年度実施の職員意識調査や平成27年度及び平成23年度実施の住民意識調査との調査比較を行っている。設問の中には、過年度の調査と比べて選択肢の数や表現が異なるものがある。

## 6 標本誤差

今回調査は、調査対象となる母集団（豊島区全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

例えば、回答者総数（734人）を100%とする比率について、ある質問の回答の比率が50%であった場合の標本の誤差を計算すると、

$$\pm 1.96 \sqrt{\frac{258,506-734}{258,506-1} \times \frac{50(100-50)}{734}} = 3.6$$

したがって、±3.6%が誤差の範囲となる。

つまり、回答者総数（734人）を100%とする比率で、ある質問の回答が50%のとき、豊島区民（満18歳以上）のこの質問に対する回答は、46.4%～53.6%の間にあると考える。

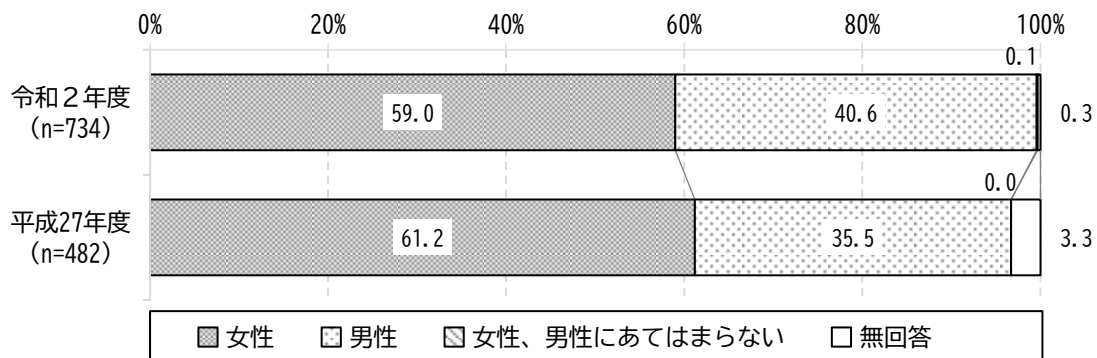
今回の調査結果の標本誤差は下記のようになる。

	10%又は 90%程度	20%又は 80%程度	30%又は 70%程度	40%又は 60%程度	50%程度
433(女性)	±2.8	±3.7	±4.3	±4.6	±4.7
298(男性)	±3.4	±4.5	±5.2	±5.5	±5.6
734(全体)	±2.2	±2.9	±3.3	±3.5	±3.6

※この表の計算式の信頼度は95%

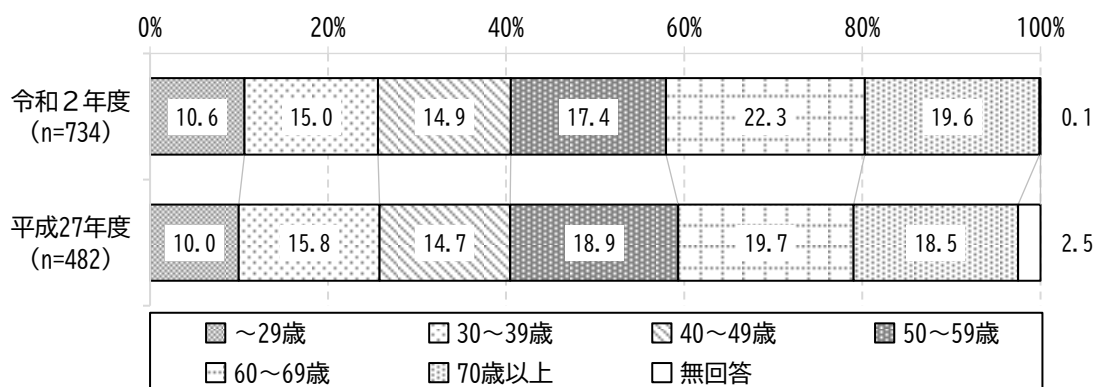
## 第2章 調査回答者の属性

### 【性別】



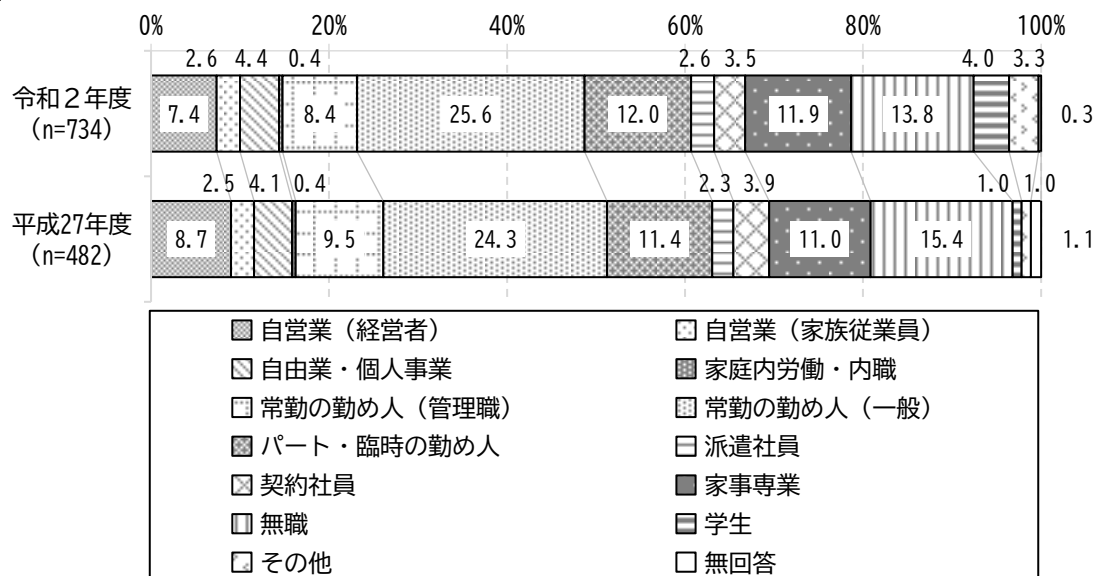
※令和2年度調査より、「女性、男性にあてはまらない」の選択肢を追加した。

### 【年齢】

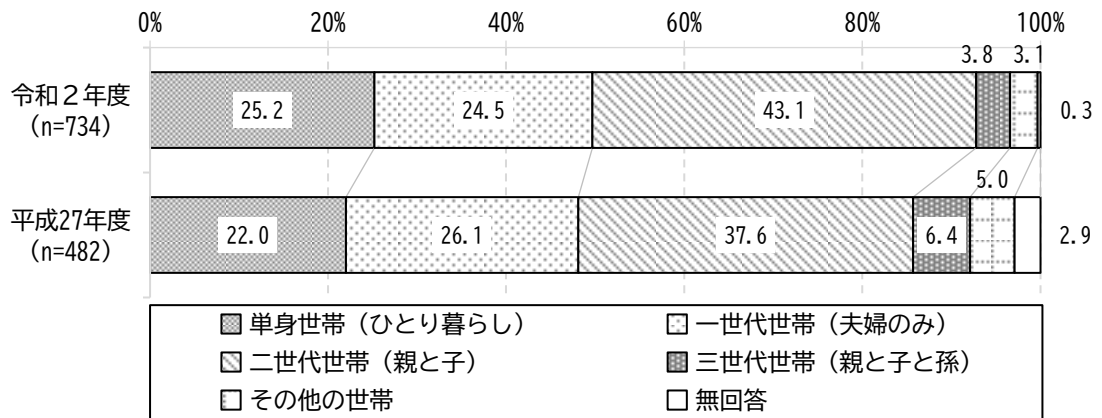


※令和2年度調査より、調査対象を20歳以上の区民から18歳以上の区民へ拡大した。

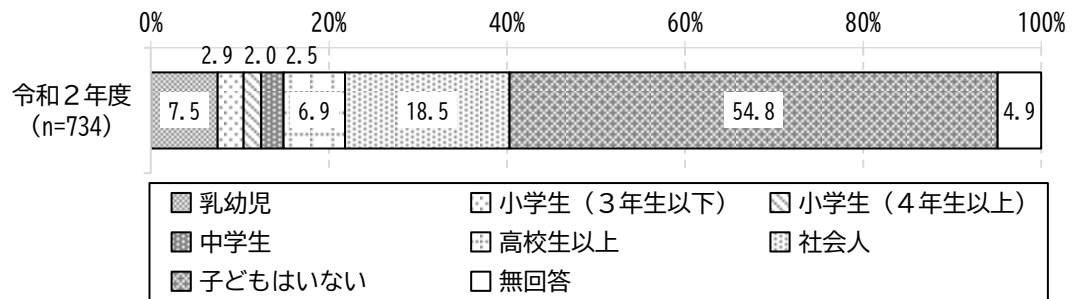
### 【職業】



## 【世帯構成】



## 【同居している1番下の子どもの状況】



※令和2年度調査より、新規属性項目として追加した。

## 第3章 調査結果の概要

- 全体では「どちらかといえば男女平等になっていない」と「男女平等になっていない」を合わせた『平等になっていない』と回答した人の割合は6割台半ばとなっている。性別にみると『平等になっていない』と回答した人の割合は女性の方が男性よりも多くなっている。(問1)
- 各分野における男女平等の実現度合いをみると、「(4) 政治の場で」や「(6) 社会通念・慣習・しきたり」の分野では、『男性の方が優遇されている』の回答が、他の分野に比べ特に多くなっている。「(2) 職場の中で」における「男女平等になっている」との回答は、住民意識調査では19.5%に留まっているが、豊島区役所職員を対象とした職員意識調査では45.3%となっており、住民と職員で意識に大きな差がみられる。性別にみると、「(4) 政治の場で」における「男性の方が非常に優遇されている」との回答が、女性は52.2%、男性は32.2%となっており、女性と男性で大きな差がみられる。また、「(1) 家庭の中で」と「(5) 制度や法律の上で」の『男性の方が優遇されている』と回答した人の割合は女性と男性で大きな差がみられる。(問2)
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意識をみると、全体では「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』と回答した人の割合は5割台半ばとなっている。過去の調査との比較をみると、以前より割合が多くなっており、意識の変化がうかがえる。(問3)
- 家庭生活での家事等の分担状況をみると、「(1) 家庭の重大問題の決定」以外の項目は全て妻の担当が多くなっている。特に「(9) 子育て」は「夫の担当」が0.0%であるのに対し、「妻の担当」は19.8%となっており、大きな差がみられる。(問5-1)
- 1日あたりの平均の家事・育児の時間を性別にみると、女性の方が男性よりも多くの時間を使っている。(問5-2)
- 子どもを性別により別々に考えて育てるとの回答を性別にみると、男の子の場合「活発で行動力がある」との回答は、女性よりも男性の方が多く、女性と男性で大きな差がみられる。女の子の場合「家事能力がある」との回答は、女性の方が男性よりも多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問6-2)
- 1週間の平均就労時間を性別にみると、女性よりも男性の方が長く働いている。(問8-1)
- 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の理想と現実の比較をみると、理想的には『「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」を両立』が41.0%で最も多くなっているが、現実には『「仕事」を優先』が45.6%で最も多くなっている。(問8-3)
- 職場の育児・介護休業制度の有無をみると、「ない」「制度があるかどうか知らない」は45.8%となっている。(問8-5)
- 育児・介護休業制度を利用できない理由を性別にみると、「過去に利用した人がいないから」は、女性の方が男性よりも多い一方で、「昇進・昇格などに不利になると思うから」は、女性よりも男性の方が多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問8-7)
- 女性が職場において活躍するために必要な取組を性別にみると、「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」との回答は、女性の方が男性よりも多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問14)
- 配偶者への暴力(DV)の認識をみると、「(8) なぐる蹴るの暴力をふるう」などの身体的な行為は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっているが、「(1) 何を言っても無視する」から「(3)

自分が家にいるときには外出しないようにと言う」のような精神的な行為はその割合が少なくなっており、認識の違いがうかがえる。(問 16)

- DVを受けた経験をみると、過去5年間のうちにDVを受けたことのある人は12.6%、過去12か月以内では8.5%となっている。(問 17)
- 相談の有無を性別にみると、「相談しようとは思わなかった」との回答は、女性よりも男性の方が多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問 17-1)
- 相談しなかった理由を性別にみると、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけたから」との回答は、女性の方が男性よりも多い一方で、「相談するほどのことではないと思ったから」との回答は、女性よりも男性の方が多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問 17-4)
- 性的少数者が日常生活で困っていると言われることで、知っているものを性別にみると、いずれの項目も女性の認知度の方が高くなっているほか、「パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと」では、女性と男性で認知度に大きな差がみられる。(問 27-2)
- 国や豊島区の法律・施策・用語などの認知度をみると、「DV防止法」の認知度が74.8%と最も高くなっている。一方、「豊島区男女共同参画苦情処理委員」の認知度は16.0%に留まっている。(問 29)



## 第4章 調査結果

### 1 男女平等意識について

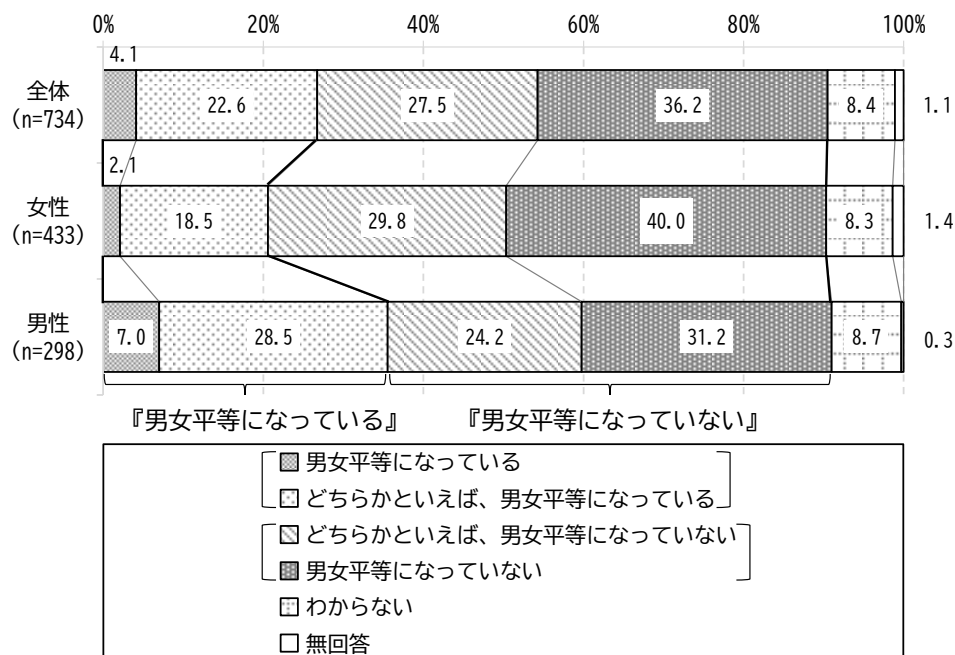
問1 あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。(○は1つ)

#### 【全体】

「男女平等になっていない」が36.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば、男女平等になっていない」が27.5%、「どちらかといえば、男女平等になっている」が22.6%となっている。『男女平等になっている』（「男女平等になっている」と「どちらかといえば、男女平等になっている」の合計）が26.7%、『男女平等になっていない』（「どちらかといえば、男女平等になっていない」と「男女平等になっていない」の合計）が63.7%となっている。

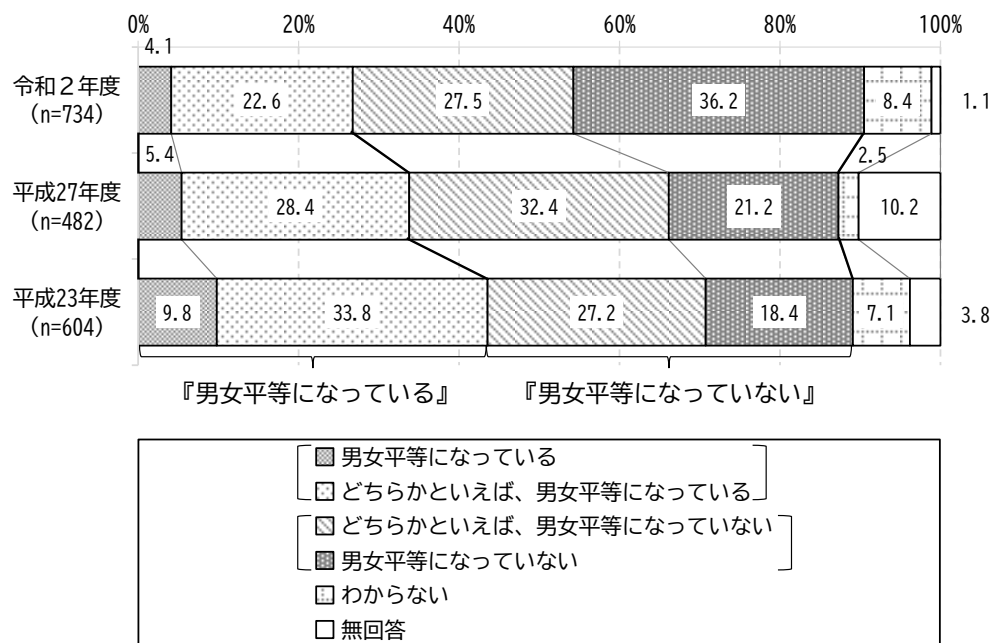
#### 【性別】

女性・男性ともに『男女平等になっている』が、それぞれ20.6%、35.5%となっており、女性より男性の方が『男女平等になっている』との認識が多くなっている。また、女性・男性ともに『男女平等になっていない』が、それぞれ69.8%、55.4%となっている。



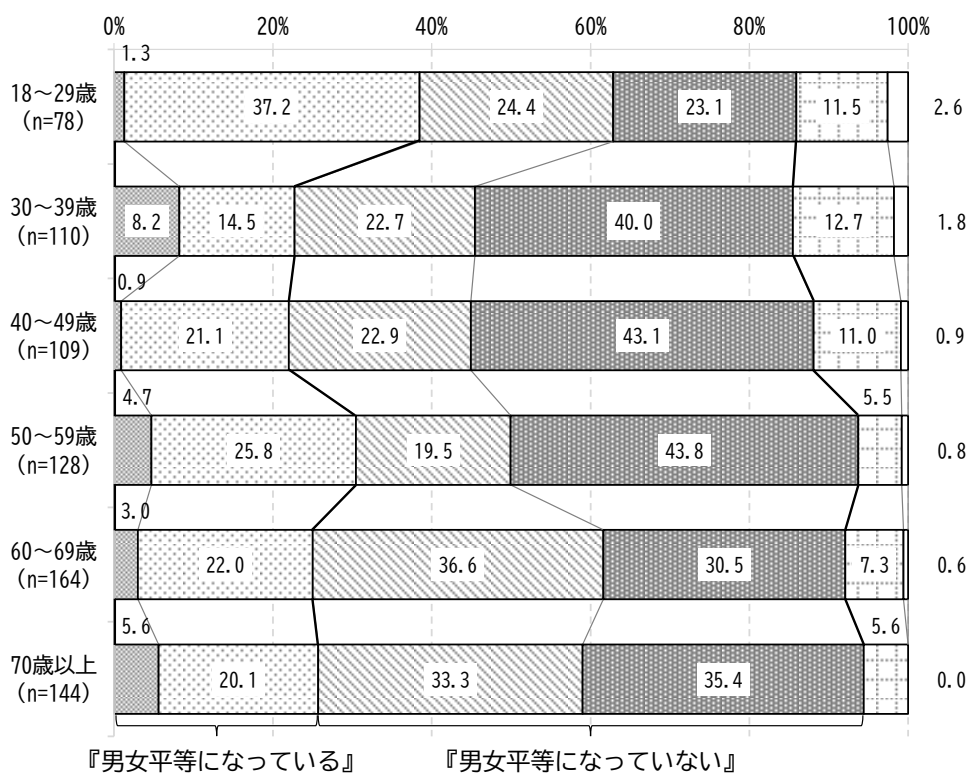
### 【平成 23 年度・27 年度調査比較】

『男女平等になっている』は、平成 23 年度の 43.6%から年々減少していき、令和 2 年度には、26.7%となっている。



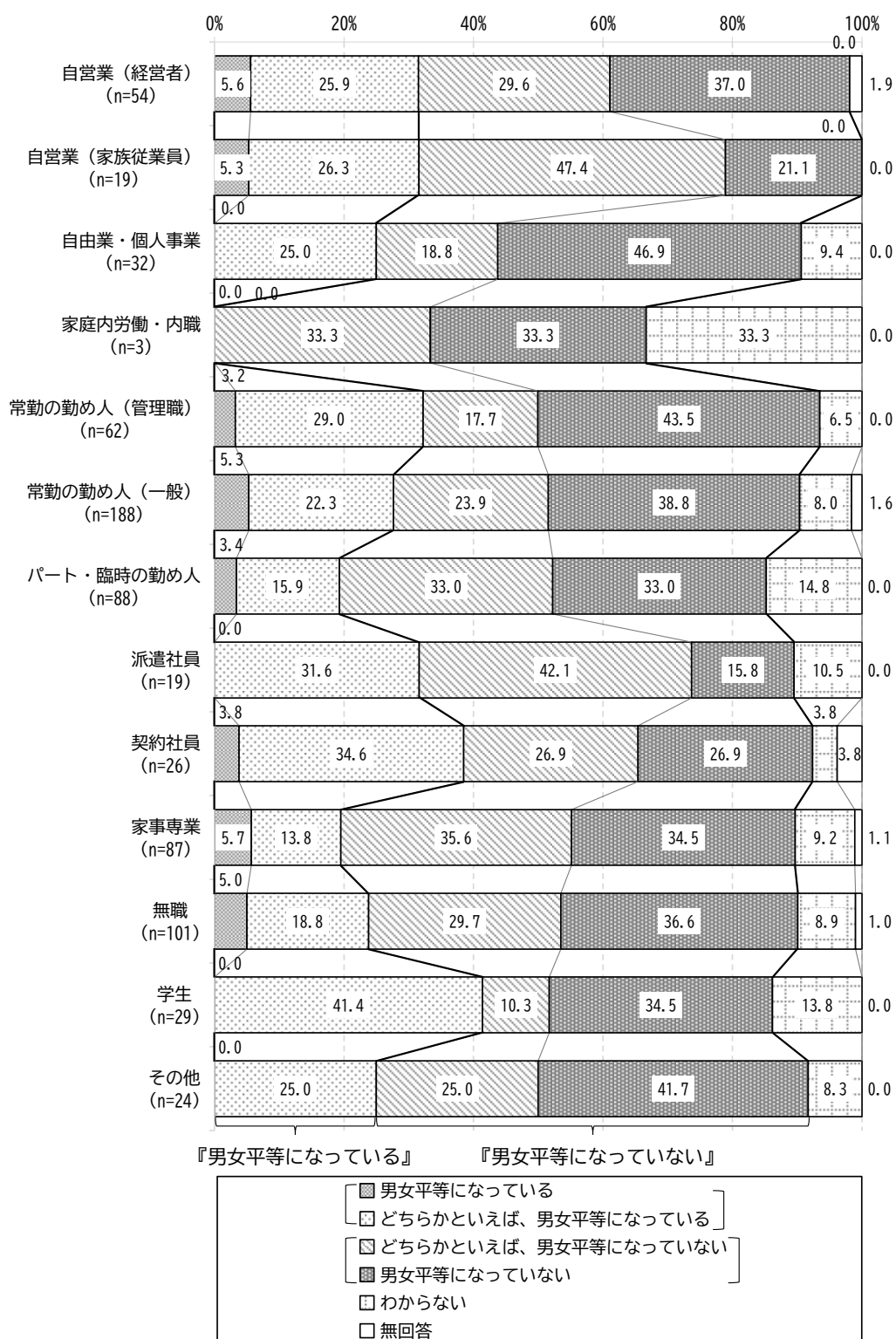
### 【年齢別】

『男女平等になっている』が最も多いのは、「18～29歳」で 38.5%となっている。一方で『男女平等になっていない』が最も多いのは、「70歳以上」で 68.7%となっている。



## 【職業別】

「自営業（経営者）」では『男女平等になっている』が31.5%、『男女平等になっていない』が66.6%となっている。「常勤の勤め人（一般）」では『男女平等になっている』が27.6%、『男女平等になっていない』が62.7%、「パート・臨時の勤め人」では『男女平等になっている』が19.3%、『男女平等になっていない』が66.0%、「家事専業」では『男女平等になっている』が19.5%、『男女平等になっていない』が70.1%となっている。



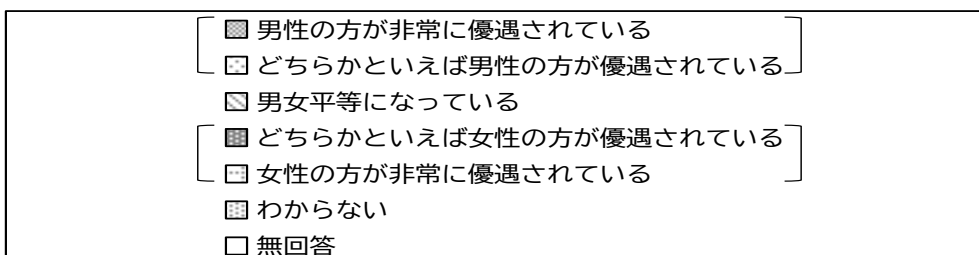
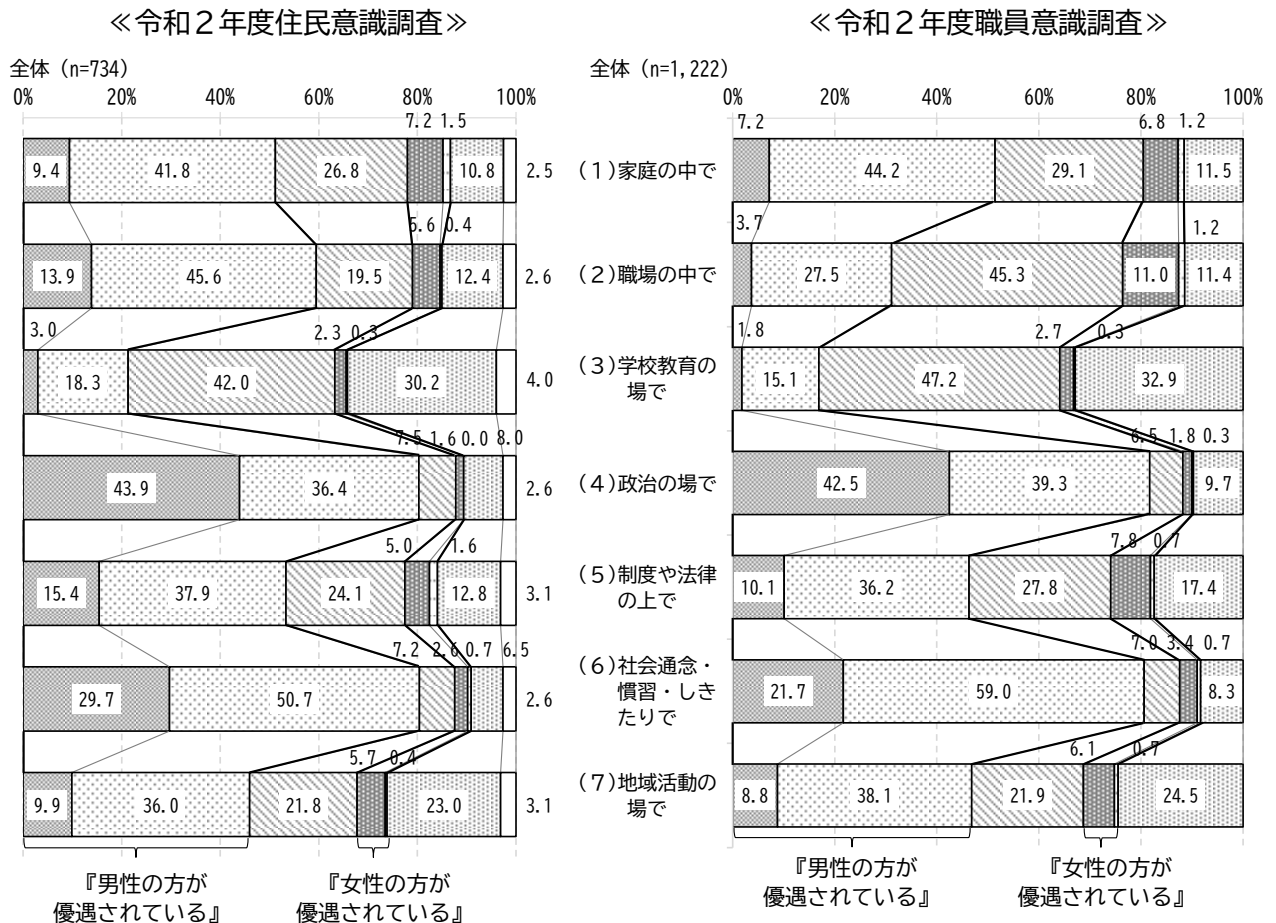
問2 次の(1)～(7)の分野では、男女平等がどの程度実現されていると思いますか。それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

【全体】

「男女平等になっている」で最も多いのが、「(3) 学校教育の場で」が42.0%、次いで「(1) 家庭の中で」が26.8%、「(5) 制度や法律の上で」が24.1%となっている。『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）分野をみると、「(4) 政治の場で」が80.3%、「(6) 社会通念・慣習・しきたりで」が80.4%と他の分野に比べ多くなっている。

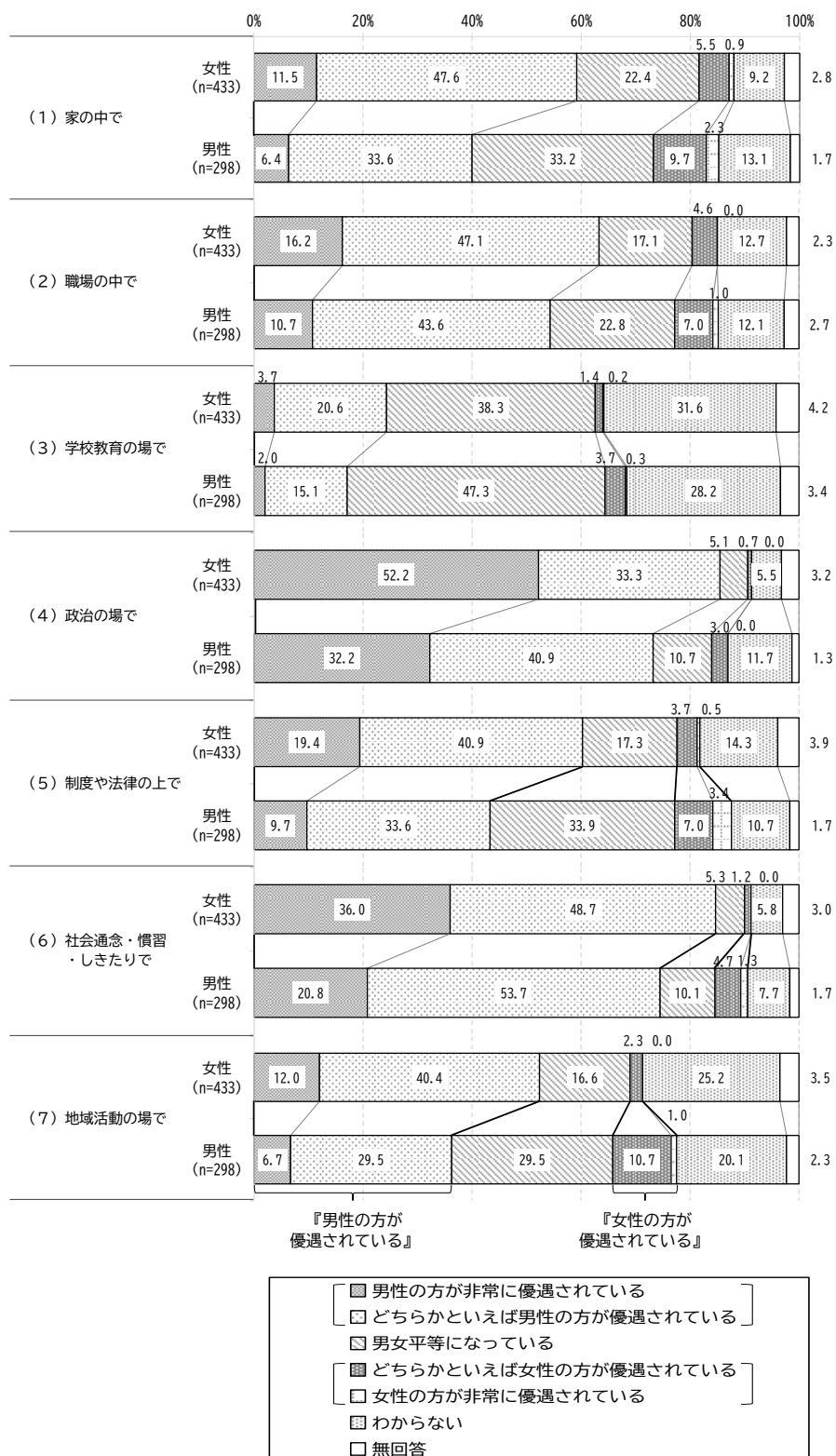
【職員意識調査との比較】

「(2) 職場の中で」における「男女平等になっている」との回答は、住民意識調査では19.5%に留まっているが、職員意識調査では45.3%となっており、住民と職員で大きな差がみられる。



## 【性別】

「男性の方が非常に優遇されている」を分野で見ると、「(4) 政治の場で」では女性 52.2%、男性 32.2%となっており、性別による大きな差がみられる。また、『男性の方が優遇されている』を分野で見ると、「(1) 家庭の中で」では女性 59.1%、男性 40.0%、「(5) 制度や法律の上で」では、女性 60.3%、男性 43.3%となっており、性別による差がみられる。



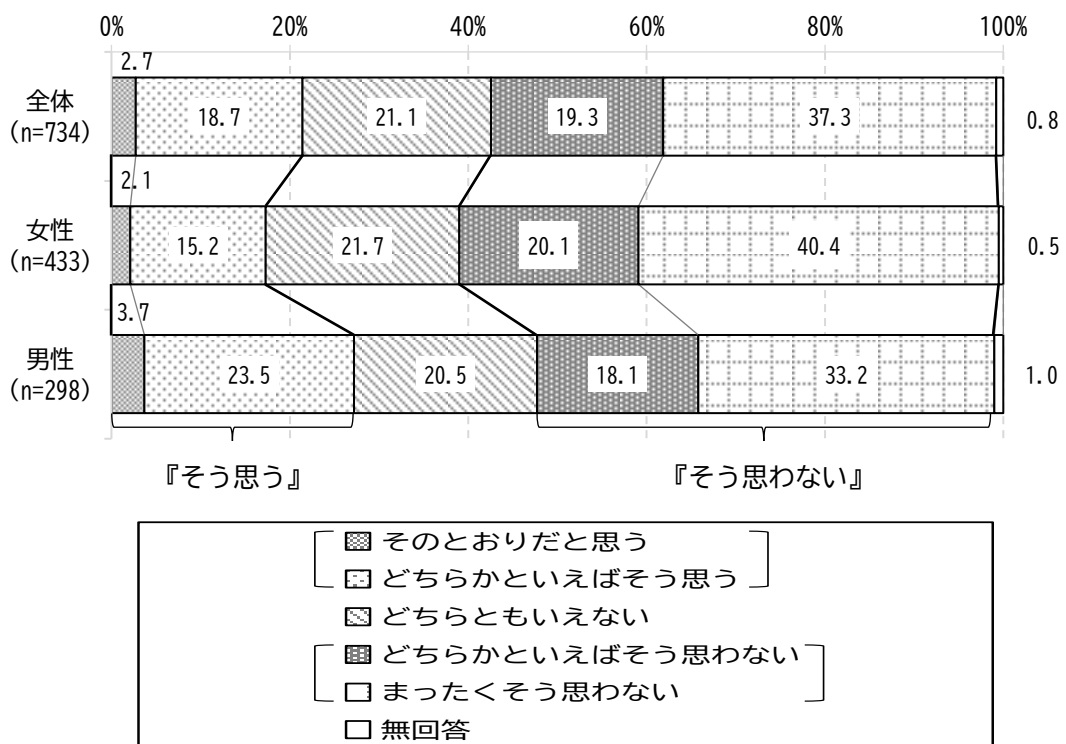
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

【全体】

「まったくそう思わない」が37.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が21.1%、「どちらかといえばそう思わない」が19.3%となっている。『そう思う』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が21.4%、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計）が56.6%となっている。

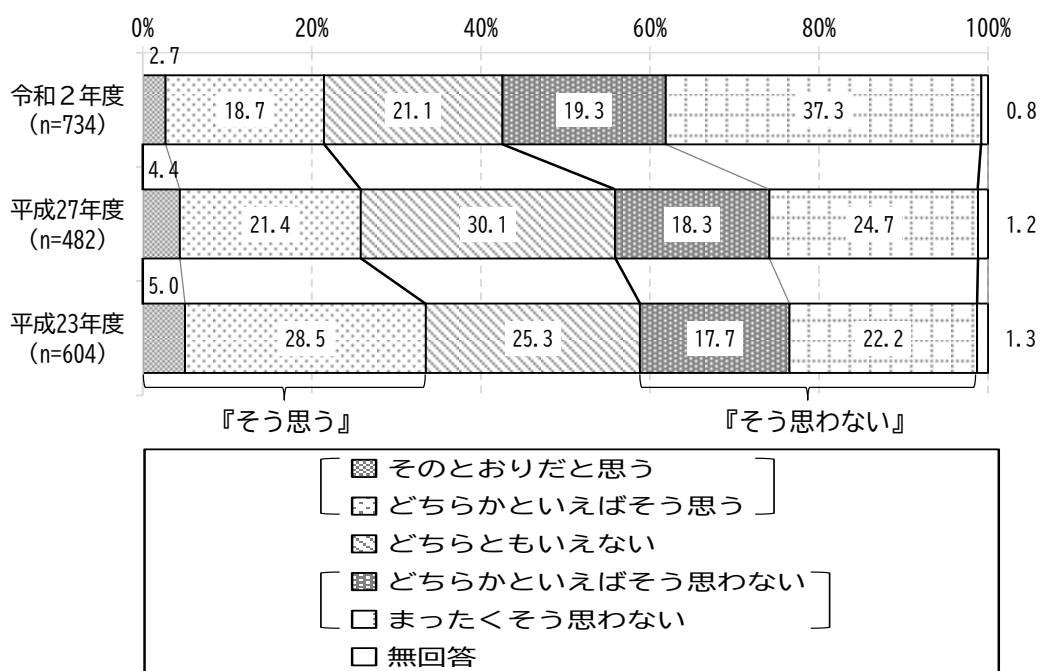
【性別】

女性は『そう思う』が17.3%、『そう思わない』が60.5%となっている。一方で、男性は『そう思う』が27.2%、『そう思わない』が51.3%となっており、男性より女性の方が『そう思わない』が多くなっている。



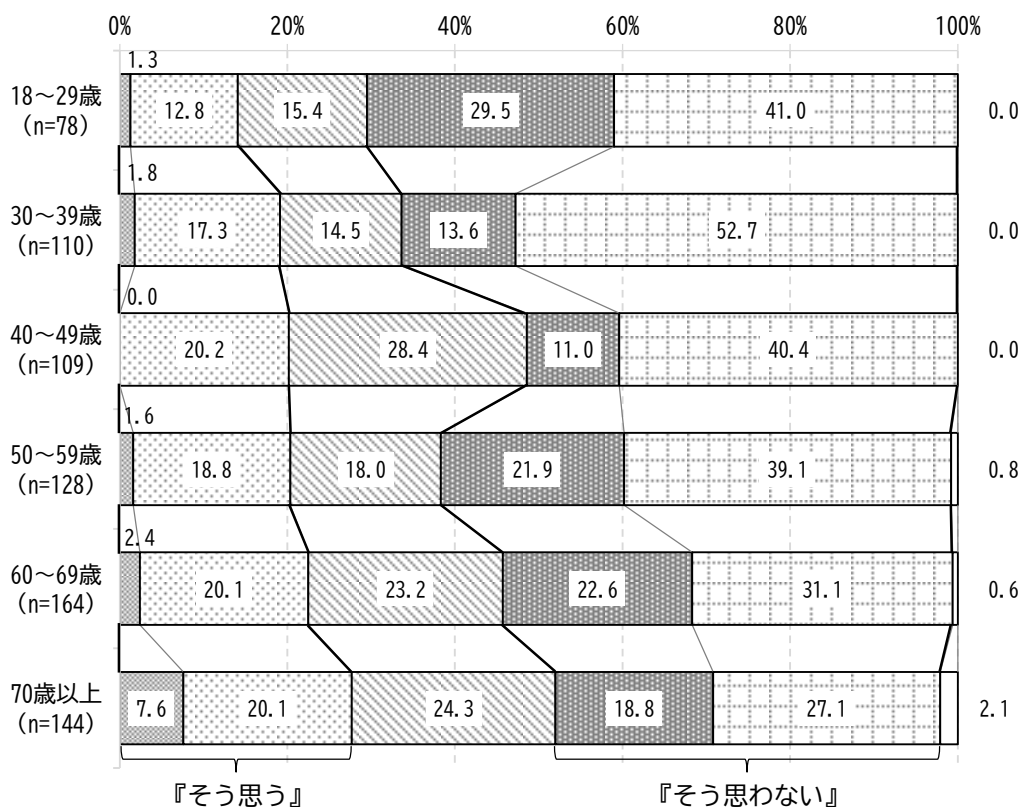
### 【平成23年度・27年度調査比較】

『そう思わない』は、平成23年度の39.9%から年々増加していき、令和2年度には、56.6%となっている。



### 【年齢別】

「70歳以上」を除くと、いずれの年齢層においても『そう思わない』が半数以上となっており、特に「18～29歳」では70.5%と多くなっている。



問4 「子育ては母親の役割」、「家事は女性の役割」、「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

【全体】

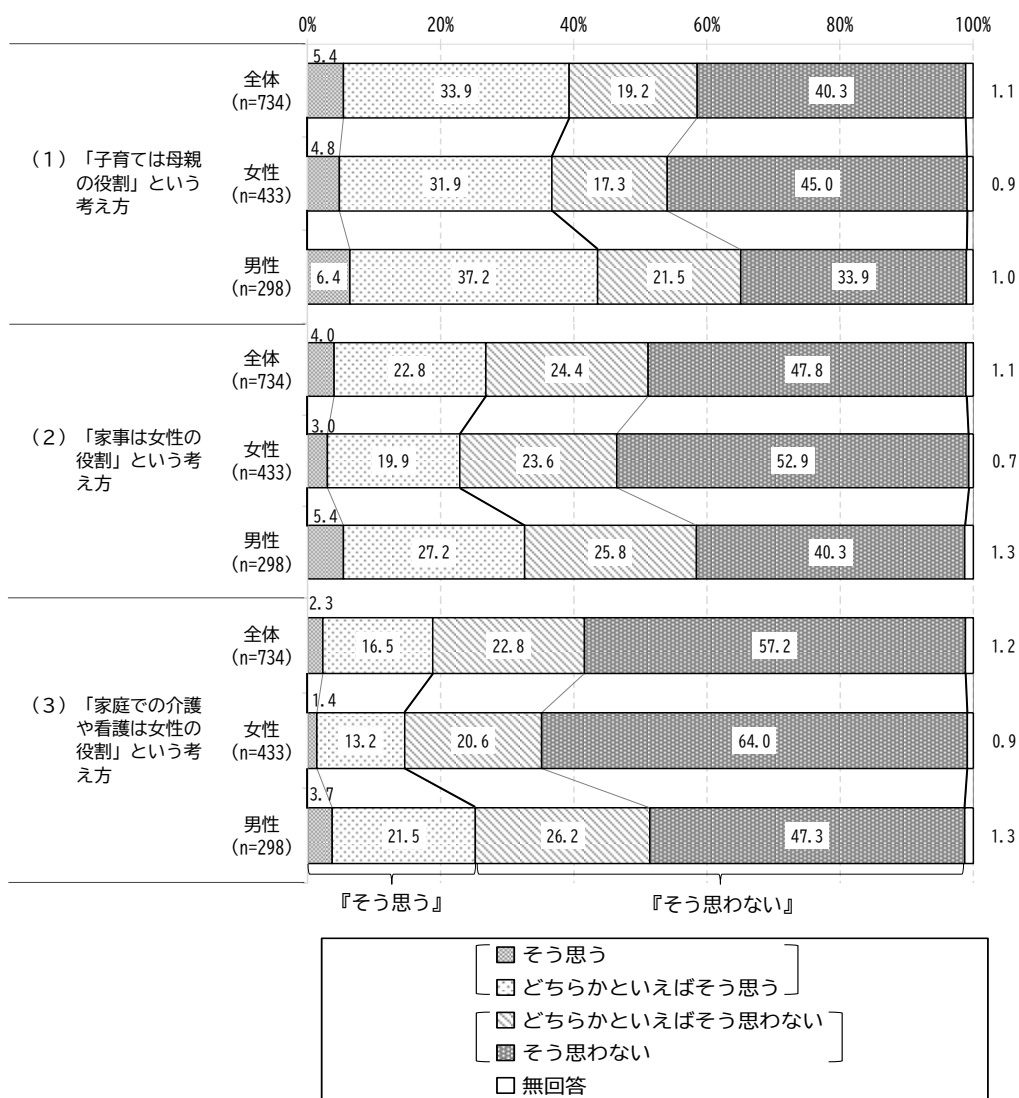
「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」では、「そう思わない」が40.3%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が33.9%、「どちらかといえばそう思わない」が19.2%となっている。

「(2)『家事は女性の役割』という考え方」では、「そう思わない」が47.8%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が24.4%、「どちらかといえばそう思う」が22.8%となっている。

「(3)『家庭での介護や看護は女性の役割』という考え方」では、「そう思わない」が57.2%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が22.8%、「どちらかといえばそう思う」が16.5%となっている。

【性別】

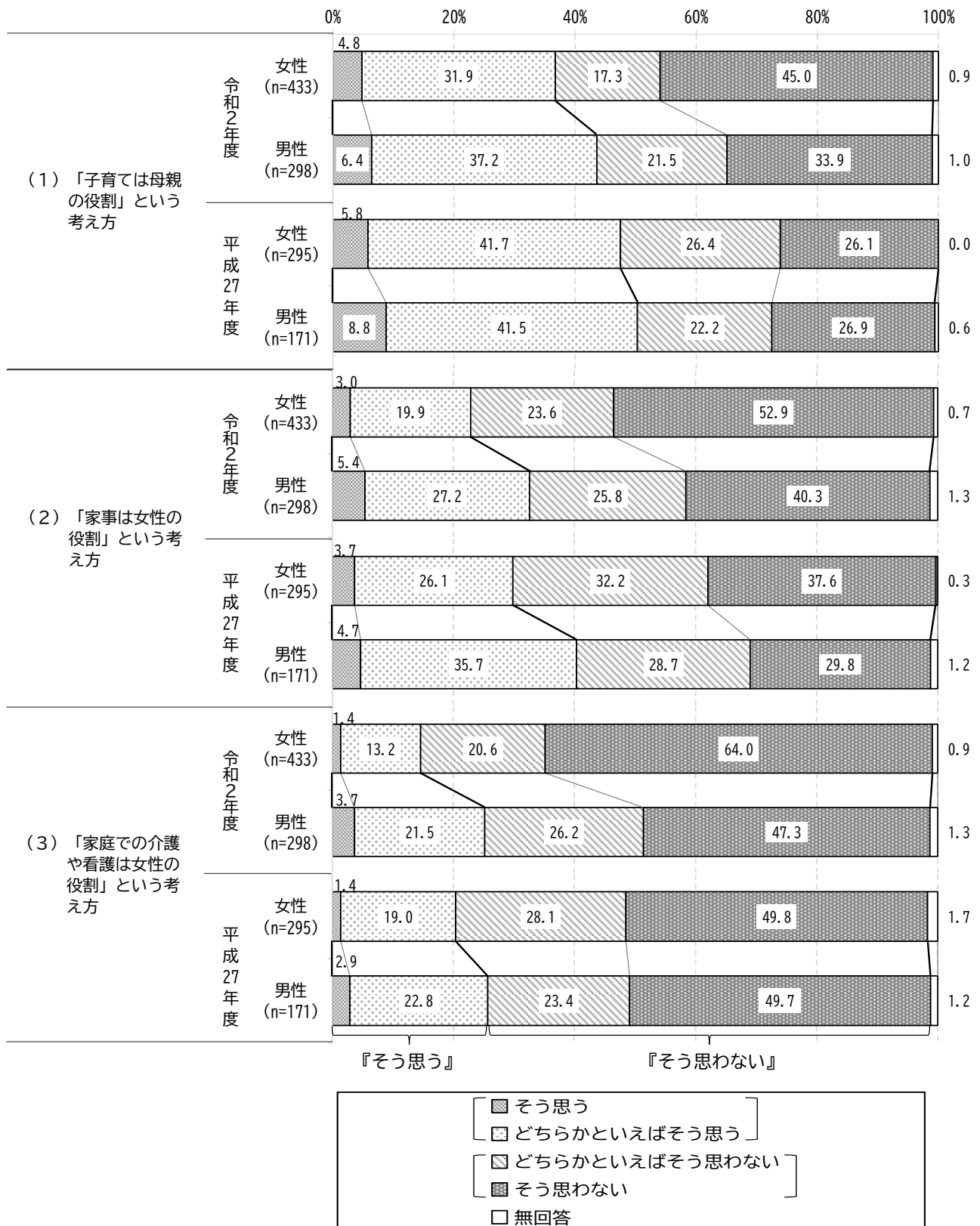
女性・男性ともにいずれの項目においても、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）が多くなっており、特に女性で多くなっている。





### 【平成 27 年度調査比較】

「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」、「(2)『家事は女性の役割』という考え方」、「(3)『家庭での介護や看護は女性の役割』のいずれの項目においても、女性・男性ともに『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が平成 27 年度よりも減少している。



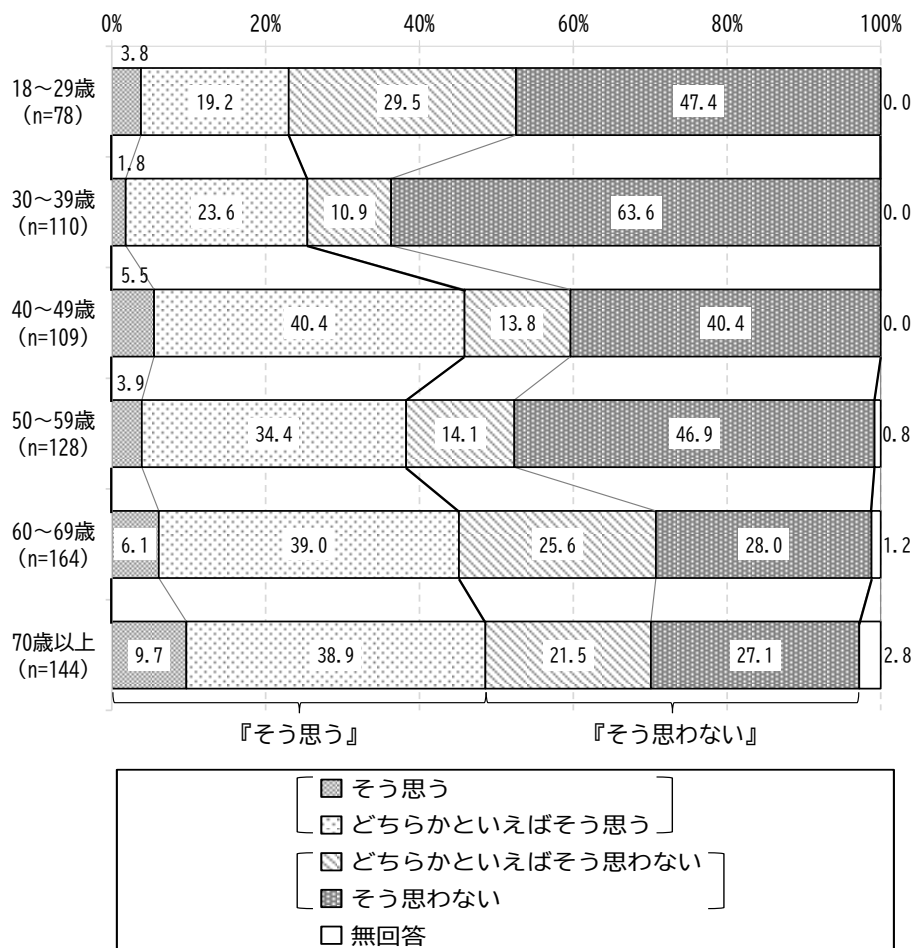
## 【年齢別】

「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」では、『そう思わない』が、「18～29歳」「30～39歳」でいずれも7割半ば以上と多くなっている。

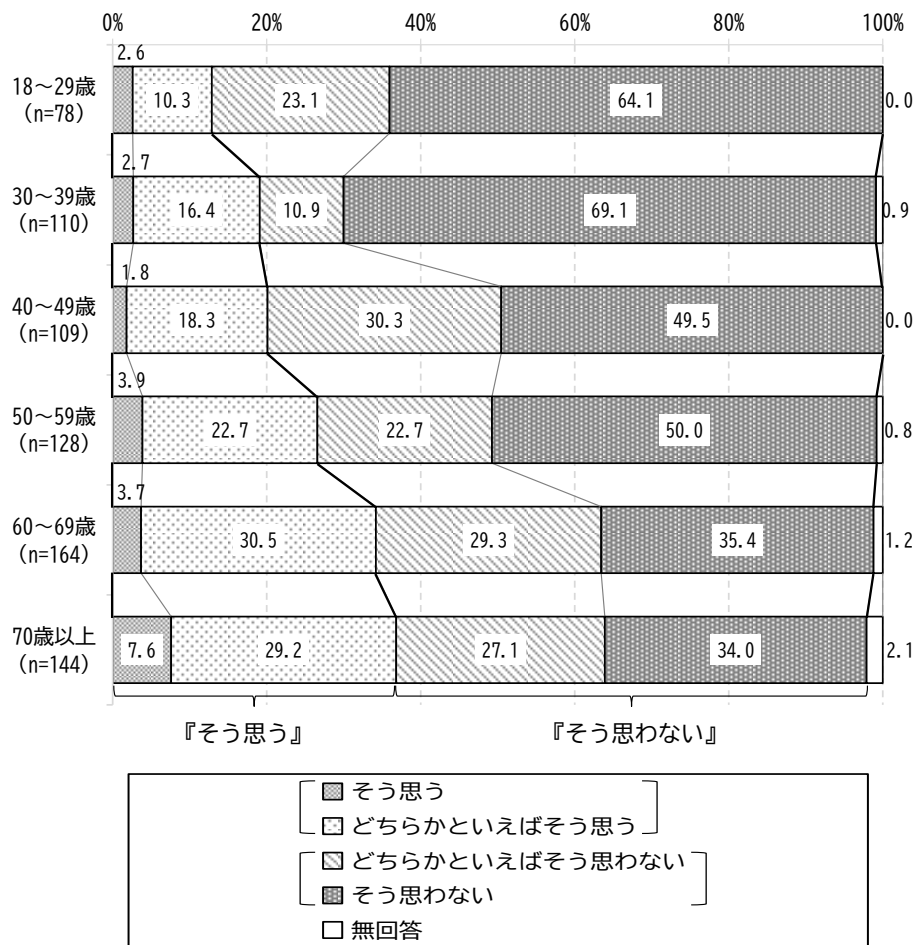
「(2)『家事は女性の役割』という考え方」では、『そう思わない』が、「18～29歳」で87.2%と最も多くなっている。しかし、年齢が上がるにつれてその割合は少なくなっていく、「70歳以上」では61.1%となっている。

「(3)『家庭での介護や看護は女性の役割』という考え方」では、『そう思わない』が、「18～29歳」で94.9%と最も多くなっている。しかし、年齢が上がるにつれてその割合は少なくなっていく、「70歳以上」では63.9%となっている。

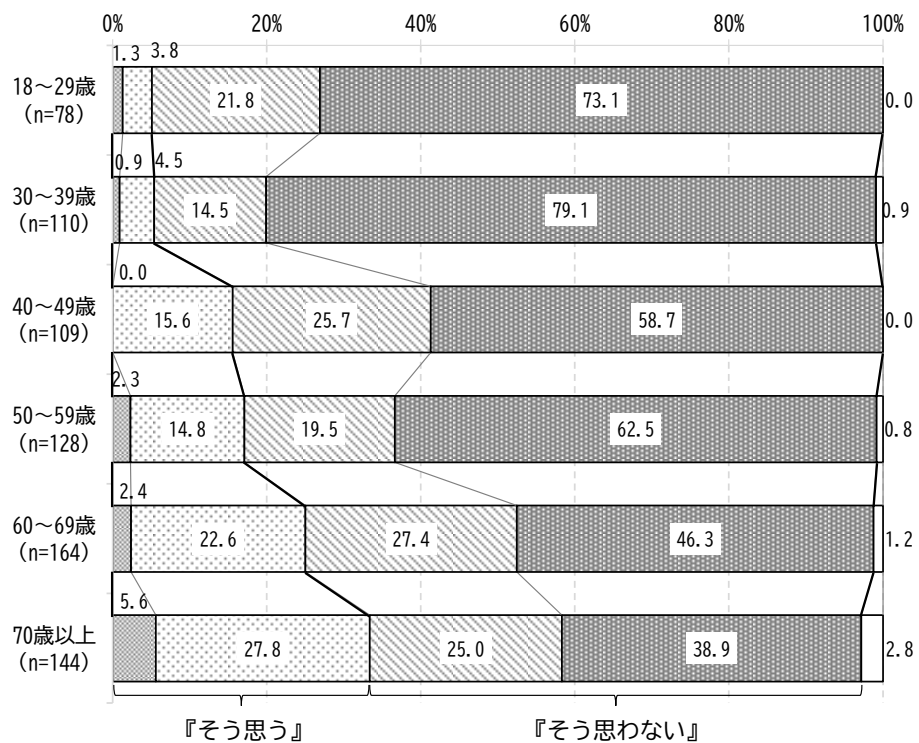
### (1)「子育ては母親の役割」という考え方



(2) 「家事は女性の役割」という考え方



(3) 「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方



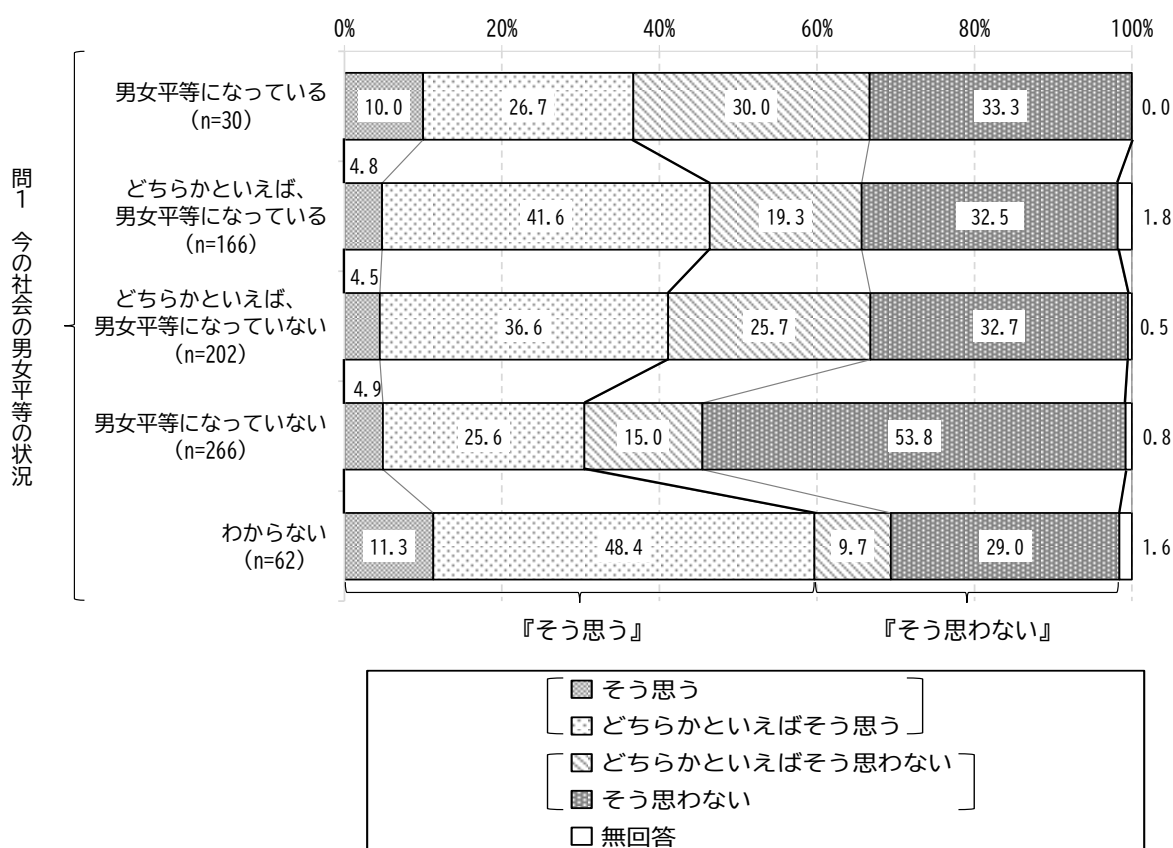
## 【男女平等観別】

「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」では、『そう思わない』が、「男女平等になっていない」で68.8%と最も多く、次いで「男女平等になっている」が63.3%、「どちらかといえば、男女平等になっていない」が58.4%となっている。

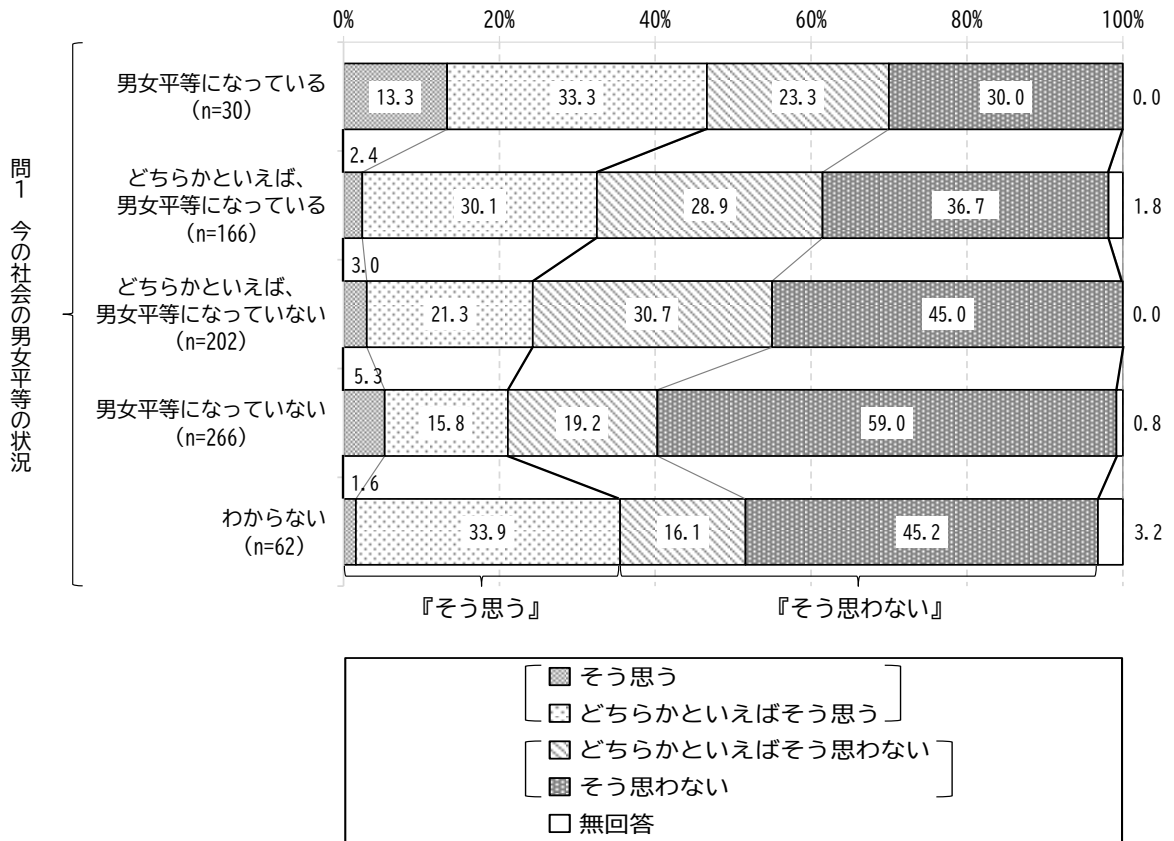
「(2)『家事は女性の役割』という考え方」では、『そう思わない』が、「男女平等になっていない」で78.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば、男女平等になっていない」が75.7%、「どちらかといえば、男女平等になっている」が65.6%となっている。

「(3)『家庭での介護や看護は女性の役割』という考え方」では、『そう思わない』が、「男女平等になっていない」で83.5%と最も多く、次いで「男女平等になっている」が80.0%、「どちらかといえば、男女平等になっていない」が78.7%となっている。

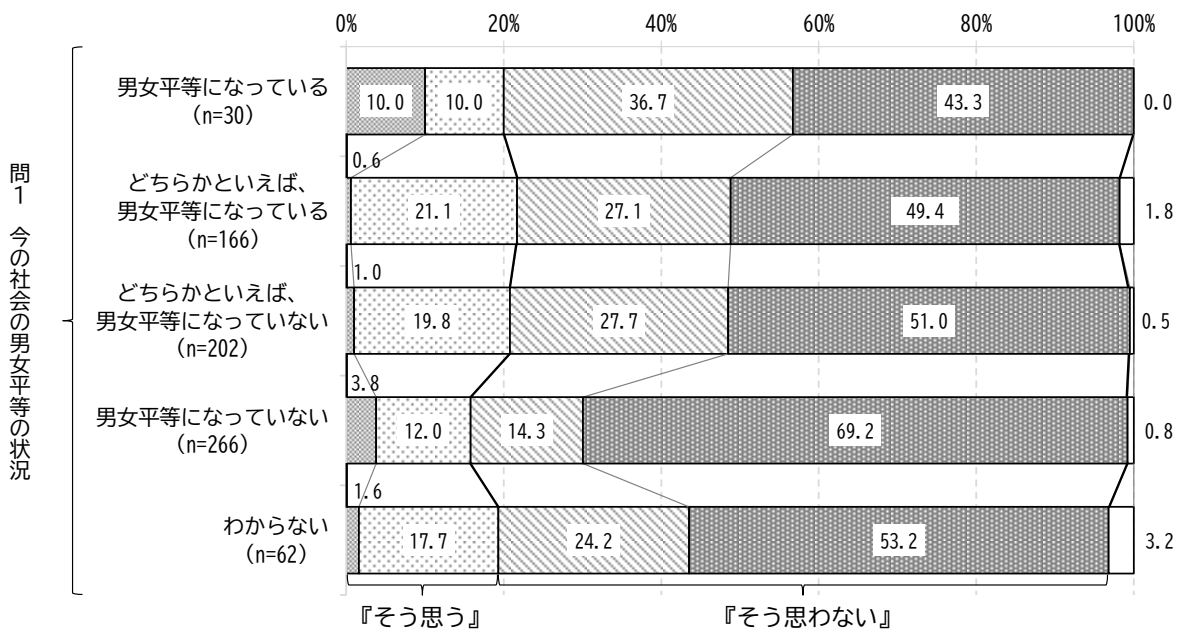
(1)「今の社会の男女平等の状況」の認識と「子育ては母親の役割」という考え方



(2) 「今の社会の男女平等の状況」の認識と「家事は女性の役割」という考え方



(3) 「今の社会の男女平等の状況」の認識と「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方



## 2 家庭生活について

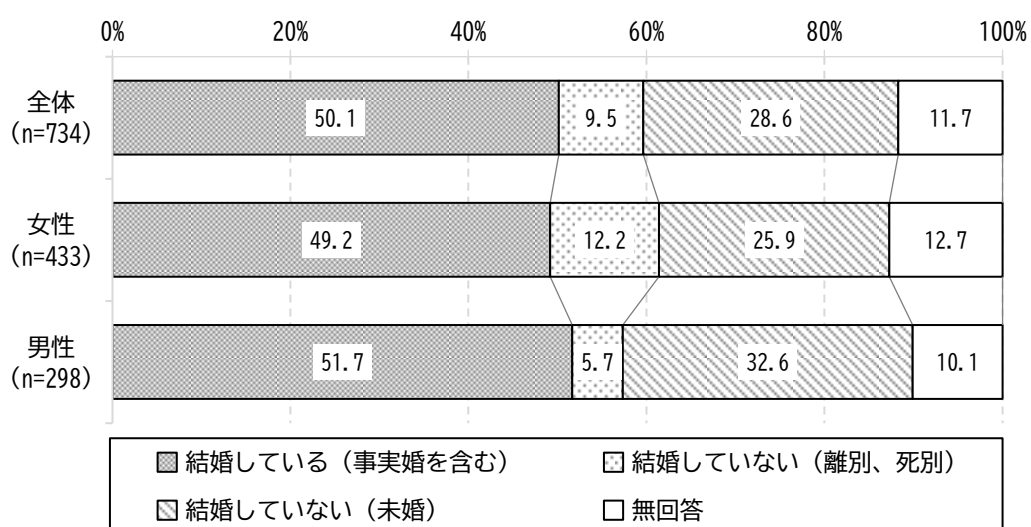
問5 あなたはご結婚されていますか。(○は1つ)

### 【全体】

「結婚している(事実婚を含む)」が50.1%と最も多く、次いで「結婚していない(未婚)」が28.6%、「結婚していない(離別、死別)」が9.5%となっている。

### 【性別】

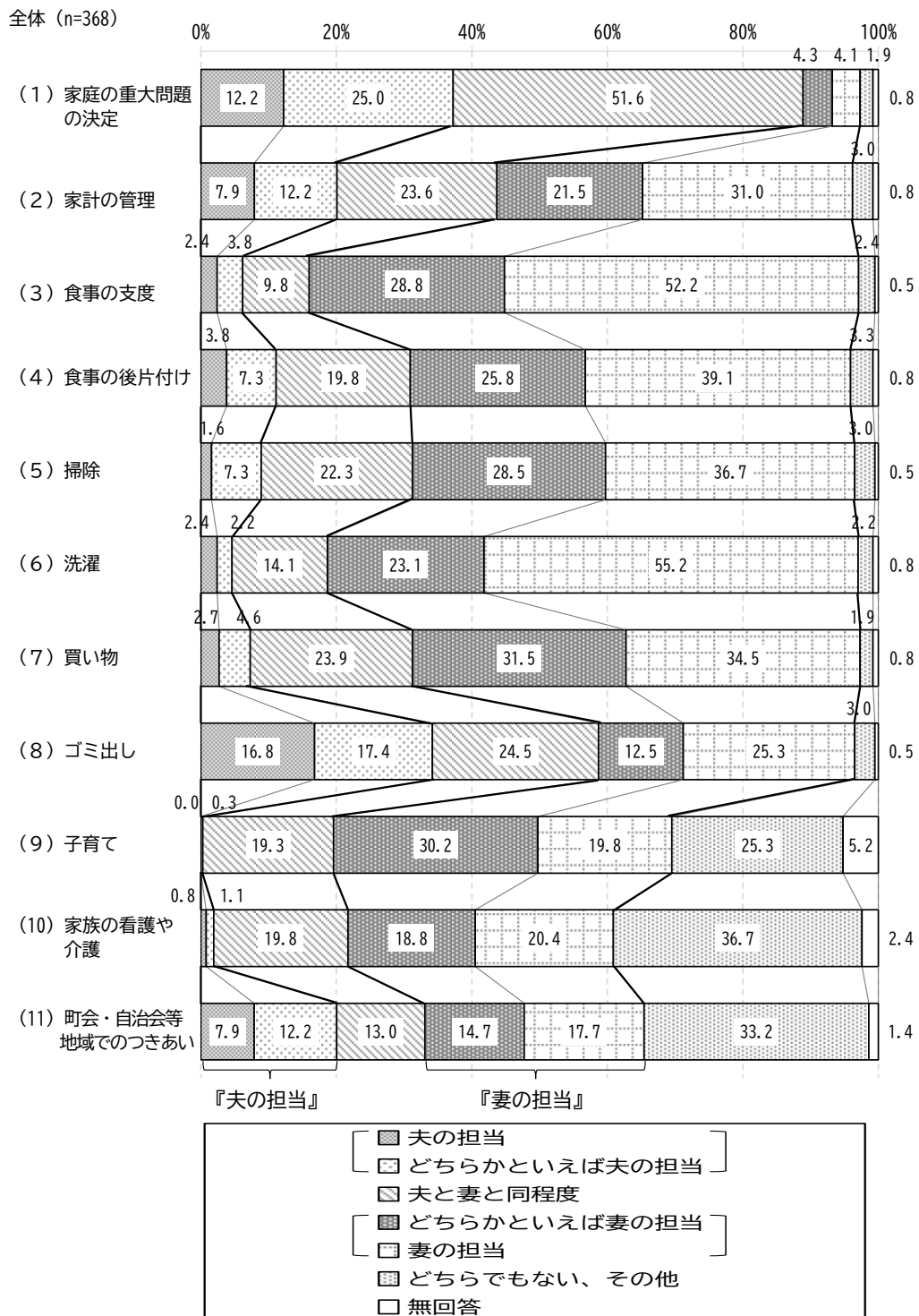
女性・男性ともに「結婚している(事実婚を含む)」が最も多く、次いで「結婚していない(未婚)」となっている。



問5-1 あなたは、家庭生活での、家事などの分担はどのようにしていますか。次の(1)～(11)について、それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

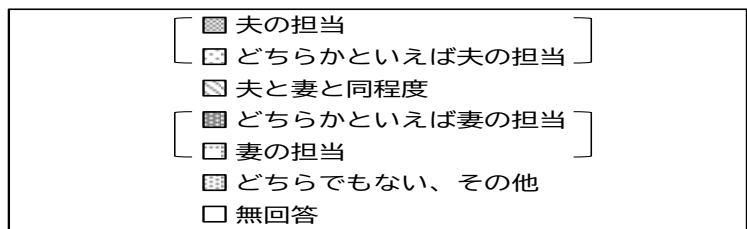
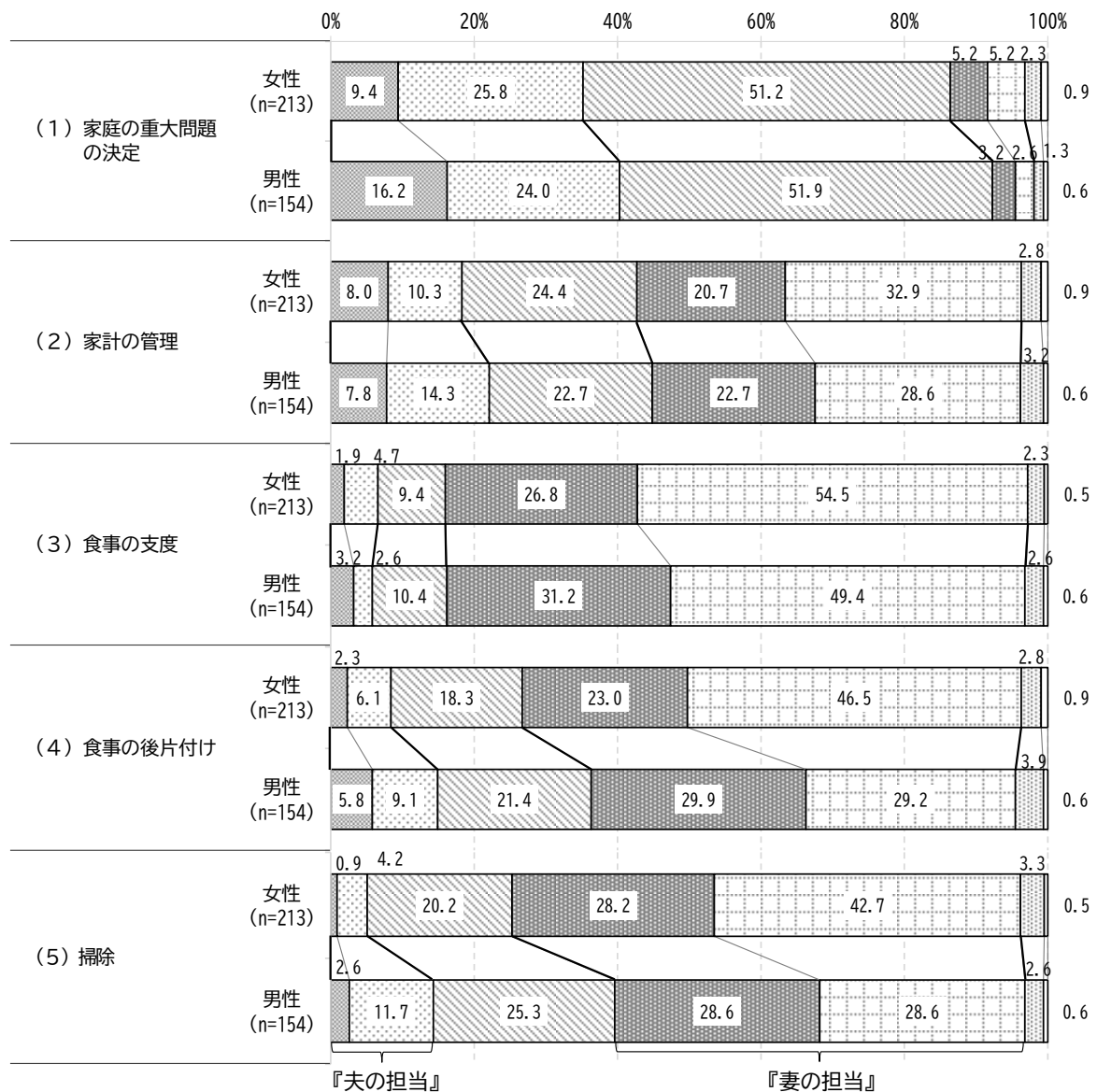
【全体】

「(1) 家庭の重大問題の決定」は「夫と妻と同程度」が51.6%と最も多く、「(8) ゴミ出し」は『夫の担当』(「夫の担当」と「どちらかといえば夫の担当」の合計)が37.8%となっているが、その他の項目は全て『妻の担当』(「どちらかといえば妻の担当」と「妻の担当」の合計)が多くなっている。特に「(9) 子育て」では「夫の担当」が0.0%であるのに対し、「妻の担当」は19.8%となっている。

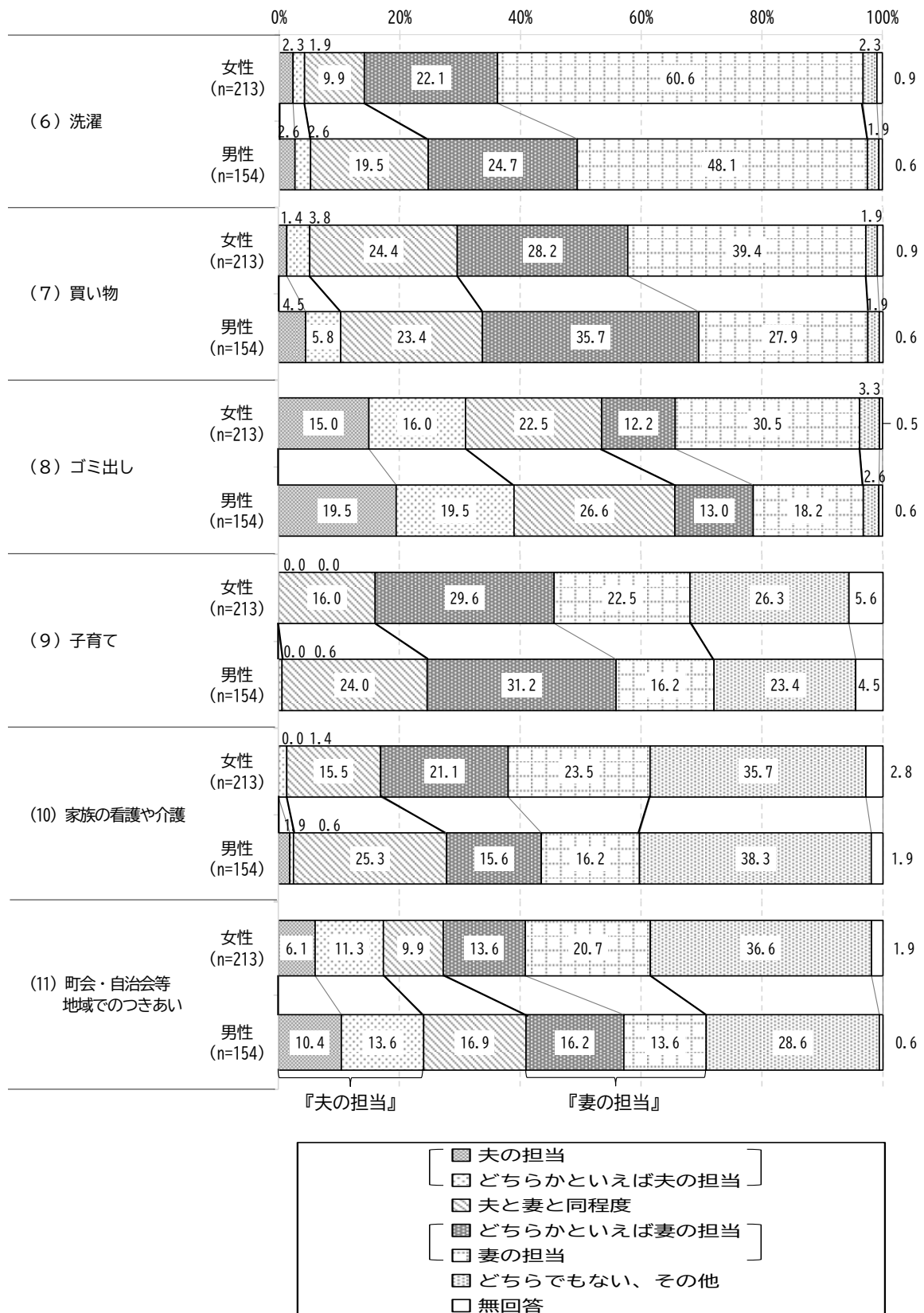


【性別】

「妻の担当」を分野でみると、「(4) 食後の後片付け」において、女性 46.5%、男性 29.2%、「(5) 掃除」において、女性 42.7%、男性 28.6%となっており、他の分野に比べ、性別で認識の差がみられる。







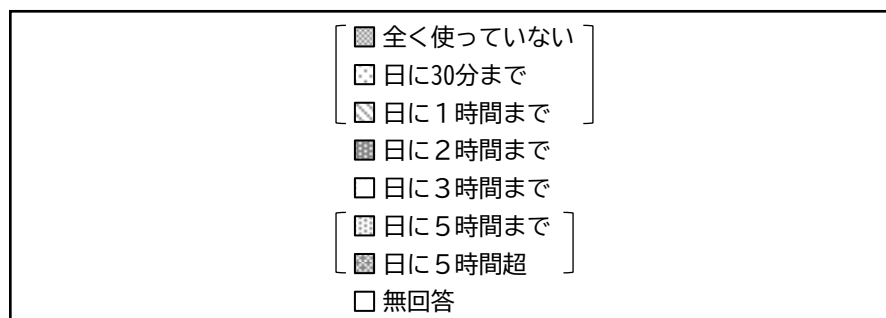
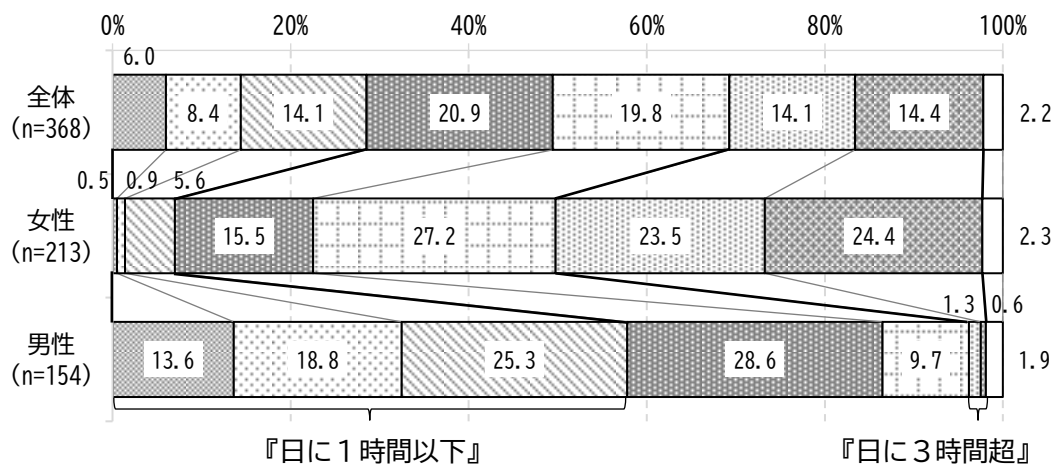
問5-2 あなたは、平均すると1日にどれくらい育児・家事に使っていますか。(○は1つ)

【全体】

「日に2時間まで」が20.9%と最も多く、次いで「日に3時間まで」が19.8%、「日に5時間超」が14.4%となっている。

【性別】

女性は「日に3時間まで」が最も多く、次いで「日に5時間超」となっている。男性は「日に2時間まで」が最も多く、次いで「日に1時間まで」となっている。また、『日に1時間以下』（「全く使っていない」と「日に30分まで」と「日に1時間まで」の合計）については、女性7.0%、男性57.7%であるのに対して、『日に3時間超』（「日に5時間まで」と「日に5時間超」の合計）については、女性47.9%、男性1.9%となっており、性別による大きな差がみられる。



### 3 子どもの教育について

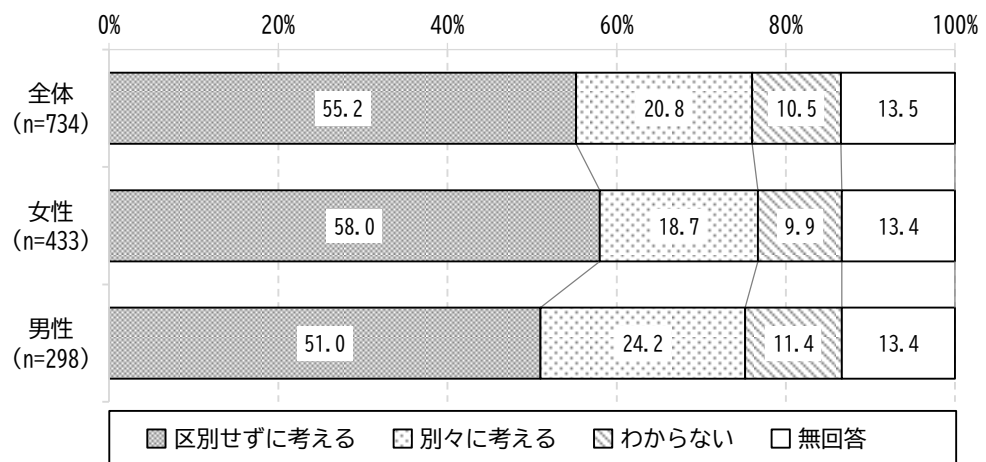
問6 あなたに男女両方のお子さんがいると仮定して、お答えください。あなたは、お子さんの育て方について、性別を区別せず、男の子と女の子を同じように育てたいと考えますか、それとも別々に考えますか。(○は1つ)

#### 【全体】

「区別せずに考える」が 55.2%と最も多く、次いで「別々に考える」が 20.8%、「わからない」が 10.5%となっている。

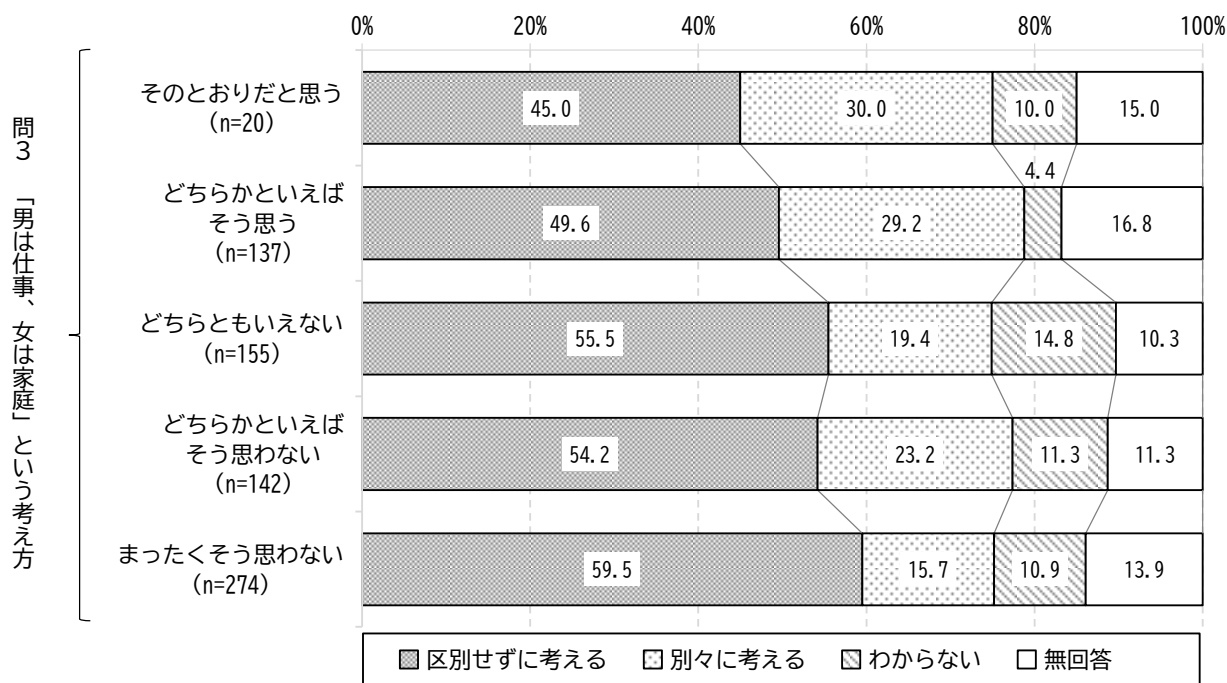
#### 【性別】

女性・男性ともに「区別せずに考える」が最も多く、次いで「別々に考える」となっている。



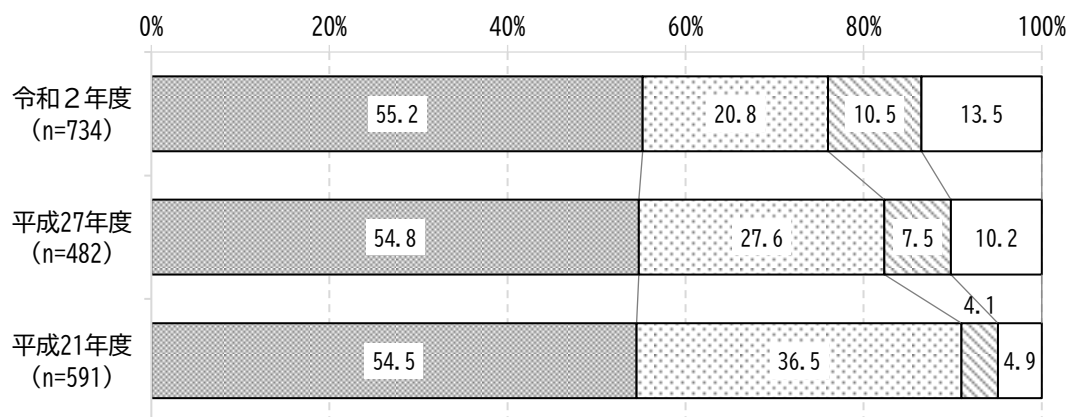
### 【固定的役割分担意識別】

『固定的役割分担意識に肯定的な人』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した人）は、『固定的役割分担意識に否定的な人』（「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」と回答した人）と比べ、「別々に考える」と回答した割合が多い傾向がみられる。



### 【平成21年度・27年度調査比較】

いずれの年度においても「区別せずに考える」は5割半ば程度となっており、大きな変化はみられないが、「別々に考える」は平成21年度には36.5%であったのに対して、その後徐々に減少していき、令和2年度には20.8%となっている。



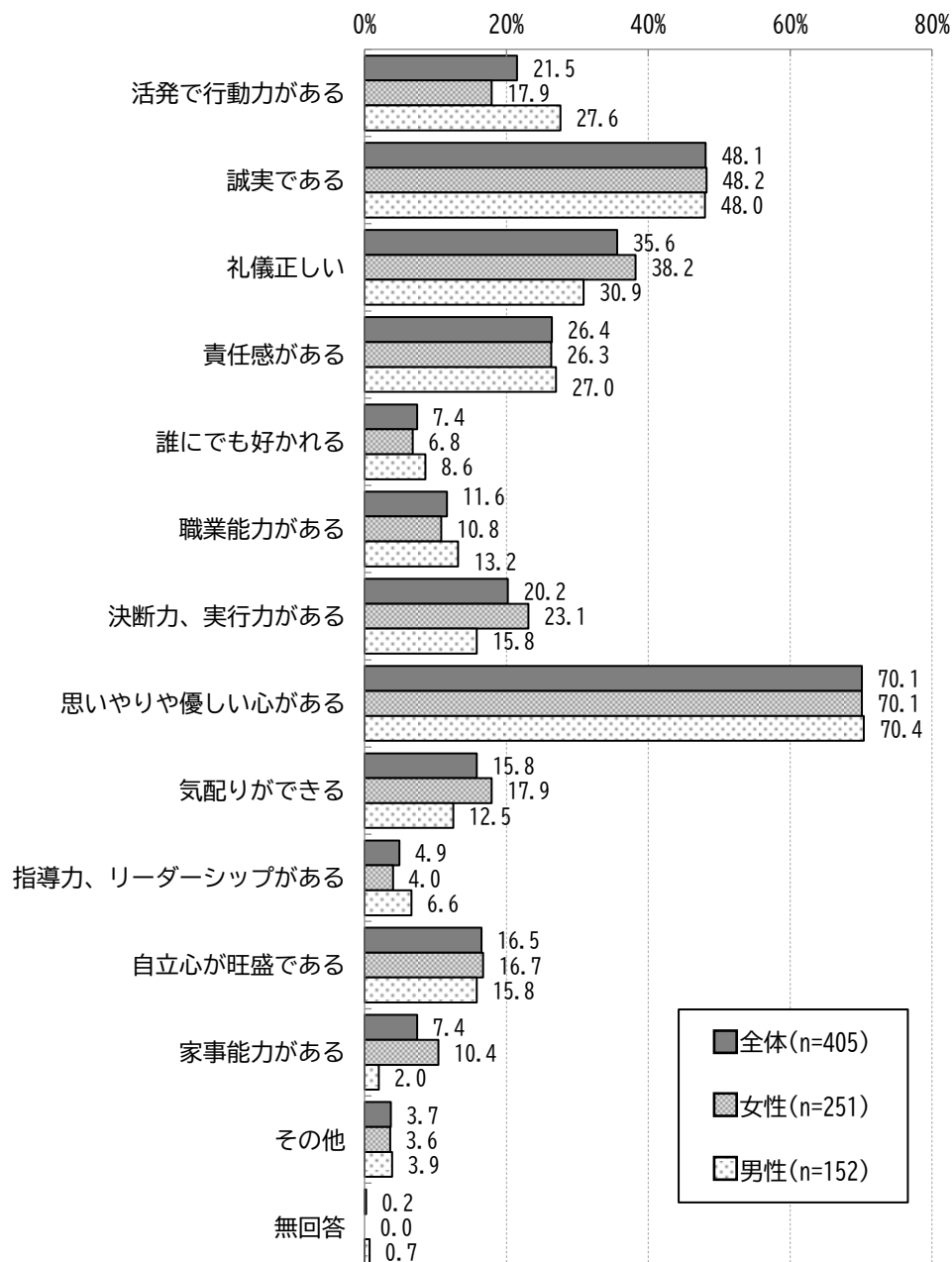
問6-1 「区別せずに考える」と答えた方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。  
(○は3つまで)

【全体】

「思いやりや優しい心がある」が70.1%と最も多く、次いで「誠実である」が48.1%、「礼儀正しい」が35.6%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「思いやりや優しい心がある」が最も多く、次いで「誠実である」となっている。また、「活発で行動力がある」については、女性17.9%、男性27.6%となっており、性別による差がみられる。



問6-2 「別々に考える」と答えた方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。男の子、女の子の場合それぞれについて、下の枠内に番号を記入してください。  
(記入はそれぞれ3つまで)

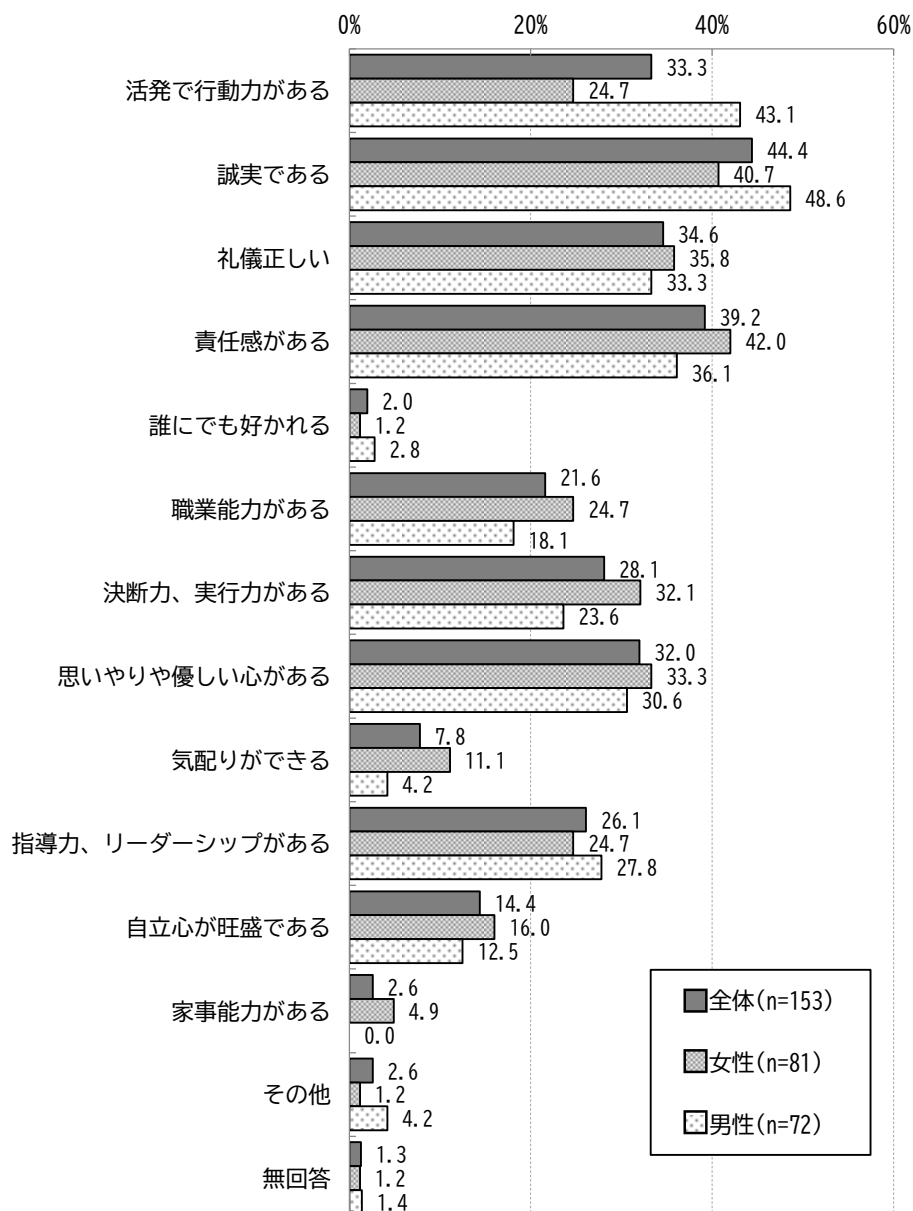
### (1) 男の子の場合

#### 【全体】

「誠実である」が44.4%と最も多く、次いで「責任感がある」が39.2%、「礼儀正しい」が34.6%となっている。

#### 【性別】

女性は「責任感がある」が最も多く、次いで「誠実である」となっている。男性は「誠実である」が最も多く、次いで「活発で行動力がある」となっている。また、「活発で行動力がある」については、女性24.7%、男性43.1%となっており、性別による差がみられる。



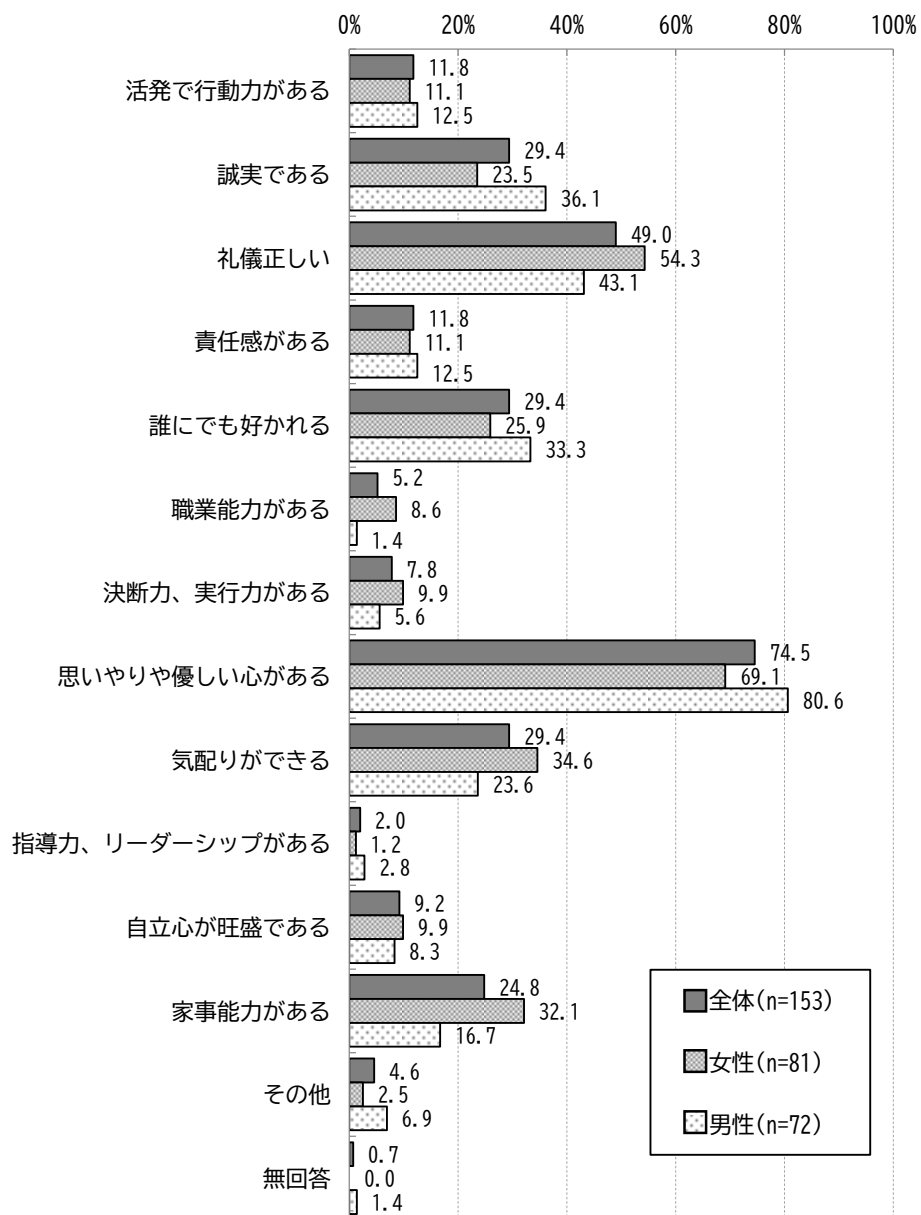
## (2) 女の子の場合

### 【全体】

「思いやりや優しい心がある」が74.5%と最も多く、次いで「礼儀正しい」が49.0%、「誠実である」「誰にでも好かれる」「気配りができる」が29.4%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「思いやりや優しい心がある」が最も多く、次いで「礼儀正しい」となっている。また、「家事能力がある」については、女性32.1%、男性16.7%となっており、性別による差がみられる。そのほか、「誠実である」、「礼儀正しい」、「思いやりや優しい心がある」についても、性別による差がみられる。



問7 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

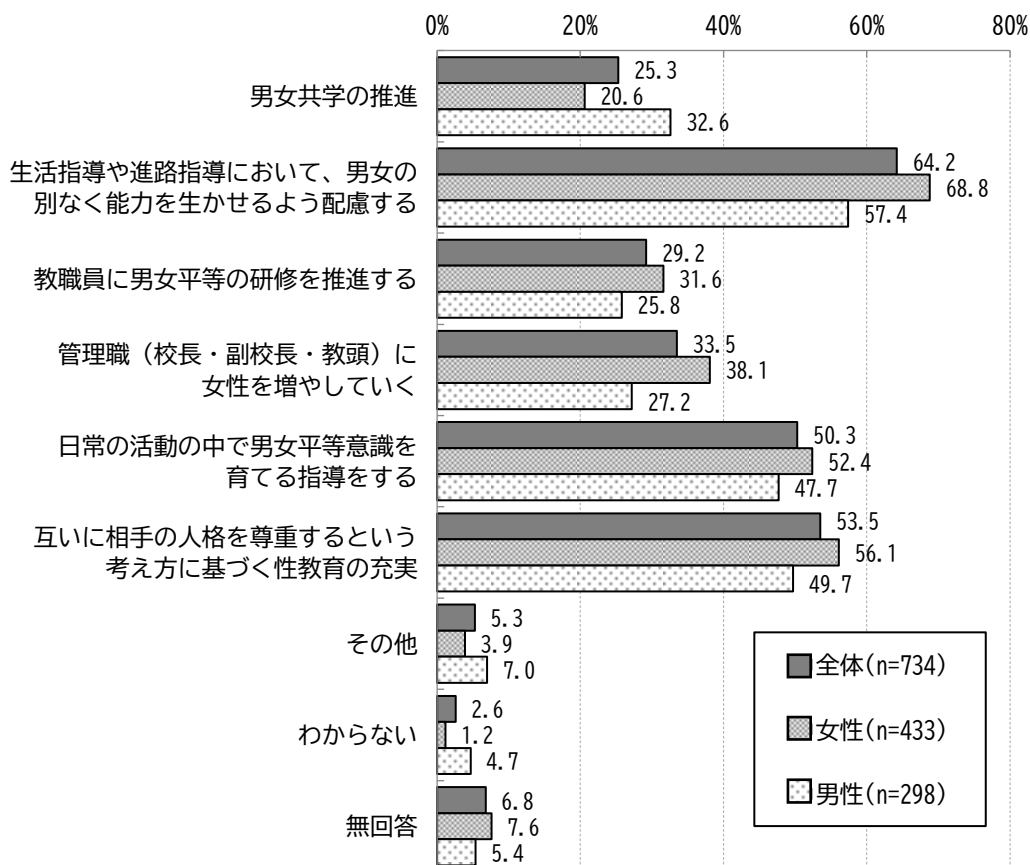
【全体】

「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が64.2%と最も多く、次いで「互いに相手の人格を尊重するという考え方に基づく性教育の充実」が53.5%、「日常の活動の中で男女平等意識を育てる指導をする」が50.3%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も多く、次いで「互いに相手の人格を尊重するという考え方に基づく性教育の充実」となっている。また、「男女共学の推進」については、女性20.6%、男性32.6%となっており、性別による差がみられる。

そのほか、「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」、「管理職（校長・副校長・教頭）に女性を増やしていく」についても、性別による差がみられる。





## 4 職業について

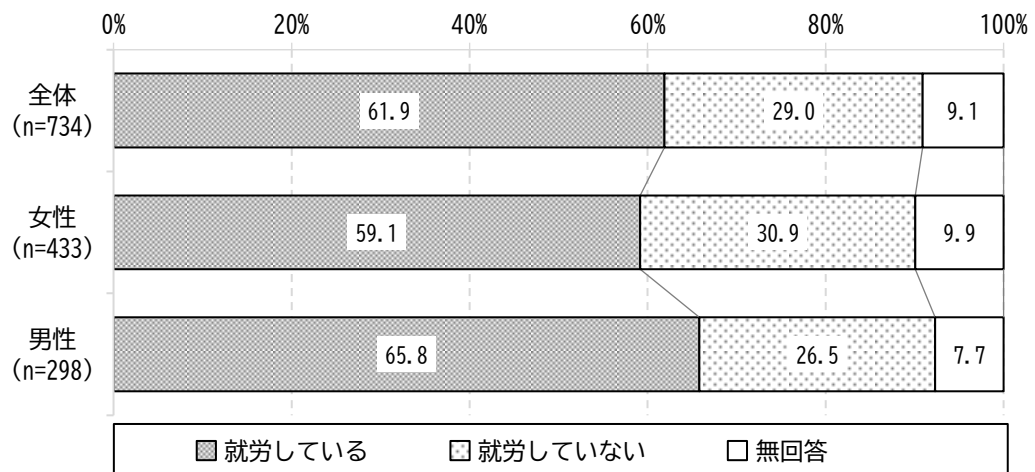
問8 あなたは、現在就労していますか。(○は1つ)

### 【全体】

「就労している」が61.9%、「就労していない」が29.0%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「就労している」が最も多く、次いで「就労していない」となっている。



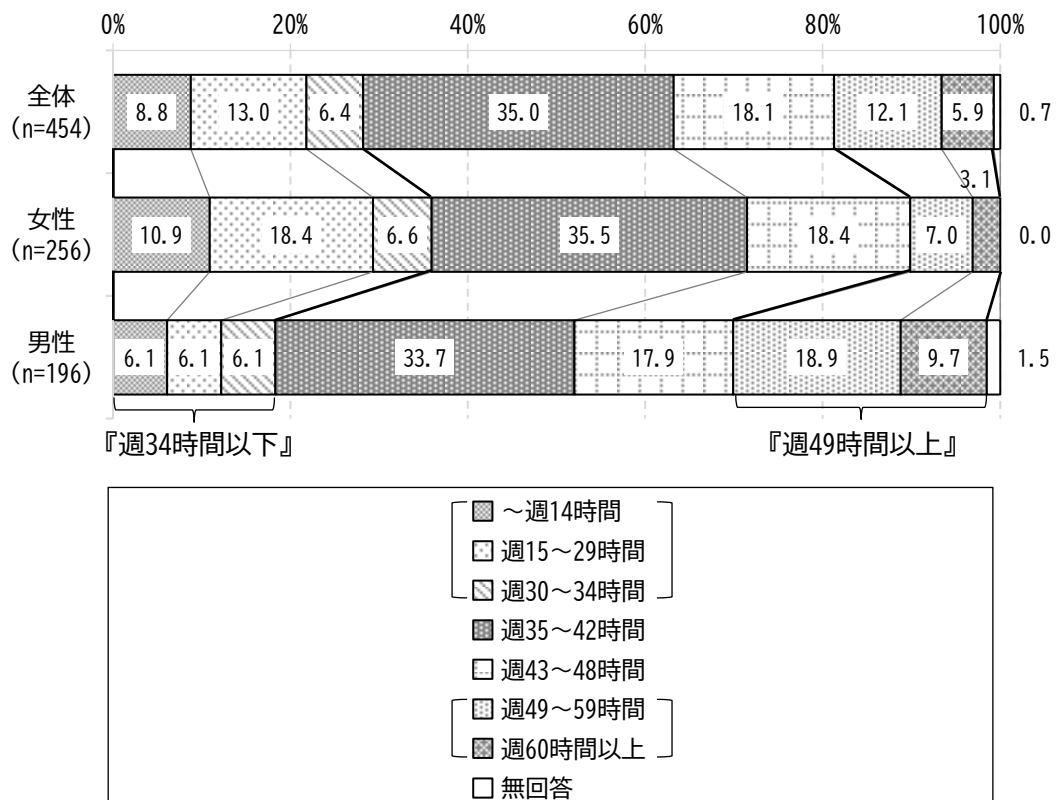
問8-1 あなたは、平均すると週に何時間ぐらい働いていますか。(残業時間は含みますが、休憩時間は除きます。)(○は1つ)

**【全体】**

「週 35～42 時間」が 35.0%と最も多く、次いで「週 43～48 時間」が 18.1%、「週 15～29 時間」が 13.0%となっている。

**【性別】**

女性・男性ともに「週 35～42 時間」が最も多く、次いで女性は「週 15～29 時間」「週 43～48 時間」、男性は「週 49～59 時間」となっている。また、『週 34 時間以下』(「～週 14 時間」と「週 15～29 時間」と「週 30～34 時間」の合計)については、女性 35.9%、男性 18.3%であるのに対して、『週 49 時間以上』(「週 49～59 時間」と「週 60 時間以上」の合計)については、女性 10.1%、男性 28.6%となっており、性別による差がみられる。



問8-2 あなたが現在働いている理由や目的はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

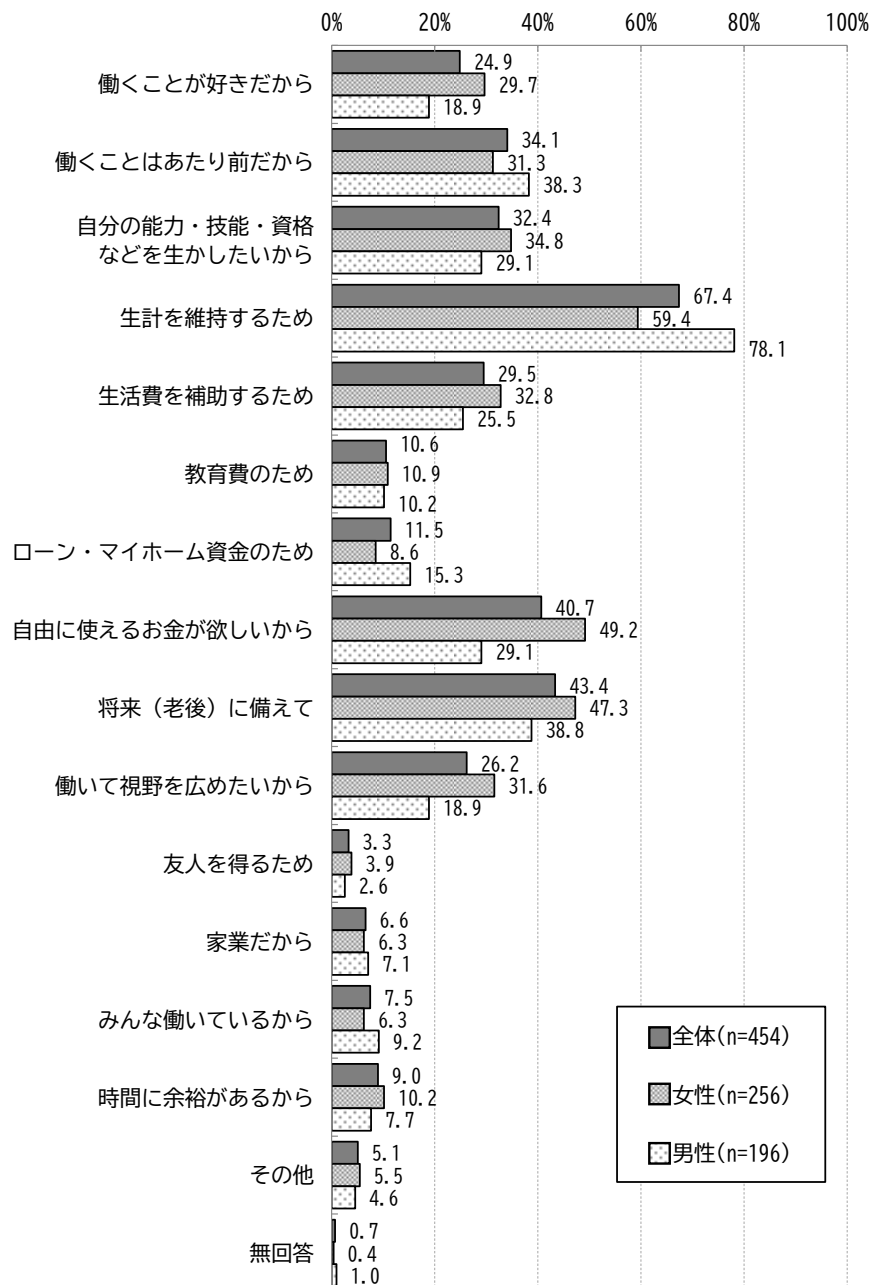
【全体】

「生計を維持するため」が67.4%と最も多く、次いで「将来（老後）に備えて」が43.4%、「自由に使えるお金が欲しいから」が40.7%となっている。

【性別】

男性・女性ともに「生計を維持するため」が最も多く、次いで女性は「自由に使えるお金が欲しいから」、男性は「将来（老後）に備えて」となっている。また、「自由に使えるお金が欲しいから」については、女性49.2%、男性29.1%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「働くことが好きだから」、「生計を維持するため」、「働いて視野を広めたいから」についても、性別による差がみられる。



問8-3 あなたは「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」について、どのような状態が理想だと  
 思いますか。また、現実はどうですか。(〇は1つずつ)

**【全体】**

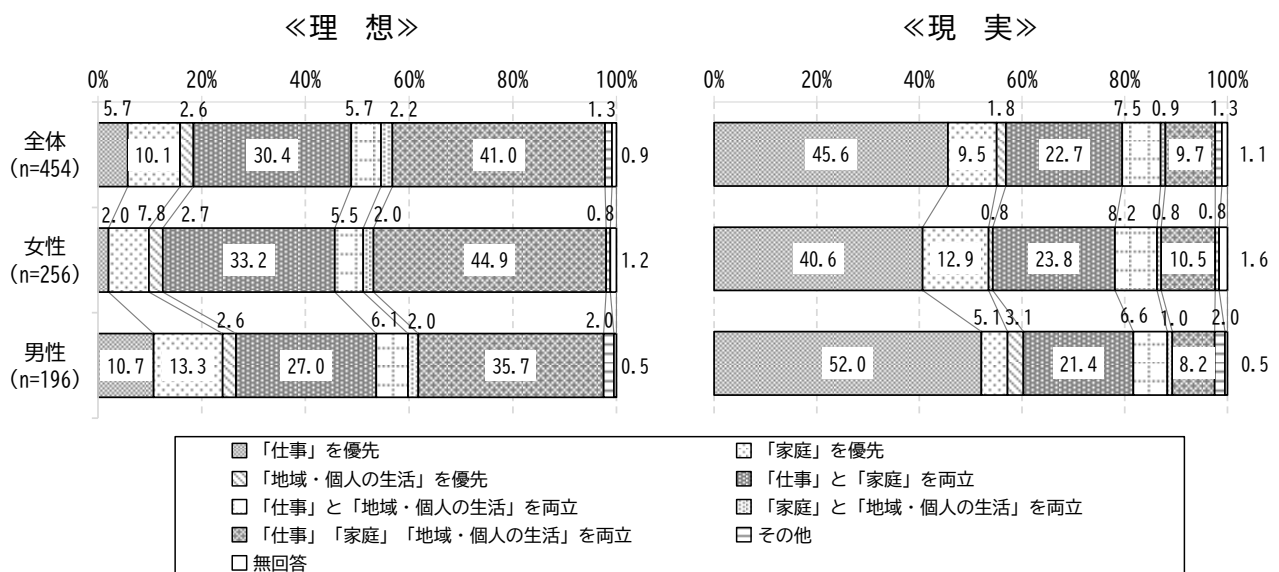
理想では、『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が41.0%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立が30.4%、『家庭』を優先が10.1%となっている。

現実では、『仕事』を優先が45.6%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立が22.7%、『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が9.7%となっている。

**【性別】**

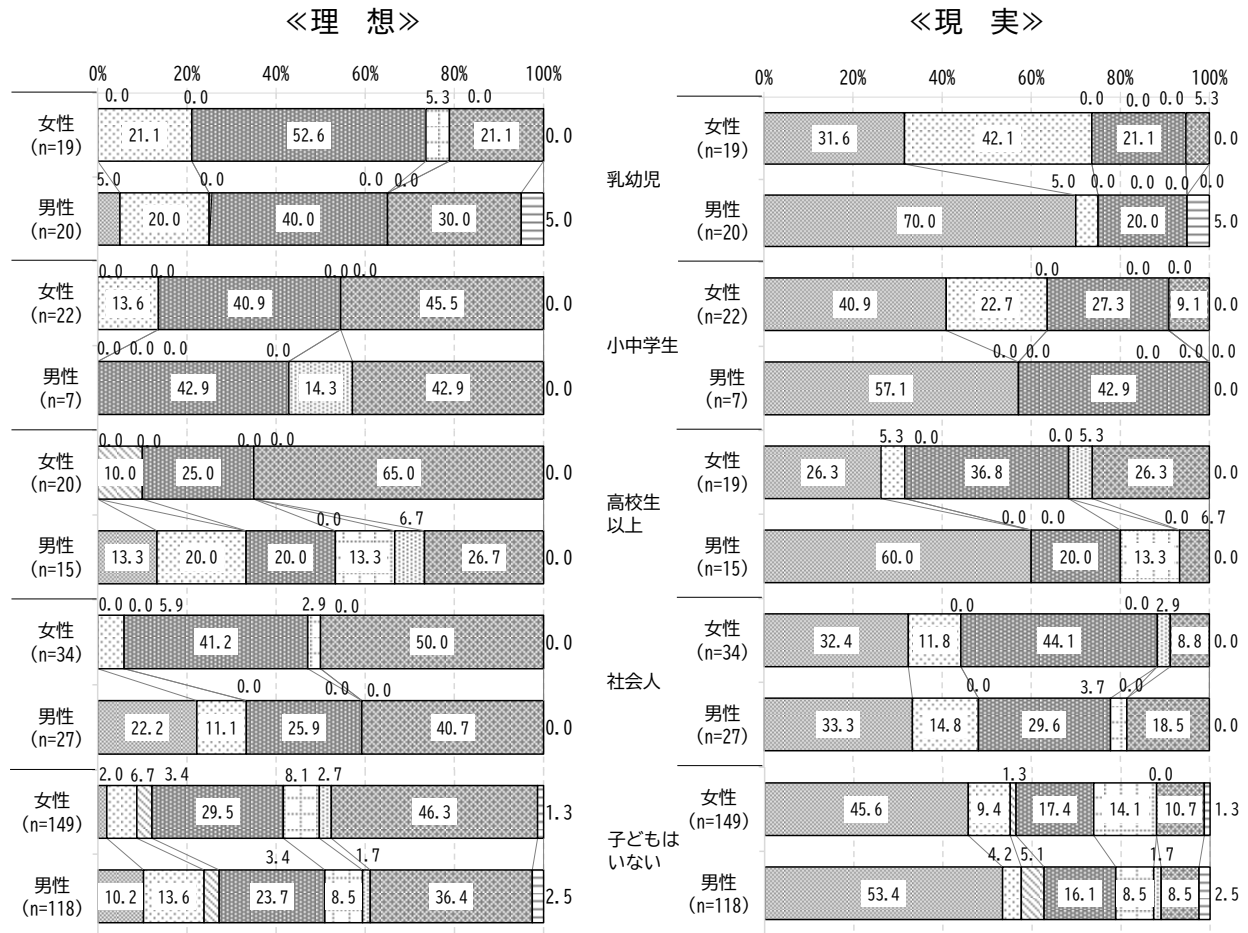
理想では、女性・男性ともに『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立となっている。

現実では、女性・男性ともに『仕事』を優先が最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立となっている。また、『仕事』を優先については、女性40.6%、男性52.0%となっており、性別による差がみられる。



### 【性別・同居している1番下の子どもの状況別】

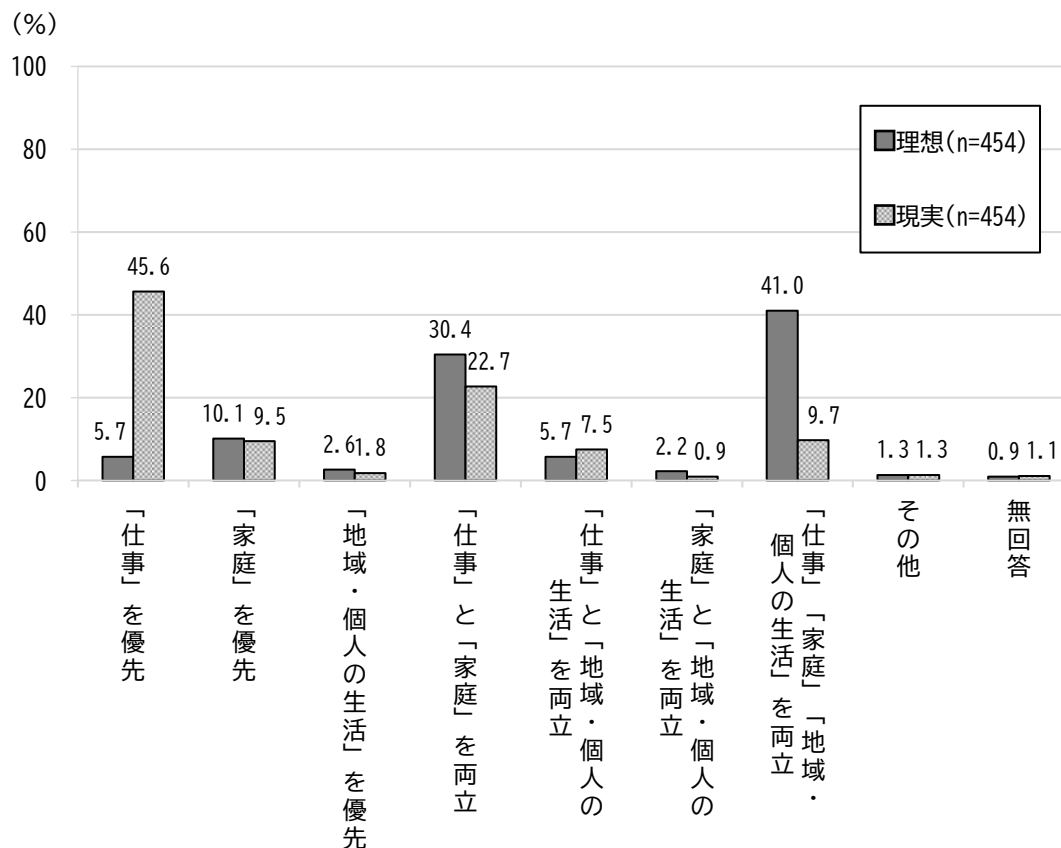
理想では、「子どもはいない」は、女性・男性ともに『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が最も多くなっている。現実では、「子どもはいない」は、女性・男性ともに『仕事』を優先が最も多くなっている。



- 「仕事」を優先
- ▨ 「家庭」を優先
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭」を両立
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立
- ▩ 「家庭」と「地域・個人の生活」を両立
- 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」を両立
- その他

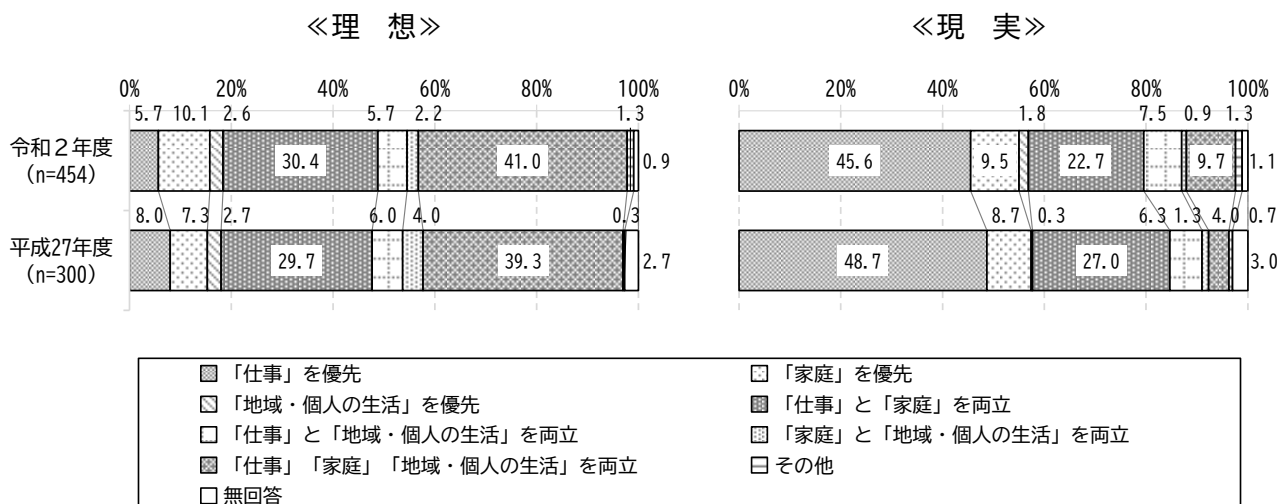
### 【理想と現実比較】

理想は「『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立」が41.0%と最も多いが、現実では9.7%となっている。現実には「『仕事』を優先」が最も多く、45.6%となっている。



### 【平成 27 年度調査比較】

理想では、平成 27 年度から大きな変化はみられない。現実では、「『仕事』と『家庭』を両立」が平成 27 年度から減少した一方で、「『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立」が増加している。



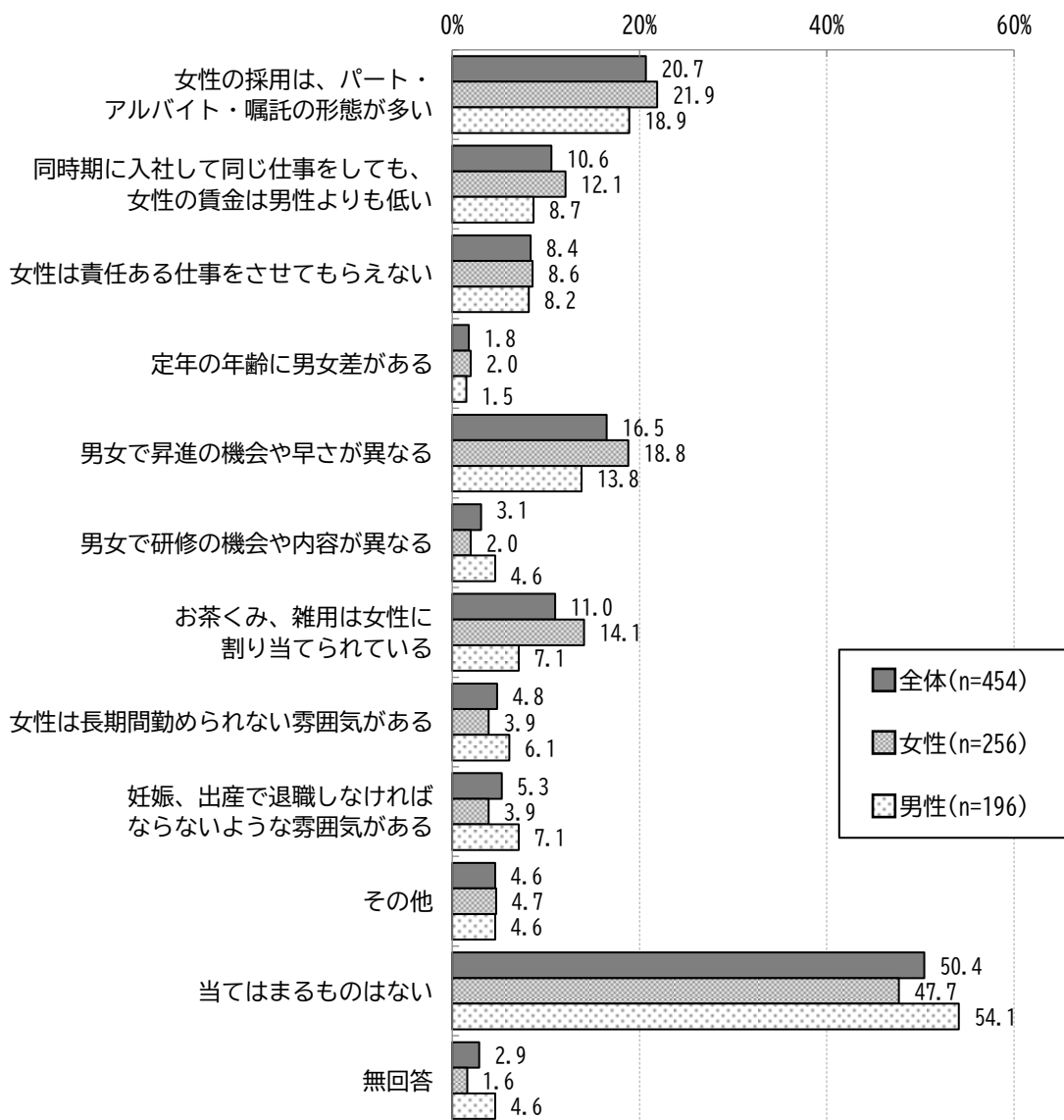
問 8 - 4 次にあげるような事柄で、現在のあなたの職場に当てはまるものがありますか。  
(〇はいくつでも)

【全体】

「当てはまるものはない」が50.4%と最も多く、次いで「女性の採用は、パート・アルバイト・嘱託の形態が多い」が20.7%、「男女で昇進の機会や早さが異なる」が16.5%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「当てはまるものはない」が最も多く、次いで「女性の採用は、パート・アルバイト・嘱託の形態が多い」となっている。



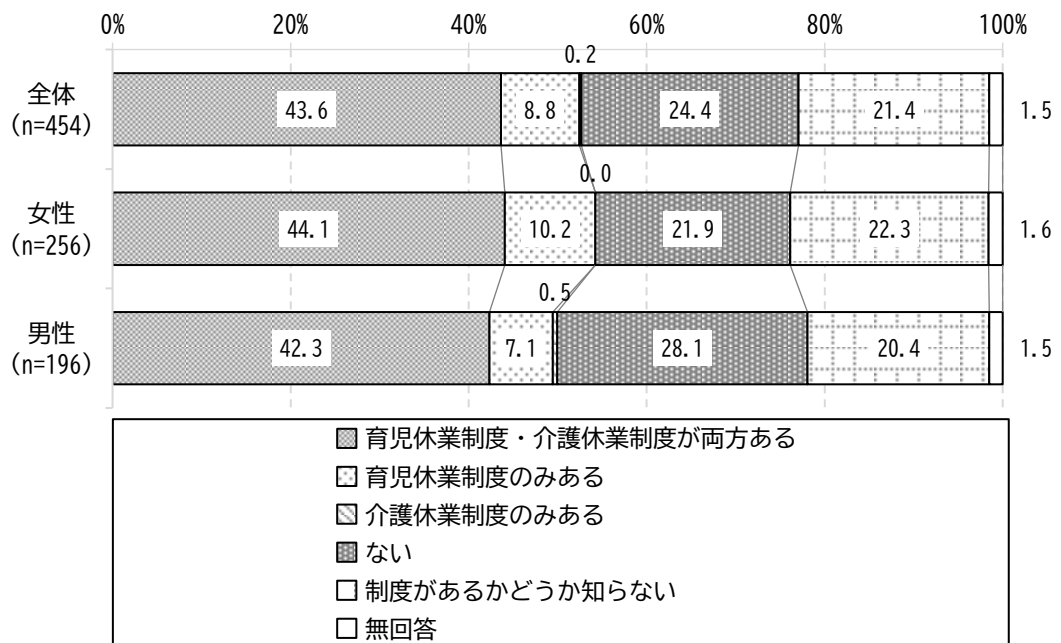
問8-5 あなたの職場は育児休業制度および介護休業制度がありますか。(○は1つ)

【全体】

「育児休業制度・介護休業制度が両方ある」が43.6%に対し、「ない」と「制度があるかどうか知らない」の合計は45.8%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「育児休業制度・介護休業制度が両方ある」が最も多く、次いで女性は「制度があるかどうか知らない」、男性は「ない」となっている。





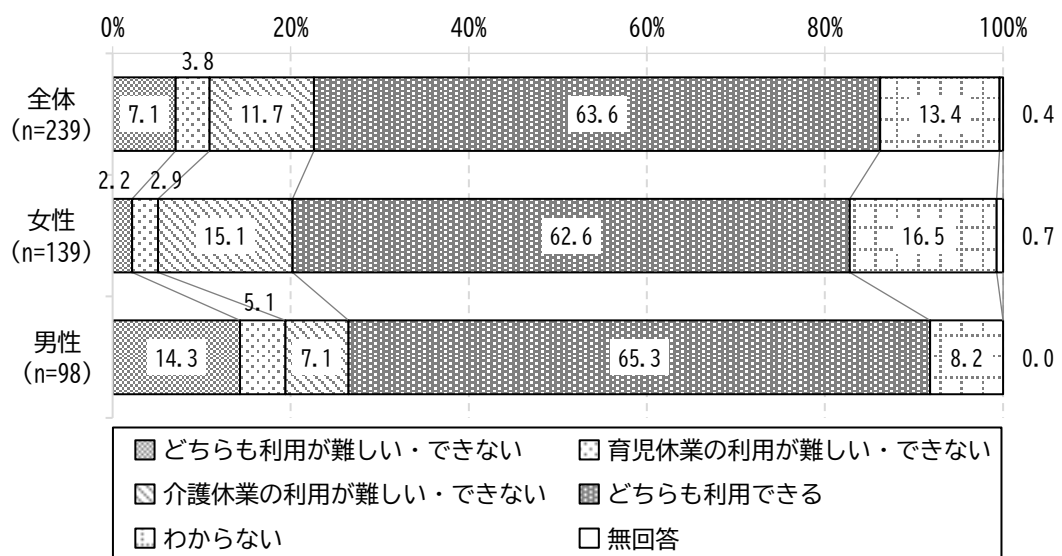
問8-6 法律では男性も女性も育児・介護休業を利用することができますが、現実に、あなたの職場では育児・介護休業制度を利用することができますか。(〇は1つ)

【全体】

「どちらも利用できる」が63.6%と最も多く、次いで「わからない」が13.4%、「介護休業の利用が難しい・できない」が11.7%となっている。

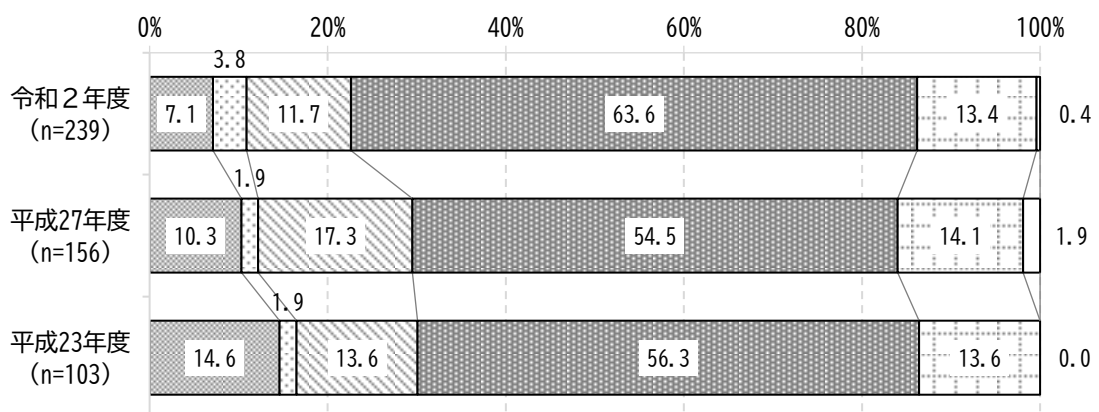
【性別】

女性・男性ともに「どちらも利用できる」が最も多く、次いで女性は「わからない」、男性は「どちらも利用が難しい・できない」となっている。また、「どちらも利用が難しい・できない」については、女性2.2%、男性14.3%となっており、性別による差がみられる。



【平成23年度・27年度調査比較】

「どちらも利用が難しい・できない」は、平成23年度には14.6%であったのに対して、その後徐々に減少していき、令和2年度には7.1%となっている。



問8-7 あなたの職場で育児・介護休業制度を利用できないと思われる理由は何ですか。  
(〇は2つまで)

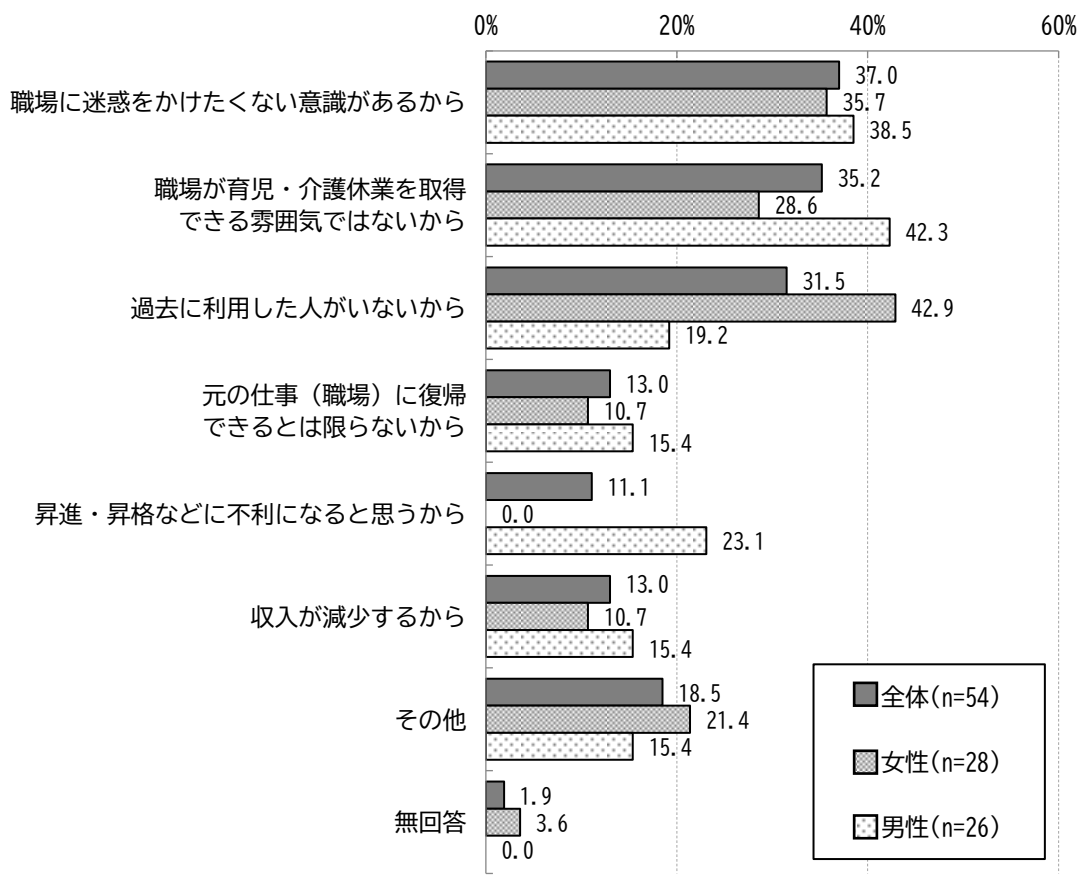
【全体】

「職場に迷惑をかけたくない意識があるから」が37.0%と最も多く、次いで「職場が育児・介護休業を取得できる雰囲気ではないから」が35.2%、「過去に利用した人がいないから」が31.5%となっている。

【性別】

女性は「過去に利用した人がいないから」が最も多く、次いで「職場に迷惑をかけたくない意識があるから」となっている。男性は「職場が育児・介護休業を取得できる雰囲気ではないから」が最も多く、次いで「職場に迷惑をかけたくない意識があるから」となっている。また、「過去に利用した人がいないから」については、女性42.9%、男性19.2%となっており、「昇進・昇格などに不利になると思うから」については、女性0.0%、男性23.1%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「職場が育児・介護休業を取得できる雰囲気ではないから」についても、性別による差がみられる。



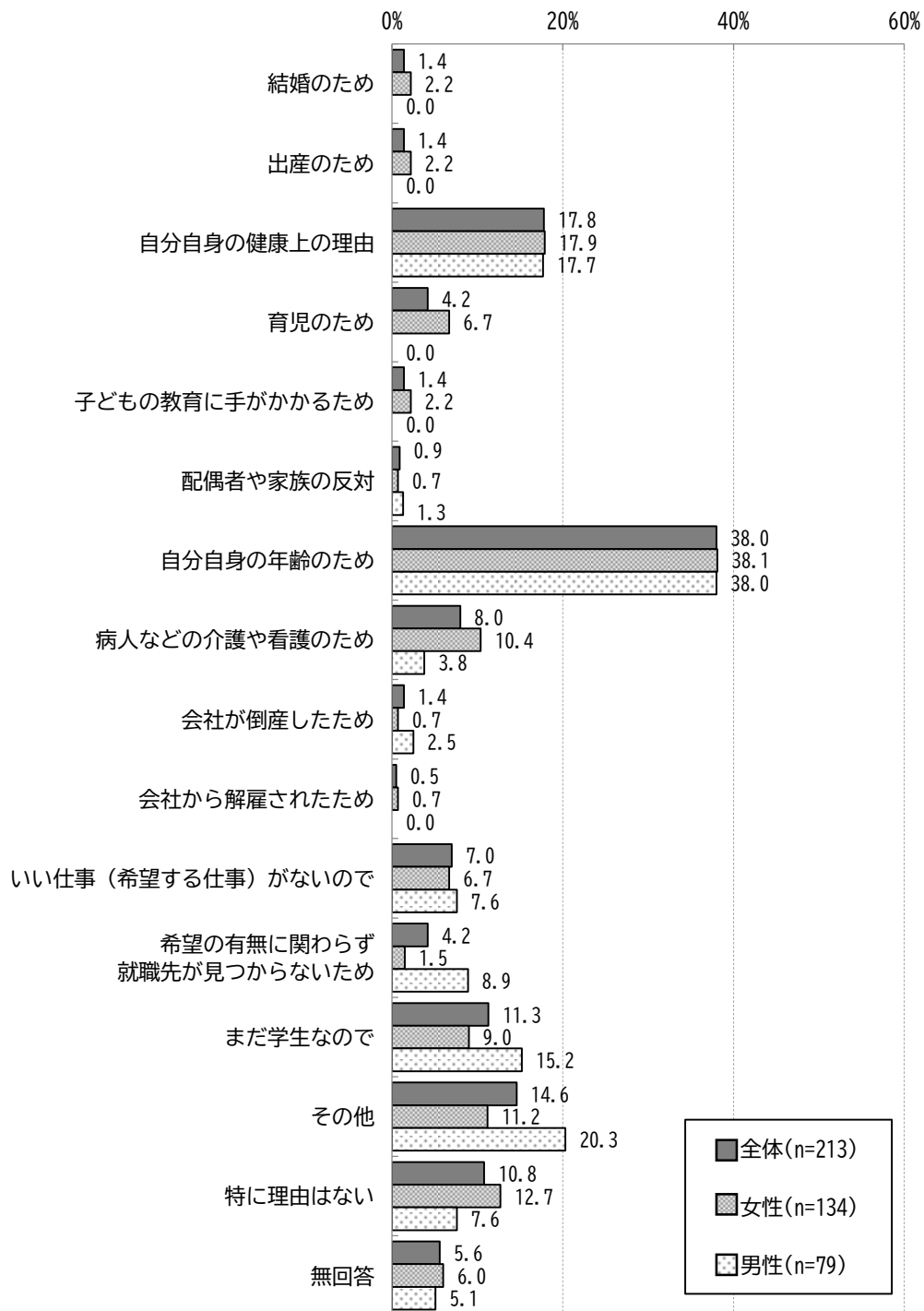
問8-8 あなたが現在働いていない理由はなんですか。(〇は2つまで)

【全体】

「自分自身の年齢のため」が38.0%と最も多く、次いで「自分自身の健康上の理由」が17.8%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「自分自身の年齢のため」が最も多く、次いで「自分自身の健康上の理由」となっている（「その他」を除く）。



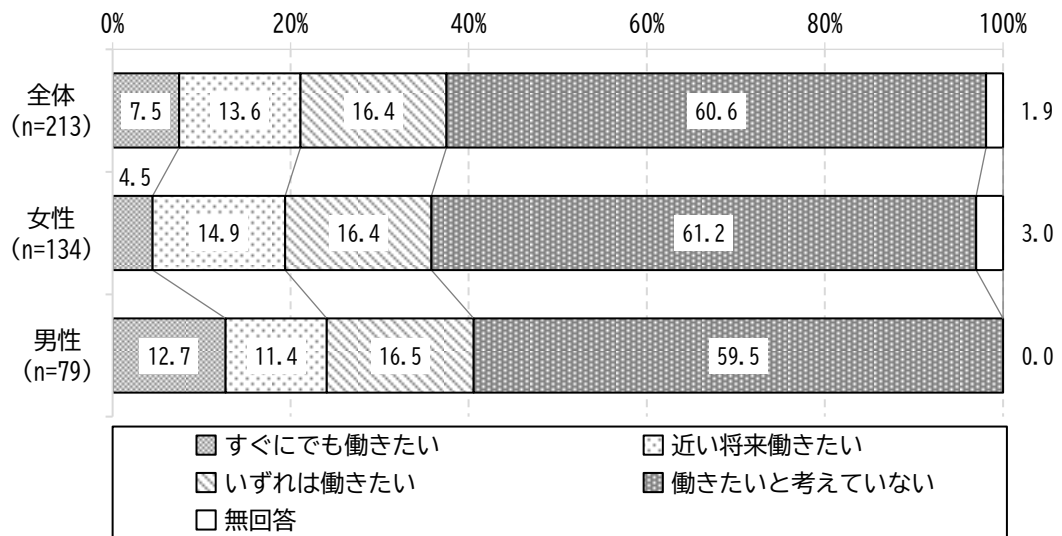
問8-9 あなたは今後、働きたいと考えていますか。(〇は1つ)

【全体】

「働きたいと考えていない」が60.6%と最も多く、次いで「いずれは働きたい」が16.4%、「近い将来働きたい」が13.6%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「働きたいと考えていない」が最も多く、次いで「いずれは働きたい」となっている。



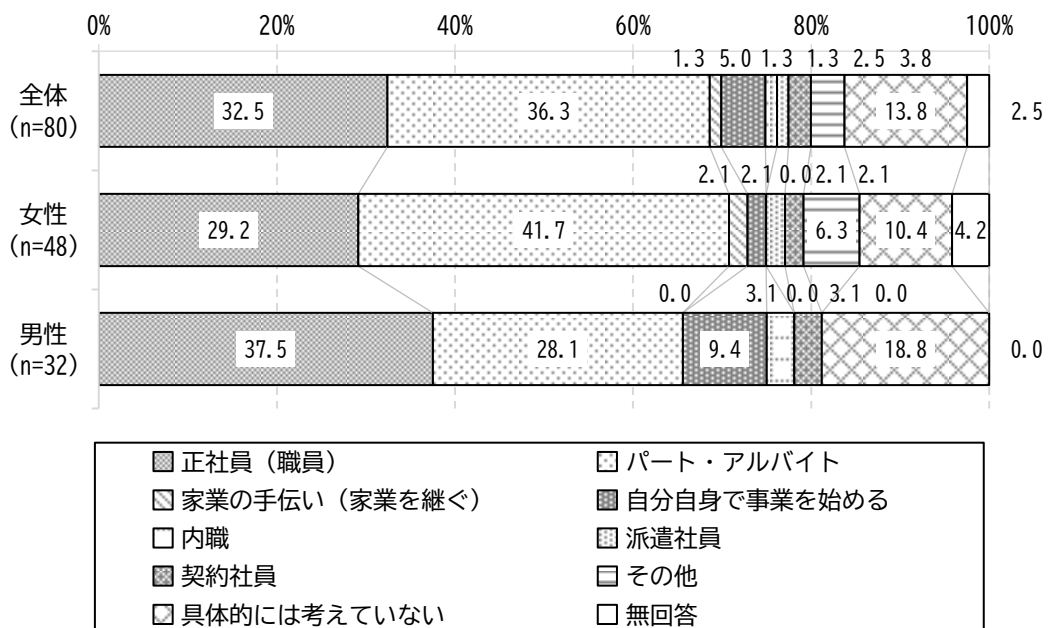
問8-10 あなたは、どのような形態で働きたいですか。(〇は1つ)

【全体】

「パート・アルバイト」が36.3%と最も多く、次いで「正社員（職員）」が32.5%、「具体的には考えていない」が13.8%となっている。

【性別】

女性は「パート・アルバイト」が最も多く、次いで「正社員（職員）」となっている。男性は「正社員（職員）」が最も多く、次いで「パート・アルバイト」となっている。また、「パート・アルバイト」については、女性41.7%、男性28.1%となっており、性別による差がみられる。



問9 男性が育児休業や介護休暇を取ることに、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

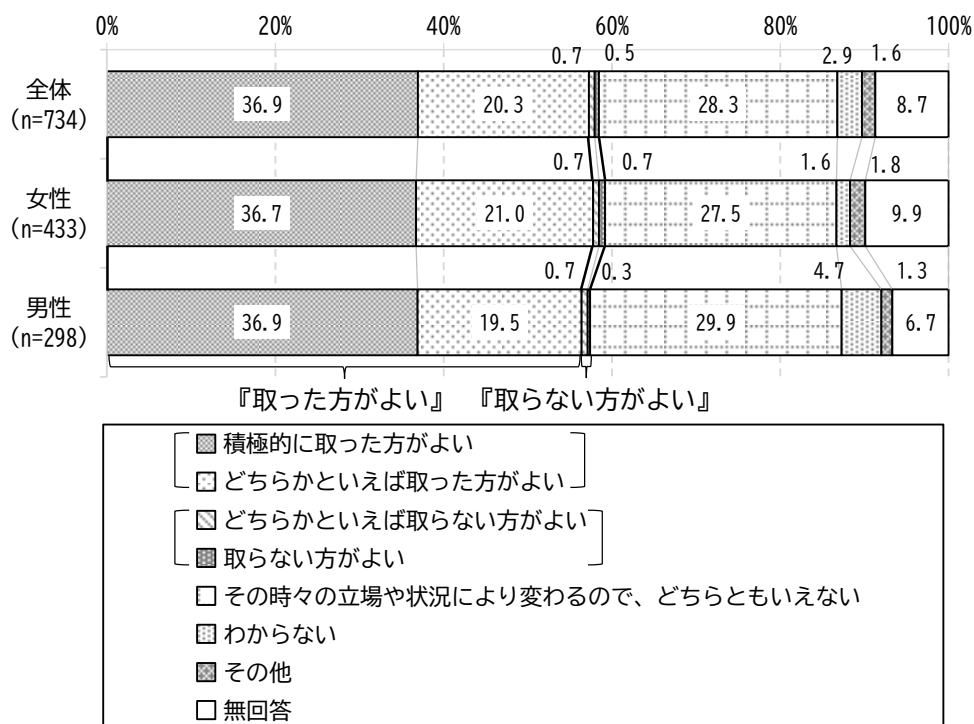
【全体】

「積極的に取った方がよい」が36.9%と最も多く、次いで「その時々立場や状況により変わるので、どちらともいえない」が28.3%、「どちらかといえば取った方がよい」が20.3%となっている。

『取った方がよい』（「積極的に取った方がよい」と「どちらかといえば取った方がよい」の合計）が57.2%、『取らない方がよい』（「どちらかといえば取らない方がよい」と「取らない方がよい」の合計）が1.2%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「積極的に取った方がよい」が最も多く、次いで「その時々立場や状況により変わるので、どちらともいえない」となっている。



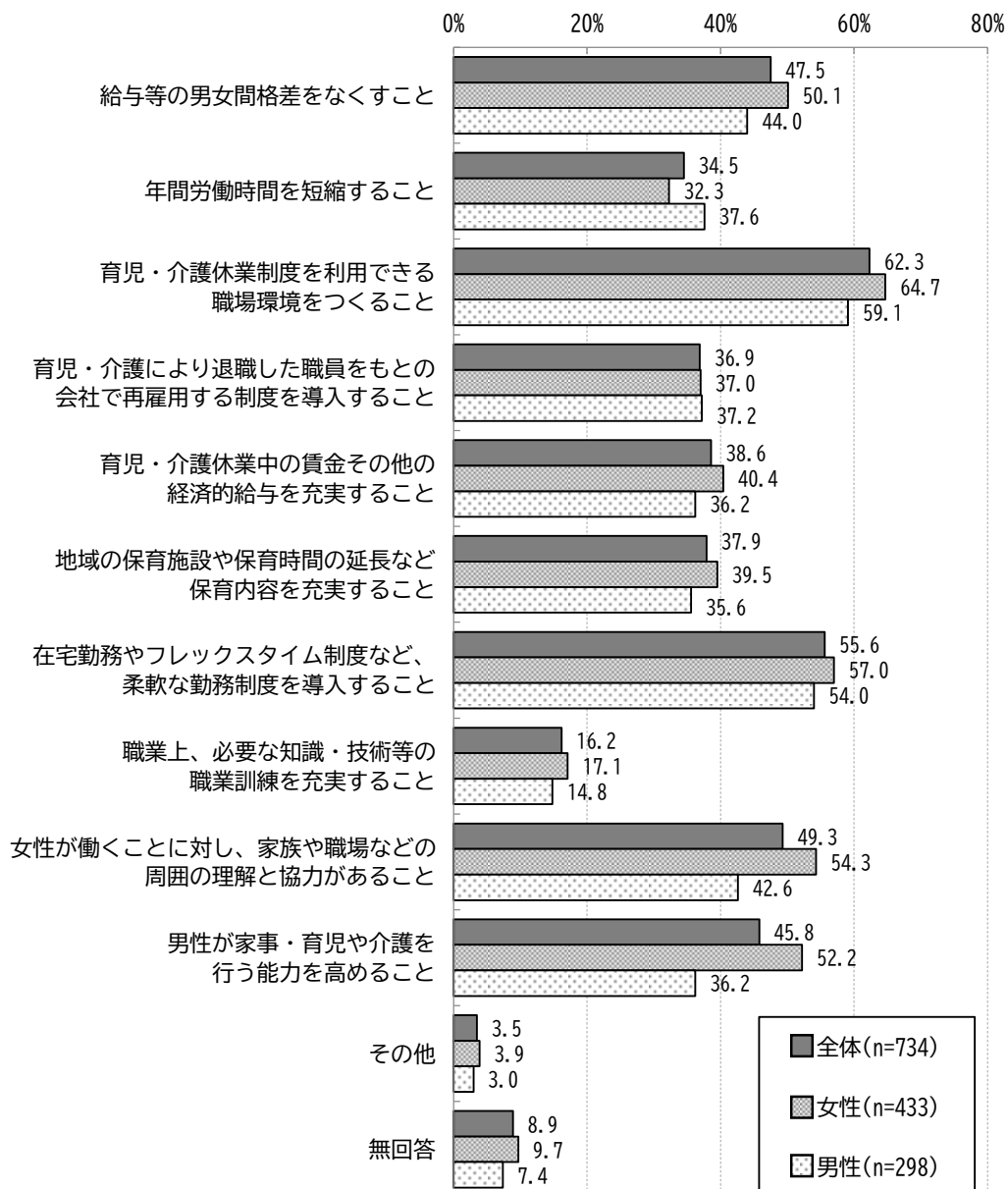
問10 今の社会で、男女が共に「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」の両立をしていくためにはどのようなことが重要になるとお考えですか。(〇はいくつでも)

**【全体】**

「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が62.3%と最も多く、次いで「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が55.6%、「女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること」が49.3%となっている。

**【性別】**

女性・男性ともに「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も多く、次いで「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」となっている。また、「男性が家事・育児や介護を行う能力を高めること」については、女性52.2%、男性36.2%、「女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること」については、女性54.3%、男性42.6%となっており、性別による差がみられる。



## 【職業別】

「常勤の勤め人（一般）」では「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が最も多く62.2%、次いで「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が58.5%となっている。一方で「パート・臨時の勤め人」では「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も多く76.1%、次いで「女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること」が62.5%となっている。

また、「家事専業」では「育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が最も多く65.5%、次いで「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が58.6%となっている。

	合計	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児・介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	育児・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
自営業（経営者）	54	44.4	24.1	59.3	33.3	37.0	44.4
自営業（家族従業員）	19	42.1	26.3	63.2	42.1	31.6	26.3
自由業・個人事業	32	46.9	40.6	43.8	40.6	37.5	40.6
家庭内労働・内職	3	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3
常勤の勤め人（管理職）	62	29.0	33.9	48.4	32.3	30.6	33.9
常勤の勤め人（一般）	188	48.4	46.3	58.5	35.1	41.0	38.8
パート・臨時の勤め人	88	45.5	30.7	76.1	36.4	43.2	36.4
派遣社員	19	42.1	36.8	63.2	36.8	47.4	42.1
契約社員	26	26.9	15.4	61.5	34.6	30.8	34.6
家事専業	87	52.9	31.0	65.5	34.5	35.6	37.9
無職	101	65.3	30.7	68.3	41.6	36.6	38.6
学生	29	44.8	31.0	75.9	48.3	48.3	34.5
その他	24	45.8	33.3	54.2	37.5	41.7	41.7

	合計	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること	女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること	男性が家事・育児や介護を行う能力を高めること	その他	無回答
自営業（経営者）	54	57.4	20.4	51.9	46.3	3.7	1.9
自営業（家族従業員）	19	47.4	10.5	52.6	42.1	0.0	5.3
自由業・個人事業	32	53.1	21.9	46.9	59.4	0.0	9.4
家庭内労働・内職	3	33.3	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0
常勤の勤め人（管理職）	62	64.5	12.9	41.9	32.3	9.7	16.1
常勤の勤め人（一般）	188	62.2	11.2	41.5	45.2	3.2	11.2
パート・臨時の勤め人	88	46.6	20.5	62.5	53.4	4.5	4.5
派遣社員	19	73.7	21.1	52.6	63.2	0.0	10.5
契約社員	26	50.0	11.5	23.1	19.2	7.7	11.5
家事専業	87	58.6	20.7	56.3	48.3	1.1	10.3
無職	101	48.5	14.9	57.4	46.5	3.0	4.0
学生	29	48.3	17.2	48.3	41.4	3.4	6.9
その他	24	45.8	25.0	45.8	50.0	4.2	16.7



## 5 あらゆる分野における女性の活躍推進について

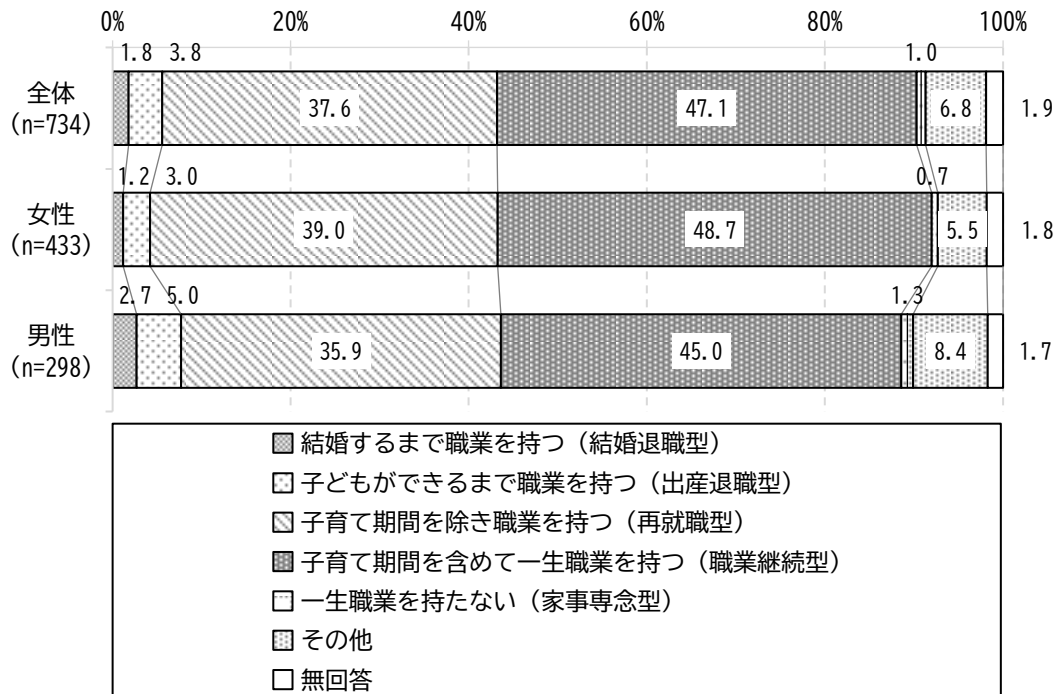
問 11 女性の一生と職業の関わり方で、あなたが最も望ましいと思われる形態はどれにあたりますか。  
(〇は1つ)

### 【全体】

「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が47.1%と最も多く、次いで「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」が37.6%となっている。

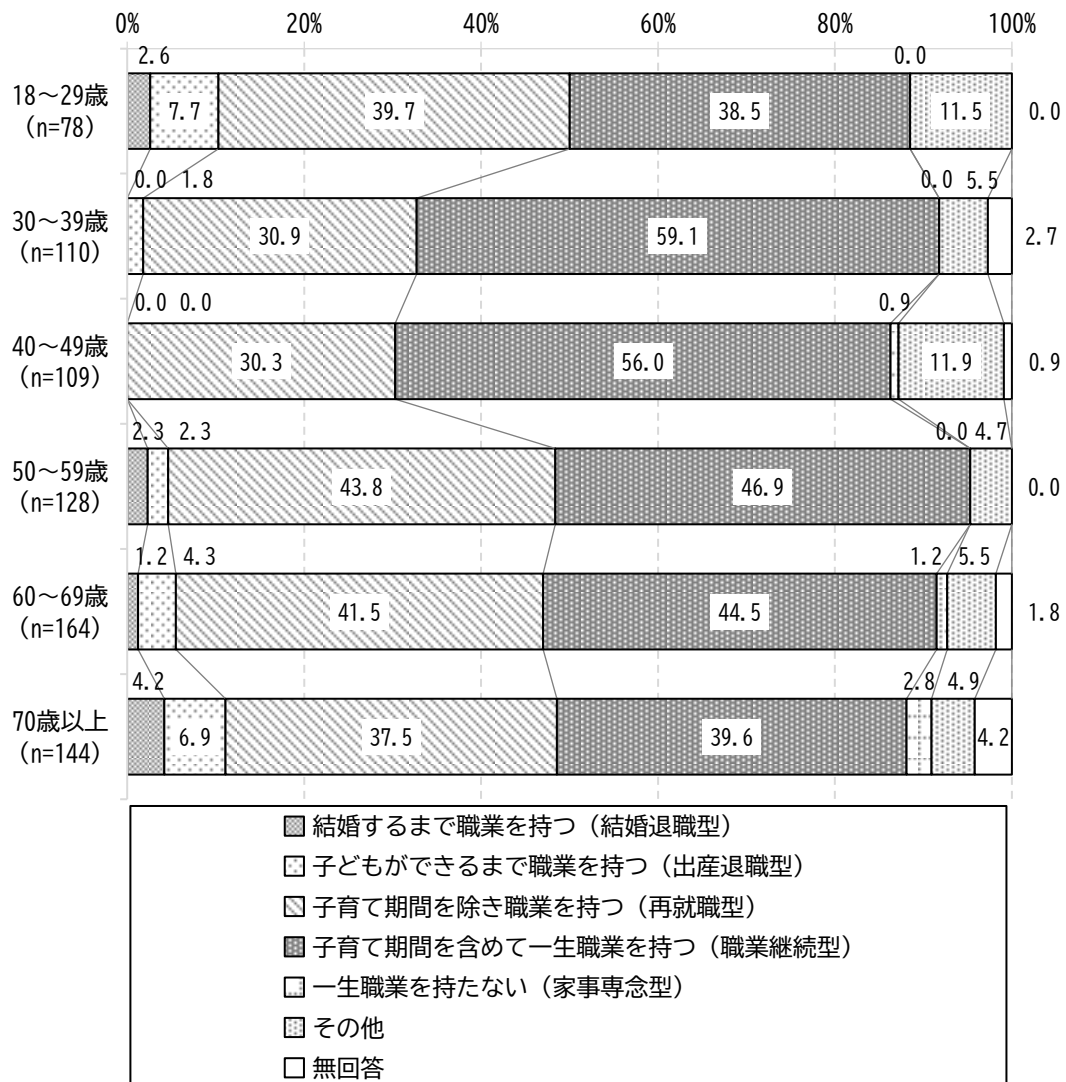
### 【性別】

女性・男性ともに「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が最も多く、次いで「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」となっている。



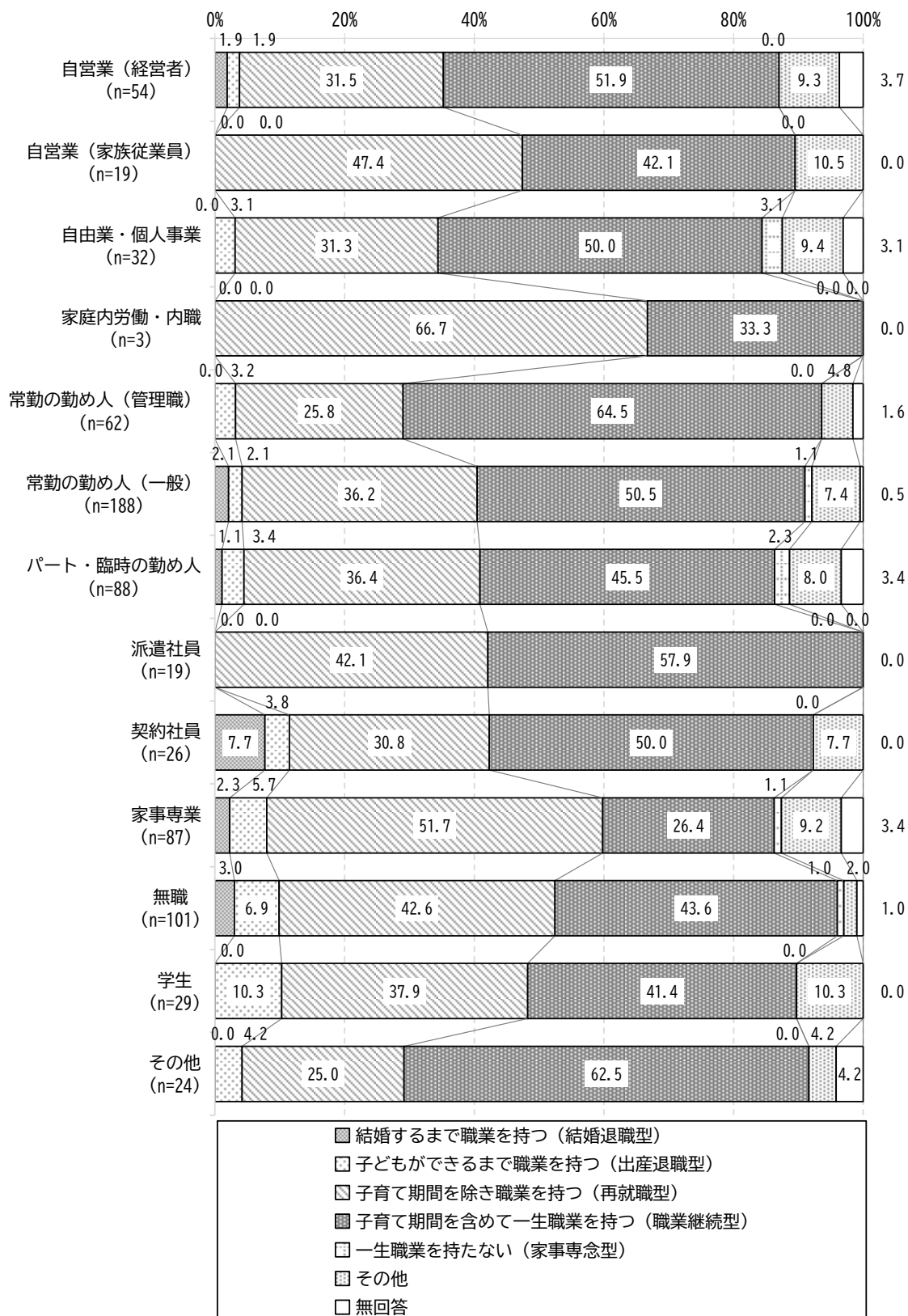
### 【年齢別】

「30～39歳」「40～49歳」では「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が最も多く、それぞれ59.1%、56.0%となっている。その他の年齢層では「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」と「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」がそれぞれ同程度の割合となっている。また、「30～39歳」では「結婚するまで職業を持つ（結婚退職型）」と「子どもができるまで職業を持つ（出産退職型）」の合計が1.8%、「40～49歳」では0.0%となっているが、「18～29歳」では10.3%となっている。



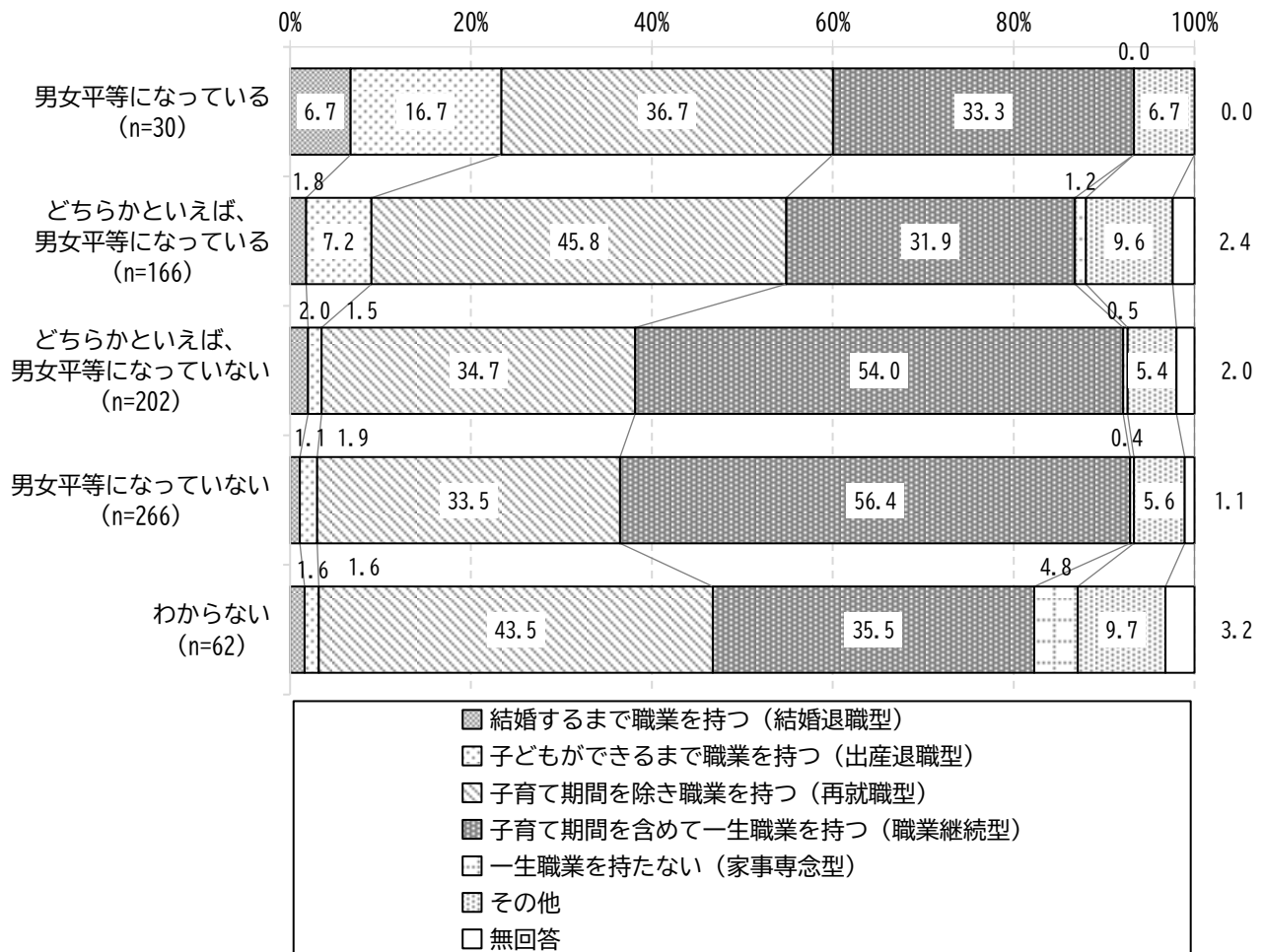
## 【職業別】

多くの職業で「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が最も多くなっているが、「家事専業」では「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」が51.7%と最も多くなっている。



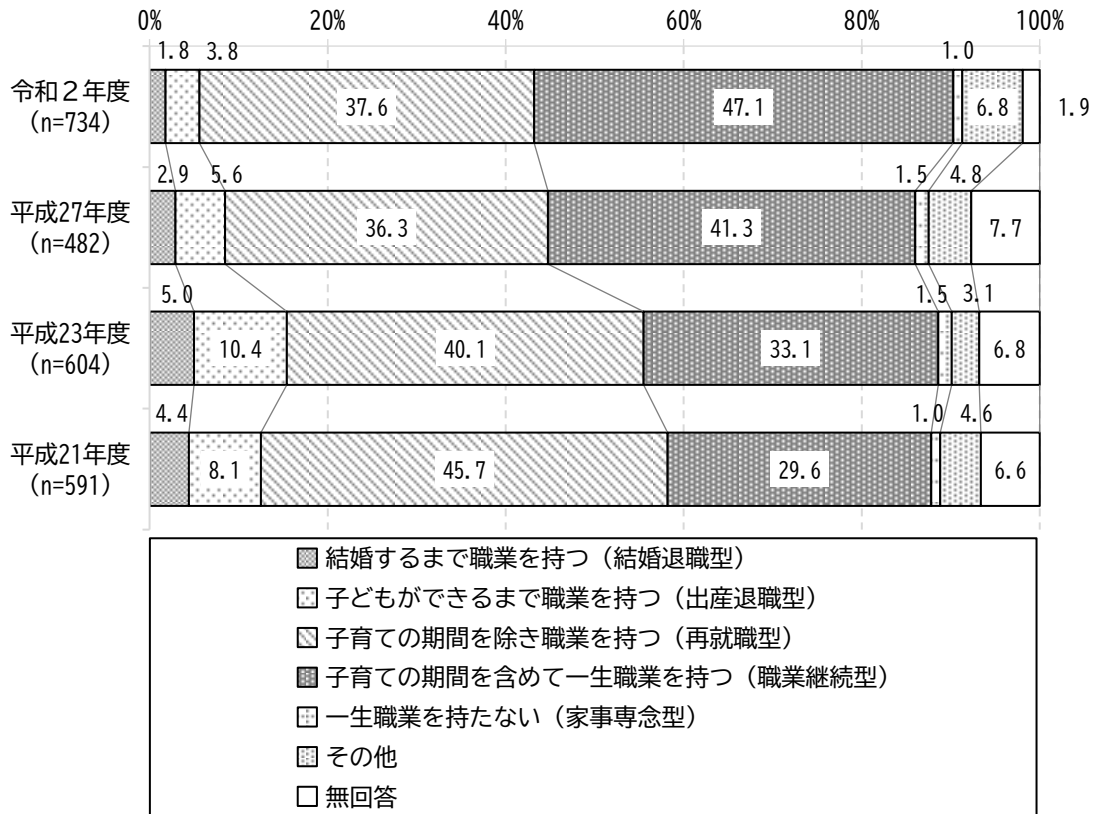
### 【男女平等観別】

「どちらかといえば、男女平等になっていない」「男女平等になっていない」では、「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が最も多く、それぞれ 54.0%、56.4%となっている。一方で「どちらかといえば、男女平等になっている」では「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」が 45.8%で最も多くなっている。



### 【平成 21 年度・23 年度・27 年度調査比較】

平成 21 年度には「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」は 29.6%となっていたが、その後徐々に増加していき、令和 2 年度には 47.1%となっている。



問 12 あなたが、女性の働き方について問 11 のように回答した理由は、なぜですか。(〇はいくつでも)

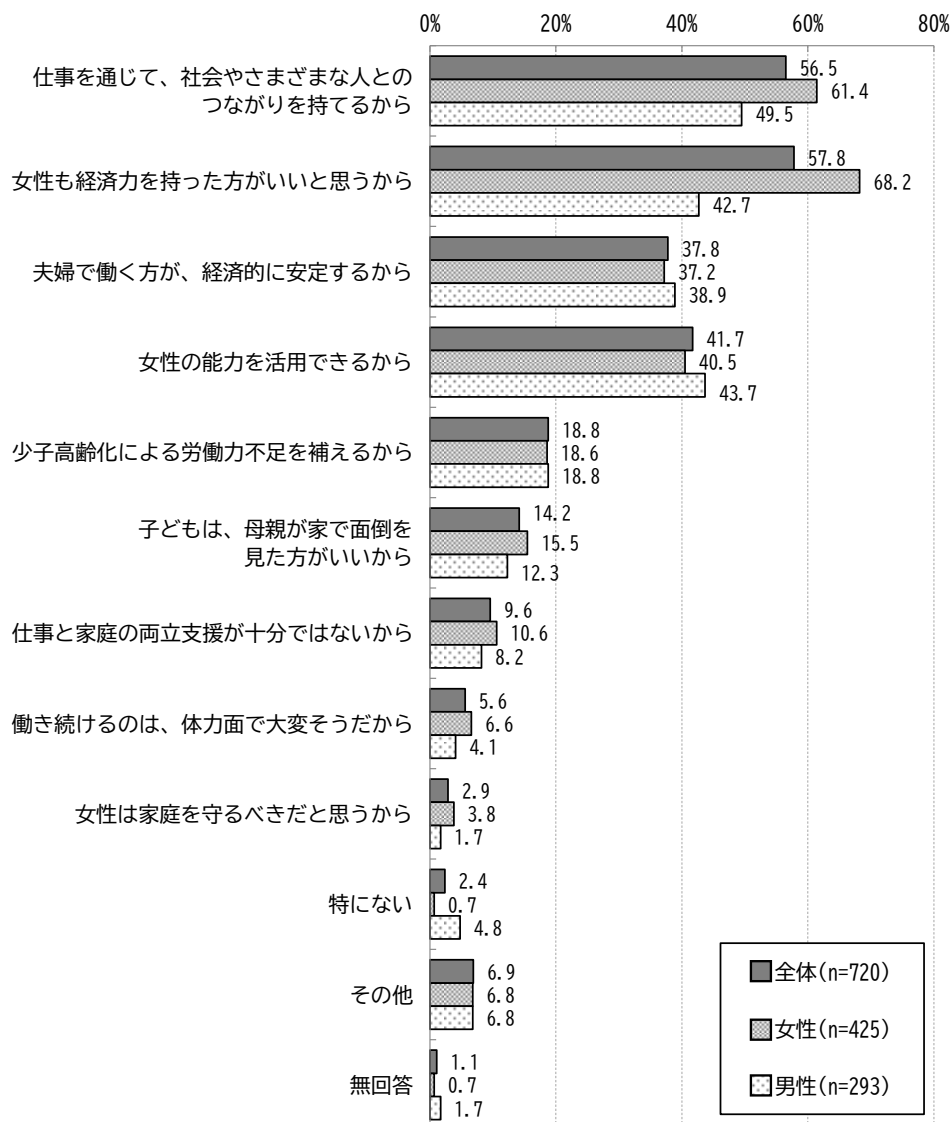
【全体】

「女性も経済力を持った方がいいと思うから」が 57.8%と最も多く、次いで「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が 56.5%、「女性の能力を活用できるから」が 41.7%となっている。

【性別】

女性は「女性も経済力を持った方がいいと思うから」が最も多く、次いで「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」となっている。男性は「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が最も多く、次いで「女性の能力を活用できるから」となっている。また、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」については、女性 68.2%、男性 42.7%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」についても、女性 61.4%、男性 49.5%となっており、性別による差がみられる。



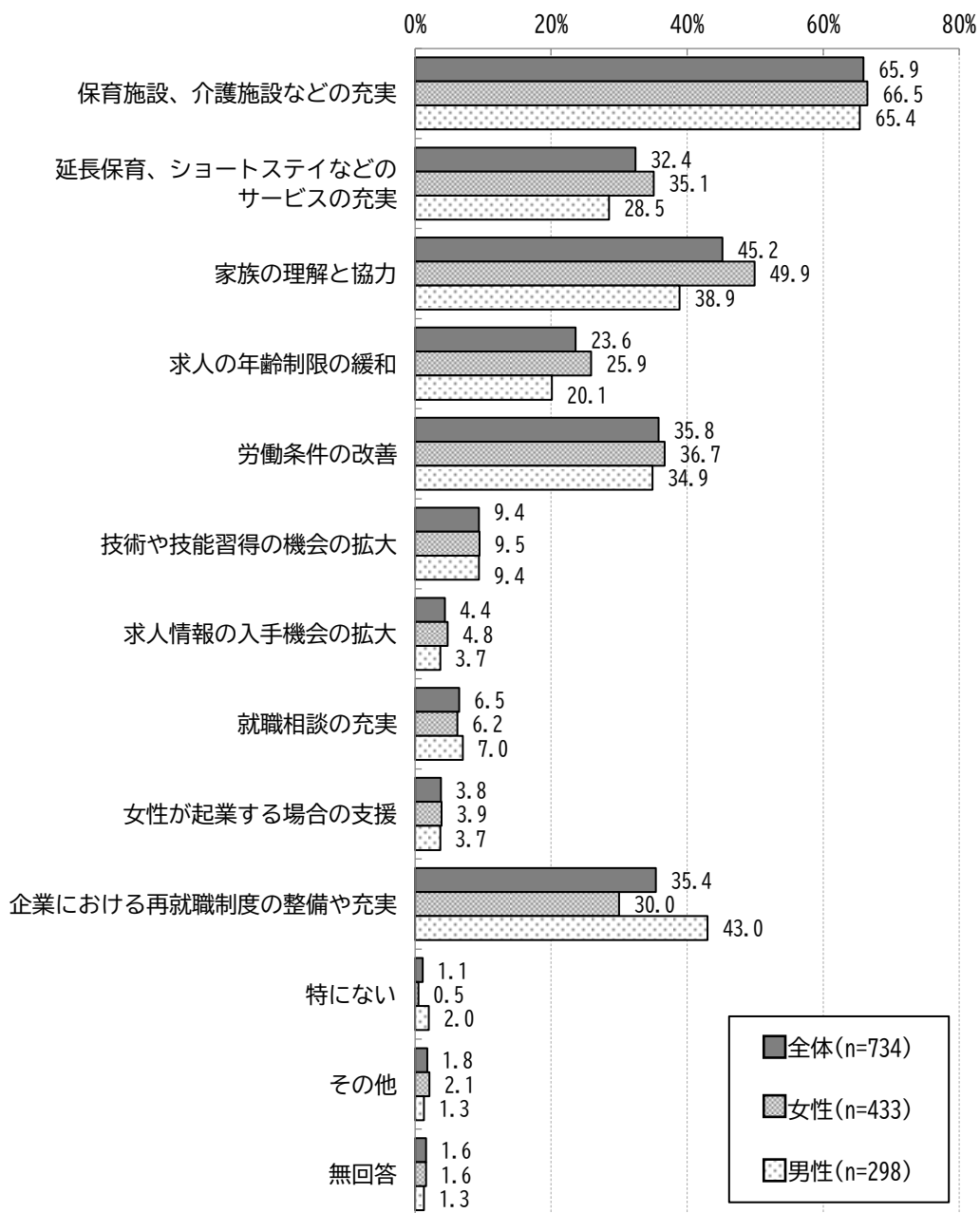
問 13 育児、介護などの理由により仕事を辞めた女性が再就職するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

「保育施設、介護施設などの充実」が65.9%と最も多く、次いで「家族の理解と協力」が45.2%、「労働条件の改善」が35.8%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「保育施設、介護施設などの充実」が最も多く、次いで女性は「家族の理解と協力」、男性は「企業における再就職制度の整備や充実」となっている。また、「企業における再就職制度の整備や充実」については、女性30.0%、男性43.0%、「家族の理解と協力」については、女性49.9%、男性38.9%となっており、性別による差がみられる。



問 14 女性が職場において活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

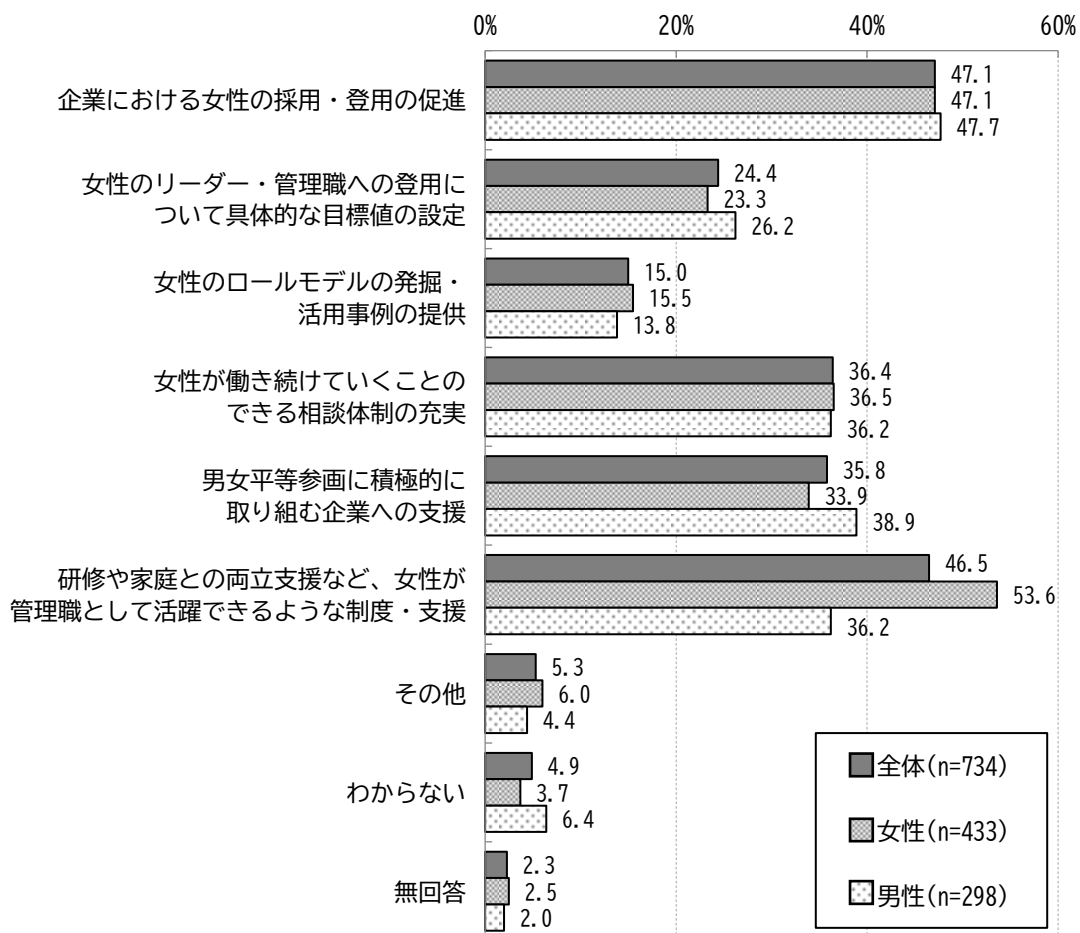
【全体】

「企業における女性の採用・登用の促進」が47.1%と最も多く、次いで「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」が46.5%、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」が36.4%となっている。

【性別】

女性は「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」が最も多く、次いで「企業における女性の採用・登用の促進」となっている。男性は「企業における女性の採用・登用の促進」が最も多く、次いで「男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援」となっている。

また、「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」については、女性53.6%、男性36.2%となっており、性別による差がみられる。





## 6 人権について

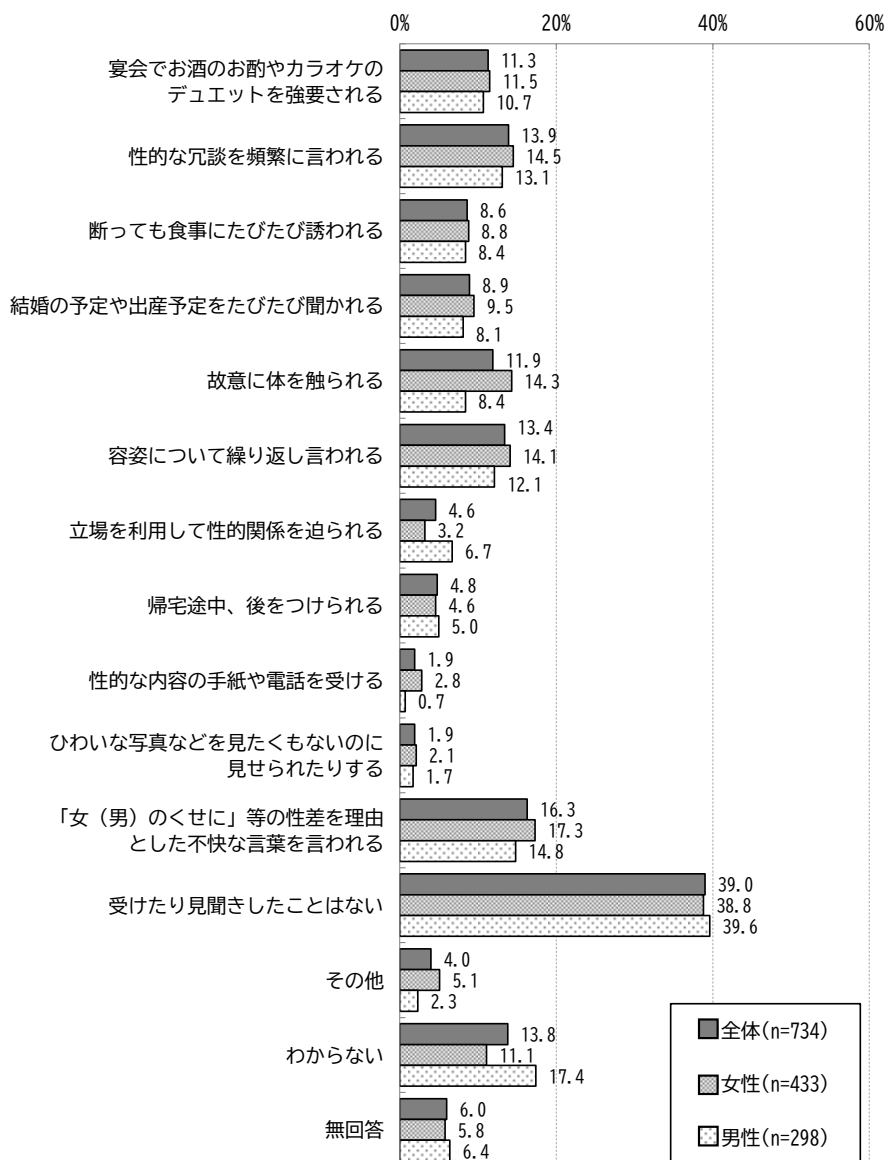
問 15 あなたは、過去5年間にどのような「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」の被害を受けたこと、見聞きしたことがありますか。（○はいくつでも）

### 【全体】

「受けたり見聞きしたことはない」が39.0%と最も多く、次いで『女（男）のくせに』等の性差を理由とした不快な言葉を言われる」が16.3%、「性的な冗談を頻繁に言われる」が13.9%となっている。過去5年間にセクシュアル・ハラスメントの被害を受けたこと、見聞きしたことがある人（全体から「受けたり見聞きしたことはない」と「わからない」と「無回答」を除いて算出）は41.2%となっている。

### 【性別】

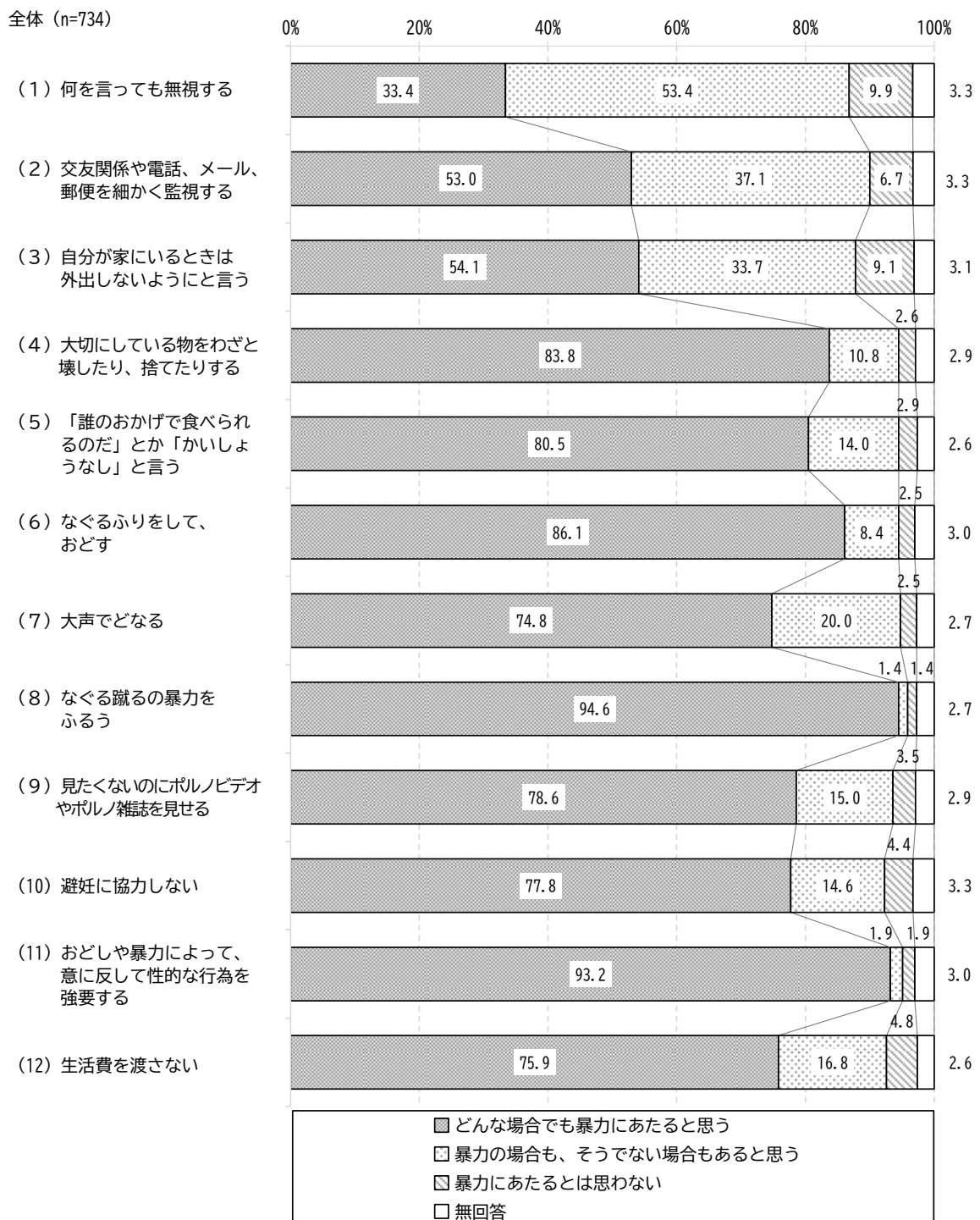
女性・男性ともに「受けたり見聞きしたことはない」が最も多く、次いで女性は『女（男）のくせに』等の性差を理由とした不快な言葉を言われる」、男性は「わからない」となっている。



問 16 社会的に配偶者（事実婚や離婚後も含む）への暴力（DV）が問題になっていますが、配偶者間で次のようなことが行われた場合、あなたはそれを暴力だと思えますか。次の（１）～（１２）について、それぞれ選んでください。（○は１つずつ）

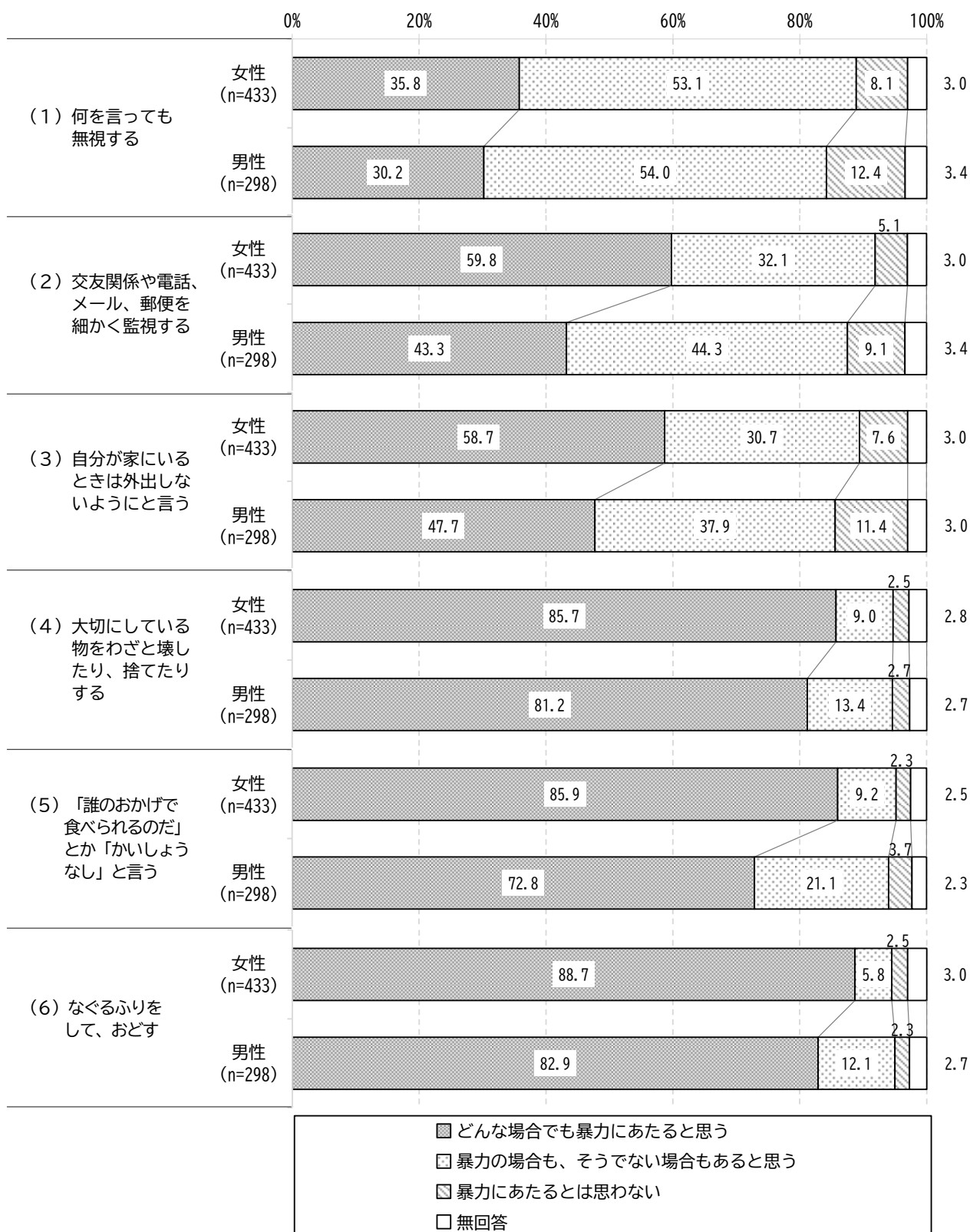
【全体】

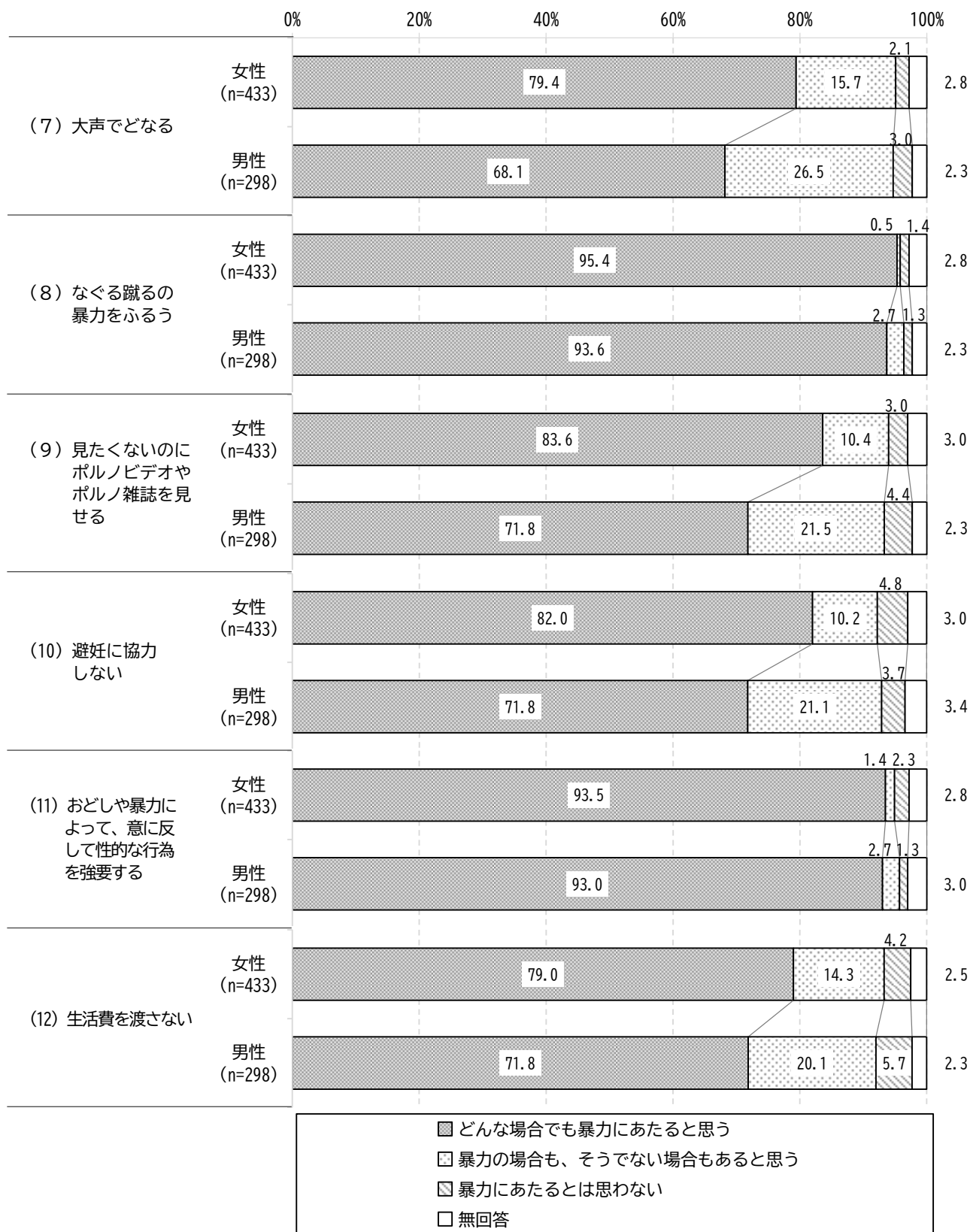
「どんな場合でも暴力にあたると思う」で最も多いのが、「（８）なぐる蹴るの暴力をふるう」が 94.6%、次いで「（11）おどしや暴力によって、意に反して性的な行為を強要する」が 93.2%、「（６）なぐるふりをして、おどす」が 86.1%となっている。



## 【性別】

いずれの項目においても、男性よりも女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっており、特に「(2) 交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する」では、女性 59.8%、男性 43.3%となっており、性別による差がみられる。

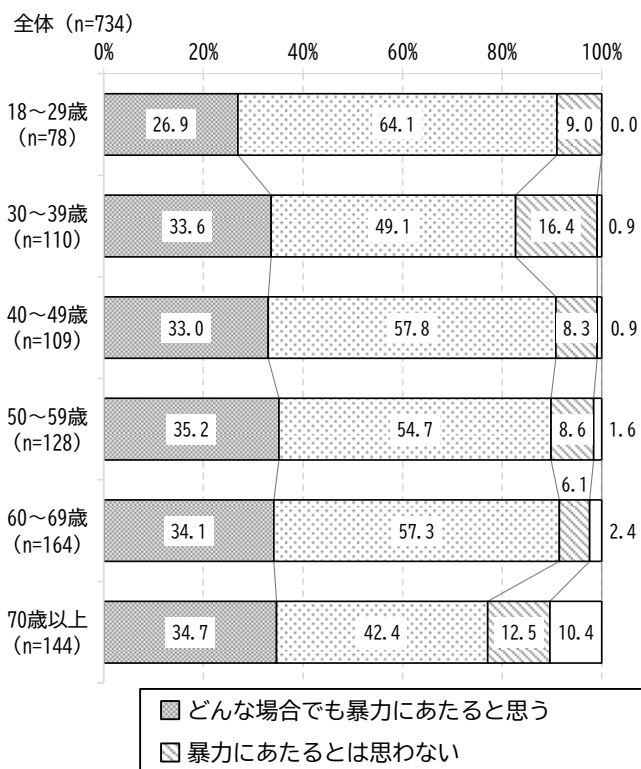




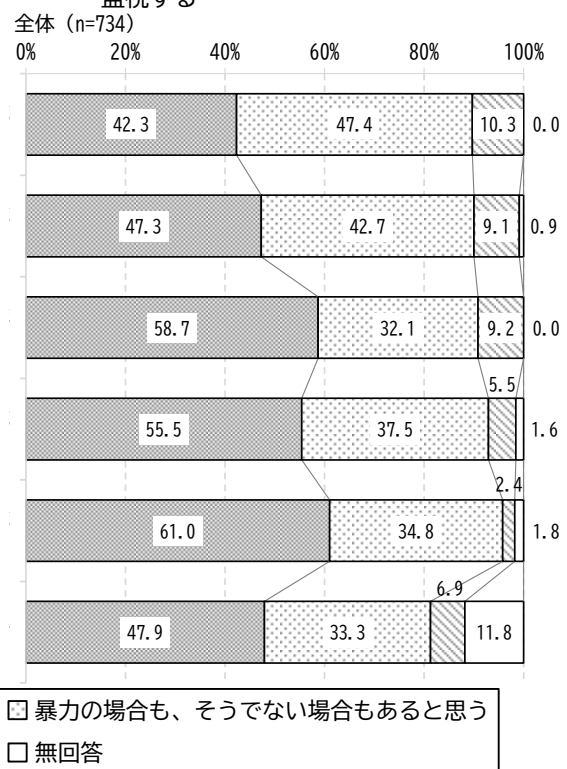
### 【年齢別】

「70歳以上」は、多くの項目で「どんな場合でも暴力であると思う」が最も少なくなっている。ただし、「(1) 何を言っても無視する」「(2) 交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する」などの精神的暴力では「18～29歳」、「(12) 生活費を渡さない」などの経済的暴力では「30～39歳」が最も少なくなっている。

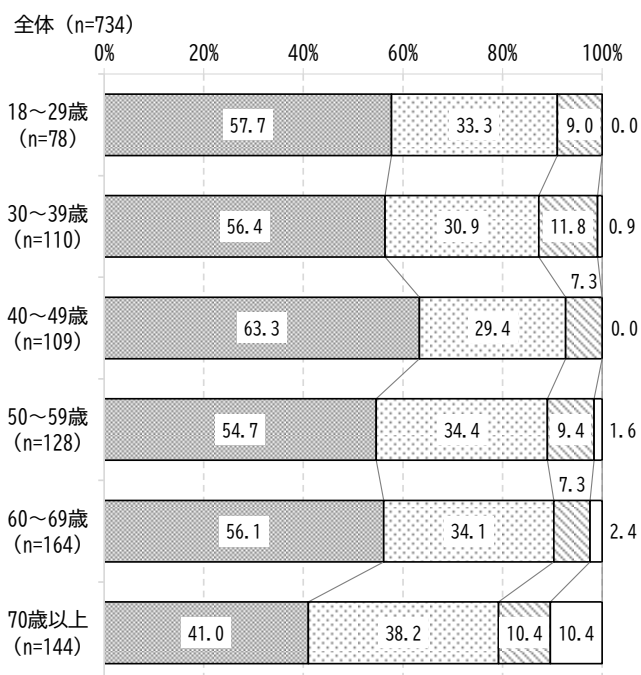
(1) 何を言っても無視する



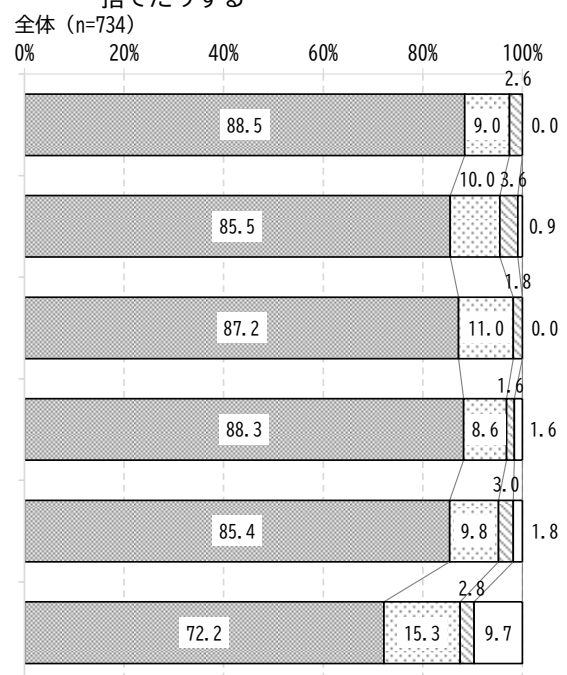
(2) 交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する



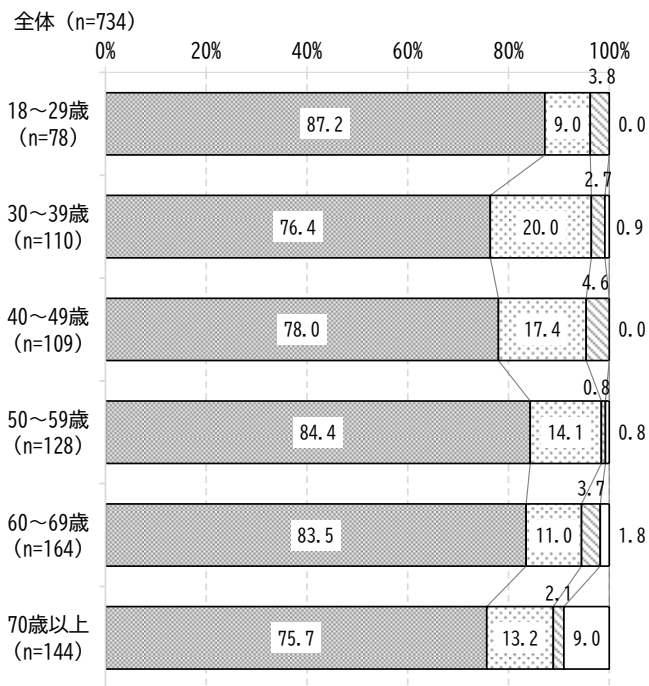
(3) 自分が家にいるときは外出しないようにと言う



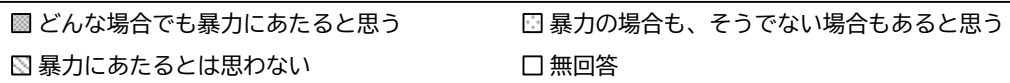
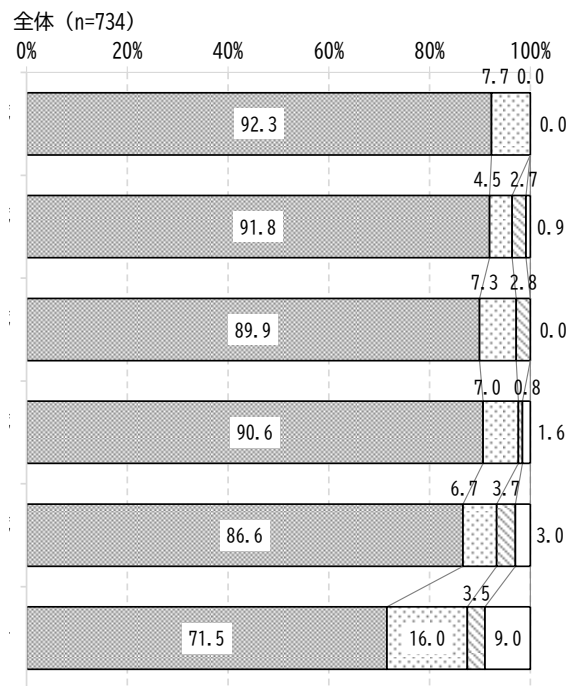
(4) 大切にしている物をわざと壊したり、捨てたりする



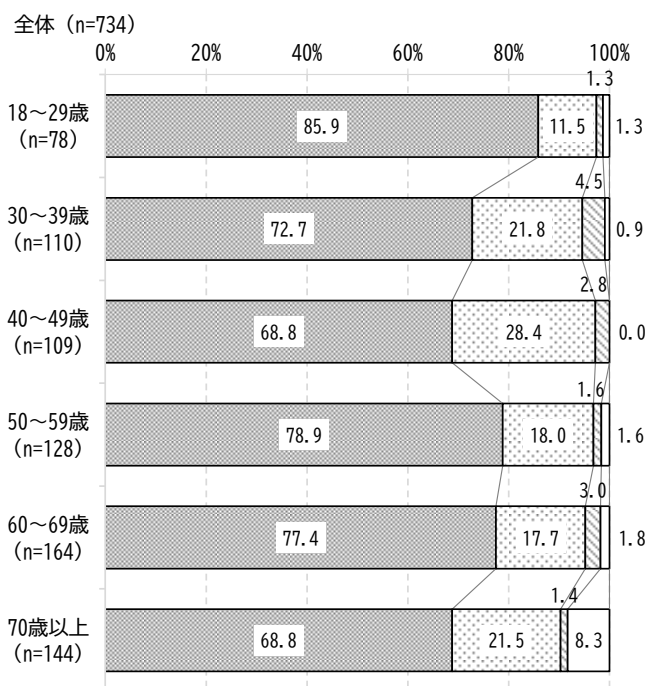
(5) 「誰のおかげで食べられるのだ」とか  
「かいしょうなし」と言う



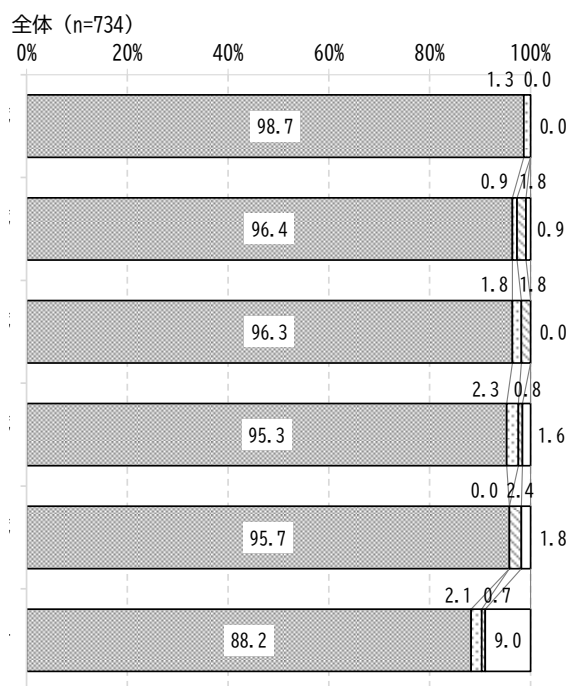
(6) なぐるふりをして、おどす



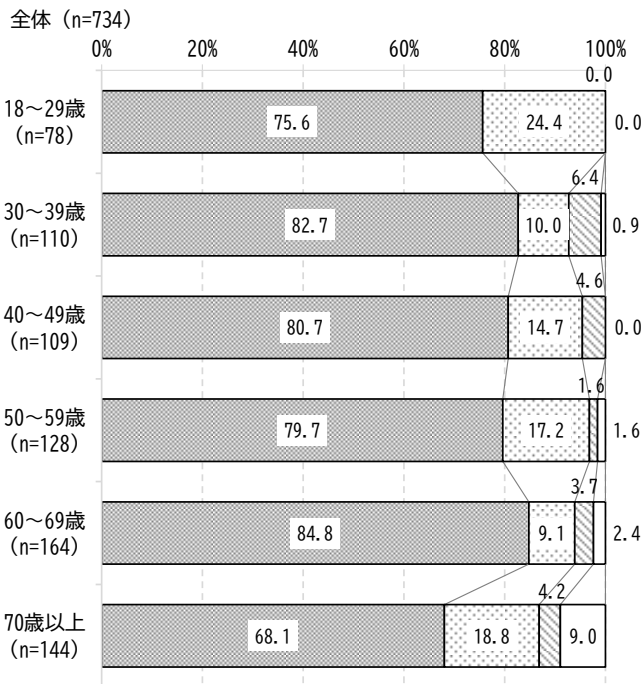
(7) 大声でどなる



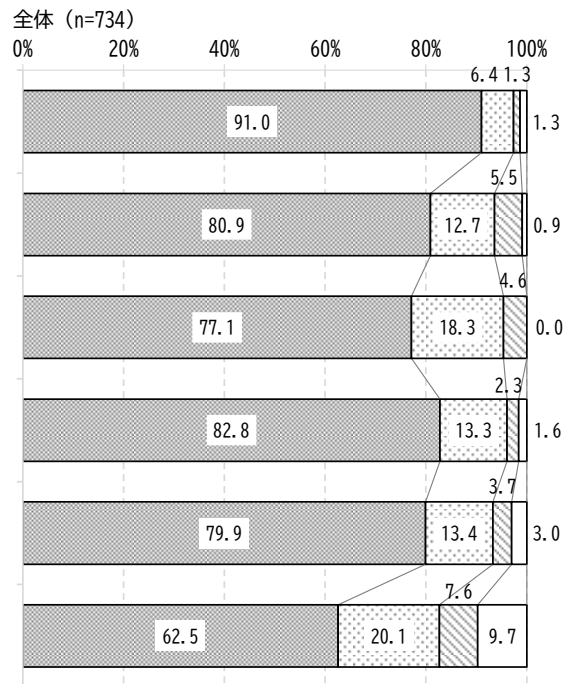
(8) なぐる蹴るの暴力をふるう



(9) 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

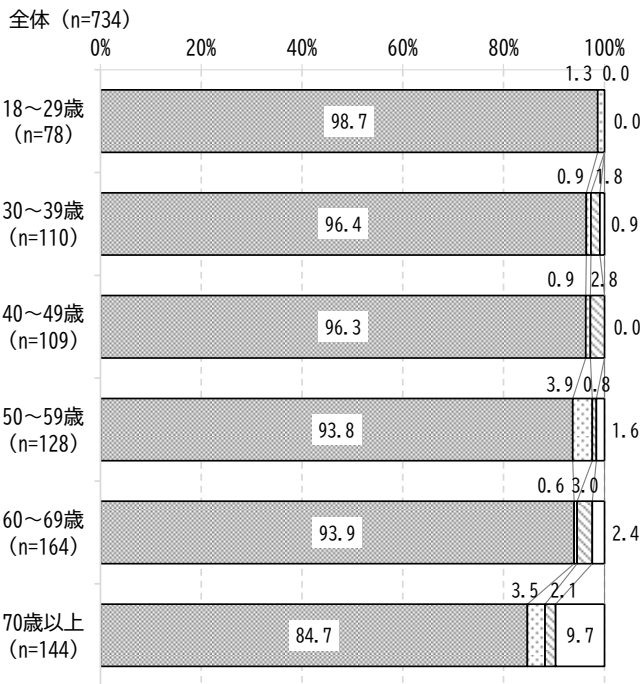


(10) 避妊に協力しない

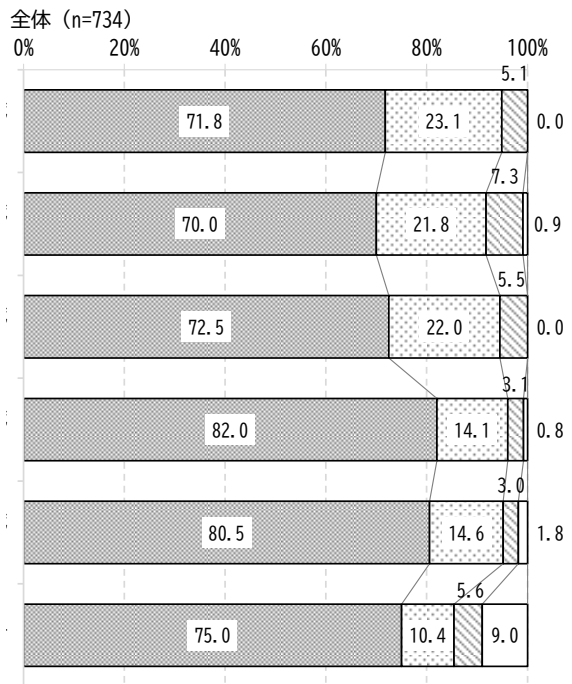


どんな場合でも暴力にあたると思う
  暴力の場合も、そうでない場合もあると思う  
 暴力にあたるとは思わない
  無回答

(11) おどしや暴力によって、意に反して性的な行為を強要する



(12) 生活費を渡さない

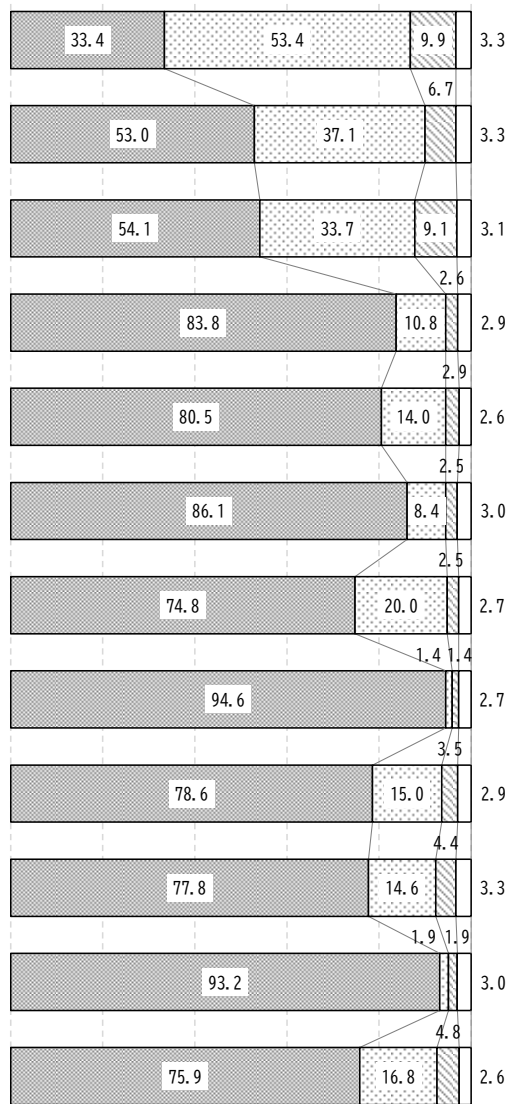


## 【平成 27 年度調査比較】

全ての項目において「どんな場合でも暴力にあたると思う」が増加している。特に「(10) 避妊に協力しない」は平成 27 年度の 65.8%から 77.8%に増加している。

《令和 2 年度住民意識調査》

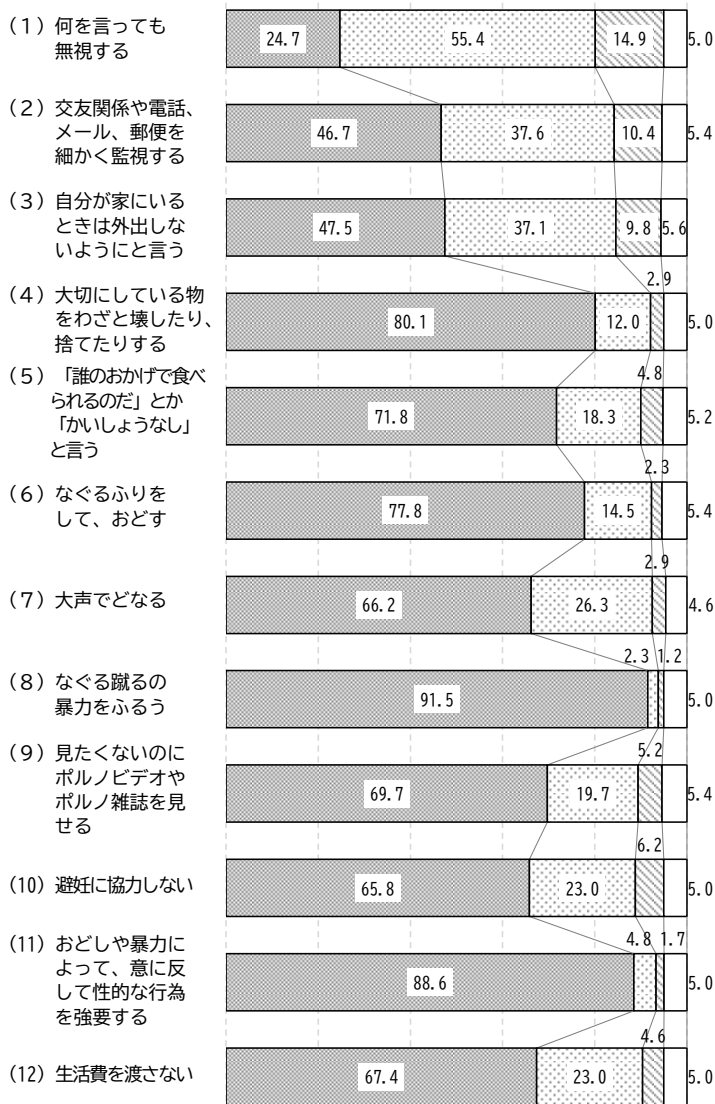
全体(n=734)  
0% 20% 40% 60% 80% 100%



《平成 27 年度住民意識調査》

全体 (n=482)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



どんな場合でも暴力にあたると思う       暴力の場合も、そうでない場合もあると思う  
 暴力にあたるとは思わない       無回答



問 17 あなたは現在または以前の配偶者やパートナーから、過去5年間に次にあげるような行為を受けた経験はありますか。また、過去12か月以内に、次にあげるような行為を受けた経験はありますか。  
(〇はそれぞれいくつでも)

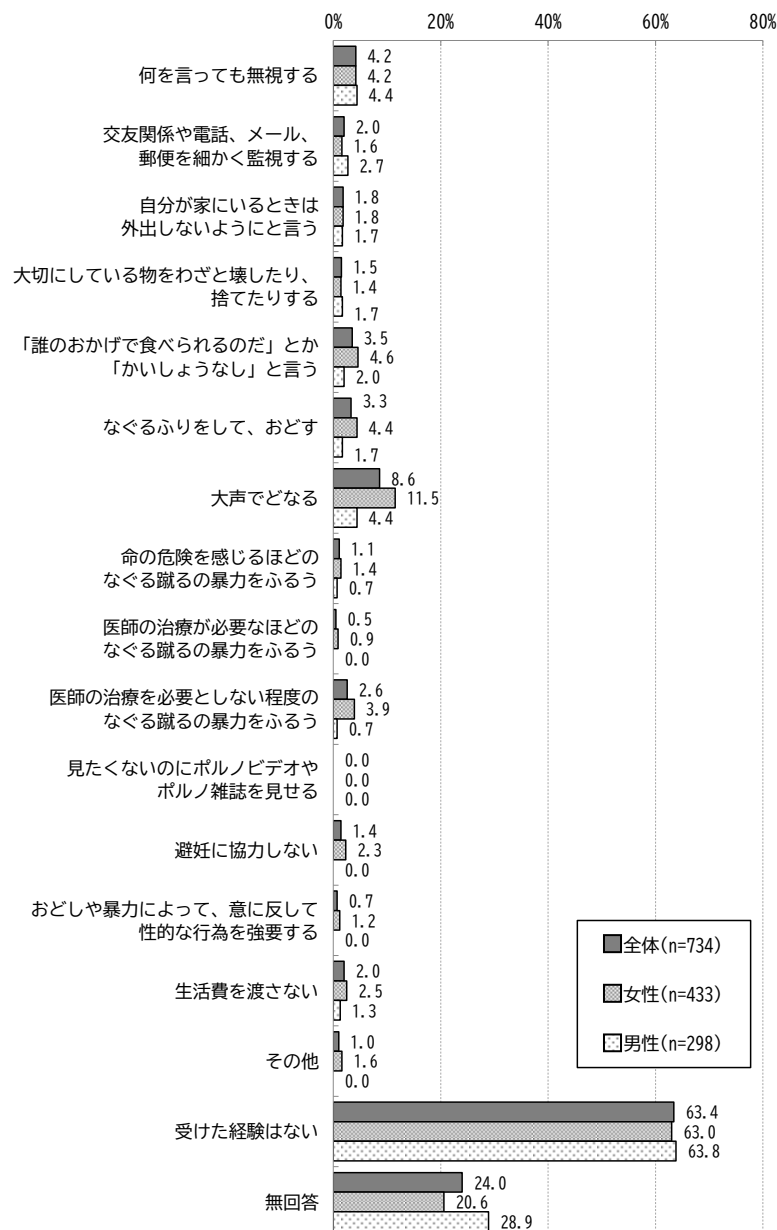
## (1) 過去5年間

### 【全体】

「受けた経験はない」が63.4%と最も多く、次いで「大声でどなる」が8.6%、「何を言っても無視する」が4.2%となっている（「無回答」を除く）。過去5年間にDVを受けたことがある人（全体から「受けた経験はない」と「無回答」を除いて算出）は12.6%となっている。

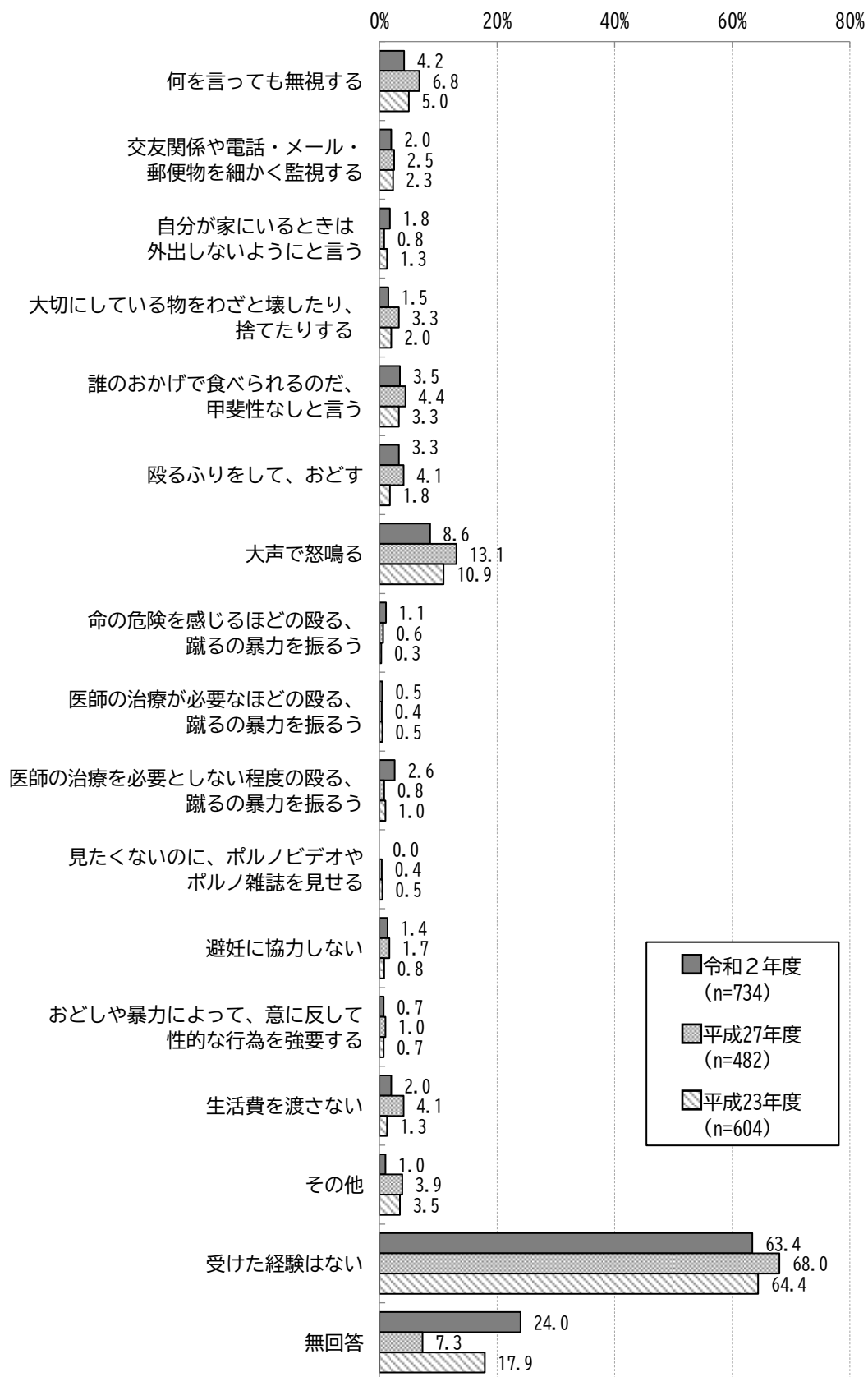
### 【性別】

女性・男性ともに「受けた経験はない」が最も多く、次いで女性は「大声でどなる」、男性は「何を言っても無視する」「大声でどなる」となっている（「無回答」を除く）。



### 【平成23年度・27年度調査比較】

過去5年間にDVを受けたことがある人(全体から「受けた経験はない」と「無回答」を除いて算出)は、平成23年度が17.7%、平成27年度が24.7%、令和2年度が12.6%となっている。



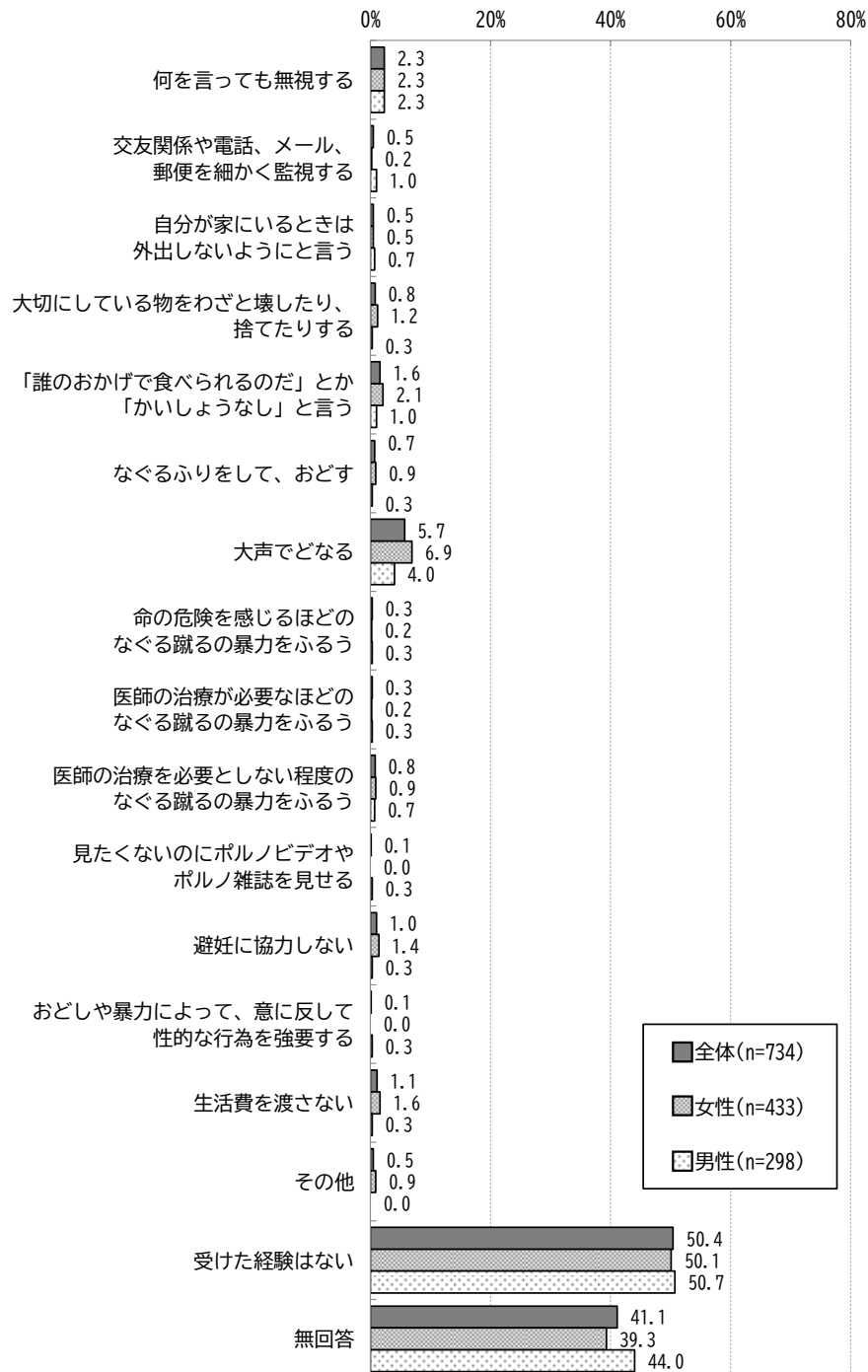
## (2) 過去12か月以内

### 【全体】

「受けた経験はない」が50.4%と最も多く、次いで「大声でどなる」が5.7%、「何を言っても無視する」が2.3%となっている（「無回答」を除く）。過去12か月以内にDVを受けたことがある人（全体から「受けた経験はない」と「無回答」を除いて算出）は8.5%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「受けた経験はない」が最も多く、次いで「大声でどなる」となっている（「無回答」を除く）。



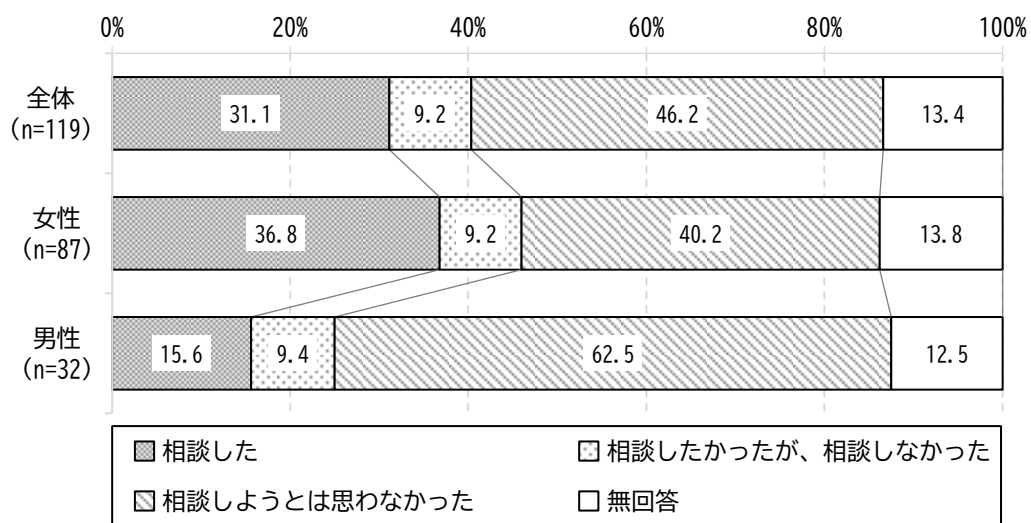
問 17-1 あなたはこれまでに、問 17 であげたような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

**【全体】**

「相談しようとは思わなかった」が46.2%と最も多く、次いで「相談した」が31.1%、「相談したかったが、相談しなかった」が9.2%となっている。

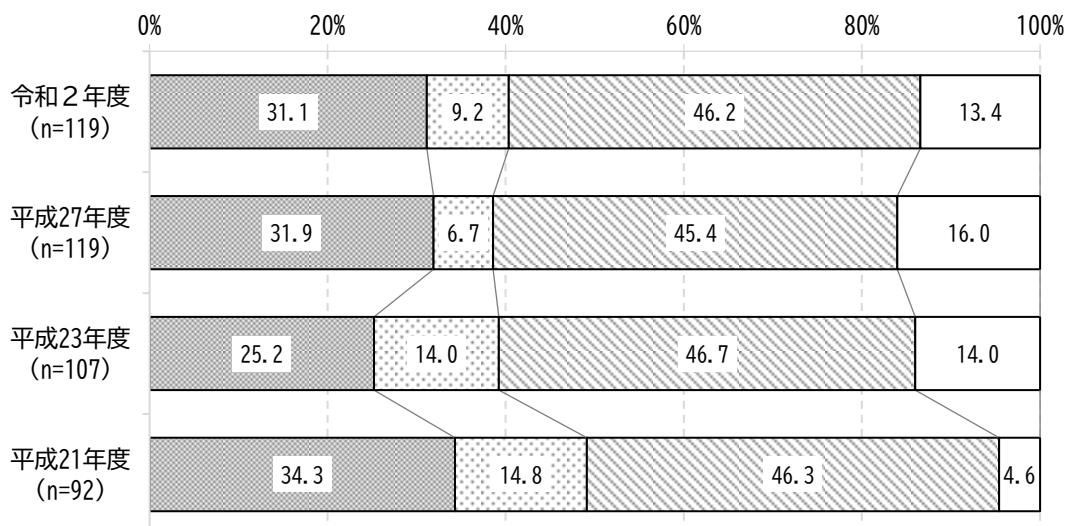
**【性別】**

女性・男性ともに「相談しようとは思わなかった」が最も多く、次いで「相談した」となっている。また、「相談した」については、女性36.8%、男性15.6%、「相談しようとは思わなかった」については、女性40.2%、男性62.5%となっており、性別による大きな差がみられる。



**【平成 21 年度・23 年度・27 年度調査比較】**

「相談しようとは思わなかった」はいずれの年度においても4割半ば程度となっており、大きな変化はみられない。



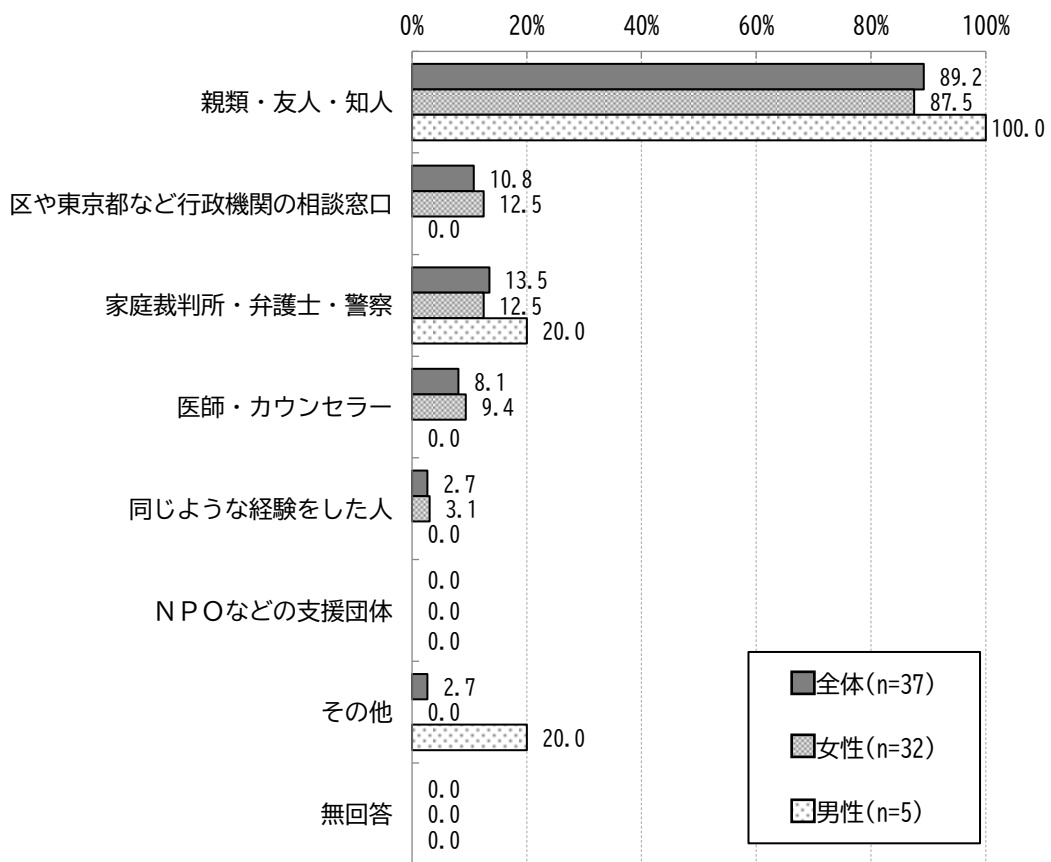
問 17-2 相談した相手はどなたですか。(〇はいくつでも)

【全体】

「親類・友人・知人」が89.2%と最も多く、次いで「家庭裁判所・弁護士・警察」が13.5%、「区や東京都など行政機関の相談窓口」が10.8%となっている（「その他」を除く）。

【性別】

女性・男性ともに「親類・友人・知人」が最も多く、次いで女性は「区や東京都など行政機関の相談窓口」「家庭裁判所・弁護士・警察」、男性は「家庭裁判所・弁護士・警察」となっている（「その他」を除く）。



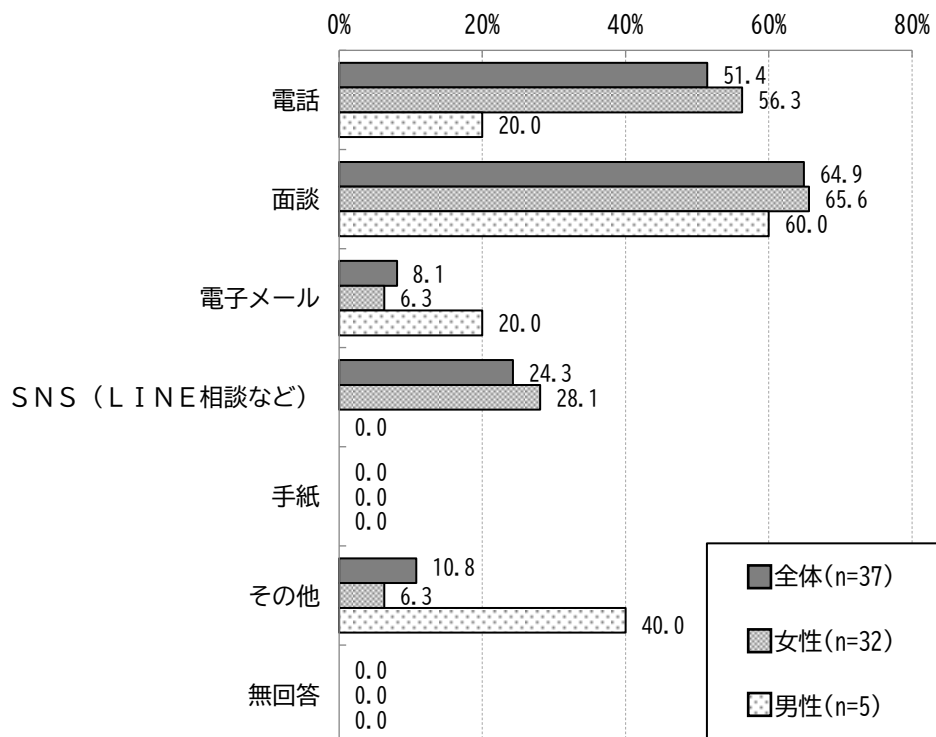
問 17-3 どのような手段で相談しましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

「面談」が64.9%と最も多く、次いで「電話」が51.4%、「SNS（LINE相談など）」が24.3%となっている。（「その他」を除く）

【性別】

女性・男性ともに「面談」が最も多く、次いで女性は「電話」、男性は「電話」「電子メール」となっている（「その他」を除く）。



問 17-4 相談しなかった理由はなんですか。(〇はいくつでも)

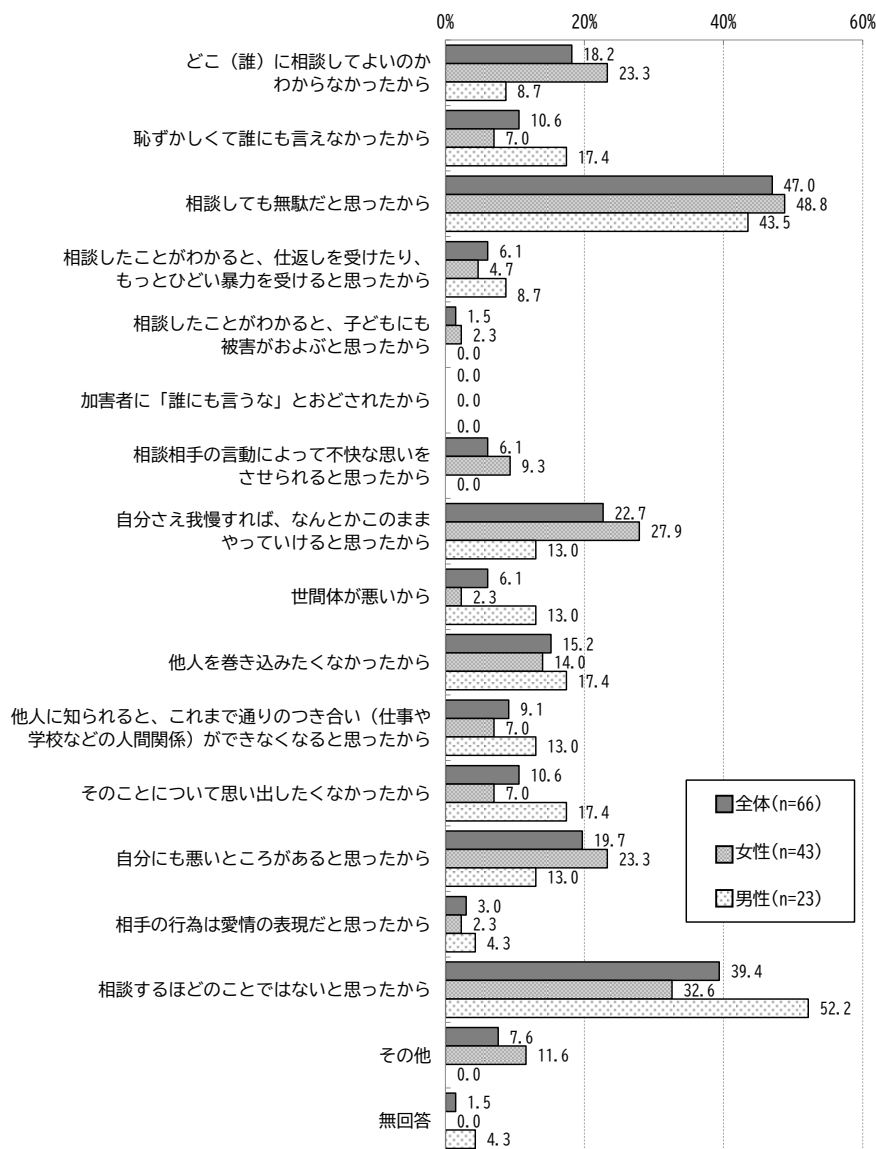
【全体】

「相談しても無駄だと思ったから」が47.0%と最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が39.4%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が22.7%となっている。

【性別】

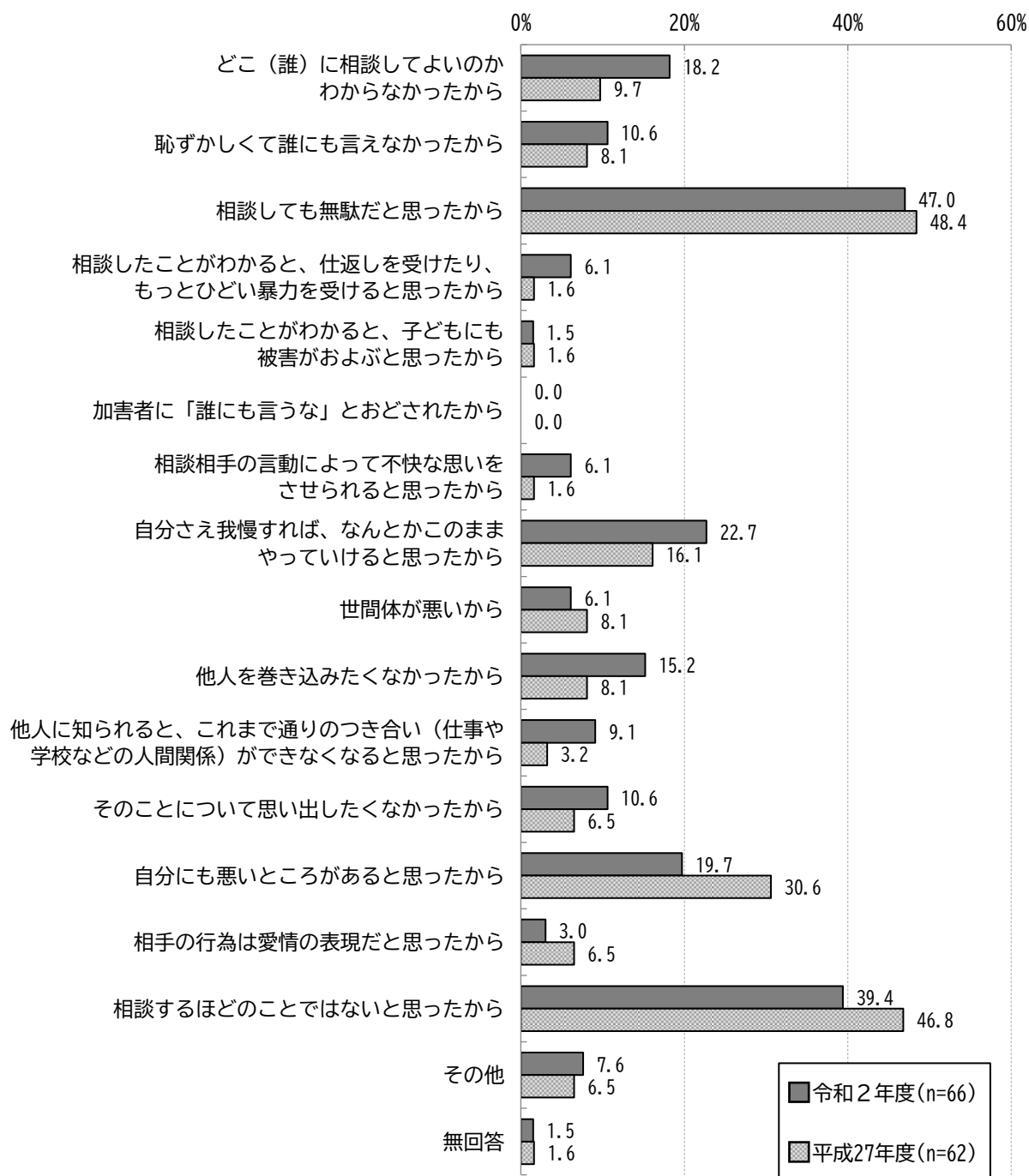
女性は「相談しても無駄だと思ったから」が最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」となっている。男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」となっている。また、「相談するほどのことではないと思ったから」については、女性 32.6%、男性 52.2%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」については女性の回答が多く、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「世間体が悪いから」、「そのことについて思い出したくなかったから」については、男性の回答が多くなっており、性別による差がみられる。



### 【平成 27 年度調査比較】

平成 27 年度から令和 2 年度にかけて、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっているとあったから」などで増加している一方で、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」ではその割合が減少している。





問 18 公的機関によるDVへの対応として、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

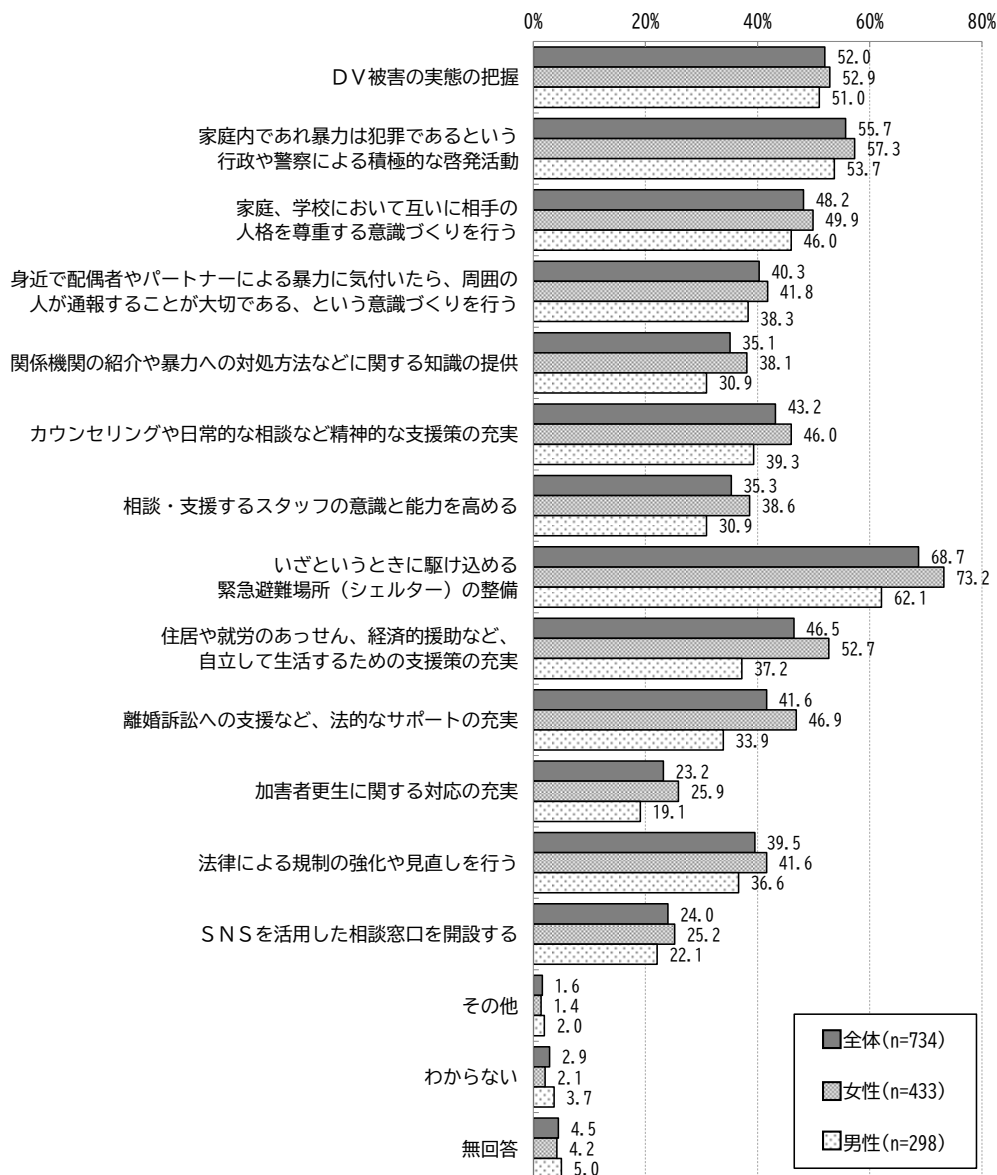
【全体】

「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が68.7%と最も多く、次いで「家庭内であれ暴力は犯罪であるという行政や警察による積極的な啓発活動」が55.7%、「DV被害の実態の把握」が52.0%となっている。

【性別】

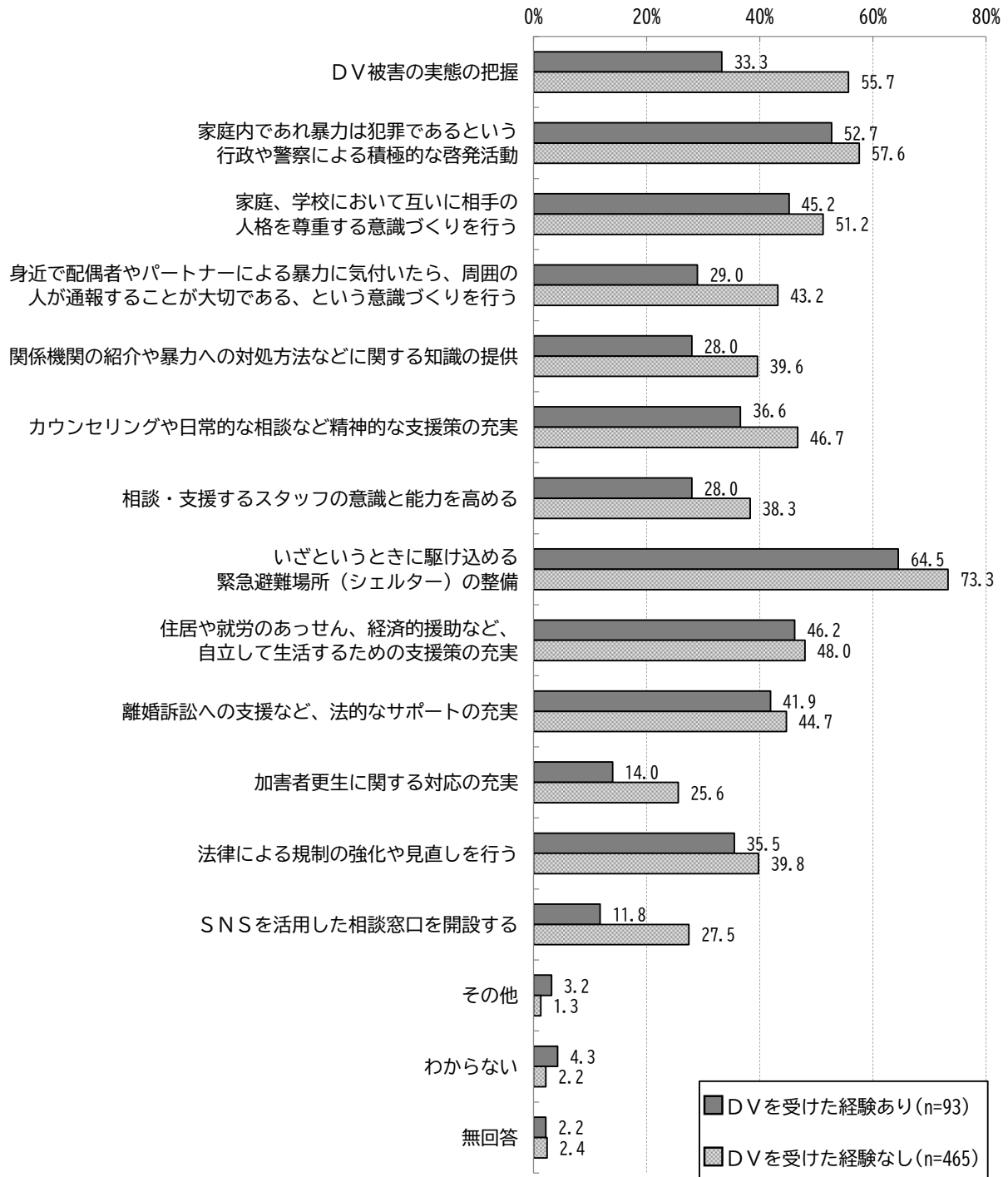
女性・男性ともに「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が最も多く、次いで「家庭内であれ暴力は犯罪であるという行政や警察による積極的な啓発活動」となっている。また、「住居や就労のあっせん、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実」については、女性52.7%、男性37.2%となっており、性別による差がみられる。

そのほか、「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」、「離婚訴訟への支援など、法的なサポートの充実」についても、性別による差がみられる。



### 【過去5年間のDVを受けた経験別】

DVを受けた経験の有無にかかわらず「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」が最も多く、次いで、「家庭内であれ暴力は犯罪であるという行政や警察による積極的な啓発活動」となっている。



## 7 メディア・リテラシーについて

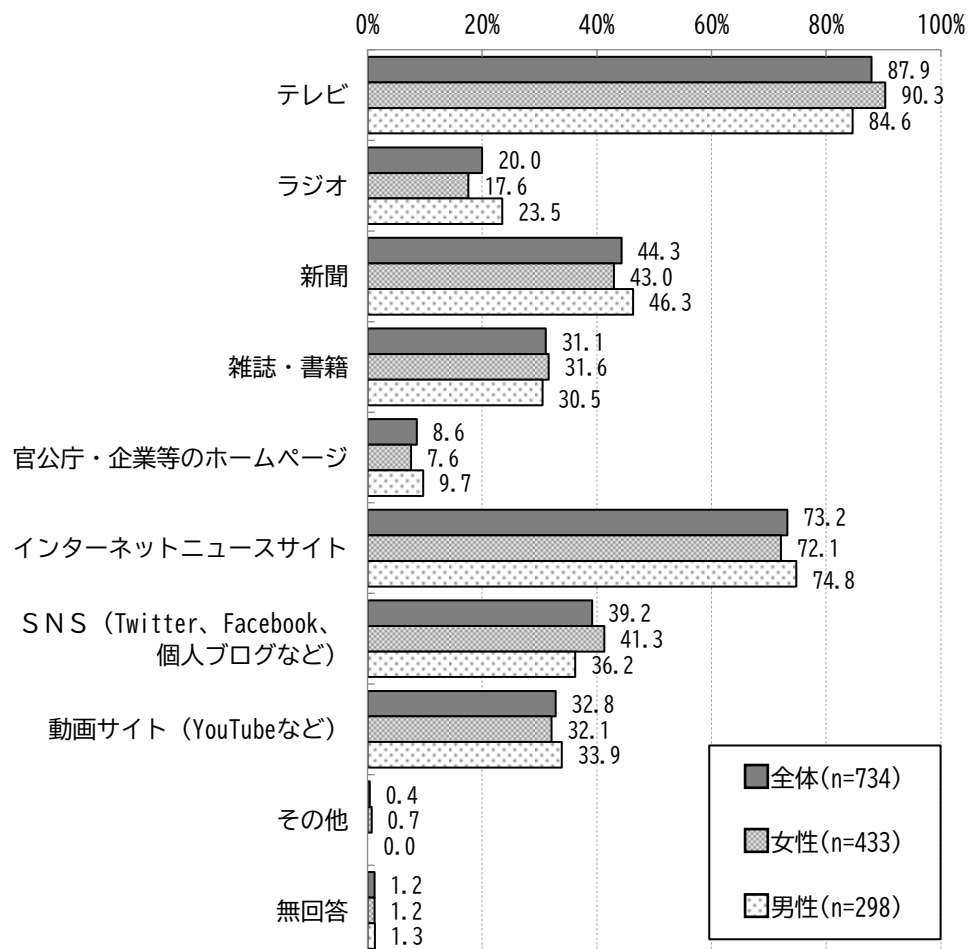
問 19 あなたがいつも利用するメディアはどれですか。(〇はいくつでも)

### 【全体】

「テレビ」が87.9%と最も多く、次いで「インターネットニュースサイト」が73.2%、「新聞」が44.3%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「テレビ」が最も多く、次いで「インターネットニュースサイト」となっている。



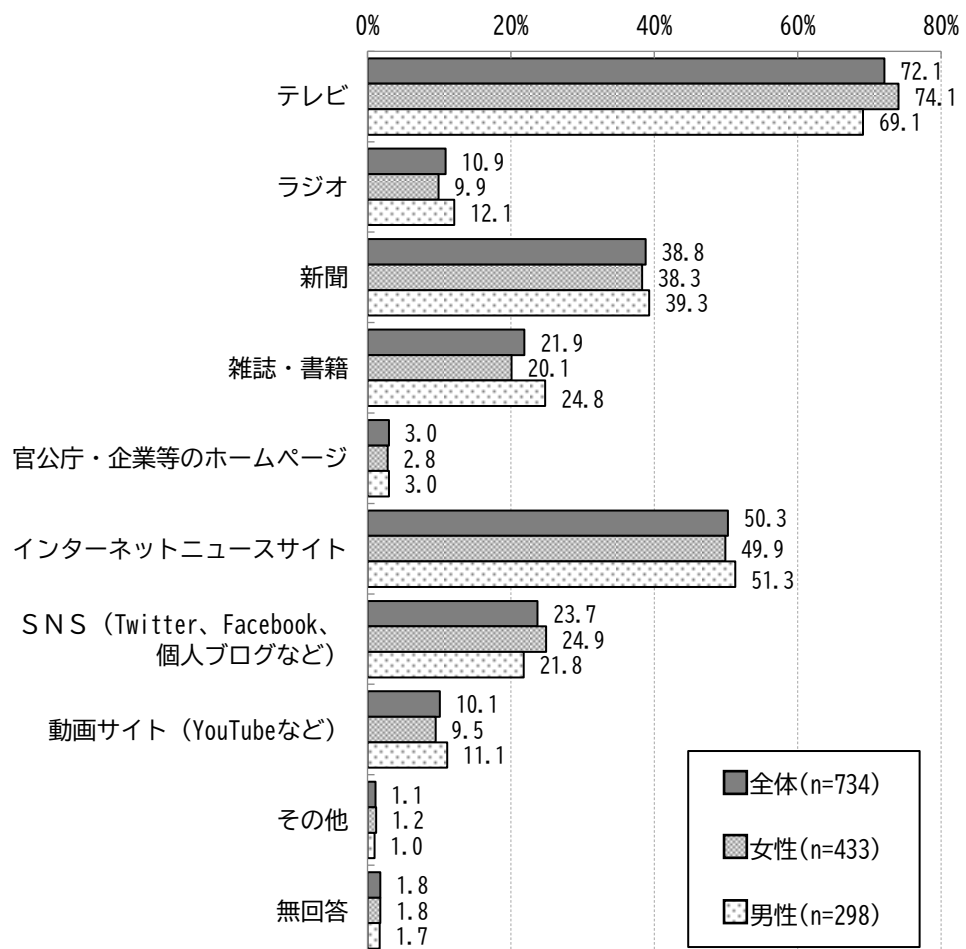
問 20 あなたの考えに影響をおよぼしているのは、どのようなメディアですか。(〇は3つまで)

【全体】

「テレビ」が72.1%と最も多く、次いで「インターネットニュースサイト」が50.3%、「新聞」が38.8%となっている。

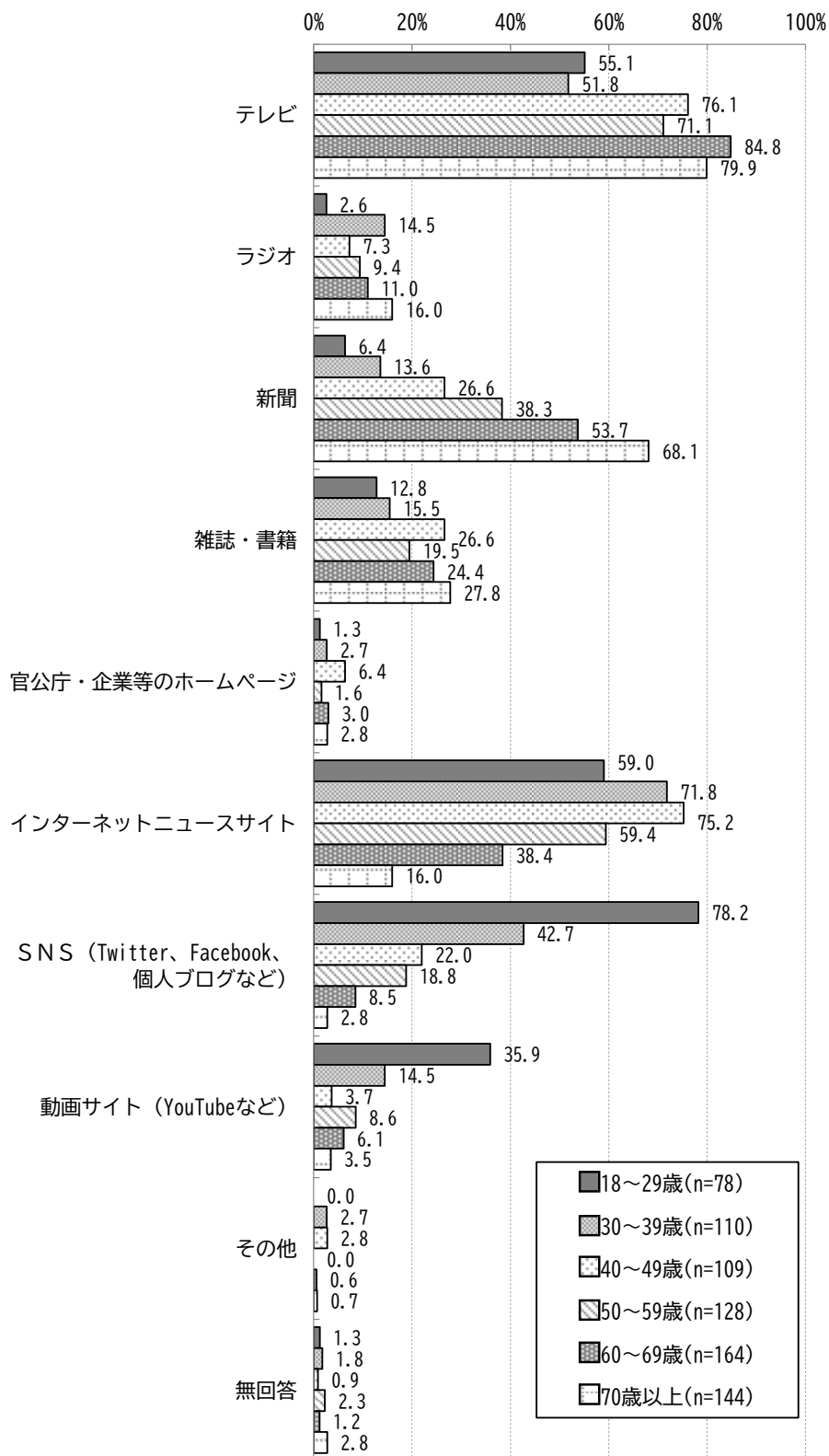
【性別】

女性・男性ともに「テレビ」が最も多く、次いで「インターネットニュースサイト」となっている。



## 【年齢別】

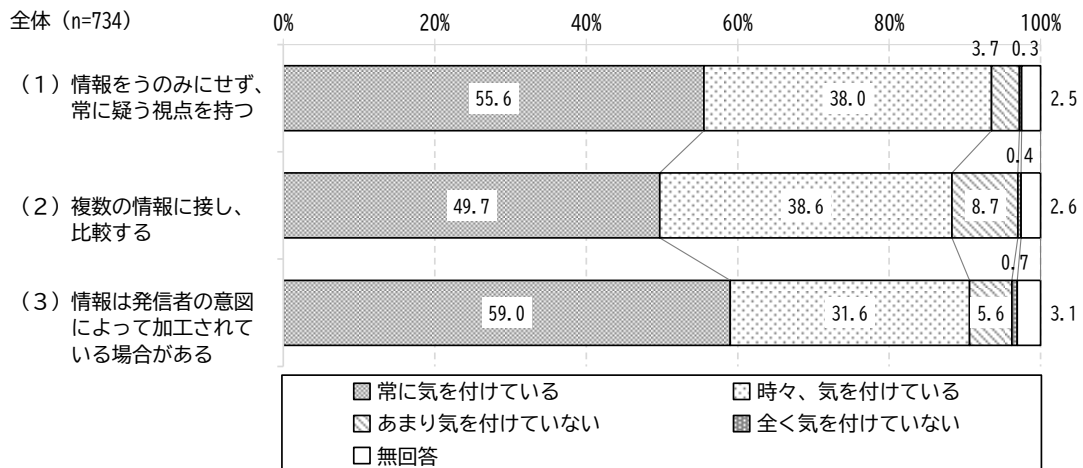
40歳以上の年齢層になると「テレビ」がいずれの年齢層においても7割以上で最も多くなっている。また、「新聞」は、「70歳以上」で最も多く、年齢層が下がるにつれて、その割合も低くなる傾向がみられる。一方で「SNS (Twitter、Facebook、個人ブログなど)」は、「18～29歳」で最も多く、年齢層が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。



問 21 あなたは社会情勢について情報を得る際、どのようなことに気を付けていますか。次の(1)～(3)について、それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

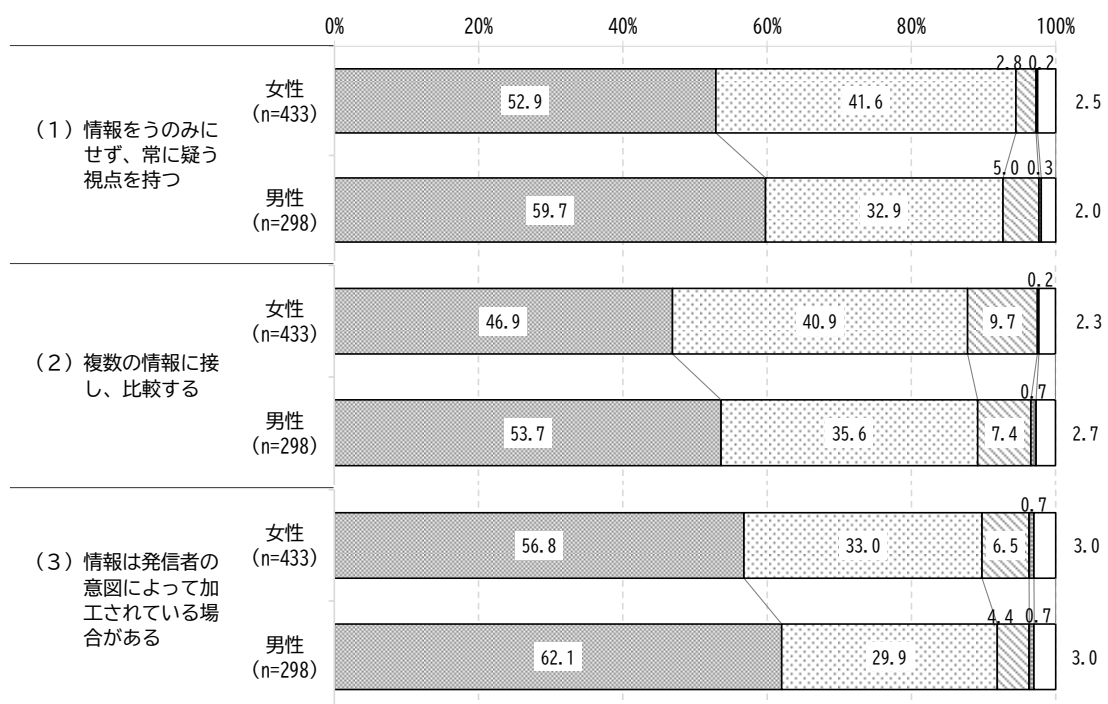
【全体】

「常に気を付けている」が最も多いのが、「(3) 情報は発信者の意図によって加工されている場合がある」で59.0%、次いで「(1) 情報をうのみにせず、常に疑う視点を持つ」が55.6%、「(2) 複数の情報に接し、比較する」が49.7%となっている。



【性別】

女性・男性ともに全ての項目で「常に気を付けている」が最も多く、次いで「時々、気を付けている」となっている。



## 8 地域活動について

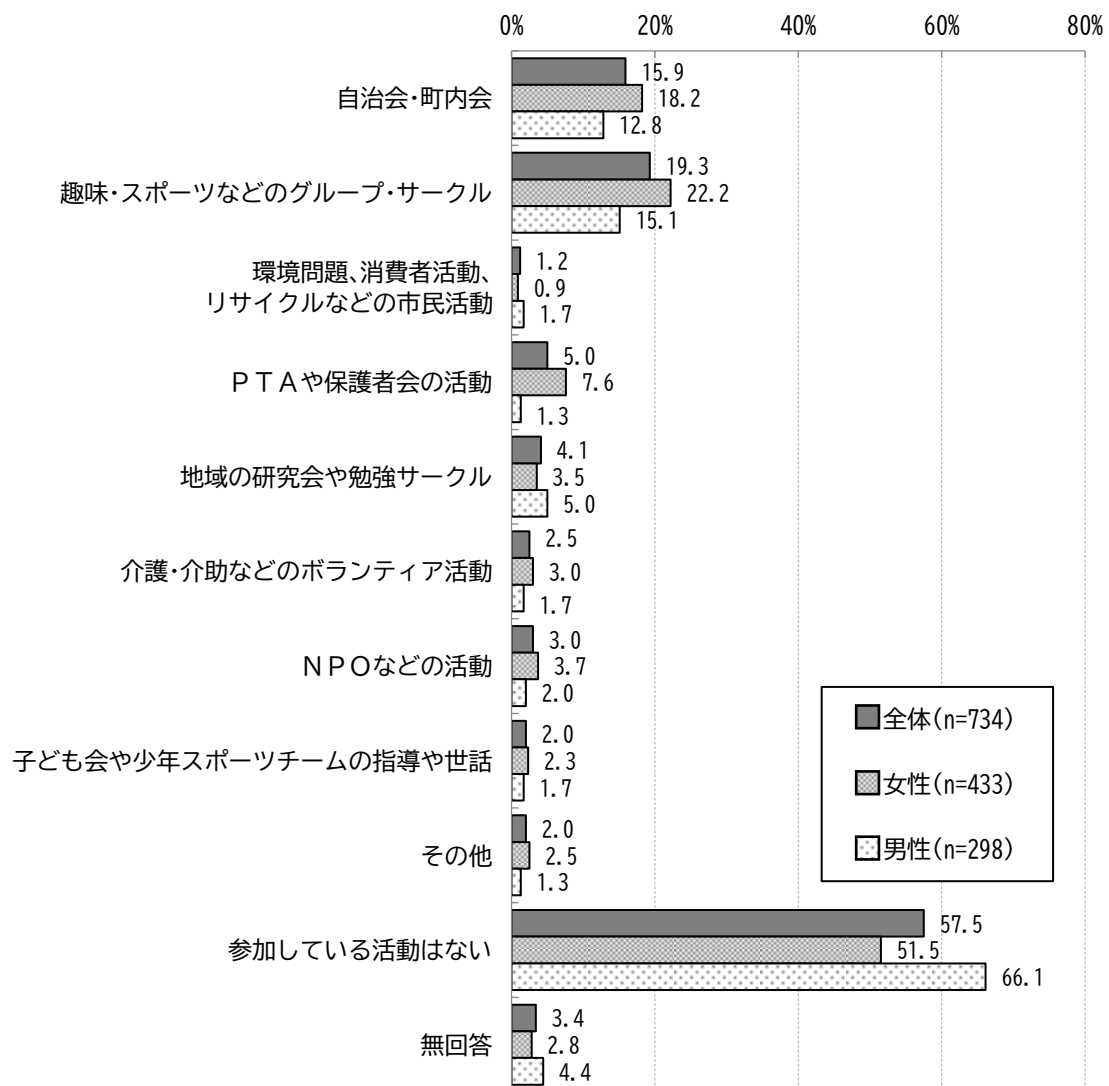
問 22 あなたは、現在、次にあげる地域活動などに参加していますか。(〇はいくつでも)

### 【全体】

「参加している活動はない」が57.5%と最も多く、次いで「趣味・スポーツなどのグループ・サークル」が19.3%、「自治会・町内会」が15.9%となっている。何らかの活動に参加している人（全体から「参加している活動はない」と「無回答」を除いて算出）は39.1%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「参加している活動はない」が最も多く、次いで「趣味・スポーツなどのグループ・サークル」となっている。また、「参加している活動はない」については、女性51.5%、男性66.1%となっており、性別による差がみられる。



問 23 男性の地域参加や家庭生活への関わりが一般的に少ないと言われていますが、それらを進めるために必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

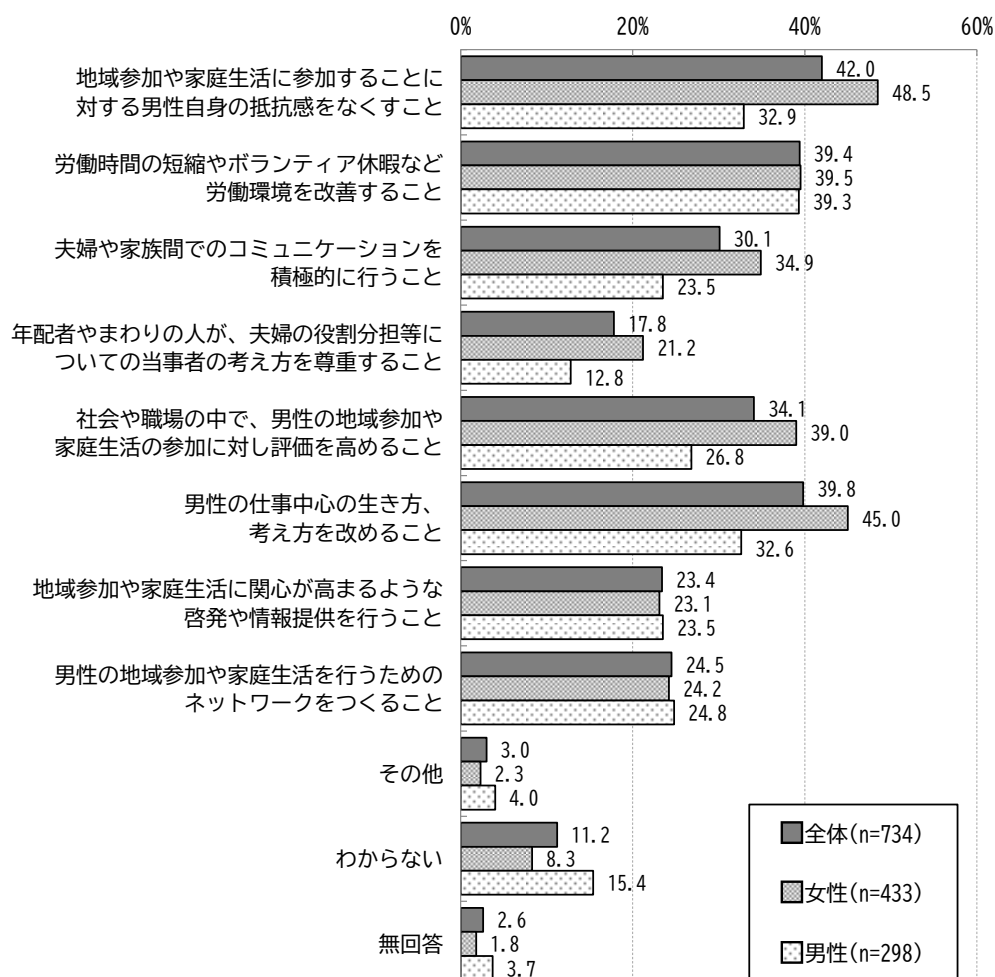
【全体】

「地域参加や家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が42.0%と最も多く、次いで「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」が39.8%、「労働時間の短縮やボランティア休暇など労働環境を改善すること」が39.4%となっている。

【性別】

女性は「地域参加や家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が最も多く、次いで「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」となっている。男性は「労働時間の短縮やボランティア休暇など労働環境を改善すること」が最も多く、次いで「地域参加や家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」となっている。また、「地域参加や家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、女性48.5%、男性32.9%となっており、性別による差がみられる。

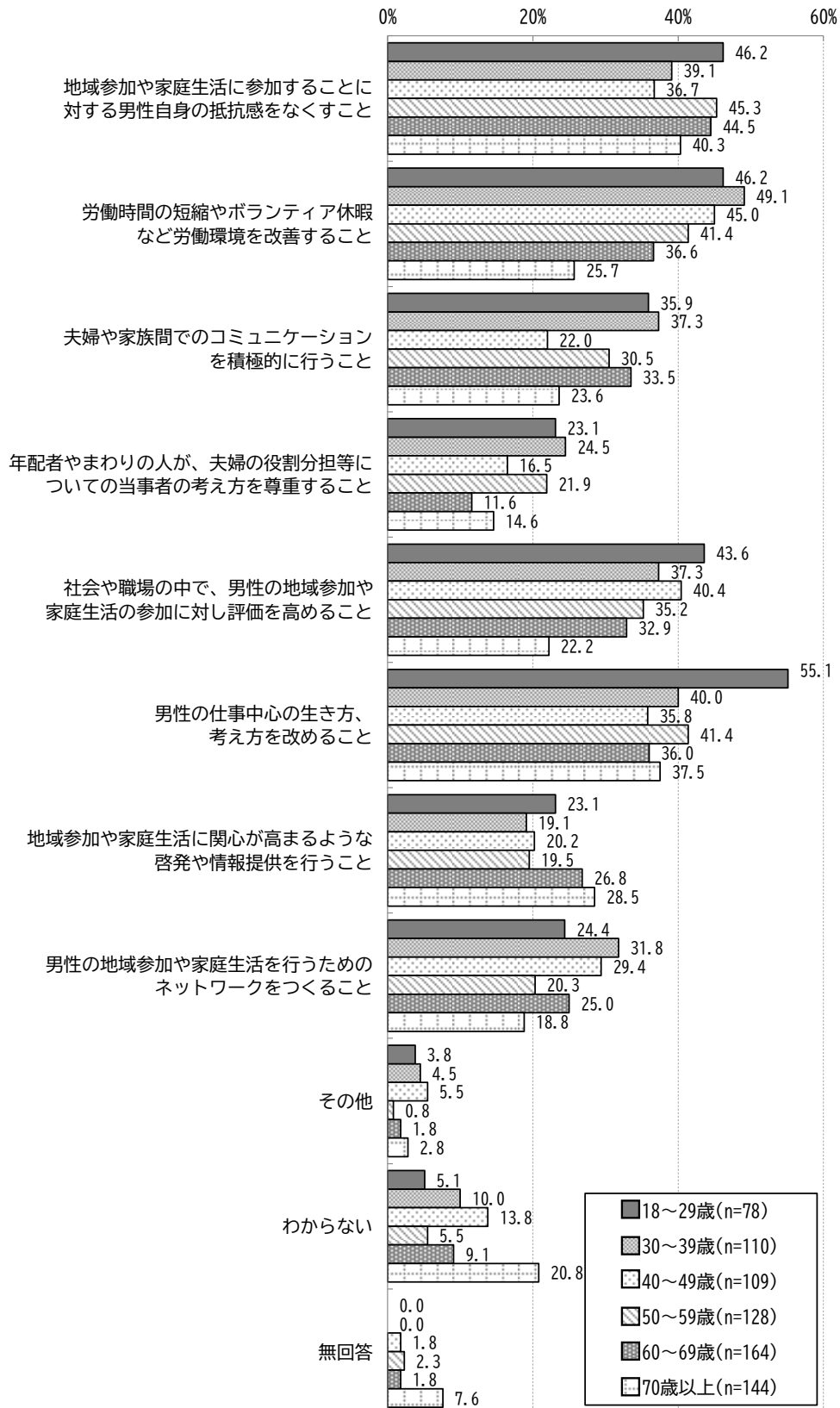
そのほか、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行うこと」、「社会や職場の中で、男性の地域参加や家庭生活の参加に対し評価を高めること」、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」についても、性別による差がみられる。





## 【年齢別】

「18～29歳」では「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」、30～40歳代では「労働時間の短縮やボランティア休暇など労働環境を改善すること」、50歳以上では「地域参加や家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」がそれぞれ最も多くなっている。



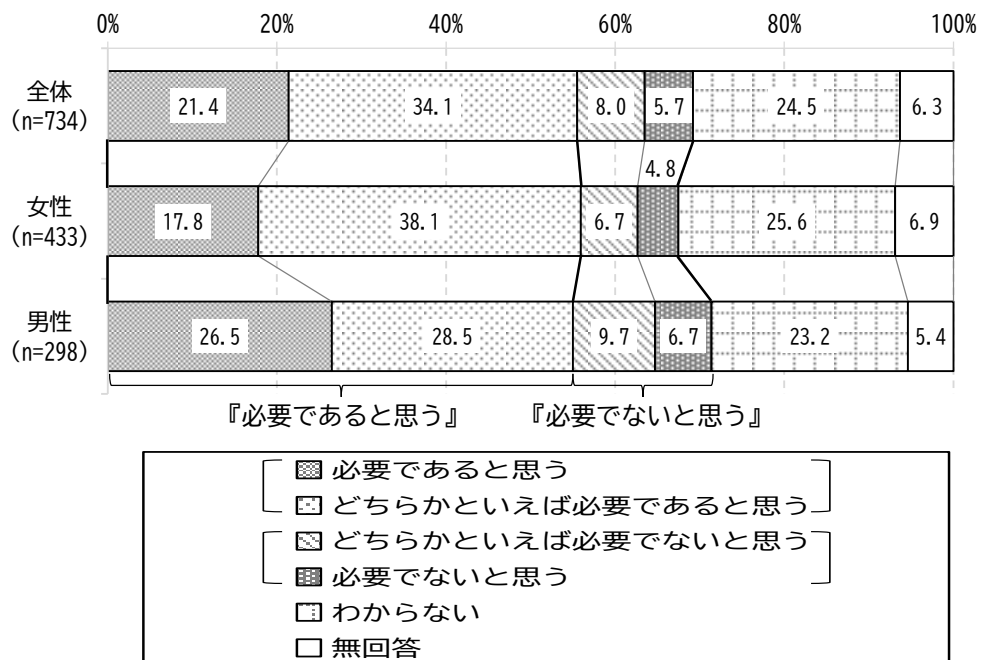
問 24 町会長やPTA会長は男性が担っていることが多い現状がありますが、地域活動において女性リーダーを増やす必要があると思いますか。(〇は1つ)

**【全体】**

「どちらかといえば必要であると思う」が 34.1%と最も多く、次いで「わからない」が 24.5%、「必要であると思う」が 21.4%となっている。『必要であると思う』（「必要であると思う」と「どちらかといえば必要であると思う」の合計）が 55.5%。『必要でないと思う』（「どちらかといえば必要でないと思う」と「必要でないと思う」の合計）が 13.7%となっている。

**【性別】**

女性・男性ともに「どちらかといえば必要であると思う」が最も多く、次いで女性は「わからない」、男性は「必要であると思う」となっている。



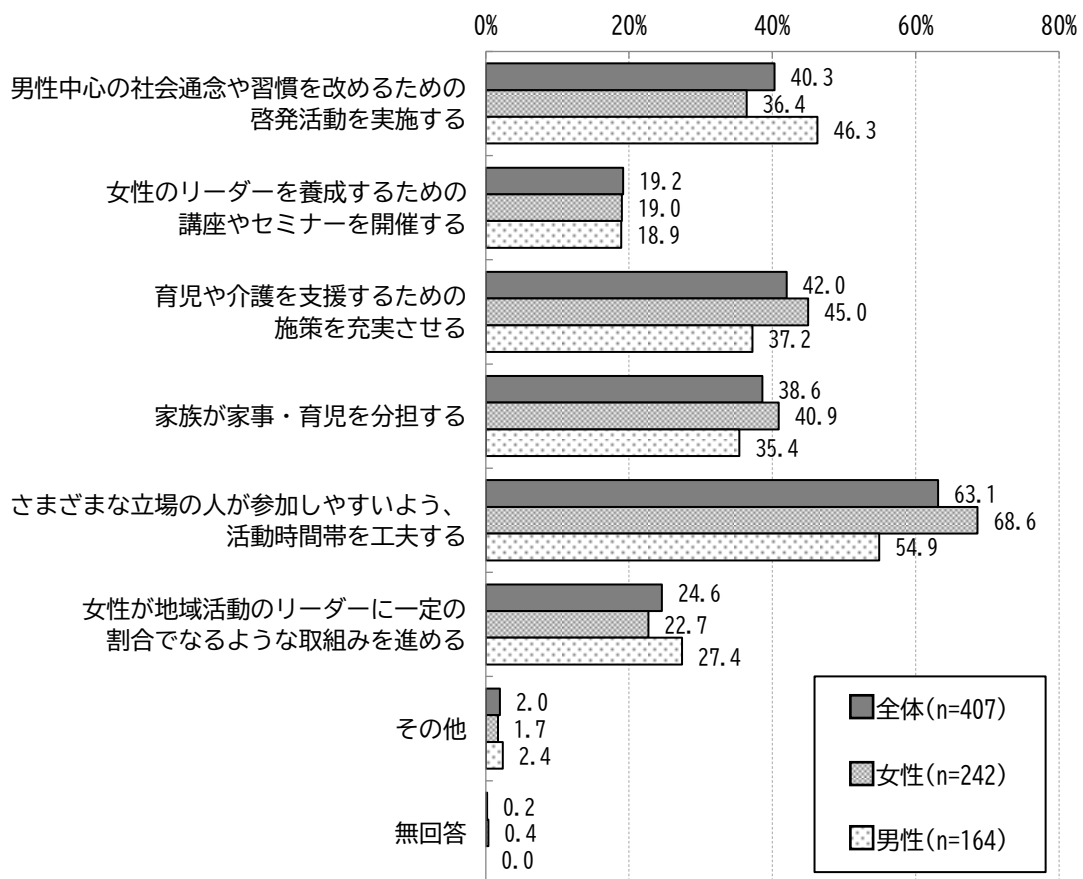
問 24-1 あなたは、地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が63.1%と最も多く、次いで「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が42.0%、「男性中心の社会通念や習慣を改めるための啓発活動を実施する」が40.3%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が最も多く、次いで女性は「育児や介護を支援するための施策を充実させる」、男性は「男性中心の社会通念や習慣を改めるための啓発活動を実施する」となっている。また、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」については、女性68.6%、男性54.9%、「男性中心の社会通念や習慣を改めるための啓発活動を実施する」については、女性36.4%、男性46.3%となっており、性別による差がみられる。



## 9 女性の政策決定への参画などシステム変革について

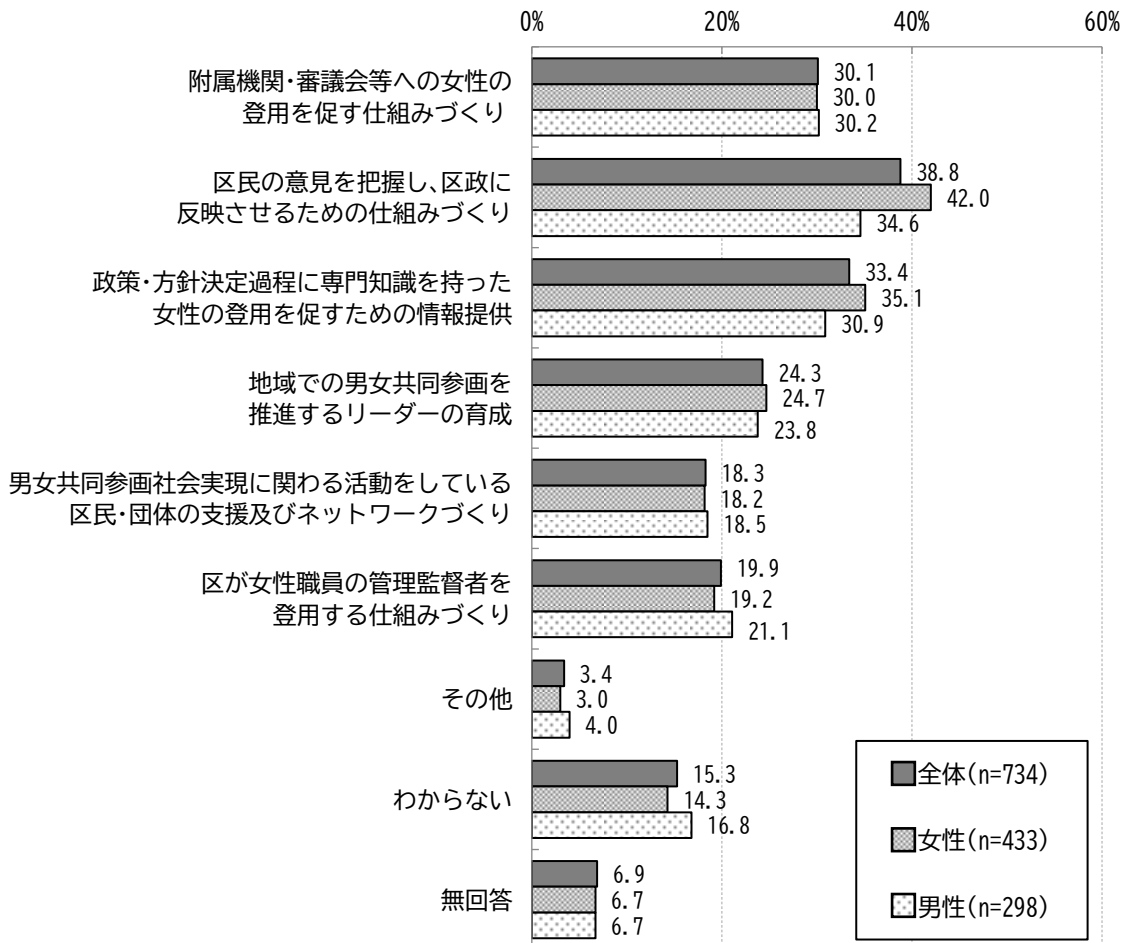
問 25 あなたは、今後、女性が政策・方針決定の過程に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

### 【全体】

「区民の意見を把握し、区政に反映させるための仕組みづくり」が38.8%と最も多く、次いで「政策・方針決定過程に専門知識を持った女性の登用を促すための情報提供」が33.4%、「附属機関・審議会等への女性の登用を促す仕組みづくり」が30.1%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「区民の意見を把握し、区政に反映させるための仕組みづくり」が最も多く、次いで「政策・方針決定過程に専門知識を持った女性の登用を促すための情報提供」となっている。



問 26 男女共同参画社会を実現するために、あなたは、どのようなことが大切だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

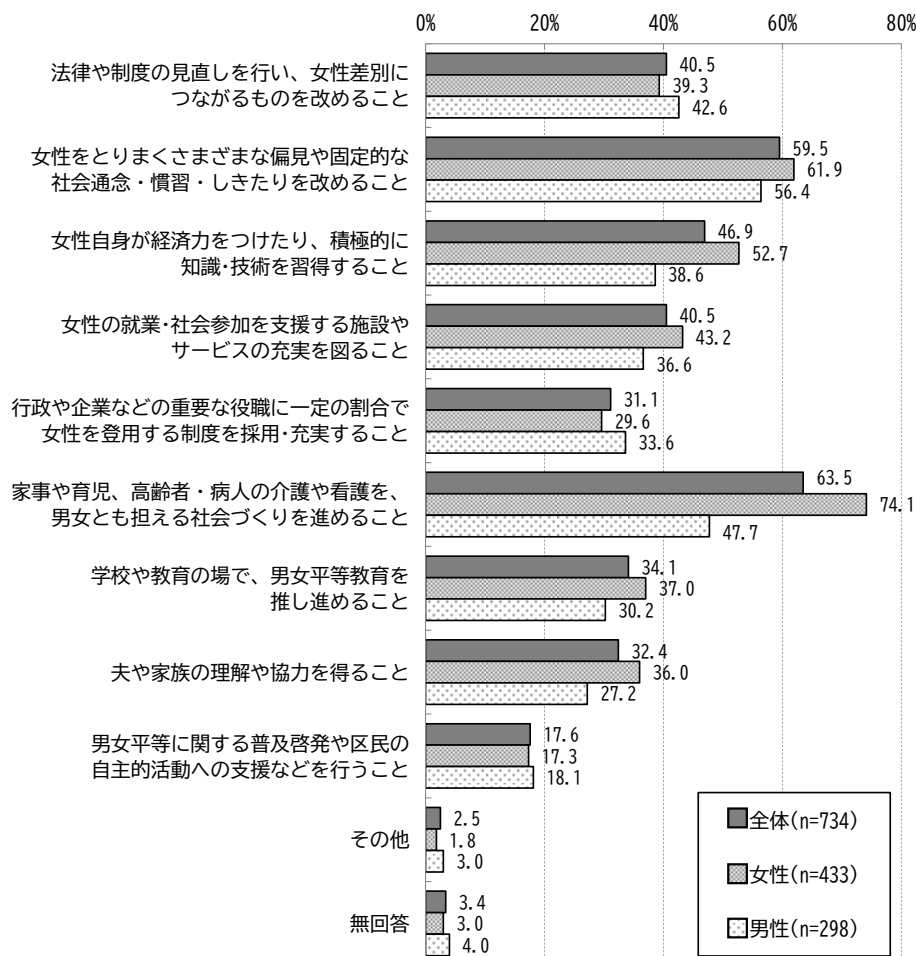
【全体】

「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」が63.5%と最も多く、次いで「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が59.5%、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術を習得すること」が46.9%となっている。

【性別】

女性は「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」が最も多く、次いで「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」となっている。男性は「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が最も多く、次いで「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」となっている。また、「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」については、女性74.1%、男性47.7%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術を習得すること」についても、女性52.7%、男性38.6%となっており、性別による差がみられる。



## 10 性的少数者について

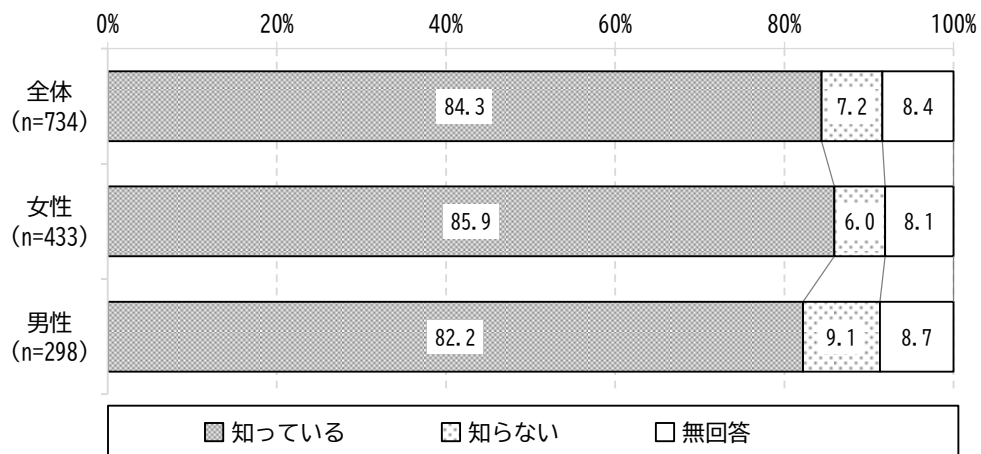
問 27 性的少数者（LGBT等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

### 【全体】

「知っている」が84.3%、「知らない」が7.2%となっている。

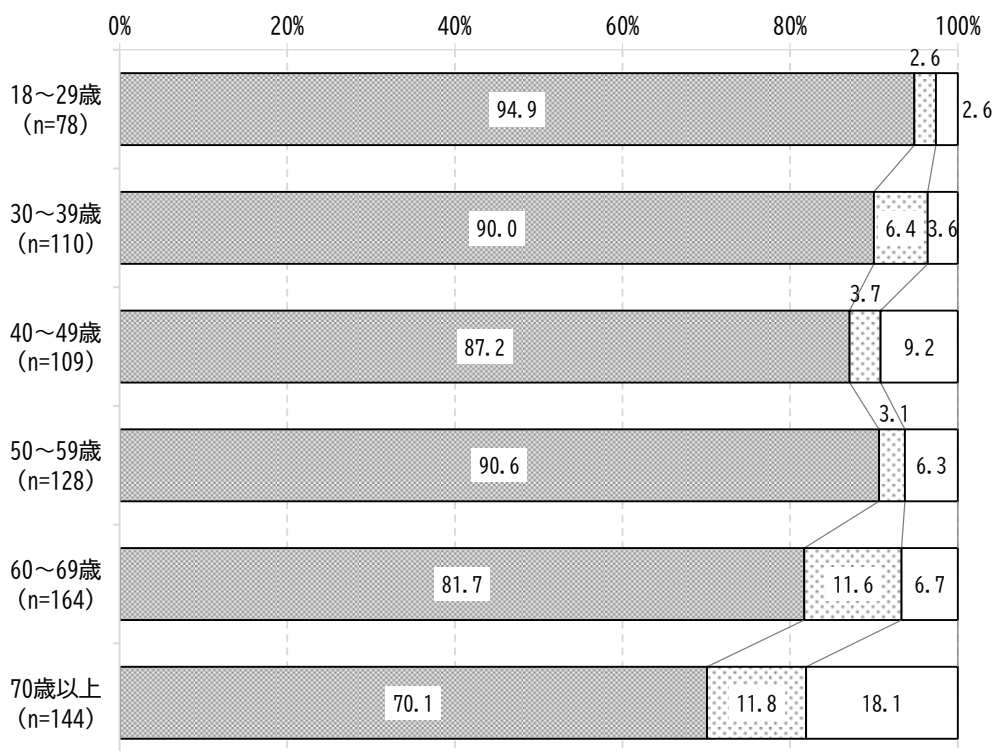
### 【性別】

「知っている」は女性で85.9%、男性で82.2%となっている。



### 【年齢別】

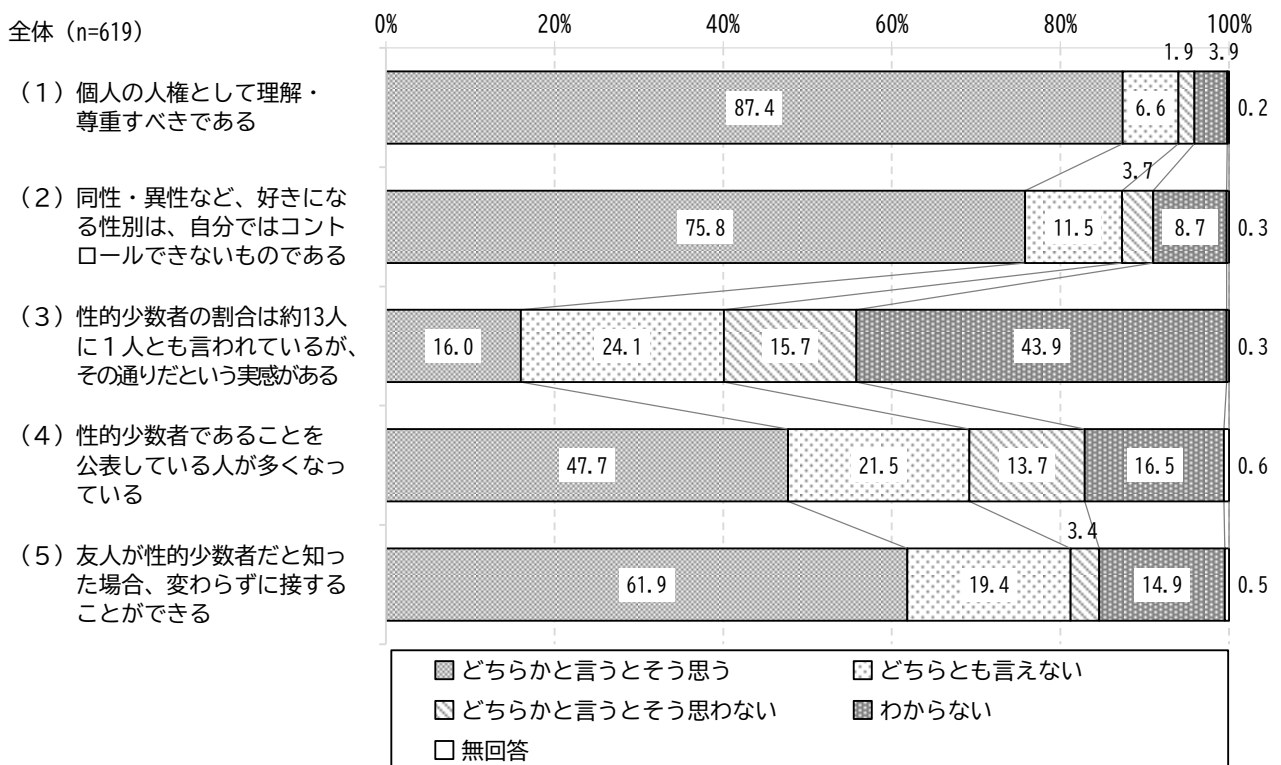
「18～29歳」で94.9%と最も多く、「70歳以上」で70.1%と最も少なくなっている。



問 27-1 性的少数者（LGBT等）について、どう思いますか。次の（1）～（5）について、それぞれ選んでください。（○は1つずつ）

【全体】

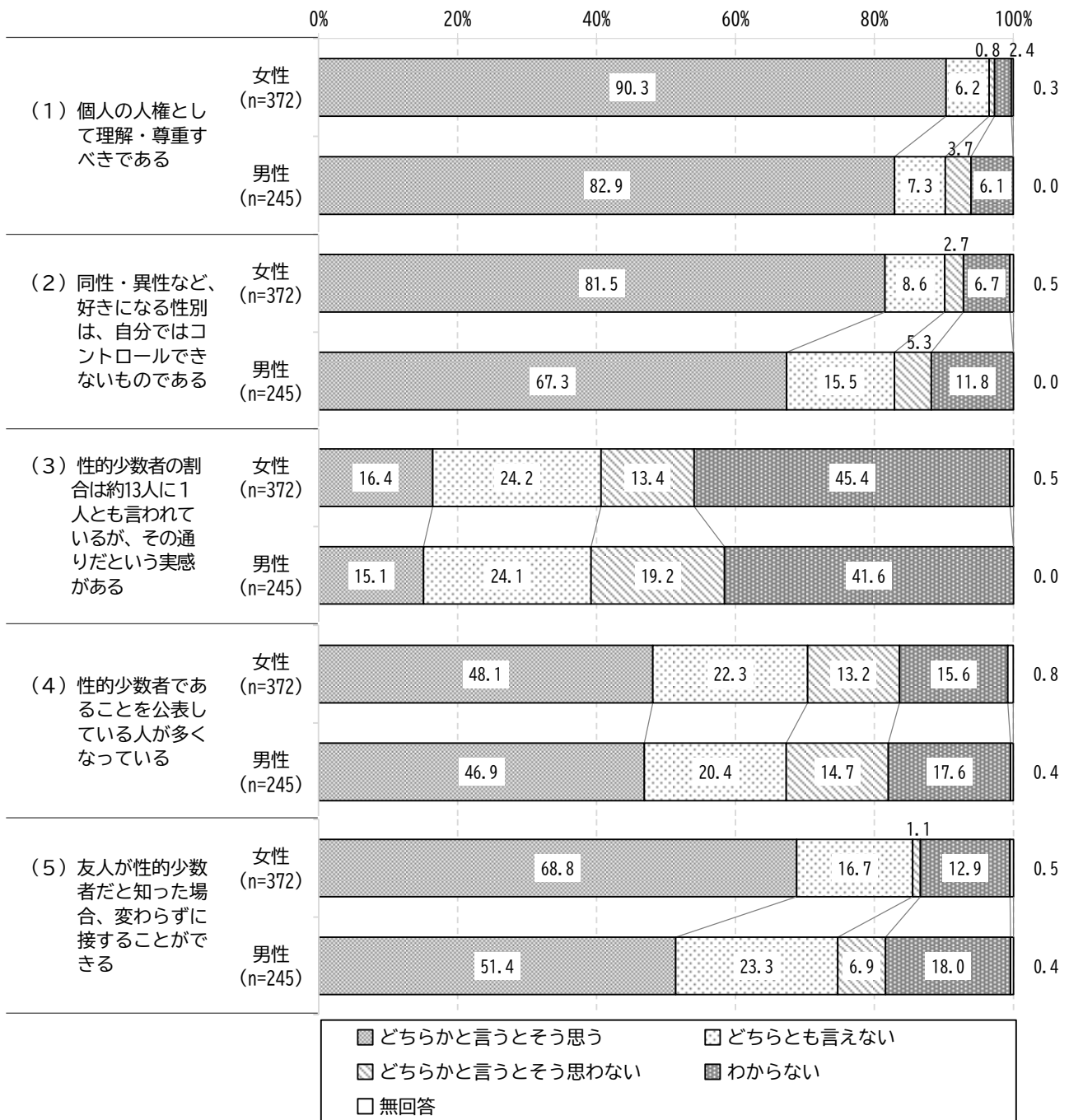
「どちらかと言うとそう思う」が最も多いのが、「（1）個人の人権として理解・尊重すべきである」で 87.4%、次いで「（2）同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」が 75.8%、「（5）友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる」が 61.9%となっている。



【性別】

「どちらかと言うとそう思う」の回答は、女性・男性ともに「(1) 個人の人権として理解・尊重すべきである」が最も多く、次いで「(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」となっている。

また、いずれの項目においても、男性よりも女性の方が「どちらかと言うとそう思う」が多くなっており、特に「(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」では、女性 81.5%、男性 67.3%、「(5) 友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる」では、女性 68.8%、男性 51.4%となっており、性別による差がみられる。



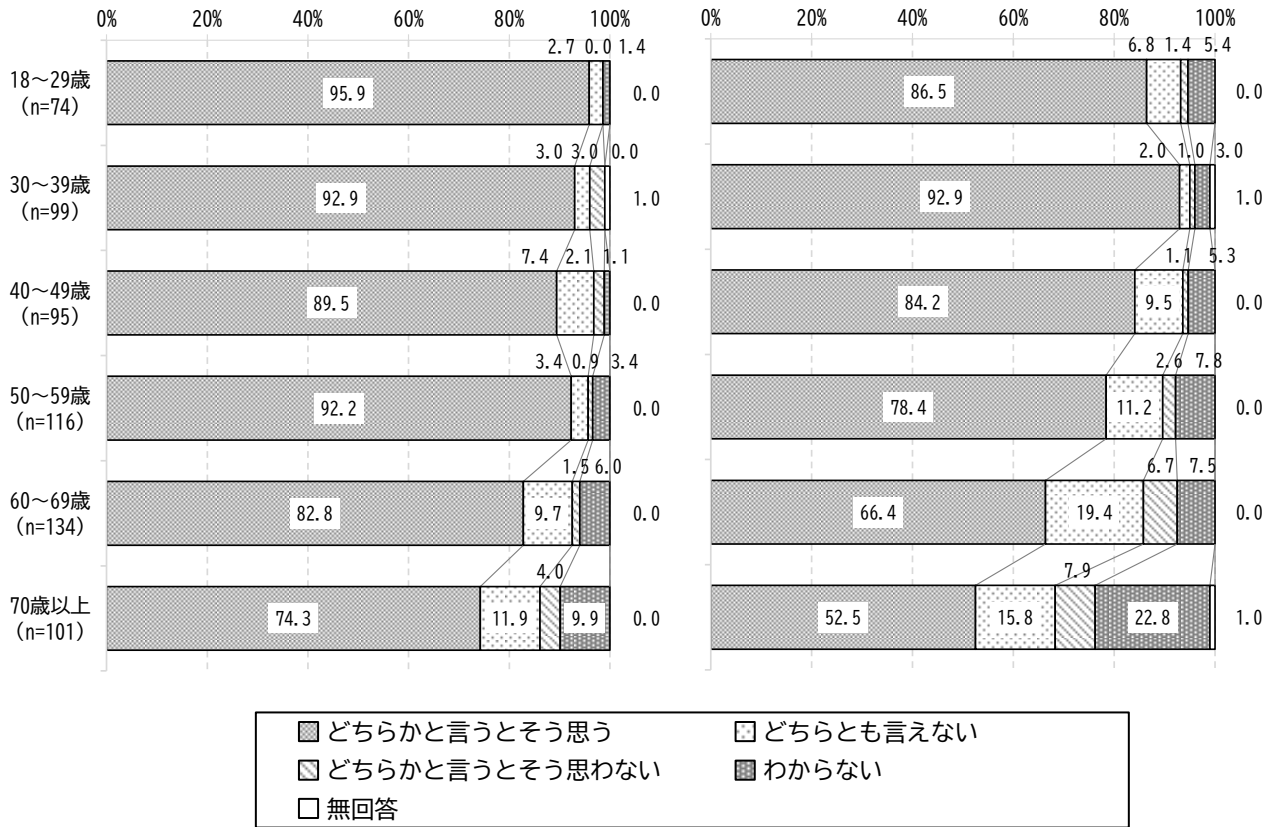


### 【年齢別】

全ての項目において、60歳以降で「どちらかと言うとそう思う」が他の年齢層に比べ少ない傾向がみられる。

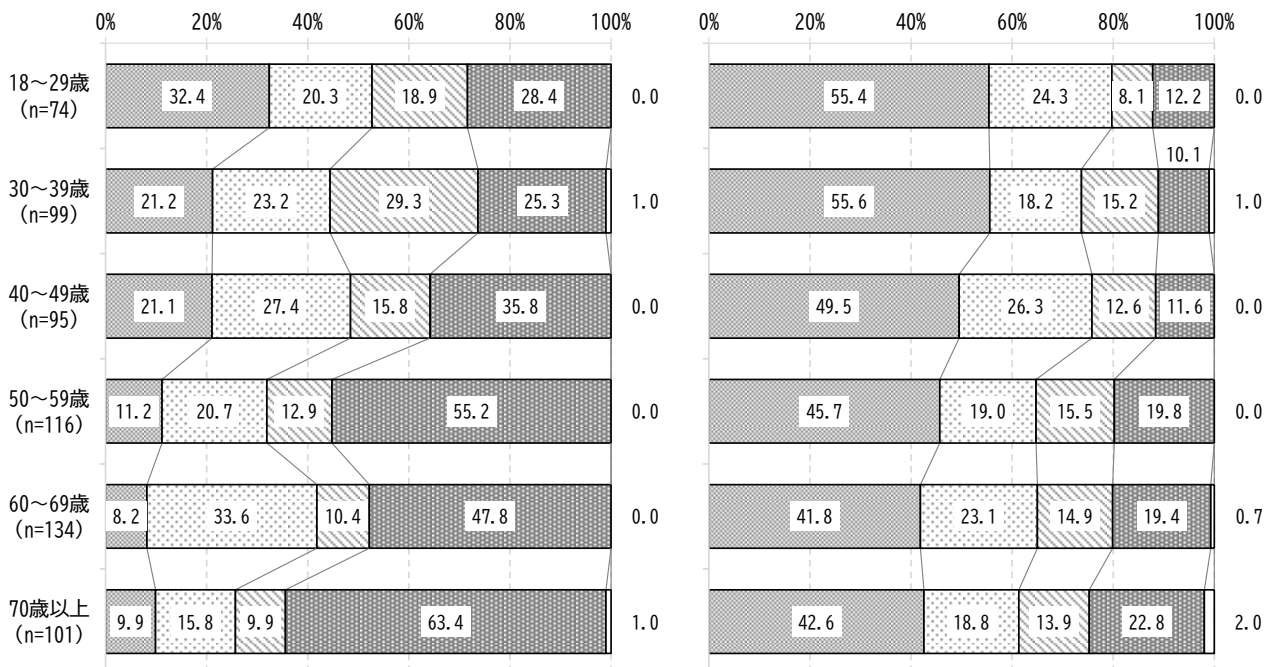
(1) 個人の人権として理解・尊重すべきである

(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである

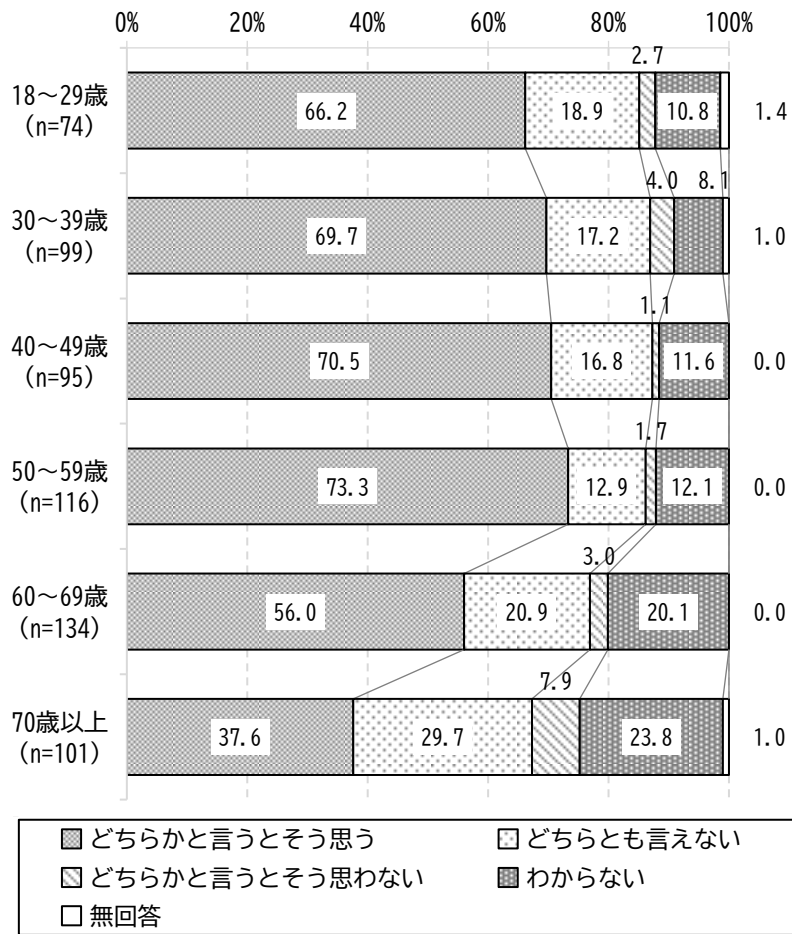


(3) 性的少数者の割合は約13人に1人と  
言われているが、その通りだという実感がある

(4) 性的少数者であることを公表している人が  
多くなっている



(5) 友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる



問 27-2 性的少数者（LGBT等）は日常生活で、下記のようなことに困っているとされています。  
次のうち、あなたが知っているものはどれですか。（○はいくつでも）

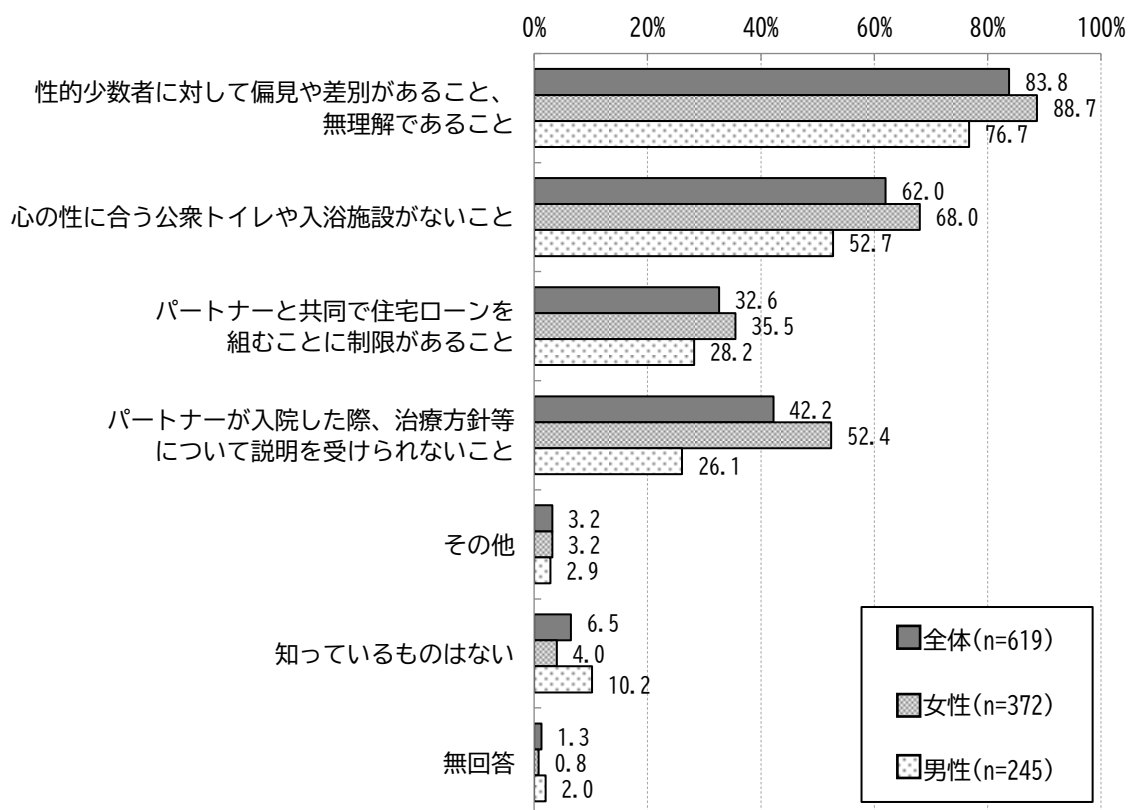
【全体】

「性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること」が83.8%と最も多く、次いで「心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと」が62.0%、「パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと」が42.2%となっている。何らかのことを知っている人（全体から「知っているものはない」と「無回答」を除いて算出）は92.2%となっている。

【性別】

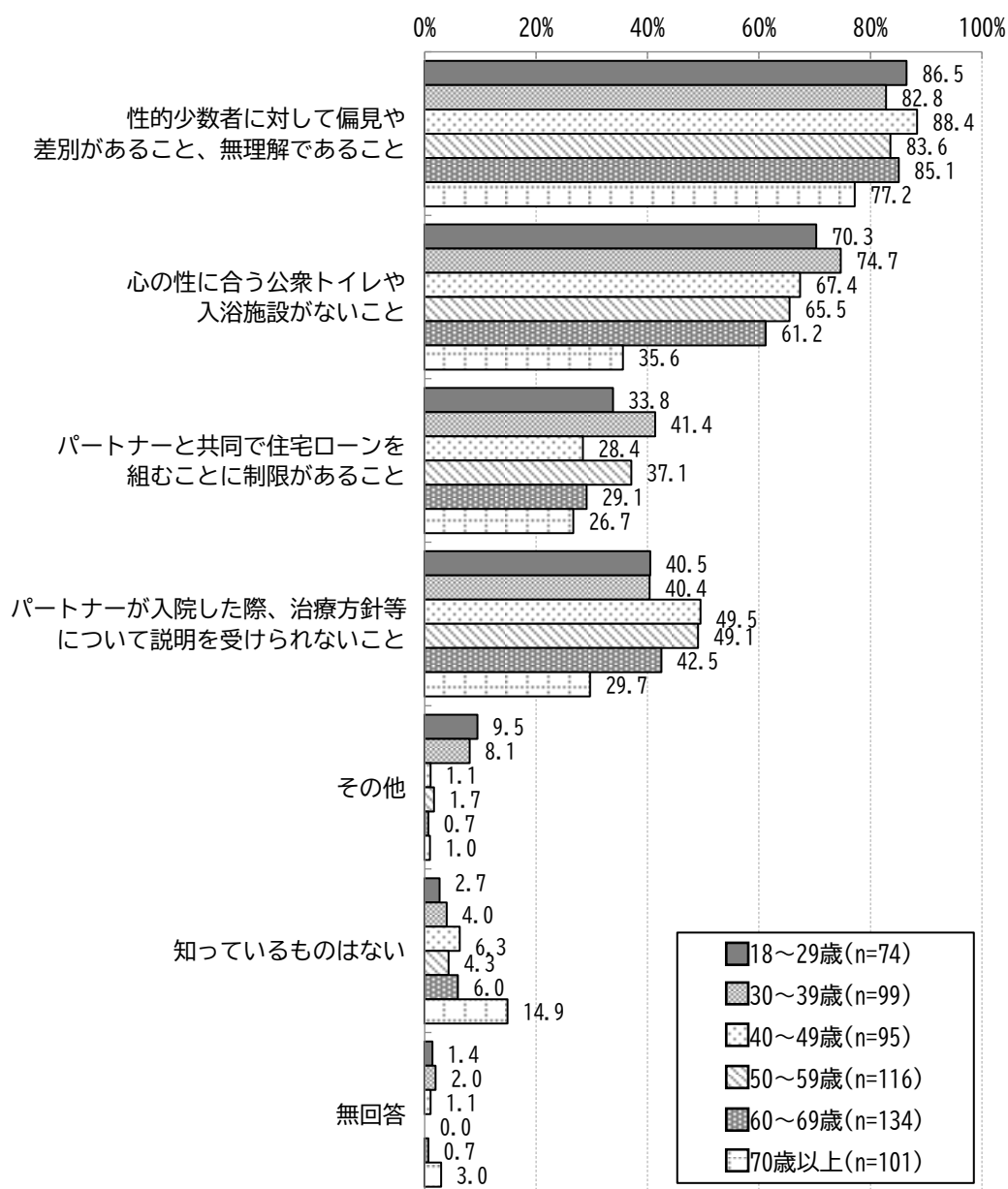
女性・男性ともに「性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること」が最も多く、次いで「心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと」となっている。また、いずれの項目も、女性の認知度が高くなっているが、特に「パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと」は、女性52.4%、男性26.1%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること」、「心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと」についても、性別による差がみられる。



## 【年齢別】

いずれの年齢層においても「性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること」が最も多くなっている。一方、いずれの年齢層においても、「パートナーと共同で住宅ローンを組むことに制限があること」、「パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと」の回答は、半数未満であった。また、「70歳以上」では「知っているものはない」が他の年齢層よりも多く、14.9%となっている。



問 28 性的少数者（LGBT等）が暮らしやすい社会をつくるために、どのような取組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

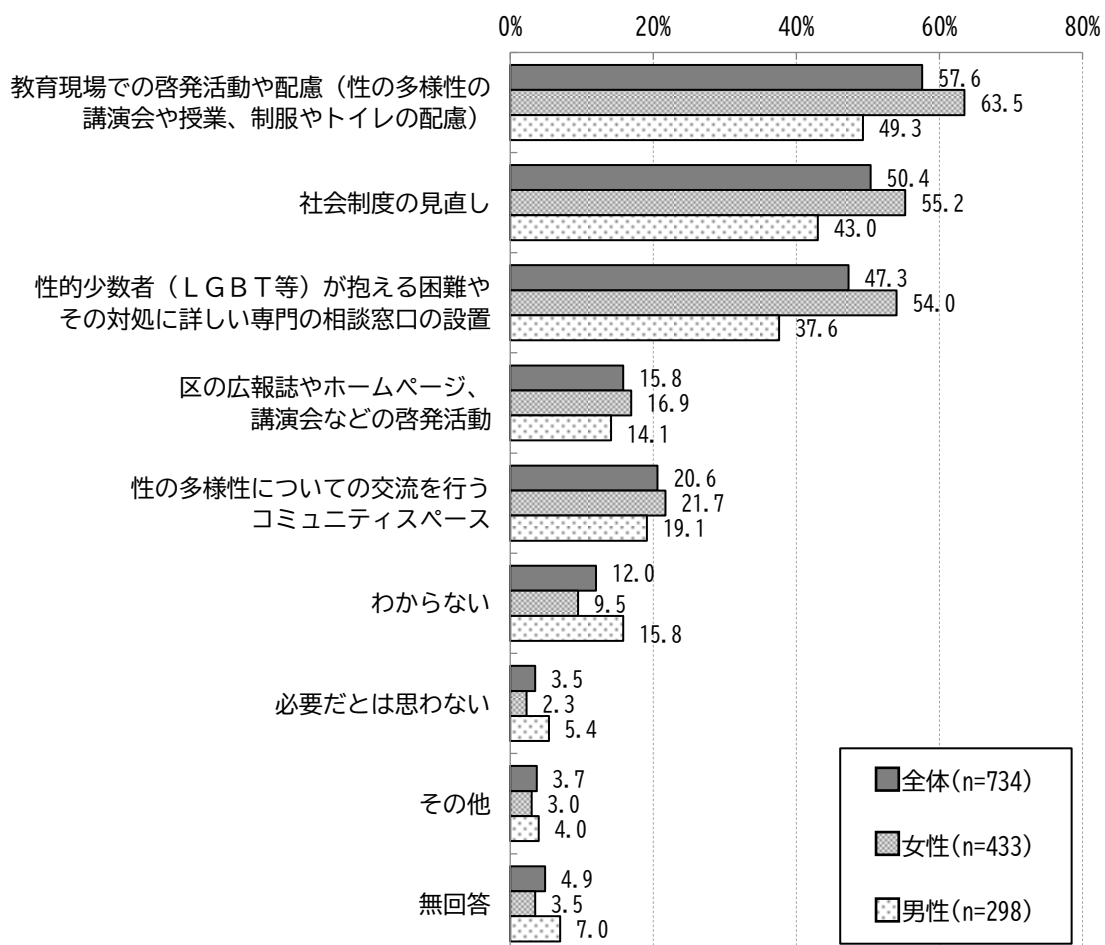
**【全体】**

「教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮）」が 57.6%と最も多く、次いで「社会制度の見直し」が 50.4%、「性的少数者（LGBT等）が抱える困難やその対処に詳しい専門の相談窓口の設置」が 47.3%となっている。

**【性別】**

女性・男性ともに「教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮）」が最も多く、次いで「社会制度の見直し」となっている。また、「性的少数者（LGBT等）が抱える困難やその対処に詳しい専門の相談窓口の設置」については、女性 54.0%、男性 37.6%となっており、性別による差がみられる。

そのほか、「教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮）」、「社会制度の見直し」についても、性別による差がみられる。

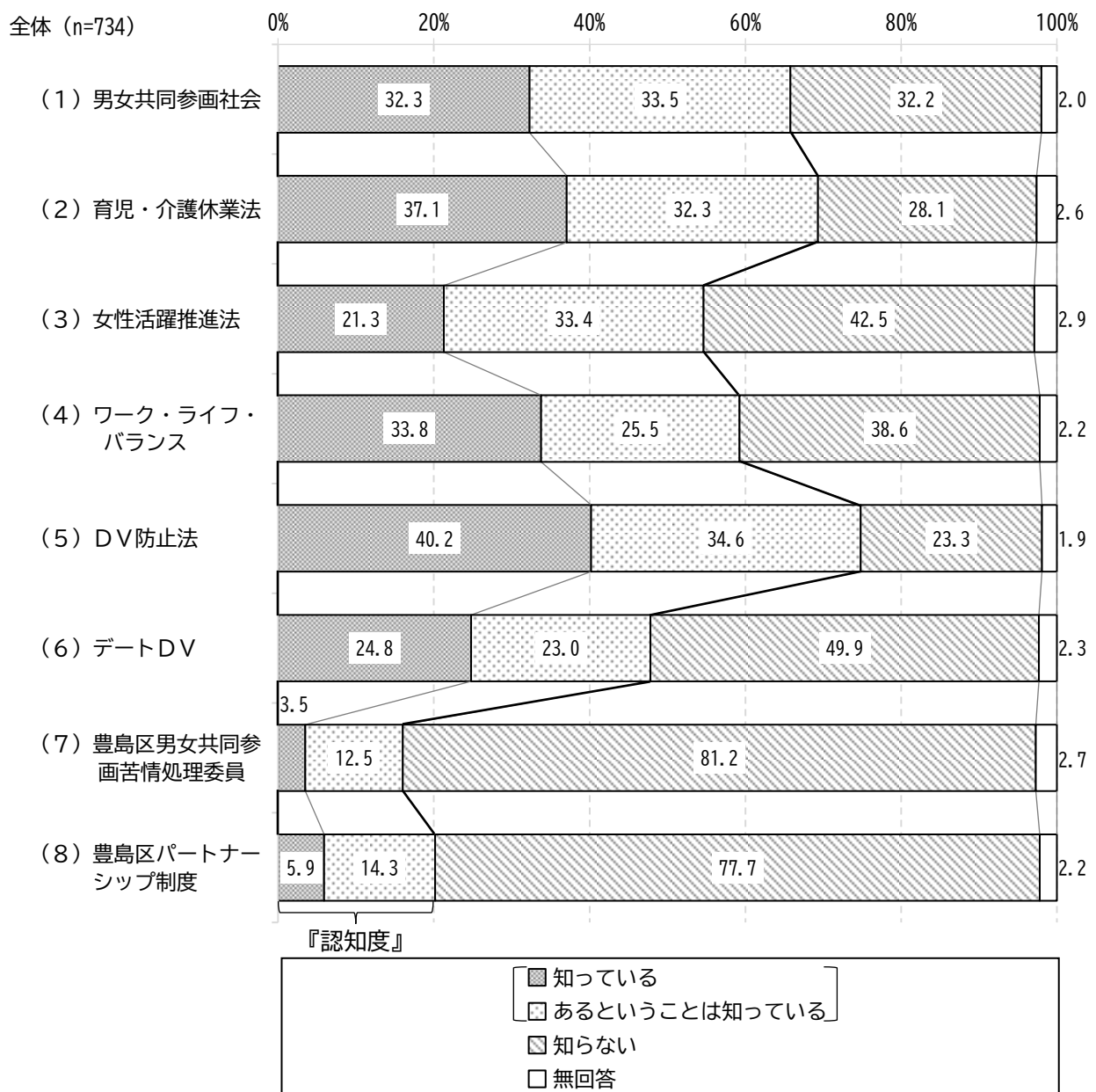


## 11 国・区の政策や施策について

問 29 あなたは、国や豊島区における次の法律・施策・用語などを知っていますか。次の(1)～(8)について、それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

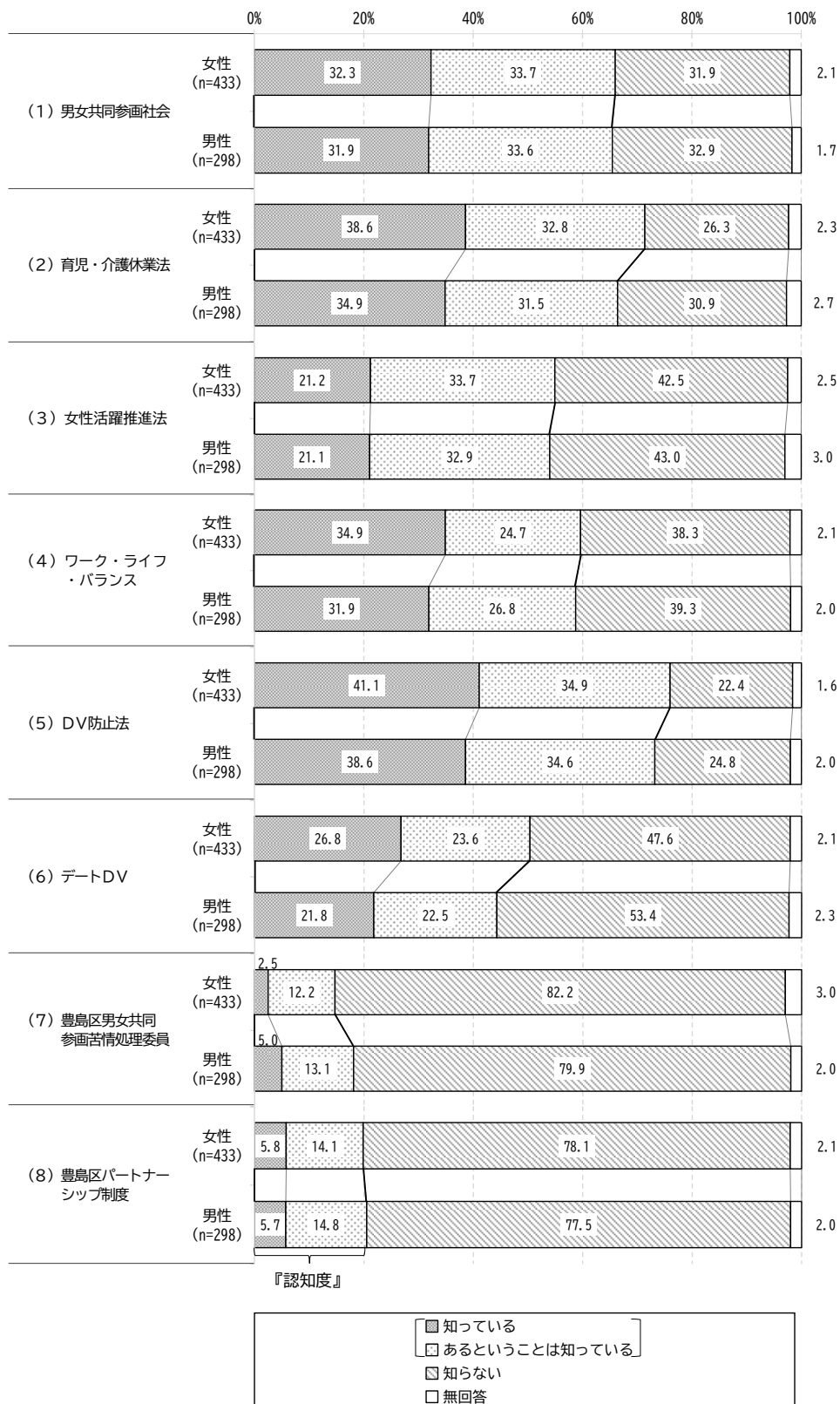
### 【全体】

「(5) DV防止法」の『認知度』(「知っている」と「あるということは知っている」の合計)が74.8%と最も高く、次いで「(2) 育児・介護休業法」が69.4%、「(1) 男女共同参画社会」が65.8%となっている。一方、「(7) 豊島区男女共同参画苦情処理委員」の『認知度』は16.0%、「(8) 豊島区パートナーシップ制度」は20.2%に留まっている。



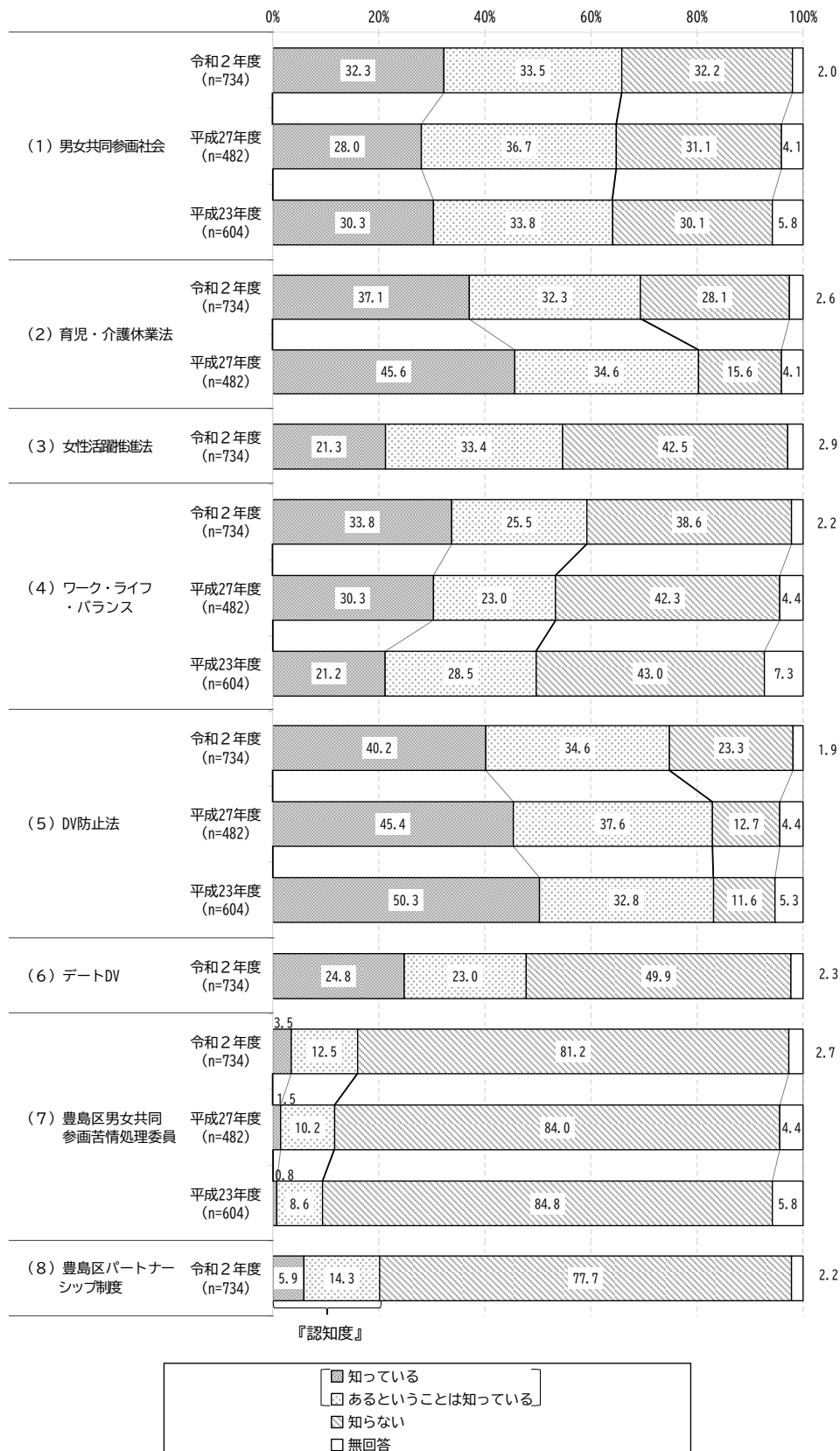
## 【性別】

女性・男性ともに「(5) DV防止法」の『認知度』が最も高く、次いで「(2) 育児・介護休業法」となっている。



【平成23年度・27年度調査比較】

「(1) 男女共同参画社会」や「(4) ワーク・ライフ・バランス」、「(7) 豊島区男女共同参画苦情処理委員」の『認知度』は、平成23年度から年々増加している。一方で「(2) 育児・介護休業法」や「(5) DV防止法」の『認知度』は年々減少している。



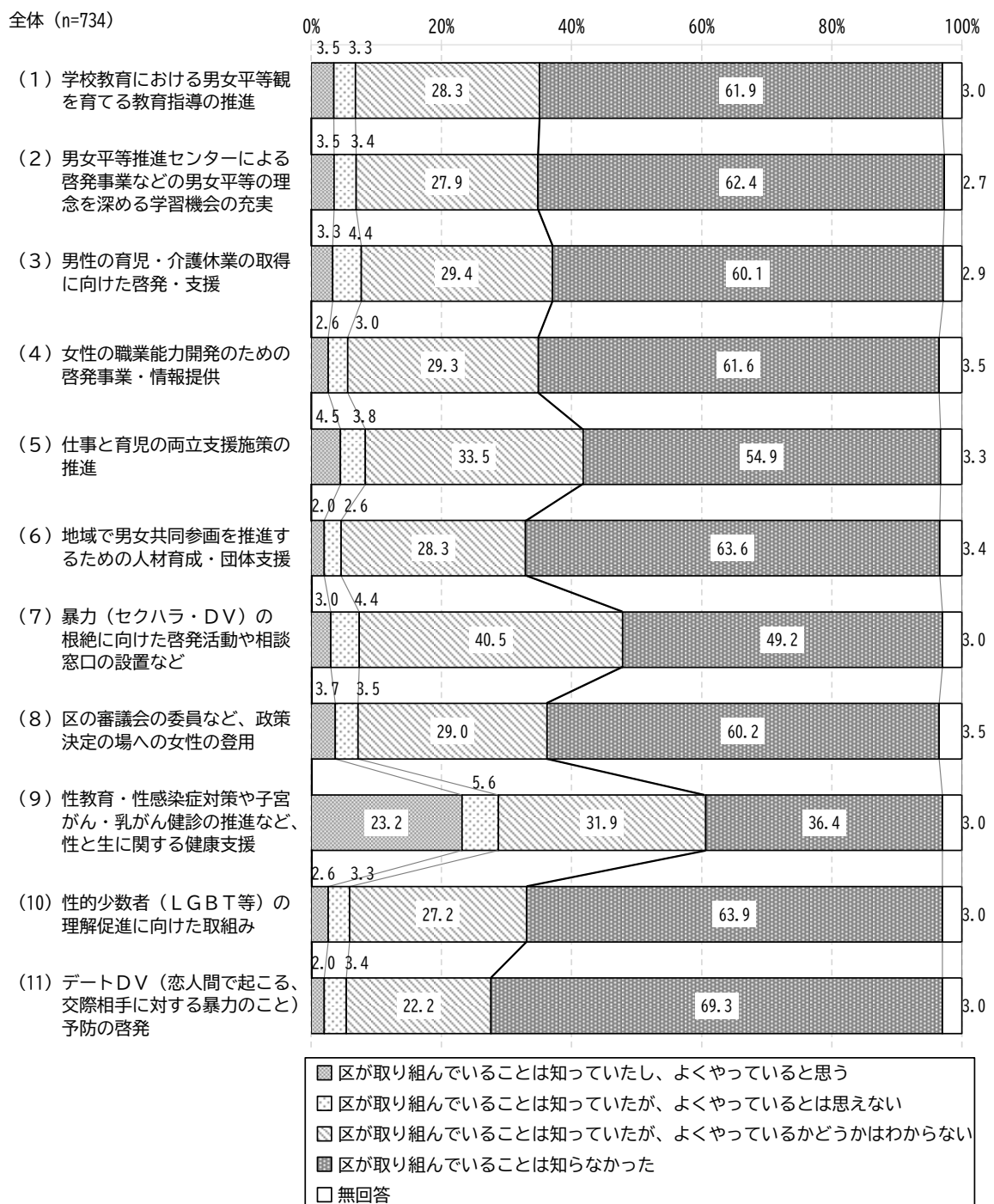
※ (3) (6) (8) については、令和2年度調査より、新規調査項目として追加した。



問 30 男女共同参画社会を実現するため区はさまざまな事業に取り組んでいますが、次の(1)～(11)の事業を区が取り組んでいることを知っていましたか、また知っていた場合、その取組み状況をどう思いますか。(1)～(11)について、それぞれ選んでください。(○は1つつ)

【全体】

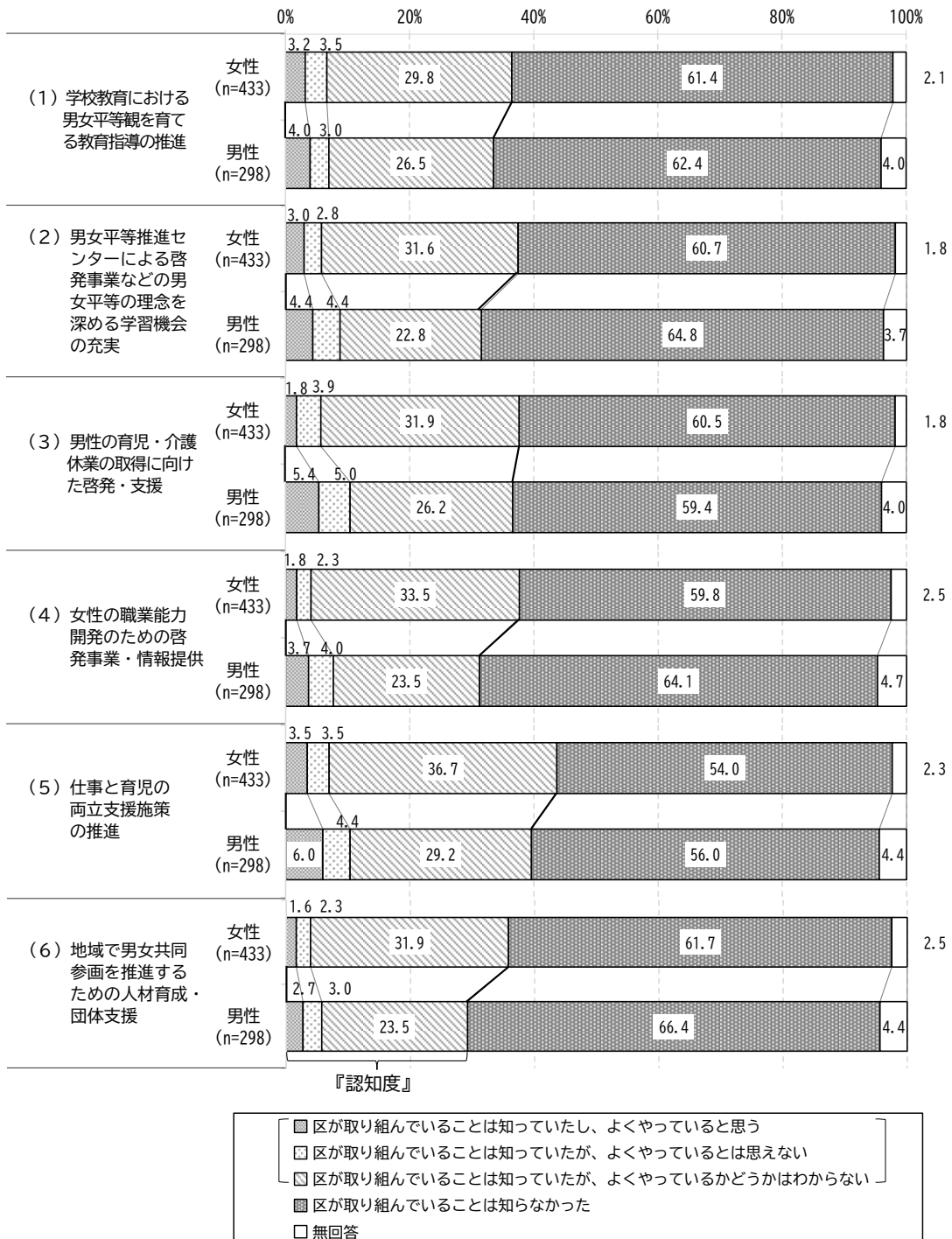
「区が取り組んでいることは知らなかった」については、「(9) 性教育・性感染症対策や子宮がん・乳がん健診の推進など、性と生に関する健康支援」以外の項目で回答が多くなっており、特に「(11) デートDV（恋人間で起こる、交際相手に対する暴力のこと）予防の啓発」は69.3%となっている。

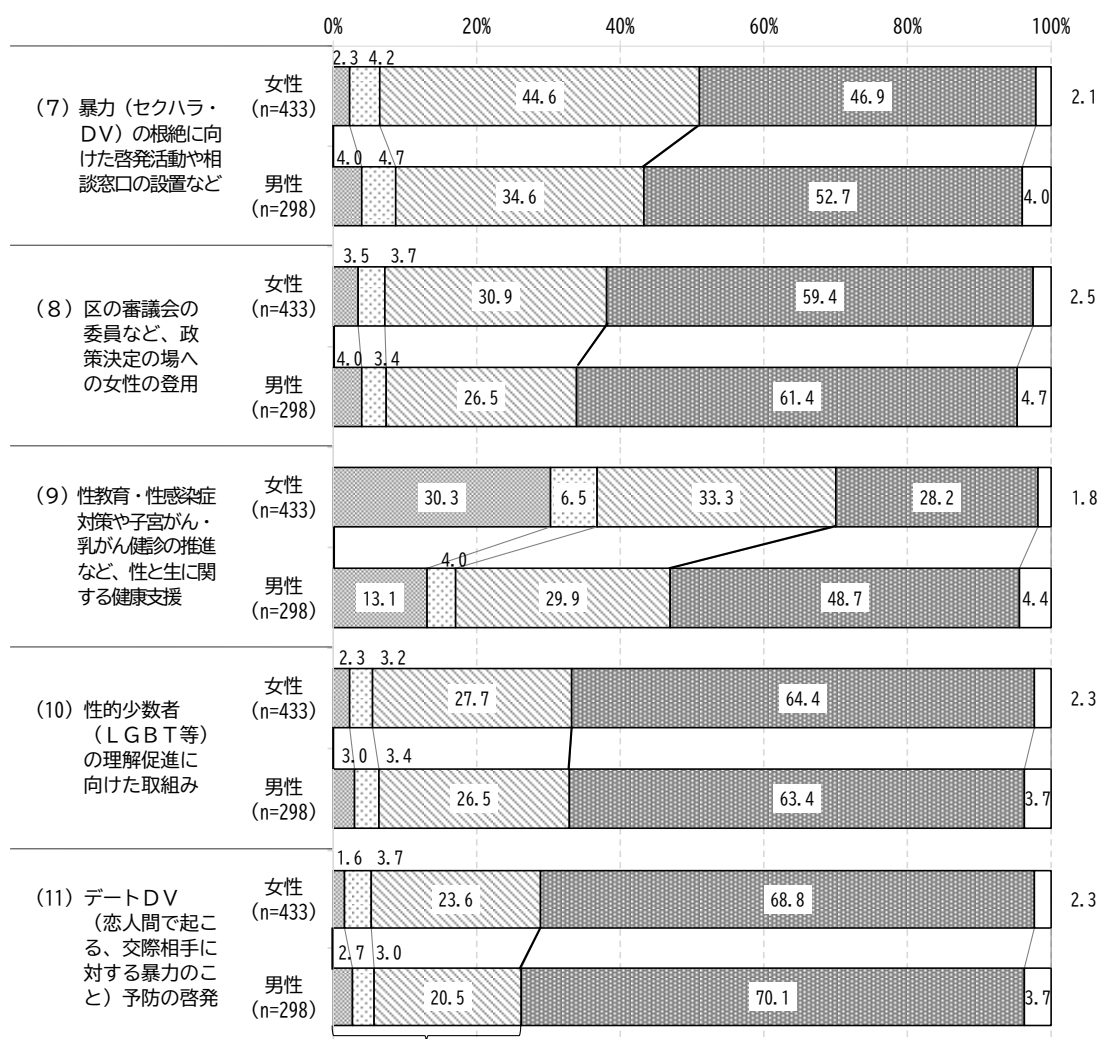


【性別】

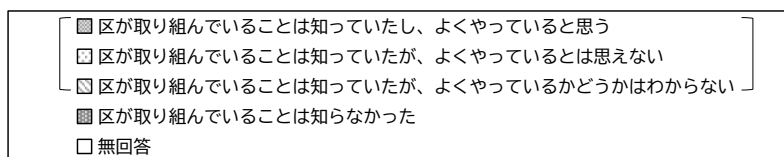
女性・男性ともに「(9) 性教育・性感染症対策や子宮がん・乳がん健診の推進など、性と生に関する健康支援」の『認知度』(「区が取り組んでいることは知っていたし、よくやっていると思う」と「区が取り組んでいることは知っていたが、よくやっているとは思えない」と「区が取り組んでいることは知っていたが、よくやっているかどうかはわからない」の合計)が最も高く、次いで「(7) 暴力(セクハラ・DV)の根絶に向けた啓発活動や相談窓口の設置など」となっている。

また、いずれの項目も女性の認知度が高く、特に「(9) 性教育・性感染症対策や子宮がん・乳がん健診の推進など、性と生に関する健康支援」については、女性 70.1%、男性 47.0%となっており、性別による大きな差がみられる。



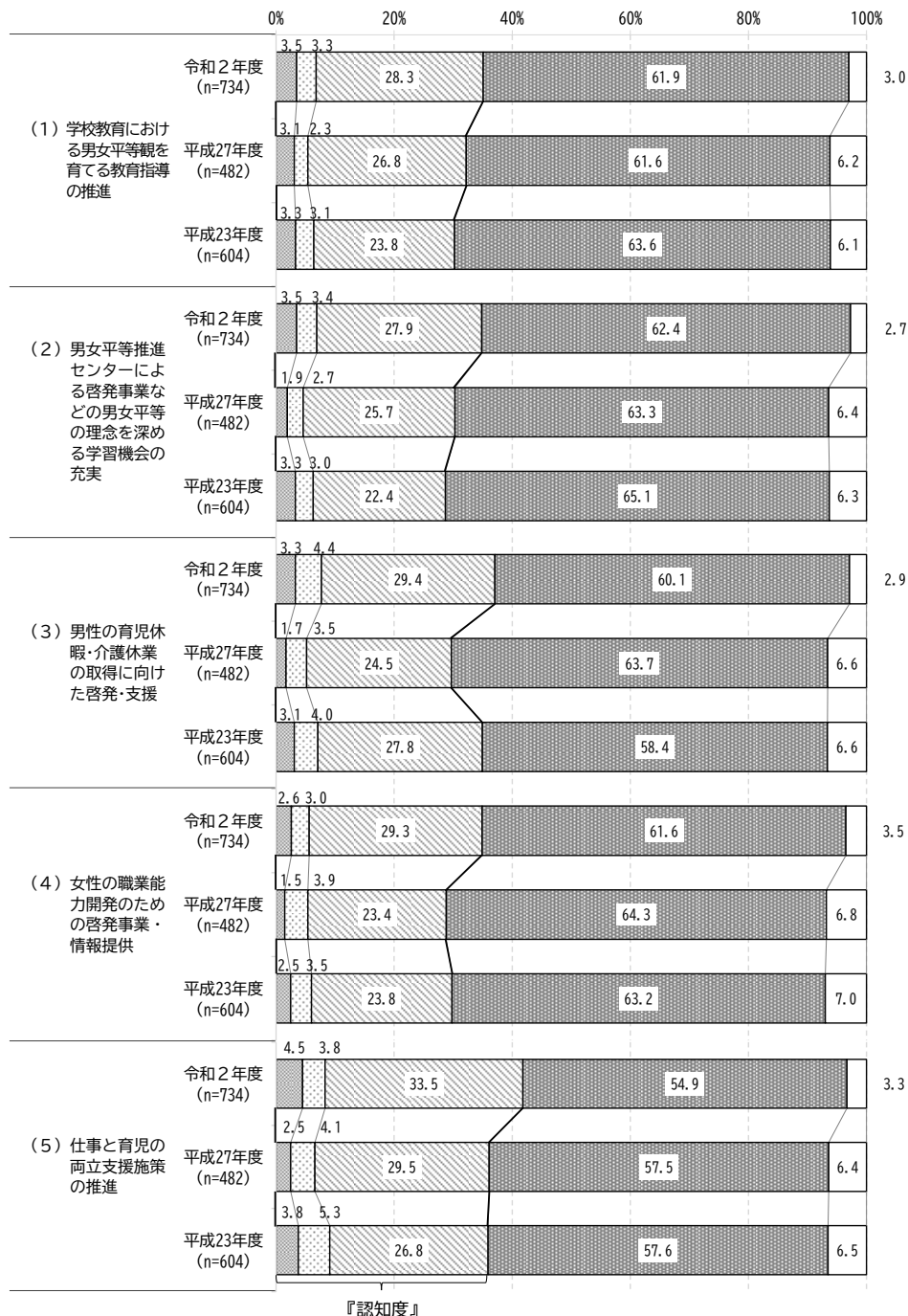


『認知度』



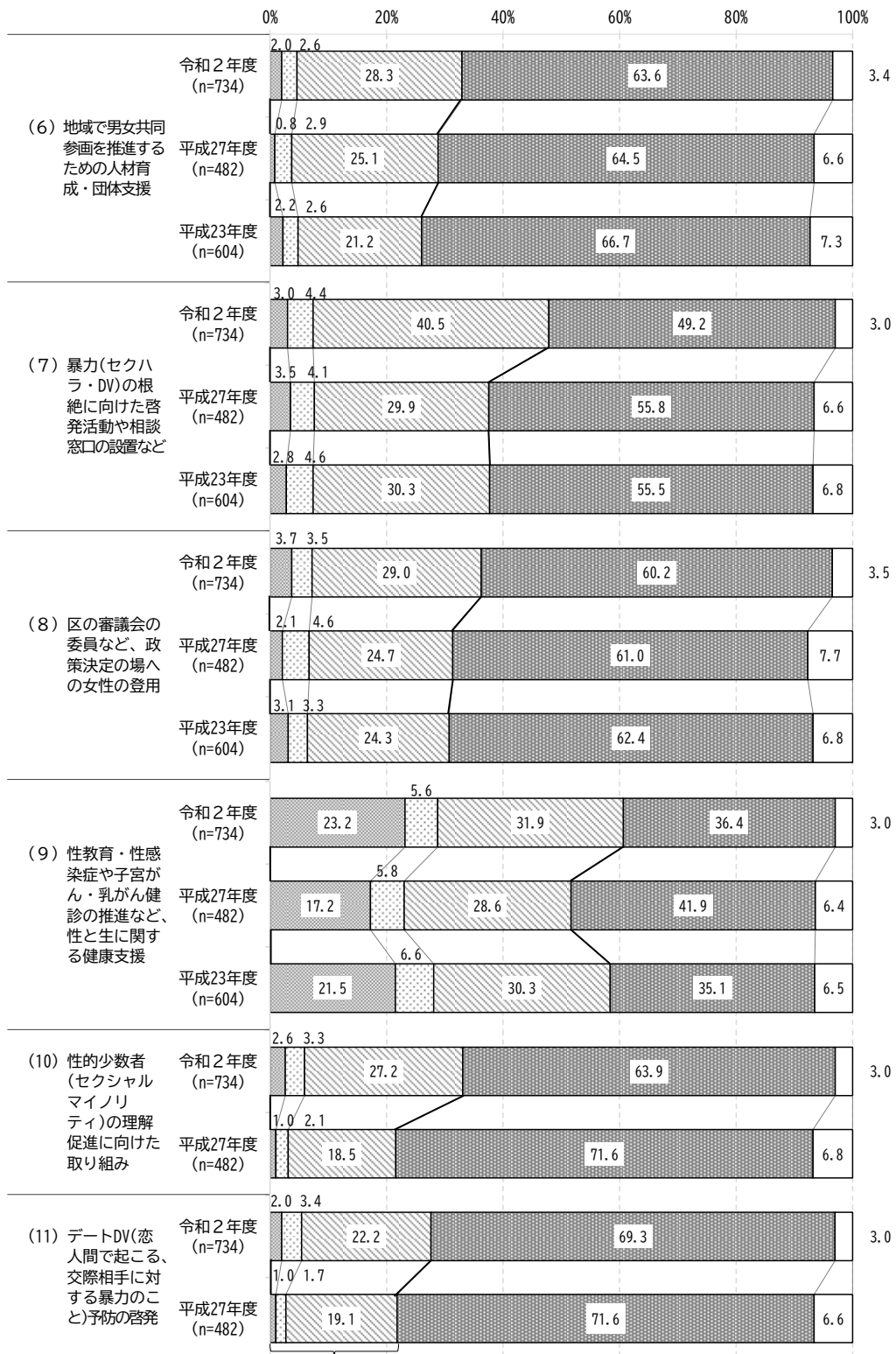
### 【平成23年度・27年度調査比較】

全ての項目で平成27年度よりも『認知度』が増加しており、特に「(7) 暴力(セクハラ・DV)の根絶に向けた啓発活動や相談窓口の設置など」、「(9) 性教育・性感染症や子宮がん・乳がん健診の推進など、性と生に関する健康支援」、「(10) 性的少数者(セクシャルマイノリティ)の理解促進に向けた取り組み」などで増加している。

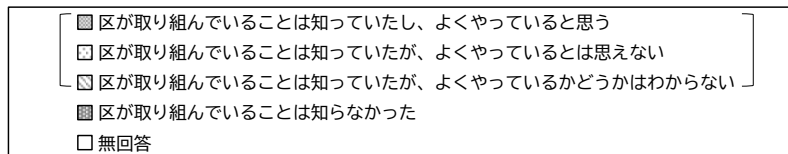


『認知度』

- 区が取り組んでいることは知っていたし、よくやっていると思う
- 区が取り組んでいることは知っていたが、よくやっているとは思えない
- ▨ 区が取り組んでいることは知っていたが、よくやっているかどうかはわからない
- 区が取り組んでいることは知らなかった
- 無回答



『認知度』



※ (10) (11) については、平成27年度調査より、新規調査項目として追加した。

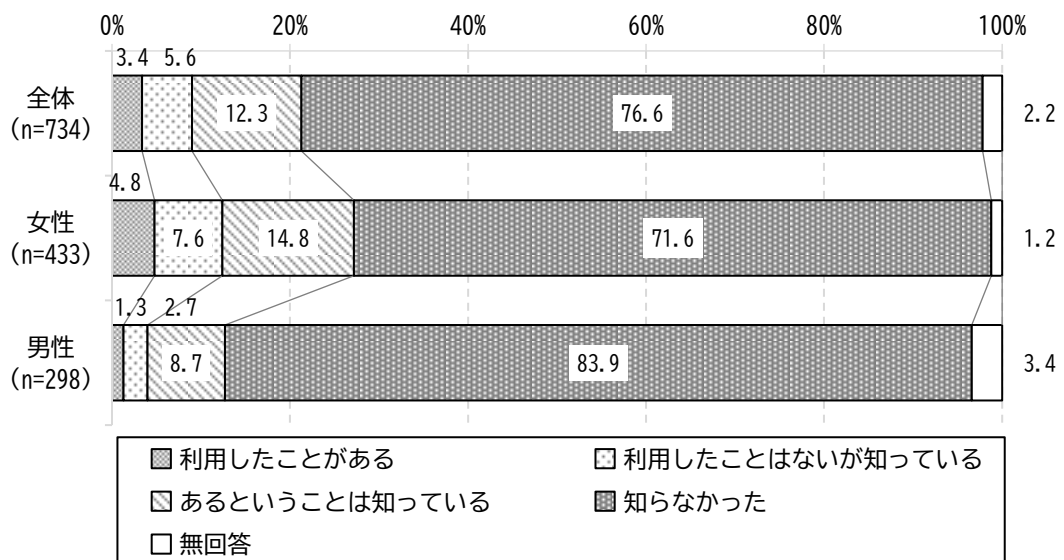
問 31 男女平等推進センター（エポック 10）は、男女共同参画社会の実現を目指し、交流や情報提供をしています。あなたはこのアンケートを受ける前から「エポック 10」を知っていましたか。  
（○は1つ）

**【全体】**

「知らなかった」が76.6%と最も多く、次いで「あるということは知っている」が12.3%、「利用したことはないが知っている」が5.6%となっている。

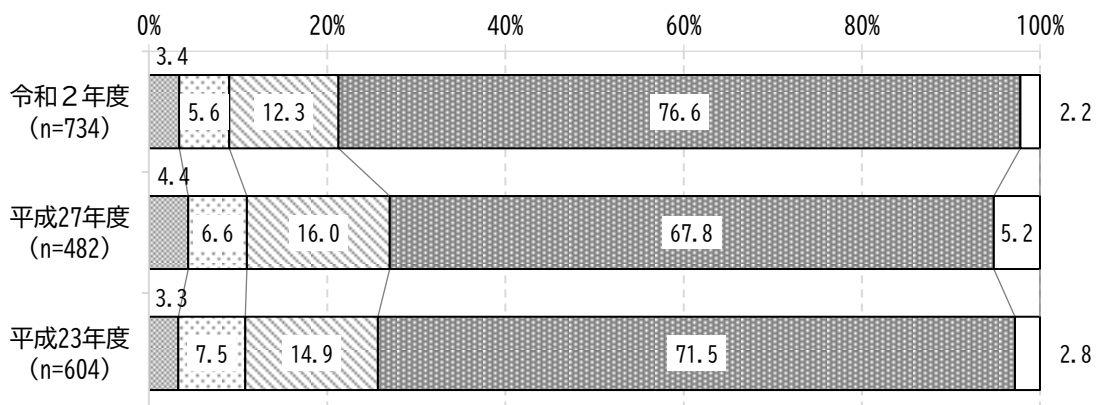
**【性別】**

女性・男性ともに「知らなかった」が最も多く、次いで「あるということは知っている」となっている。また、「知らなかった」については、女性71.6%、男性83.9%となっており、性別による差がみられる。



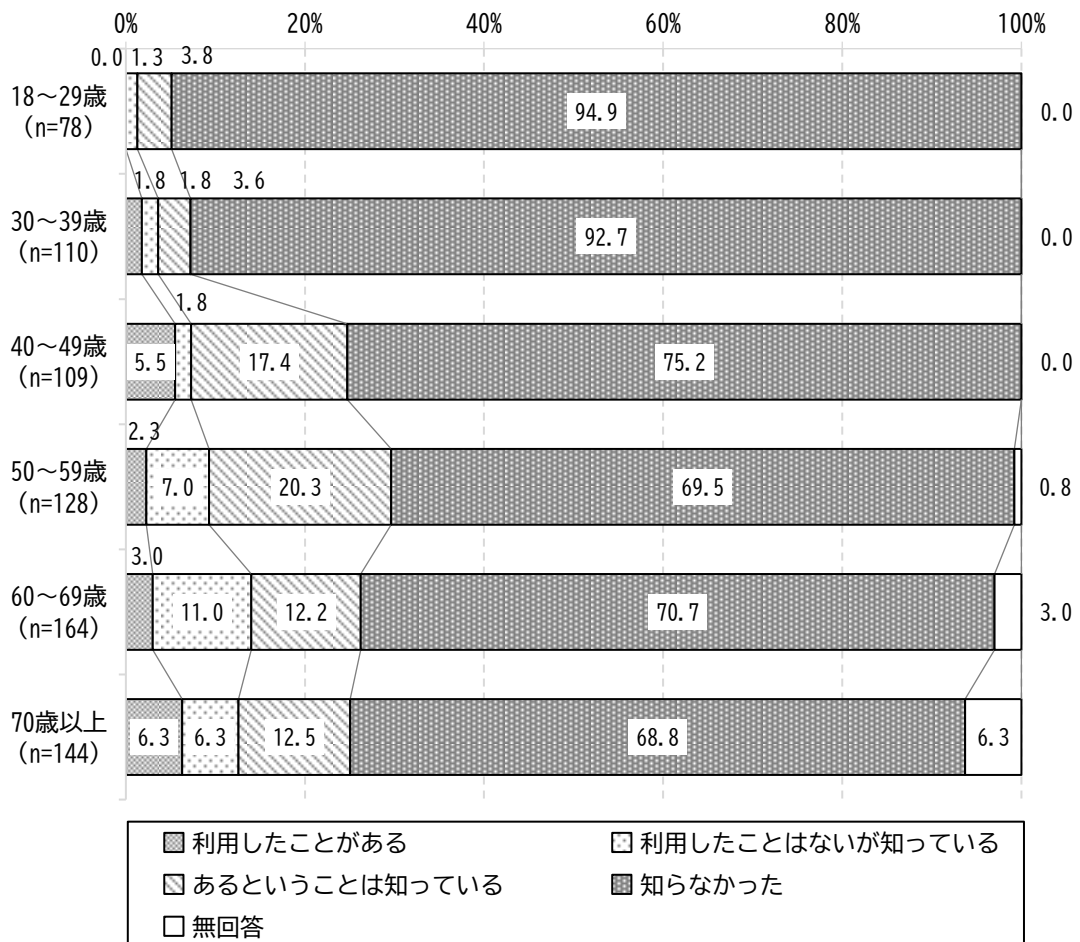
**【平成 23 年度・27 年度調査比較】**

「知らなかった」が平成 27 年度の 67.8%から増加し、令和 2 年度には 76.6%となっている。



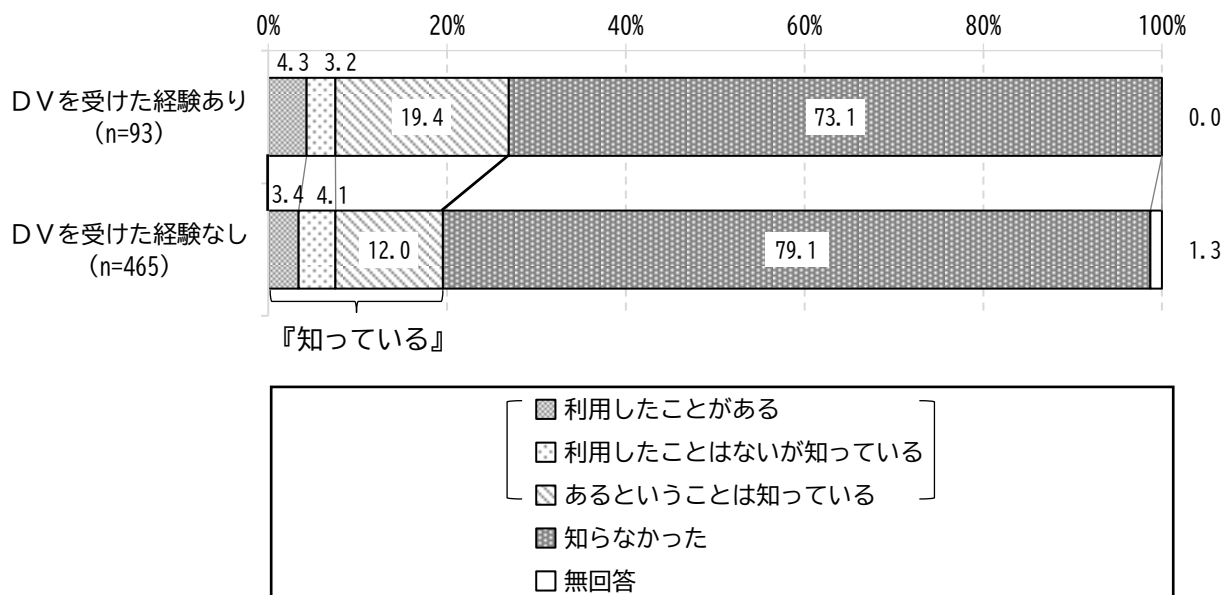
### 【年齢別】

いずれの年齢層においても「知らなかった」が最も多くなっているが、特に30歳代までの若い年齢層で多くっており、9割を超えている。



### 【過去5年間のDVを受けた経験別】

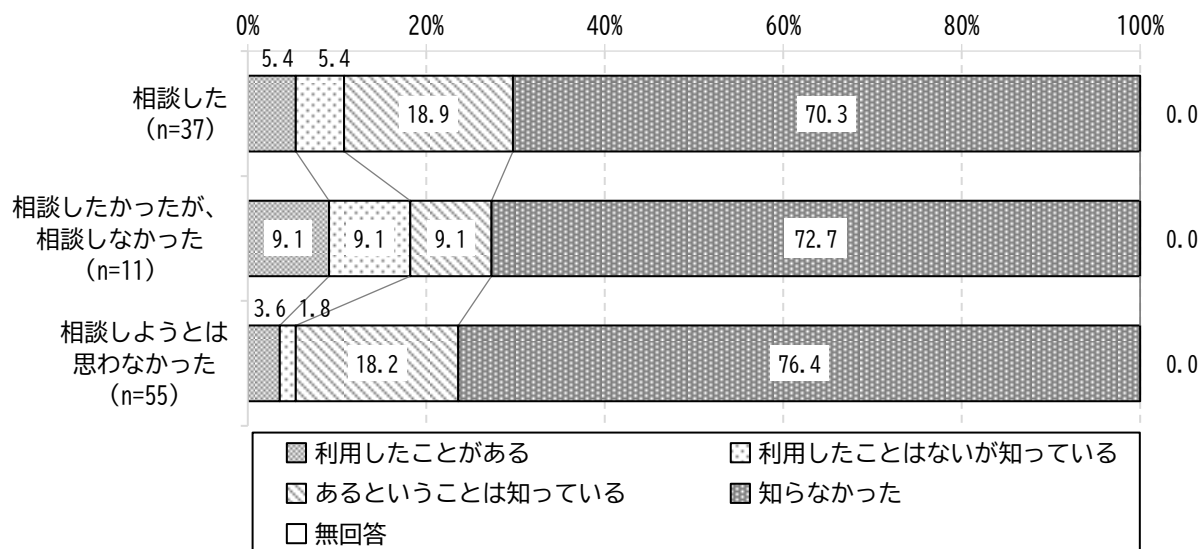
DVを受けた経験がある場合は、『知っている』（「利用したことがある」「利用したことはないが知っている」「あるということは知っている」の合計）が26.9%となっており、DVを受けた経験がない場合の19.5%よりも多くなっている。一方で「知らなかった」は、DVを受けた経験の有無にかかわらず、7割以上となっている。





### 【DVの相談状況別】

「知らなかった」は「相談しようとは思わなかった」で最も多く76.4%、「相談した」では70.3%となっている。



## 第5章 自由回答・「その他」の回答

### 1 自由回答について

自由回答はいただいたご意見のうち、主なものを掲載している。そのため、下記の表中に記載のある件数と掲載されているご意見の数は必ずしも一致しない。

No.	意見内容	件数
①	豊島区の施策に関わること	40件
②	男女共同参画社会について	36件
③	意識改革・啓発について	27件
④	家庭生活、就業、社会参加について	22件
⑤	その他	49件

#### ①豊島区の施策に関わること

- 妊娠した際の保健所への訪問（妊娠届、ゆりかご面接の予約、面談など）が平日しか受け付けられていない。結果働いている女性は平日に有休等を使用しなければならず不便を感じました。（女性、30～39歳）
- 豊島区に住み、区民としての自覚はあるものの、豊島区がどのような形でどんな活動しているのかは自分から積極的に情報を手に入れようとしなにかぎりは情報が入ってこない気がする。取り組みさえよく知らなかった。もっとどんどん開示すべきであると思う。（女性、40～49歳）
- 「エポック10」の存在を知りませんでした。もっと区民に知ってもらえるような形で広めてほしい。男女問わず気軽にメンタル、DV、セクハラ等を相談できるような場所がほしいです。（女性、40～49歳）
- 男女が共に参画することを目指す時、民間企業のサクセス事例を取り上げたり企業の社内報などに仕事、家庭、地域貢献などのヒントがあるのではないかと思います。そのようなライフモデルの情報を共有し目指すまちづくりを進められることを期待します。（女性、50～59歳）
- 男女の区別や年齢の枠を取り払って参加意欲のある人に対しては広報や情報開示をして取り組むチャンスを増やしてほしい。また働いている人にとっては時間の枠、曜日の枠を広げてもらうと助かると思います。豊島区は若いご夫婦の方々が男性が育児に参加していると感じます。仕事においても年齢や性の区別なく働き、社会に参加するのがもっと増えてほしいです。（女性、60～69歳）
- 豊島区で性的少数者に関する制度や考えを進めていただけること、とてもありがたく思っております。性的少数者に関する制度や講演会などがありましたらぜひ自分もお手伝いさせていただきます。積極的に参加させていただきます。（男性、～29歳）
- 地域の公共の場をつくるのが大事と思う。公共の場は社会人に対して一緒に活動を参加できる場所。（男性、30～39歳）
- いわゆる大手の企業はこういった姿勢はやっているようだが実際には男性が中心なのかなと思う。今後、保育と介護の職員集めが取り合いになる時が来るので区独自で上記の労働者に対して給付金等、手当をあげる事をしてほしいと思う。保育と介護の現場が充実していればそれを利用する労働する人々（30～50代くらい）は助かるだろうし、そういう「区」を選んで住むと思う。（男性、30～39歳）

- 主に大企業は対応していると思うが、中小企業ではできていないところが多いように感じる。中小企業への指導や支援が重要と思います。(男性、40~49歳)
- 男女平等はもちろん、豊島区は外国人も多い区なので、外国人も含めた相談や支援も充実させてほしい。(男性、60~69歳)

## ②男女共同参画社会について

- 今の時代では男女の差はほとんど無くなってきていると思います。あとは女性自身が社会とどう関わるかやスキルを身につけようとする意志次第だと思うので、特別に何かする必要はあるか分かりません。ただ、LGBTの方は生きづらい世の中であると思うので、皆が理解できるような情報の提供とLGBTの方々の相談にのることができる場を増やせばよいと思います。(女性、~29歳)
- 男女関係なく、個人の能力を尊重した男女平等な社会になってほしい。(女性、~29歳)
- 性的少数者への対応はすばらしいと思いました。教育などの方針を変えることにより、差別しないことが当たり前な区になるといいと思いました。男女平等っていうのは変な感じがします。たしかに管理職は男性が多いけど、それだけ目指している人、有望な方が現状の男性に多いからだと思ってます。無理やり女性を管理職へとかは意味がなく、今やってること(新人採用で男女平等になってきていると思うので)でパイを増やして長い目で女性で管理職を目指す人、有望な方を増やしていけばいいと思いました。(女性、30~39歳)
- 外国人で住民票を持つ人が多くいる豊島区で、男女という視点は少し時代遅れな感じがする。(LGBTも男女という分類では語れないもの)。外国人、性的マイノリティーも含め、社会的マイノリティー(女性やひきこもり、障害者等)が、それぞれ自尊心を持ち自分の考えで選択をした生活、社会活動(就労やボランティア)を送る事ができるようになれば男女共同参画社会はおのずと醸成されるのではないかと思う。そのために区が出来るのは、弱者の悩みやそれを解決する方法をくみとり、弱者以外の人たちへ説明、コンセンサスを得るよう啓発して弱者を支援することが、弱者以外の人を含む社会全体のメリットになるのだという共通意識を持てるように誘導、発信することではないかと思う。(女性、40~49歳)
- 豊島区に住んでまだ3年程度ですが、取り組みなどは良いのではないかと考えています(豊島区在住の満足度高いです)。「女性が」「男性が」とするのではなく、性別に関わらない心地よい生活ができるのが望ましいと考えます。どうしても男女で(たとえば要職における比率の差など)生じるため、一定の数値目標はある期間必要かもしれませんが、早くそのようなことがない社会になってほしいです。個人的には、夫の転勤で仕事を辞め→ついていき→また仕事に就き、と繰り返してきたため、転勤のある日本的雇用慣行が女性の就業継続を阻害しているという思いが強いです。幸いなことに、現在管理職として働いていますが、男女比率がほぼ1対1なのに、女性管理職は私1人というのが現実であり、私が専門職だからでもあります。専門職に限らず、同等の機会をもてる社会の実現を切に願うとともに、女性自身も自分の人生に覚悟をもって強く生きてほしいです。(女性、40~49歳)
- 自分も性的少数者である。いずれは現在の恋人とパートナーシップを結びたいと思っているが、まだハードルが高すぎる。2人共区内に住まなければいけない等、条件が難しい点がある。本来であれば結婚して家族として生きていきたいが、日本国内ではまだ認められていないのが現状である。そのため夫婦や家族を対象にした制度から一生外されたままである。周りの友人や家族は自分が性的少数者だということは理解してもらっているが会社では隠している。まだ全ての人に受け入れてもらうのは

難しい。当事者からすると本当は「理解」してほしいがなかなか難しいと思うので、そういう人もいるということを「認知」してもらおうところからスタートしていきたい。(男性、～29歳)

●社会制度や習慣によるところが大きいと思います。「仕事」と「家庭」の両立も良いと感じるが「主婦」から「主夫」になっても尊重され、家計が成り立つ社会になっていくことも大切だと考えます。

(男性、30～39歳)

●性別にこだわることなく、その人の能力で活躍する場所を設けることができるシステムが大事だと思う。(男性、60～69歳)

### ③意識改革・啓発について

●豊島区内の中学校に通っていました。女子生徒はスカート又はズボンの選択がありましたが、男子生徒はありませんでした。いっそのこと男女同じ制服を採用していただければと思いました。性教育の授業をしっかりと指導していただきたかったです。子育ての授業を欧米から見習い反映していただきたかったです。(女性、～29歳)

●法律の整備と個人の意識改革。特に個人で男女平等の意識がなければ、制度等を理解、利用・活用できないと思う。また、学校教育の場(幼少期)から男女平等であったり、性的少数者の存在を教えたり(男と女だけではない)、偏った知識ではなく、幅広い視野を持てるような知識を付与できる仕組みを作って欲しい。(教師だけでは負担があると思うので、専門家や当事者から話を聞けると、生きた知識になると思う。)(女性、30～39歳)

●子どもが低学年の頃から、男女関係なく家事全般を手伝わせ中学生の頃からは身の周りのことは自分でできる教育を家庭、学校で教える必要があると思います。子どもの頃からの習慣で、女性も結婚、出産をしながら就職することもでき、男性も子育てに協力することができると思います。(女性、50～59歳)

●企業でできることは女性社員の意識の向上、男性社員、若い女性社員の意識深部の意識改革があります。まだまだ進んでおらず、特に日系企業。地域でできることも多いので地域でできること、企業でできること、個々人の意識を変えていくことの3つの輪で進めていけたらいいと思います。私は自分の会社とかかわる会社(お客様とか)で、少しずつ改善できたらということでアプローチをしているところです(教育とかの)。(女性、60～69歳)

●LGBTに関しては、家族内においても人に知られたくない等の問題があると思うので、啓発活動が今までよりも必要と感じます。(女性、70歳以上)

●幼児期からの性別刷り込み。幼児向け衣類や玩具が、男子向けが青、女子向けは赤、ピンクなどが固定化されていると感じます。大人社会は、今回のアンケートのような取り組みが行われ、徐々に改善していると思いますが、幼児期からの刷り込みの状況は昔からほとんど変化してなく、改善の必要があると考えます。(男性、50～59歳)

### ④家庭生活、就業、社会参加について

●女性が働きながら育児をするということはとても大変な事です。職場の労働環境(育児時短制度など)がもっと整い、皆が利用しやすくなると仕事を続けることは困難かなと思います。私も今そう思っている一人です。育児のために一度仕事を辞めようと考えています。子ども達が育ち手が離れた時、もう一度働きたいなという気持ちはありますが、再就職は今の社会の現状だと難しいのかなという気がしています。(女性、30～39歳)

- 以前はパート労働者や派遣というイメージが多かった。家庭との両立が難しかったため女性は短時間労働者という枠にはめられやすい。特別な才能や能力がなければ女性は一人前の労働者にはなれないというイメージがある。女性も男性も短時間であっても正社員としての扱いを受けられる社会になってほしい。男女平等とはいっても身体的な特徴に違いがあることも事実なのでその点は考慮していくべきだと思う。(女性、50～59歳)
- 社会の最小単位である家庭で男女は平等であると教えることが大切だと思う。女性が就労していてもしていなくても立場は変わらない。その逆もあり得る。家事労働は人が人らしく生きるために一生離れることのできない大切な仕事である。その評価が低いから男女不平等が起きる気がする。別に女性だけが家事を担うべきなのではなく、それぞれの家庭ごとに分担を決める事が望ましい。経済活動と家庭内の仕事を一体で考えることによっておのずと女性が参画できることが増えていくと思う。(女性、60～69歳)
- なかなか難しい問題だと思います。男性が出しゃばり、女性があまり前面に出てこない文化が昔から続いていると思います。また、女性活躍を促進しても遠慮してしまう方々も多いと思う。これからの人口減に備えて、男女参画、高齢者の仕事継続も必須だと思う。(男性、40～49歳)
- 女性が参画しなければならなくなった原因の一つに非正規労働者が多いため年収が少なく、共に働かなければならない社会になった事に問題がある。女性の働く場を広げる必要は有る。女性ならではの感性は、男性には無いものが有る。もっと会社を充実させることが必要。日本国民の声が届かない状況になっている。(男性、60～69歳)

#### ⑤その他

- 性教育は大事な事なのできちんと取り組むべき。男性にもしっかり理解してほしい。(女性、30～39歳)
- 性的少数者への理解も足りないと考えるので、何が必要かどうすれば不自由なく生活できるか、もっと当事者の声を聞いてみたい。(女性、30～39歳)
- アンケート内容は、おおむね女性が不利という前提のものを多く感じましたが、実際は男性にとっても不平等のことが多くあると思います(育休をとりにくい男性や、男性だから力仕事を押し付けられるなど)。(女性、30～39歳)
- アンケート内容が少し女性に対してネガティブな前提であることが気になりました。意外と現代の特に働く女性は前向きな目標を持っていると思います。(女性、50～59歳)
- 日本国が考え方を変えなければ自治体が変わるのは時間がかかる。政界でも男性が多い。今後豊島区のことを知るべし！と思いました。(女性、60～69歳)
- 町会に加わらない家庭や個人が増えていて、町会に加わっている人の負担(経済的にも時間的にも)が大きくなっている。若い人のつながりが薄いので、保育園と介護施設を一体化して交流をはかると良いと思う。男女の別なく一体化すべき。若夫婦は男女差が少ないが、老人に対して関心がうすい。男女の別なく歩み寄るべき。男女にこだわる事こそ古い考え方だと思う。能力のある者が能力を活かすべき。女子の独立心を高めること。(女性、70歳以上)
- お互いの気持ちを尊重しあった上で、進めるべきだと思います。(男性、～29歳)
- 若い人達に必要ではあるが、自分達の世代では出来なかった事であり反省はあっても良いアイデアは思いつきがない。(男性、50～59歳)
- このアンケート 2000 人に対しどれだけ回収できたのだろうか。回収率が高ければ良いが、低い

であれば代価を考えた方法に特別給付金やマイナンバーカード発行等、自分達に興味や利があることには行政に食いつくが、なければ他人事で済んでしまうので。特に今の時期コロナ以外の事は何でこんな時にとってしまう。(男性、50~59歳)

- 男女共同参画社会とは、どういう社会を言うのか？その理想像がわかりません。コロナ禍とウイズコロナの今後の社会を考えた時、新しい時代、社会が始まると思いますが、このようなアンケートを知るだけで、気付いた事が沢山ありました。多くの区民にもっと宣伝、啓発していかれたらと思います。国や都に任せきりになるのではなく、豊島区住民として独創的な参画社会をどう作っていくのか？！難しい問題ですが、取り組まれていることを知り、豊島区はよくやっていると思いました。ただ「男女平等」とは、全て同じにする事だとは決して思わないので、「平等観」「男性観」「女性観」は何か？という原点からの問いが必要だと思います。(男性、60~69歳)

## 2 「その他」の回答について

問6-1 「区別せずに考える」と答えた方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。

- 自分がどんな人間かを自問し、それを他者に説明（表現）できる。異質なものを受け入れる寛容で柔軟な心をもつ。他者の痛み、弱さ、悩みを想像できるイマジネーション力。
- 心身共に清らかである。
- 自分で考える、主張することができる。

問6-2 「別々に考える」と答えた方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。男子、女の子の場合それぞれについて、下の枠内に番号を記入してください。

- 身を守る（ストーカーから）。
- 自活できる。

問7 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。

- 保護者の男女平等意識を育てる（男尊女卑思想は親から子どもに影響される）。
- 家事、マナーリテラシー、介護、看病に関する基礎的な勉強。
- まずは、教職者（管理職を含む全て）にハラスメント（人権と差別）に関する定期的な反復研修や意識啓蒙を図る施策を増やす。
- 男女関係なく、自分の考えを表現することを尊重する、トレーニングする教育の充実。家庭科の授業の充実。古典的な男女概念が暗に含まれている文学などの教科書からの排除、または違和感についてクラスでディスカッションするプログラムの実施。
- 男女に関係なくそれぞれの才能を活かす教育。
- 男女平等とは全て同じ見方をする事ではなく、男女それぞれの特徴を生かした社会だと思うので、その上での教育をしてほしい。

問8-2 あなたが現在働いている理由や目的はどのようなことですか。

- 自己実現のため。
- 社会と繋がるため。
- 他者からの学び。
- 健康とボケ防止。

問8-3 あなたは「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」について、どのような状態が理想だと思いますか。また、現実はどうですか。

**【理想】**

- その時々で優先されるのは変わる。
- 各人がとりたようにバランスをとれる状態、仕事だけ、家庭だけ、個人だけでも良いと思う。

**【現実】**

- 職場による。仕事だけ優先している人がいるのも事実。
- 状況に応じて優先順位を変える。時に何かを犠牲にする。

問8-4 次にあげるような事柄で、現在のあなたの職場に当てはまるものがありますか。

- 総責任者は常に男性。
- 自営業なので時間も年齢も制限なく全てやる。
- 採用時に女性が避けられる傾向がある。男女同じ能力なら男性を好んで採用しがち。
- 女性は愛想良くせねばならないが男性は無表情でも許される、威厳があると思われる。
- 管理職の男女比率を意識するため、女性の管理職を多くしようとする風潮がある。
- 事務職は女性が多い

問8-7 あなたの職場で育児・介護休業制度を利用できないと思われる理由はなんですか。

- 人数が少ないので。
- 利用者が少ないから。

問8-8 あなたが現在働いていない理由はなんですか。

- 夫の仕事を補助。
- 家事が大切な仕事であり好きだから。
- 金銭的に問題は無いため趣味に多く時間をとりたい。

問8-10 あなたは、どのような形態で働きたいですか。

- 介護との両立ができるものがあれば。
- 嫌な思いをしなければなんでも良い。

- ボランティア
- 世間に役立ちたい。

問9 男性が育児休業や介護休暇を取ることに、あなたはどのように思いますか。

- 男性の会社での立場や状況という訳ではなく、家庭の状況（妻の産後の具合や手伝ってくれる人の存在の有無）によると思うので、一概に言えない。
- 取りたいと思う人が気にせず取れる環境にあり、取ることを強制するものではない。

問10 今の社会で、男女が共に「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」の両立をしていくためにはどのようなことが重要になると思いますか。

- 子どもの頃からの教育。
- 世代間でのジェネレーションギャップを埋めるような取り組み。
- 家事、育児、介護等のスペシャリストを積極的に養成して、個々の家庭に応じて自由な組み合わせで利用できるようにすること。
- 転勤時の同伴休職を男女共に制度を整える。

問11 女性の一生と職業の関わり方で、あなたが最も望ましいと思われる形態はどれにあたりますか。

- 子育て期間を除くかも含めて本人の意思で決められるのが望ましい。
- 子どもを基準に考えない。
- 結婚後は、家事と収入で分担するが相手が収入担当の場合は退職する。相手が家事担当の場合は、産前産後を除いて職業を持つ。
- 選択肢以外にももっと様々な働き方があっていいのでは(男女ともに)。
- それぞれの向き不向きがあり一概に言えない。それぞれの形態を尊重することが重要でこのような質問こそが差別を生む。

問12 あなたが、女性の働き方について問11のように回答した理由は、なぜですか。

**【3 子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）】**

- 子供の成長過程において、例えば受験など子供が親を必要としている時期は、それまで親自身が頑張ってきた仕事をいったん辞めても子供に寄り添う時期が出てくるかもしれないので。
- 子どもと一緒にいる時間を長くしたい為、母親が見た方が良いという理由とは少し違います。

**【4 子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）】**

- 働きたいと思うのであれば、結婚や出産に左右されるべきではないと思う為。
- 職業をもつことで自律したメリハリある生活になる。
- 本人の選択肢が最も増えるから。
- 税を納める人口は多い方が社会にとっても良いと考えるから。
- 食事や掃除などに対しても便利な外部サービスがあるので、共働きで経済力を上げた方がいい。



## 【6 その他】

- 男女問わず働きたい人が平等に（対等に）働けば良いと思う。
- 考え方、価値観の変化があることが多いため。

問 13 育児、介護などの理由により仕事を辞めた女性が再就職するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。

- マッチング機能の充実。アクセスしやすさ。
- 本質的な当人の能力や未経験業務も含めた活躍可能性を見出すキャリアアセスメントやキャリアコンサルティング及び企業等へのその普及、浸透。
- 古い価値観の撲滅。
- 本人の意識、教育を変える。
- 柔軟な働き方ができる職場が増えること。

問 14 女性が職場において活躍するために、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。

- 職場での多様な価値観を認める経営層や管理職が増えること。
- 男女平等参画に反する取り組みを行う企業への罰則も含めた具体的措置。
- 男女を意識しない能力評価。
- 女性の意識改革。リーダーや管理職に登用を無理やりしても効果はない。
- 男性が「女性だから」、女性が「男性だから」と考えない。女性だから任せられない、男性だから役に就けるという考え方が根付いている事が問題。
- 制度に男女の区別がなく、能力に応じて活躍できる設定。
- 職場のサポート、突然の子どもの病気など。
- 能力を高めるために教育が必要。
- 出産、育児、家事およびジェンダーに関する考え方(固定概念)や偏見に対する教育。
- 非正規労働者が多いのが問題。

問 15 あなたは、過去5年間にどのような「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」の被害を受けたこと、見聞きしたことがありますか。

- あなたの年齢で結婚していないなんて、社会的には立場なんてないと言われた。
- 採用試験の説明会への参加を女性であることを理由に断られ、別開催の女性向け回を案内された。
- 仕事中に体調が悪いことを告げると、上司（取締役）本人は全く悪気なく「更年期障害の時期だろうから無理しない様に」と大勢の前で言われた。
- LGBTQ+に対して配慮の無い発言。
- 社内でのストーカー。
- 電車で痴漢をされた。
- いつ妊娠するか分からないから〇〇さんも採用した。〇〇さんは結婚したから早く帰さないといけないから〇〇さんこれをやって。

- 女性の顧客について、容姿がどうだったとか、すぐ泣く・・・とか。男性社員同士が話しているのを聞いて不快な気持ちだった。
- わいせつメール
- 妊婦のお腹ならさわっても良いと思ってさわる男性

問 17 あなたは現在または以前の配偶者やパートナーから、過去 5 年間に次にあげるような行為を受けた経験はありますか。また、過去 12 か月以内に、次にあげるような行為を受けた経験はありますか。

- 妊娠中、出産後（主人が）家事を行っている際にため息をつかれたり「オレだって忙しい」等の事を毎日言われ続けた。
- 皿を投げつけられる、意見を言うとキレる。
- 目の前で自分の事を傷つける。
- 子どもに危害を加えようと脅す。
- 嫌味を言う、バカにする。
- へべれけに酔っている事を戒めたらぶっ殺すぞと 1 度だけ言われたが本人は忘れたふりをしている。
- 食事の支度をしているのに無視する（食べない）。行動を一つ一つ批判する

問 17-4 相談しなかった理由はなんですか。

- ストレスを溜めたくなかったが、相談しても本人がもう変わる事はないと感じたため。色々相手と交渉したが変わらない。
- 当人に直接言って別れたいから。

問 18 公的機関によるDVへの対応として、どのようなことが大切だと思いますか。

- シェルターに逃げられても外出が出来なかったりするのでシェルターを増やすだけでなく制度の見直し。
- 被害者の情報漏洩防止の徹底。

問 20 あなたの考えに影響をおよぼしているのは、どのようなメディアですか。

- 周囲の人からの情報。
- 友人、知人。

問 22 あなたは、現在、次にあげる地域活動などに参加していますか。

- 障害者施設の地域運営委員と家族会。
- マンションの理事会。

問 23 男性の地域参加や家庭生活への関わりが一般的に少ないと言われていますが、それらを進めるために必要なことはどのようなことだと思いますか。

- メディアが積極的に報道すること。法律を作ること。
- 地域活動に関する情報周知の充実。
- 女性でも地域参加はハードル高く感じるため、自治体が積極的に地域活動に対する啓発と支援をすること。
- ご近所の人とすれ違った時のあいさつ。
- 職場の理解。
- 子どもの頃から意識を持たせるように育てる。

問 24-1 あなたは、地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- 「女性のくせに」「女性だから」と考える人の考えを改める。
- 女性がリーダーになる為の教育が必要。
- 男性も女性も（どちらでも）区別なく参加できる仕組みが大切だと思います。

問 25 あなたは、今後、女性が政策・方針決定の過程に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- 性別を気にしないでその人の能力次第で登用できる仕組みにすべきである。
- 議会の半数を目標に一定割合を女性にする法制化。
- 女性リーダーとしての資質のある人材の発掘。企業で活躍する人材など。
- 区の女性職員のキャリアアップ。
- ロールモデルをたくさんつくる。

問 26 男女共同参画社会を実現するために、あなたは、どのようなことが大切だと思いますか。

- 各企業体に男女別職員数、勤続年数などを公表させること。
- 男性だから〇〇、女性だから〇〇といった考えをなくす。
- 平等というのは全くのイコールということではなく、それぞれが良い点、悪い点を補いあって実現されるものという理解。
- 育児を終え再就職を望む際、職場で求められる技術（パソコン操作方法や知識）を習得出来る講習を行政が定期的に行い社会復帰への不安を除くようにすること

問 28 性的少数者（LGBT等）が暮らしやすい社会をつくるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- 性別ではなく個人を見る。
- OPEN にできる環境を作る。
- 自分が LGBT のような名前のついた特別な存在かどうか分からない（そのまま自然に過ごすこと

ができるかもしれない) 状態であっても相談できる場の設置。

- 意識改革
- 何でも細かく分類したり「LGBT」と枠組みを作るのではなく、世の中には様々な価値観の人がおり、お互いを尊重していくことが大切であるという教育が必要だと思います。
- LGBTを含め、誹謗中傷行為への罰則強化。
- 教育現場での教育強化することも必要だと思う。

## 第6章 調査票



# 男女共同参画社会に関する住民意識調査 ご協力をお願い

区民の皆様には、日頃より区政にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

豊島区では、令和3年度に男女共同参画推進のための新しい計画である「第5次としま男女共同参画推進プラン」の策定を予定しており、そのための意識調査を実施することといたしました。この調査は、区民の皆様から「男女共同参画社会」に関する実態やお考えをお伺いし、今後の区の施策や取組みにあたっての基礎資料とさせていただきます。

本調査実施にあたり、豊島区にお住まいの18歳以上の方2,000人を無作為に選ばせていただきましたところ、あなた様をお願いすることになりました。ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、個人のお名前などが外部に出ることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年7月 豊島区長 高野 之夫

ご記入いただいた調査票は **8月20日(木)** までに同封の返信用封筒に入れてご返送ください。(切手は不要です)

この調査票についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

<豊島区 総務部 男女平等推進センター（エポック<sup>テン</sup>10）>

☎ 03-5952-9501 FAX 03-5391-1015

Eメール A0011400@city.toshima.lg.jp



裏面に記入上のお願いがあります。裏面もご確認ください。

### <記入上のお願い>

1. 宛名のご本人がお答えください。氏名は記入しないでください。
2. ボールペン、または、濃い鉛筆でご記入ください。
3. **新型コロナウイルスの影響により、職業・世帯構成等に影響を受けた場合、影響を受ける以前の状況でご記入ください。**
4. お答えは、設問ごとに（○は1つ）、（○は3つまで）、（○はいくつでも）など指定されていますので、当てはまる番号を○で囲んでください。なお、（○は3つまで）等、指定してある場合は、○は1つでも、2つでも、3つでもかまいません。
5. 特に指定のない設問は全ての方がお答えください。設問に矢印（⇒）がある場合は、該当者のみ、その矢印にそってお進みください。
6. 「その他」を選択した場合は、その内容を具体的にご記入ください。

### ～豊島区の男女共同参画に対する取組み～

豊島区では、区民一人ひとりの人権が尊重され、多様な人々が性別等にかかわらず、その個性を生かし能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現に向けてさまざまな取組みを行っています。

例えば、学校教育における男女平等推進のため、全小中学校において男女混合名簿を導入しました。また、政策・方針決定過程への女性の参画が低いことを課題とし、審議会における女性委員の増加に積極的に取り組んだ結果、女性委員比率は2014年の25.2%から2020年は35.2%に増加しています。

あなたご自身やご家族のことについてお伺いします

F 1 あなたが自認する性別を選んでください。(〇は1つ)

1	女性	59.0%	3	1. 2にあてはまらない	0.1%
2	男性	40.6%		無回答	0.3%

F 2 あなたの年齢は、どの区分になりますか。(〇は1つ)

1	～29歳	10.6%	3	40～49歳	14.9%	5	60～69歳	22.3%
2	30～39歳	15.0%	4	50～59歳	17.4%	6	70歳以上	19.6%
							無回答	0.1%

F 3 あなたの現在の職業は、どれですか(2つ以上当てはまる方は主な職業についてのみお答えください)。(〇は1つ)

1	自営業(経営者)	7.4%	8	派遣社員	2.6%
2	自営業(家族従業員)	2.6%	9	契約社員	3.5%
3	自由業・個人事業	4.4%	10	家事専業	11.9%
4	家庭内労働・内職	0.4%	11	無職	13.8%
5	常勤の勤め人(管理職)	8.4%	12	学生	4.0%
6	常勤の勤め人(一般)	25.6%	13	その他	3.3%
7	パート・臨時の勤め人	12.0%		無回答	0.3%

F 4 あなたの世帯構成は、どれですか。(〇は1つ)

1	単身世帯(ひとり暮らし)	25.2%	4	三世帯世帯(親と子と孫)	3.8%
2	一世帯世帯(夫婦のみ)	24.5%	5	その他の世帯	3.1%
3	二世帯世帯(親と子)	43.1%		無回答	0.3%

F 5 あなたに同居のお子さんはいらっしゃいますか。また、一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1	乳幼児	7.5%	4	中学生	2.5%	6	社会人	18.5%
2	小学生(3年生以下)	2.9%	5	高校生以上	6.9%	7	子どもはいない	54.8%
3	小学生(4年生以上)	2.0%					無回答	4.9%

男女平等意識についてお伺いします

問 1 あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。(〇は1つ)

1	男女平等になっている	4.1%	4	男女平等になっていない	36.2%
2	どちらかといえば、男女平等になっている	22.6%	5	わからない	8.4%
3	どちらかといえば、男女平等になっていない	27.5%		無回答	1.1%

問2 次の(1)～(7)の分野では、男女平等がどの程度実現されていると思いますか。それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
(1)家庭の中で	9.4%	41.8%	26.8%	7.2%	1.5%	10.8%	2.5%
(2)職場の中で	13.9%	45.6%	19.5%	5.6%	0.4%	12.4%	2.6%
(3)学校教育の場で	3.0%	18.3%	42.0%	2.3%	0.3%	30.2%	4.0%
(4)政治の場で	43.9%	36.4%	7.5%	1.6%	0.0%	8.0%	2.6%
(5)制度や法律の上で	15.4%	37.9%	24.1%	5.0%	1.6%	12.8%	3.1%
(6)社会通念・慣習・しきたりで	29.7%	50.7%	7.2%	2.6%	0.7%	6.5%	2.6%
(7)地域活動の場で	9.9%	36.0%	21.8%	5.7%	0.4%	23.0%	3.1%

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1 そのとおりだと思う	2.7%	4	どちらかといえばそう思わない	19.3%
2 どちらかといえばそう思う	18.7%	5	まったくそう思わない	37.3%
3 どちらともいえない	21.1%		無回答	0.8%

問4 「子育ては母親の役割」、「家事は女性の役割」、「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	無回答
(1)「子育ては母親の役割」という考え方	5.4%	33.9%	19.2%	40.3%	1.1%
(2)「家事は女性の役割」という考え方	4.0%	22.8%	24.4%	47.8%	1.1%
(3)「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方	2.3%	16.5%	22.8%	57.2%	1.2%



家庭生活についてお伺いします

問5 あなたはご結婚されていますか。(〇は1つ)

1 結婚している(事実婚を含む)	50.1%	3 結婚していない(未婚)	28.6%
2 結婚していない(離別、死別)	9.5%	無回答	11.7%

問5-1は問5で「1 結婚している(事実婚を含む)」と回答した方にお伺いします。

問5-1 あなたは、家庭生活での、家事などの分担はどのようにしていますか。次の(1)～(11)について、それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

	夫の担当	夫の担当 どちらかといえば	夫と妻と同程度	妻の担当 どちらかといえば	妻の担当	その他	どちらでもない、 その他	無回答
(1)家庭の重大問題の決定	12.2%	25.0%	51.6%	4.3%	4.1%	1.9%	0.8%	
(2)家計の管理	7.9%	12.2%	23.6%	21.5%	31.0%	3.0%	0.8%	
(3)食事の支度	2.4%	3.8%	9.8%	28.8%	52.2%	2.4%	0.5%	
(4)食事の後片付け	3.8%	7.3%	19.8%	25.8%	39.1%	3.3%	0.8%	
(5)掃除	1.6%	7.3%	22.3%	28.5%	36.7%	3.0%	0.5%	
(6)洗濯	2.4%	2.2%	14.1%	23.1%	55.2%	2.2%	0.8%	
(7)買い物	2.7%	4.6%	23.9%	31.5%	34.5%	1.9%	0.8%	
(8)ゴミ出し	16.8%	17.4%	24.5%	12.5%	25.3%	3.0%	0.5%	
(9)子育て	0.0%	0.3%	19.3%	30.2%	19.8%	25.3%	5.2%	
(10)家族の看護や介護	0.8%	1.1%	19.8%	18.8%	20.4%	36.7%	2.4%	
(11)町会・自治会等地域でのつきあい	7.9%	12.2%	13.0%	14.7%	17.7%	33.2%	1.4%	

問5-2は問5で「1 結婚している(事実婚を含む)」と回答した方にお伺いします。

問5-2 あなたは、平均すると1日にどのくらい育児・家事に時間を使っていますか。(〇は1つ)

1 全く使っていない	6.0%	4 日に2時間まで	20.9%	6 日に5時間まで	14.1%
2 日に30分まで	8.4%	5 日に3時間まで	19.8%	7 日に5時間超	14.4%
3 日に1時間まで	14.1%			無回答	2.2%

子どもの教育についてお伺いします

問6 あなたに男女両方のお子さんがあると仮定して、お答えください。あなたは、お子さんの育て方について、性別を区別せず、男の子と女の子を同じように育てたいと考えますか、それとも別々に考えますか。(〇は1つ)

1	区別せずに考える	55.2%	3	わからない	10.5%
2	別々に考える	20.8%		無回答	13.5%

問6-1は問6で「1 区別せずに考える」と回答した方にお伺いします。

問6-1 「区別せずに考える」と答えた方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。(〇は3つまで)

1	活発で行動力がある	21.5%	8	思いやりや優しい心がある	70.1%
2	誠実である	48.1%	9	気配りができる	15.8%
3	礼儀正しい	35.6%	10	指導力、リーダーシップがある	4.9%
4	責任感がある	26.4%	11	自立心が旺盛である	16.5%
5	誰にでも好かれる	7.4%	12	家事能力がある	7.4%
6	職業能力がある	11.6%	13	その他	3.7%
7	決断力、実行力がある	20.2%		無回答	0.2%

問6-2は問6で「2 別々に考える」と回答した方にお伺いします。

問6-2 「別々に考える」と答えた方におたずねします。お子さんをどのように育てたいですか。男の子、女の子の場合それぞれについて、下の枠内に番号を記入してください。(記入はそれぞれ3つまで)

	男の子	女の子		男の子	女の子		
1	活発で行動力がある	33.3%	11.8%	8	思いやりや優しい心がある	32.0%	74.5%
2	誠実である	44.4%	29.4%	9	気配りができる	7.8%	29.4%
3	礼儀正しい	34.6%	49.0%	10	指導力、リーダーシップがある	26.1%	2.0%
4	責任感がある	39.2%	11.8%	11	自立心が旺盛である	14.4%	9.2%
5	誰にでも好かれる	2.0%	29.4%	12	家事能力がある	2.6%	24.8%
6	職業能力がある	21.6%	5.2%	13	その他	2.6%	4.6%
7	決断力、実行力がある	28.1%	7.8%		無回答	1.3%	0.7%

問7 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

1 男女共学の推進	25.3%
2 生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	64.2%
3 教職員に男女平等の研修を推進する	29.2%
4 管理職(校長・副校長・教頭)に女性を増やしていく	33.5%
5 日常の活動の中で男女平等意識を育てる指導をする	50.3%
6 互いに相手の人格を尊重するという考え方に基づく性教育の充実	53.5%
7 その他	5.3%
8 わからない	2.6%
無回答	6.8%

### 職業についてお伺いします

問8 あなたは、現在就労していますか。(〇は1つ)

1 就労している	61.9%	2 就労していない	29.0%	無回答	9.1%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問8-1は問8で「1 就労している」と回答した方にお伺いします。

問8-1 あなたは、平均すると週に何時間ぐらい働いていますか。(残業時間は含みますが、休憩時間は除きます。)(〇は1つ)

1 ~週 14 時間	8.8%	4 週 35~42 時間	35.0%	6 週 49~59 時間	12.1%
2 週 15~29 時間	13.0%	5 週 43~48 時間	18.1%	7 週 60 時間以上	5.9%
3 週 30~34 時間	6.4%			無回答	0.7%

問8-2は問8で「1 就労している」と回答した方にお伺いします。

問8-2 あなたが現在働いている理由や目的はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1 働くことが好きだから	24.9%	9 将来(老後)に備えて	43.4%
2 働くことはあたり前だから	34.1%	10 働いて視野を広めたいから	26.2%
3 自分の能力・技能・資格などを生かしたいから	32.4%	11 友人を得るため	3.3%
4 生計を維持するため	67.4%	12 家業だから	6.6%
5 生活費を補助するため	29.5%	13 みんな働いているから	7.5%
6 教育費のため	10.6%	14 時間に余裕があるから	9.0%
7 ローン・マイホーム資金のため	11.5%	15 その他	5.1%
8 自由に使えるお金が欲しいから	40.7%	無回答	0.7%

問8-3は問8で「1 就労している」と回答した方にお伺いします。

問8-3 あなたは「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」について、どのような状態が理想だと思いますか。また、現実はどうですか。(〇は1つずつ)

(1) 理想

1 「仕事」を優先	5.7%	5 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立	5.7%
2 「家庭」を優先	10.1%	6 「家庭」と「地域・個人の生活」を両立	2.2%
3 「地域・個人の生活」を優先	2.6%	7 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」を両立	41.0%
4 「仕事」と「家庭」を両立	30.4%	8 その他	1.3%
		無回答	0.9%

(2) 現実

1 「仕事」を優先	45.6%	5 「仕事」と「地域・個人の生活」を両立	7.5%
2 「家庭」を優先	9.5%	6 「家庭」と「地域・個人の生活」を両立	0.9%
3 「地域・個人の生活」を優先	1.8%	7 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」を両立	9.7%
4 「仕事」と「家庭」を両立	22.7%	8 その他	1.3%
		無回答	1.1%

問8-4は問8で「1 就労している」と回答した方にお伺いします。

問8-4 次にあげるような事柄で、現在のあなたの職場に当てはまるものがありますか。(〇はいくつでも)

1 女性の採用は、パート・アルバイト・嘱託の形態が多い	20.7%
2 同時期に入社して同じ仕事をして、女性の賃金は男性よりも低い	10.6%
3 女性は責任ある仕事をさせてもらえない	8.4%
4 定年の年齢に男女差がある	1.8%
5 男女で昇進の機会や早さが異なる	16.5%
6 男女で研修の機会や内容が異なる	3.1%
7 お茶くみ、雑用は女性に割り当てられている	11.0%
8 女性は長期間勤められない雰囲気がある	4.8%
9 妊娠、出産で退職しなければならないような雰囲気がある	5.3%
10 その他	4.6%
11 当てはまるものはない	50.4%
無回答	2.9%

問8-5は問8で「1 就労している」と回答した方にお伺いします。

問8-5 あなたの職場は育児休業制度および介護休業制度がありますか。(〇は1つ)

1 育児休業制度・介護休業制度が両方ある	43.6%
2 育児休業制度のみある	8.8%
3 介護休業制度のみある	0.2%
4 ない	24.4%
5 制度があるかどうか知らない	21.4%
無回答	1.5%

問8-6は問8-5で「制度がある」と回答した方にお伺いします。

問8-6 法律では男性も女性も育児・介護休業を利用することができますが、現実には、あなたの職場では育児・介護休業制度を利用することができますか。(〇は1つ)

1	どちらも利用が難しい・できない	7.1%
2	育児休業の利用が難しい・できない	3.8%
3	介護休業の利用が難しい・できない	11.7%
4	どちらも利用できる	63.6%
5	わからない	13.4%
	無回答	0.4%

問8-7は問8-6で「制度の利用が難しい・できない」と回答した方にお伺いします。

問8-7 あなたの職場で育児・介護休業制度を利用できないと思われる理由は何ですか。(〇は2つまで)

1	職場に迷惑をかけたくない意識があるから	37.0%
2	職場が育児・介護休業を取得できる雰囲気ではないから	35.2%
3	過去に利用した人がいないから	31.5%
4	元の仕事(職場)に復帰できるとは限らないから	13.0%
5	昇進・昇格などに不利になると思うから	11.1%
6	収入が減少するから	13.0%
7	その他	18.5%
	無回答	1.9%

問8-8は問8で「2 就労していない」と回答した方にお伺いします。

問8-8 あなたが現在働いていない理由は何ですか。(〇は2つまで)

1	結婚のため	1.4%	9	会社が倒産したため	1.4%
2	出産のため	1.4%	10	会社から解雇されたため	0.5%
3	自分自身の健康上の理由	17.8%	11	いい仕事(希望する仕事)がないので	7.0%
4	育児のため	4.2%	12	希望の有無に関わらず就職先が見つからないため	4.2%
5	子どもの教育に手がかかるため	1.4%	13	まだ学生なので	11.3%
6	配偶者や家族の反対	0.9%	14	その他	14.6%
7	自分自身の年齢のため	38.0%	15	特に理由はない	10.8%
8	病人などの介護や看護のため	8.0%		無回答	5.6%

問8-9は問8で「2 就労していない」と回答した方にお伺いします。

問8-9 あなたは今後、働きたいと考えていますか。(〇は1つ)

1	すぐにでも働きたい	7.5%
2	近い将来働きたい	13.6%
3	いずれは働きたい	16.4%
4	働きたいと考えていない	60.6%
	無回答	1.9%

問8-10は問8-9で「働きたい」と回答した方にお伺いします。

問8-10 あなたは、どのような形態で働きたいですか。(〇は1つ)

1	正社員(職員)	32.5%	6	派遣社員	1.3%
2	パート・アルバイト	36.3%	7	契約社員	2.5%
3	家業の手伝い(家業を継ぐ)	1.3%	8	その他	3.8%
4	自分自身で事業を始める	5.0%	9	具体的には考えていない	13.8%
5	内職	1.3%		無回答	2.5%

問9 男性が育児休業や介護休暇を取ることに、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1	積極的に取った方がよい	36.9%	5	その時々立場や状況により変わるので、どちらともいえない	28.3%
2	どちらかといえば取った方がよい	20.3%	6	わからない	2.9%
3	どちらかといえば取らない方がよい	0.7%	7	その他	1.6%
4	取らない方がよい	0.5%		無回答	8.7%

問10 今の社会で、男女が共に「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」の両立をしていくためにはどのようなことが重要になるとお考えですか。(〇はいくつでも)

1	給与等の男女間格差をなくすこと	47.5%
2	年間労働時間を短縮すること	34.5%
3	育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	62.3%
4	育児・介護により退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	36.9%
5	育児・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること	38.6%
6	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	37.9%
7	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	55.6%
8	職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること	16.2%
9	女性が働くことに対し、家族や職場などの周囲の理解と協力があること	49.3%
10	男性が家事・育児や介護を行う能力を高めること	45.8%
11	その他	3.5%
	無回答	8.9%

あらゆる分野における女性の活躍推進についてお伺いします

問 11 女性の一生と職業の関わり方で、あなたが最も望ましいと思われる形態はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 結婚するまで職業を持つ(結婚退職型)	1.8%
2 子どもができるまで職業を持つ(出産退職型)	3.8%
3 子育て期間を除き職業を持つ(再就職型)	37.6%
4 子育て期間を含めて一生職業を持つ(職業継続型)	47.1%
5 一生職業を持たない(家事専念型)	1.0%
6 その他	6.8%
無回答	1.9%

問 12 あなたが、女性の働き方について問 11 のように回答した理由は、なぜですか。(〇はいくつでも)

1 仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから	56.5%
2 女性も経済力を持った方がいいと思うから	57.8%
3 夫婦で働く方が、経済的に安定するから	37.8%
4 女性の能力を活用できるから	41.7%
5 少子高齢化による労働力不足を補えるから	18.8%
6 子どもは、母親が家で面倒を見た方がいいから	14.2%
7 仕事と家庭の両立支援が十分ではないから	9.6%
8 働き続けるのは、体力面で大変そうだから	5.6%
9 女性は家庭を守るべきだと思うから	2.9%
10 特にない	2.4%
11 その他	6.9%
無回答	1.1%

問 13 育児、介護などの理由により仕事を辞めた女性が再就職するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 保育施設、介護施設などの充実	65.9%	7 求人情報の入手機会の拡大	4.4%
2 延長保育、ショートステイなどのサービスの充実	32.4%	8 就職相談の充実	6.5%
3 家族の理解と協力	45.2%	9 女性が起業する場合の支援	3.8%
4 求人の年齢制限の緩和	23.6%	10 企業における再就職制度の整備や充実	35.4%
5 労働条件の改善	35.8%	11 特にない	1.1%
6 技術や技能習得の機会の拡大	9.4%	12 その他	1.8%
		無回答	1.6%

問 14 女性が職場において活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思えますか。(〇は3つまで)

1	企業における女性の採用・登用の促進	47.1%
2	女性のリーダー・管理職への登用について具体的な目標値の設定	24.4%
3	女性のロールモデルの発掘・活用事例の提供	15.0%
4	女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実	36.4%
5	男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援	35.8%
6	研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援	46.5%
7	その他	5.3%
8	わからない	4.9%
	無回答	2.3%

### 人権についてお伺いします

問 15 あなたは、過去5年間にどのような「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」の被害を受けたこと、見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)

1	宴会でお酒のお酌やカラオケのデュエットを強要される	11.3%
2	性的な冗談を頻繁に言われる	13.9%
3	断っても食事にたびたび誘われる	8.6%
4	結婚の予定や出産予定をたびたび聞かれる	8.9%
5	故意に体を触られる	11.9%
6	容姿について繰り返し言われる	13.4%
7	立場を利用して性的関係を迫られる	4.6%
8	帰宅途中、後をつけられる	4.8%
9	性的な内容の手紙や電話を受ける	1.9%
10	ひわいな写真などを見たくもないのに見せられたりする	1.9%
11	「女(男)のくせに」等の性差を理由とした不快な言葉を言われる	16.3%
12	受けたり見聞きしたことはない	39.0%
13	その他	4.0%
14	わからない	13.8%
	無回答	6.0%



問 16 社会的に配偶者（事実婚や離婚後も含む）への暴力（DV）が問題になっていますが、配偶者間で次のようなことが行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いますか。次の（1）～（12）について、それぞれ選んでください。（○は1つずつ）

	思 暴 ど あ と も	あ そ と あ と も	は 暴 に あ た と と	無 回 答
(1)何を言っても無視する	33.4%	53.4%	9.9%	3.3%
(2)交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する	53.0%	37.1%	6.7%	3.3%
(3)自分が家にいるときは外出しないようにと言う	54.1%	33.7%	9.1%	3.1%
(4)大切にしている物をわざと壊したり、捨てたりする	83.8%	10.8%	2.6%	2.9%
(5)「誰のおかげで食べられるのだ」とか「かいしょうなし」と言う	80.5%	14.0%	2.9%	2.6%
(6)なぐるふりをして、おどす	86.1%	8.4%	2.5%	3.0%
(7)大声でどなる	74.8%	20.0%	2.5%	2.7%
(8)なぐる蹴るの暴力をふるう	94.6%	1.4%	1.4%	2.7%
(9)見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	78.6%	15.0%	3.5%	2.9%
(10)避妊に協力しない	77.8%	14.6%	4.4%	3.3%
(11)おどしや暴力によって、意に反して性的な行為を強要する	93.2%	1.9%	1.9%	3.0%
(12)生活費を渡さない	75.9%	16.8%	4.8%	2.6%



問 17 あなたは現在または以前の配偶者やパートナーから、過去 5 年間に次にあげるような行為を受けた経験はありますか。また、過去 12 か月以内に、次にあげるような行為を受けた経験はありますか。(○はそれぞれいくつでも)

	過去 5 年間	過去 12 か月 以内
(1)何を言っても無視する	4.2%	2.3%
(2)交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する	2.0%	0.5%
(3)自分が家にいるときは外出しないようにと言う	1.8%	0.5%
(4)大切にしている物をわざと壊したり、捨てたりする	1.5%	0.8%
(5)「誰のおかげで食べられるのだ」とか「かいしょうなし」と言う	3.5%	1.6%
(6)なぐるふりをして、おどす	3.3%	0.7%
(7)大声でどなる	8.6%	5.7%
(8)命の危険を感じるほどのなぐる蹴るの暴力をふるう	1.1%	0.3%
(9)医師の治療が必要なほどのなぐる蹴るの暴力をふるう	0.5%	0.3%
(10)医師の治療を必要としない程度のなぐる蹴るの暴力をふるう	2.6%	0.8%
(11)見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	0.0%	0.1%
(12)避妊に協力しない	1.4%	1.0%
(13)おどしや暴力によって、意に反して性的な行為を強要する	0.7%	0.1%
(14)生活費を渡さない	2.0%	1.1%
(15)その他	1.0%	0.5%
(16)受けた経験はない	63.4%	50.4%
無回答	24.0%	41.1%

問 17-1 は問 17 で「受けた経験がある」と回答した方にお伺いします。

問 17-1 あなたはこれまでに、問 17 であげたような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

1 相談した	31.1%
2 相談したかったが、相談しなかった	9.2%
3 相談しようとは思わなかった	46.2%
無回答	13.4%

問 17-2は問 17-1で「1 相談した」と回答した方にお伺いします。

問 17-2 相談した相手はどなたですか。(〇はいくつでも)

1 親類・友人・知人	89.2%	5 同じような経験をした人	2.7%
2 区や東京都など行政機関の相談窓口	10.8%	6 NPOなどの支援団体	0.0%
3 家庭裁判所・弁護士・警察	13.5%	7 その他	2.7%
4 医師・カウンセラー	8.1%	無回答	0.0%

問 17-3は問 17-1で「1 相談した」と回答した方にお伺いします。

問 17-3 どのような手段で相談しましたか。(〇はいくつでも)

1 電話	51.4%	4 SNS (LINE相談など)	24.3%
2 面談	64.9%	5 手紙	0.0%
3 電子メール	8.1%	6 その他	10.8%
		無回答	0.0%

問 17-4は問 17-1で「2 相談したかったが、相談しなかった」または「3 相談しようとは思わなかった」と回答した方にお伺いします。

問 17-4 相談しなかった理由はなんですか。(〇はいくつでも)

1 どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから	18.2%
2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	10.6%
3 相談しても無駄だと思ったから	47.0%
4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	6.1%
5 相談したことがわかると、子どもにも被害がおよぶと思ったから	1.5%
6 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	0.0%
7 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	6.1%
8 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	22.7%
9 世間体が悪いから	6.1%
10 他人を巻き込みたくなかったから	15.2%
11 他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	9.1%
12 そのことについて思い出したくなかったから	10.6%
13 自分にも悪いところがあると思ったから	19.7%
14 相手の行為は愛情の表現だと思ったから	3.0%
15 相談するほどのことではないと思ったから	39.4%
16 その他	7.6%
無回答	1.5%

問 18 公的機関によるDVへの対応として、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

1 DV被害の実態の把握	52.0%
2 家庭内であれ暴力は犯罪であるという行政や警察による積極的な啓発活動	55.7%
3 家庭、学校において互いに相手の人格を尊重する意識づくりを行う	48.2%
4 身近で配偶者やパートナーによる暴力に気付いたら、周囲の人が通報することが大切である、という意識づくりを行う	40.3%
5 関係機関の紹介や暴力への対処方法などに関する知識の提供	35.1%
6 カウンセリングや日常的な相談など精神的な支援策の充実	43.2%
7 相談・支援するスタッフの意識と能力を高める	35.3%
8 いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備	68.7%
9 住居や就労のあっせん、経済的援助など、自立して生活するための支援策の充実	46.5%
10 離婚訴訟への支援など、法的なサポートの充実	41.6%
11 加害者更生に関する対応の充実	23.2%
12 法律による規制の強化や見直しを行う	39.5%
13 SNSを活用した相談窓口を開設する	24.0%
14 その他	1.6%
15 わからない	2.9%
無回答	4.5%

メディア・リテラシーについてお伺いします

問 19 あなたがいつも利用するメディアはどれですか。(〇はいくつでも)

1 テレビ	87.9%	6 インターネットニュースサイト	73.2%
2 ラジオ	20.0%	7 SNS (Twitter、Facebook、個人ブログなど)	39.2%
3 新聞	44.3%	8 動画サイト (YouTube など)	32.8%
4 雑誌・書籍	31.1%	9 その他	0.4%
5 官公庁・企業等のホームページ	8.6%	無回答	1.2%

問 20 あなたの考えに影響をおよぼしているのは、どのようなメディアですか。(〇は3つまで)

1 テレビ	72.1%	6 インターネットニュースサイト	50.3%
2 ラジオ	10.9%	7 SNS (Twitter、Facebook、個人ブログなど)	23.7%
3 新聞	38.8%	8 動画サイト (YouTube など)	10.1%
4 雑誌・書籍	21.9%	9 その他	1.1%
5 官公庁・企業等のホームページ	3.0%	無回答	1.8%

問 21 あなたは社会情勢について情報を得る際、どのようなことに気を付けていますか。次の(1)～(3)について、それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

	常に気を付けている	時々、気を付けている	あまり気をつけていない	全く気をつけていない	無回答
(1)情報をうのみにせず、常に疑う視点を持つ	55.6%	38.0%	3.7%	0.3%	2.5%
(2)複数の情報に接し、比較する	49.7%	38.6%	8.7%	0.4%	2.6%
(3)情報は発信者の意図によって加工されている場合がある	59.0%	31.6%	5.6%	0.7%	3.1%

地域活動についてお伺いします

問 22 あなたは、現在、次にあげる地域活動などに参加していますか。(○はいくつでも)

1 自治会・町内会	15.9%	6 介護・介助などのボランティア活動	2.5%
2 趣味・スポーツなどのグループ・サークル	19.3%	7 NPOなどの活動	3.0%
3 環境問題 消費者活動 リサイクルなどの市民活動	1.2%	8 子ども会や少年スポーツチームの指導や世話	2.0%
4 PTAや保護者会の活動	5.0%	9 その他	2.0%
5 地域の研究会や勉強サークル	4.1%	10 参加している活動はない	57.5%
		無回答	3.4%

問 23 男性の地域参加や家庭生活への関わりが一般的に少ないと言われていますが、それらを進めるために必要なことはどのようなことだと思いますか。(○はいくつでも)

1 地域参加や家庭生活に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	42.0%
2 労働時間の短縮やボランティア休暇など労働環境を改善すること	39.4%
3 夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行うこと	30.1%
4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	17.8%
5 社会や職場の中で、男性の地域参加や家庭生活の参加に対し評価を高めること	34.1%
6 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	39.8%
7 地域参加や家庭生活に関心が高まるような啓発や情報提供を行うこと	23.4%
8 男性の地域参加や家庭生活を行うためのネットワークをつくること	24.5%
9 その他	3.0%
10 わからない	11.2%
無回答	2.6%

問 24 町会長やPTA会長は男性が担っていることが多い現状がありますが、地域活動において女性リーダーを増やす必要があると思いますか。(〇は1つ)

1 必要であると思う	21.4%
2 どちらかといえば必要であると思う	34.1%
3 どちらかといえば必要でないと思う	8.0%
4 必要でないと思う	5.7%
5 わからない	24.5%
無回答	6.3%

問 24-1は問 24で「1 必要であると思う」または「2 どちらかといえば必要であると思う」と回答した方にお伺いします。

問 24-1 あなたは、地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 男性中心の社会通念や習慣を改めるための啓発活動を実施する	40.3%
2 女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する	19.2%
3 育児や介護を支援するための施策を充実させる	42.0%
4 家族が家事・育児を分担する	38.6%
5 さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する	63.1%
6 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組みを進める	24.6%
7 その他	2.0%
無回答	0.2%

女性の政策決定への参画などシステム変革についてお伺いします

問 25 あなたは、今後、女性が政策・方針決定の過程に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 附属機関・審議会等への女性の登用を促す仕組みづくり	30.1%
2 区民の意見を把握し、区政に反映させるための仕組みづくり	38.8%
3 政策・方針決定過程に専門知識を持った女性の登用を促すための情報提供	33.4%
4 地域での男女共同参画を推進するリーダーの育成	24.3%
5 男女共同参画社会実現に関わる活動をしている区民・団体の支援及びネットワークづくり	18.3%
6 区が女性職員の管理監督者を登用する仕組みづくり	19.9%
7 その他	3.4%
8 わからない	15.3%
無回答	6.9%

問 26 男女共同参画社会を実現するために、あなたは、どのようなことが大切だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

1	法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	40.5%
2	女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること	59.5%
3	女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術を習得すること	46.9%
4	女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	40.5%
5	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	31.1%
6	家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること	63.5%
7	学校や教育の場で、男女平等教育を押し進めること	34.1%
8	夫や家族の理解や協力を得ること	32.4%
9	男女平等に関する普及啓発や区民の自主的活動への支援などを行うこと	17.6%
10	その他	2.5%
	無回答	3.4%

性的少数者についてお伺いします

問 27 性的少数者（LGBT等）という言葉を知っていますか。（〇は1つ）

LGBT・・・L：レズビアン、G：ゲイ、B：バイセクシュアル、T：トランスジェンダー

1	知っている	84.3%	2	知らない	7.2%	無回答	8.4%
---	-------	-------	---	------	------	-----	------

問 27-1 は問 27 で「1 知っている」と回答した方にお伺いします。

問 27-1 性的少数者（LGBT等）について、どのように思いますか。次の(1)～(5)について、それぞれ選んでください。（〇は1つずつ）

	とそう思う	どちらかと言う 言えない	どちらとも 思わない	どちらかと言う わからない	無回答
(1)個人の人権として理解・尊重するべきである	87.4%	6.6%	1.9%	3.9%	0.2%
(2)同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである	75.8%	11.5%	3.7%	8.7%	0.3%
(3)性的少数者の割合は約 13 人に1人とも言われているが、その通りだという実感がある	16.0%	24.1%	15.7%	43.9%	0.3%
(4)性的少数者であることを公表している人が多くなっている	47.7%	21.5%	13.7%	16.5%	0.6%
(5)友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる	61.9%	19.4%	3.4%	14.9%	0.5%

問 27-2は問 27で「1 知っている」と回答した方にお伺いします。

問 27-2 性的少数者（LGBT等）は日常生活で、下記のようなことに困っているとされています。次のうち、あなたが知っているものはどれですか。（〇はいくつでも）

1	性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること	83.8%
2	心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと	62.0%
3	パートナーと共同で住宅ローンを組むことに制限があること	32.6%
4	パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと	42.2%
5	その他	3.2%
6	知っているものはない	6.5%
	無回答	1.3%

問 28 性的少数者（LGBT等）が暮らしやすい社会をつくるために、どのような取組みが必要だと思えますか。（〇はいくつでも）

1	教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮）	57.6%
2	社会制度の見直し	50.4%
3	性的少数者（LGBT等）が抱える困難やその対処に詳しい専門の相談窓口の設置	47.3%
4	区の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動	15.8%
5	性の多様性についての交流を行うコミュニティスペース	20.6%
6	わからない	12.0%
7	必要だとは思わない	3.5%
8	その他	3.7%
	無回答	4.9%

～性的少数者（LGBT等）とは～



このほかにも、自分の性が分からない・決めたくないという人、どのような性の人にも恋愛感情や性的関心を抱かない人や反対に相手の性別を問わない人等、さまざまな人がいます。



国・区の政策や施策についてお伺いします

問 29 あなたは、国や豊島区における次の法律・施策・用語などを知っていますか。次の(1)～(8)について、それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

	知っている	知っている あるいは聞いた	知らない	無回答
(1)男女共同参画社会	32.3%	33.5%	32.2%	2.0%
(2)育児・介護休業法（育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律）	37.1%	32.3%	28.1%	2.6%
(3)女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	21.3%	33.4%	42.5%	2.9%
(4)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	33.8%	25.5%	38.6%	2.2%
(5)DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	40.2%	34.6%	23.3%	1.9%
(6)デートDV（恋人間で起こる、交際相手に対する暴力）	24.8%	23.0%	49.9%	2.3%
(7)豊島区男女共同参画苦情処理委員（男女共同参画施策に対する苦情等の申出を処理する機関）	3.5%	12.5%	81.2%	2.7%
(8)豊島区パートナーシップ制度（性的少数者の2人に対し、区がパートナーシップ届受理証明書を交付する制度）	5.9%	14.3%	77.7%	2.2%

問 30 男女共同参画社会を実現するため区はさまざまな事業に取り組んでいます。次の(1)～(11)の事業を区が取り組んでいることを知っていましたか、また知っていた場合、その取組み状況をどう思いますか。(1)～(11)について、それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

	知っていると思う	区が取り組んでいることは知らない	区が取り組んでいることは知っているが、よくわかっていない	区が取り組んでいることは知らない	無回答
(1) 学校教育における男女平等観を育てる教育指導の推進	3.5%	3.3%	28.3%	61.9%	3.0%
(2) 男女平等推進センターによる啓発事業などの男女平等の理念を深める学習機会の充実	3.5%	3.4%	27.9%	62.4%	2.7%
(3) 男性の育児・介護休業の取得に向けた啓発・支援	3.3%	4.4%	29.4%	60.1%	2.9%
(4) 女性の職業能力開発のための啓発事業・情報提供	2.6%	3.0%	29.3%	61.6%	3.5%
(5) 仕事と育児の両立支援施策の推進	4.5%	3.8%	33.5%	54.9%	3.3%
(6) 地域で男女共同参画を推進するための人材育成・団体支援	2.0%	2.6%	28.3%	63.6%	3.4%
(7) 暴力(セクハラ・DV)の根絶に向けた啓発活動や相談窓口の設置など	3.0%	4.4%	40.5%	49.2%	3.0%
(8) 区の審議会の委員など、政策決定の場への女性の登用	3.7%	3.5%	29.0%	60.2%	3.5%
(9) 性教育・性感染症対策や子宮がん・乳がん健診の推進など、性と生に関する健康支援	23.2%	5.6%	31.9%	36.4%	3.0%
(10) 性的少数者(LGBT等)の理解促進に向けた取組み	2.6%	3.3%	27.2%	63.9%	3.0%
(11) デートDV(恋人間で起こる、交際相手に対する暴力のこと) 予防の啓発	2.0%	3.4%	22.2%	69.3%	3.0%

問 31 男女平等推進センター(エポック<sup>テン</sup>10)は、男女共同参画社会の実現を目指し、交流や情報提供をしています。あなたはこのアンケートを受ける前から「エポック<sup>テン</sup>10」を知っていましたか。(○は1つ)

1 利用したことがある	3.4%	3 あるということは知っている	12.3%
2 利用したことはないが知っている	5.6%	4 知らなかった	76.6%
		無回答	2.2%

男女がともに参画できるまちづくりを進めることについて、ご意見・ご提案やご要望がありましたらご自由にお書きください。

アンケート調査へのご協力、ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は8月20日（木）までに同封の返信用封筒に入れてご返送ください。（切手を貼る必要はありません。）

